情報活用能力調査

調査結果

令和８年 11 月

文部科学省

はじめに

本報告書は、小学校から高等学校までの児童生徒の情報活用能力の育成状況の把握等を目的として、令和 6 年度に文部科学省の委託事業として実施した情報活用能力調査の結果をまとめたものである。過去には、平成 25 年度において小学校及び中学校、平成 27 年度において高等学校を対象に同様の調査が実施された。また、令和 3 年度には、小学校、中学校、高等学校を対象に、完全オンラインで同一尺度により情報活用能力を測定する初の調査が実施された。本調査は、その 2 回目の調査に当たる。

令和 3 年度の初回調査当時は、GIGA スクール構想（児童生徒に 1 人 1 台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することにより、ICT を活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現を目的としたもの）が推進され、1 人 1 台端末が整備されて間もない時期であった。令和 6 年度に実施した今回の調査は、それから 3 年が経過した段階における児童生徒の情報活用能力の実態を確認するものである。

情報活用能力は、平成 29 年 3 月に告示された小・中学校の学習指導要領及び平成 30 年 3 月に告示された高等学校の学習指導要領において、言語能力や問題発見・解決能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられている。教科等横断的な視点から教育課程の編成を図り、各学校のカリキュラム・マネジメントの実現を通じて情報活用能力を育成することとされている。

現代では SNS やクラウドの利用が日常化したことにより、地球規模の情報の伝搬や効率的な情報共有・協働作業が進んだ。情報技術は、多様な個々人がつながり、それぞれの思いや願い、意志を具現化する社会基盤となった。一方で「フェイクニュース」の影響や「フィルターバブル」「エコーチェンバー」といった現象など、デジタル化の負の側面が指摘されている。全ての子供が多様で豊かな可能性を開花できるよう、児童生徒の情報活用能力を育成することが求められている。本調査は、その実態を確認することが目的とされており、極めて重要な意義を有する。

さらに近年では生成 AI に代表される AI 技術が急速に進化しており、情報技術・情報社会の在り様は大きく変化しつつある。令和 6 年 12 月 25 日の中央教育審議会への諮問においては、「小中高等学校を通じた情報活用能力の抜本的向上を図る方策」の検討が示された。令和 8 年 11 月現在、中央教育審議会では、小中高を通じた体系的・抜本的な教育内容の充実の検討が進められている。今後も継続的に調査を実施することで、時代に応じた情報活用能力の推移を測定していくことが重要である。

本報告書から小学校・中学校・高等学校の情報活用能力の育成状況を把握し、今後の指導方針に役立てていただくことを期待する。

令和 8 年 11 月

主査　稲垣　忠
東北学院大学　文学部　教授（兼任）人間情報学研究科　教授

目次

第 1 章 情報活用能力調査について …… 1

◆ 1.1. 目的 …… 1

◆ 1.2. 情報活用能力とは …… 1

1.2.1. 情報活用能力の変遷 …… 1

1.2.2. 平成元年告示学習指導要領 …… 2

1.2.3. 平成 10・11 年告示学習指導要領 …… 2

1.2.4. 平成 20・21 年告示学習指導要領 …… 2

1.2.5. 平成 29・30・31 年改訂学習指導要領における情報活用能力 …… 3

1.2.6. 近年の情報活用能力にまつわる議論 …… 3

◆ 1.3. 調査の概要 …… 4

1.3.1. 調査対象 …… 4

1.3.2. 抽出方法 …… 4

1.3.3. 調査実施までの流れ …… 6

1.3.4. 調査実施体制 …… 7

1.3.5. 調査の内容 …… 8

1.3.6. 実施方法 …… 9

1.3.7. 採点方法 …… 10

1.3.8. 過去に行われた情報活用能力調査 …… 11

◆ 1.4. 調査問題の種類 …… 12

◆ 1.5. 結果の分析と尺度化 …… 14

1.5.1. IRT（項目反応理論）に基づく尺度化 …… 14

1. IRT の概要 …… 14

2. IRT による能力値と正答率との違い …… 15

3. 本調査で用いた数理モデル …… 16

4. 年度間比較のための等化 …… 17

5. 児童生徒の能力値とその段階分け …… 18

6. 項目の難易度指標 …… 19

7. 予測正答率 …… 20

1.5.2. 相関係数と学校間分散割合 …… 20

1.5.3. 上位群と下位群の比較・肯定群と否定群の比較 …… 21

第 2 章 問題調査・文字入力課題の結果 …… 22

◆ 2.1. 習熟度レベルから見た児童生徒の特徴 …… 23

◆ 2.2. 調査問題得点からわかる傾向 …… 25

◆ **2.3. 習熟度レベル別の結果**……**26**
2.3.1. レベル１（小学校 11.9%、中学校 3.2%、高等学校 1.7%）……26
調査問題例 ……27
解答類型とその分布……27
分析・考察 ……27
2.3.2. レベル２（小学校 18.8%、中学校 6.2%、高等学校 3.2%）……28
調査問題例 ……28
解答類型とその分布……29
分析・考察 ……29
2.3.3. レベル３（小学校 15.3%、中学校 6.9%、高等学校 3.3%）……30
調査問題例 ……30
解答類型とその分布……31
分析・考察 ……31
2.3.4. レベル４（小学校 32.8%、中学校 25.1%、高等学校 14.0%）……32
調査問題例 ……32
解答類型とその分布……33
分析・考察 ……33
2.3.5. レベル５（小学校 11.9%、中学校 19.0%、高等学校 14.0%）……34
調査問題例 ……34
解答類型とその分布……35
分析・考察 ……35
2.3.6. レベル６（小学校 6.8%、中学校 19.5%、高等学校 19.5%）……37
調査問題例 ……37
解答類型とその分布……38
分析・考察 ……38
2.3.7. レベル７（小学校 2.1%、中学校 12.4%、高等学校 19.0%）……39
調査問題例 ……40
解答類型とその分布……40
分析・考察 ……40
2.3.8. レベル８（小学校 0.3%、中学校 4.1%、高等学校 9.8%）……41
調査問題例 ……42
解答類型とその分布……43
分析・考察 ……43
2.3.9. レベル９（小学校 0.1%、中学校 3.6%、高等学校 15.5%）……43
調査問題例（１）……44
解答類型とその分布（１）……44
分析・考察（１）……44
調査問題例（２）……45
解答類型とその分布（２）……46
分析・考察（２）……46
◆ **2.4. 文字入力の特徴** ……**47**

第 3 章 児童生徒質問調査・学校質問調査の結果 …… 49

◆ 3.1. 児童生徒質問調査の結果 …… 51

3.1.1. 質問ごとの結果 …… 51

① 問 1　1 日あたりのスマートフォン・携帯電話の利用時間 …… 51

② 問 2　1 日あたりのコンピュータの利用時間 …… 52

③ 問 3　学校での情報活用能力育成に関する各種取組頻度 …… 53

④ 問 4　学校外での情報活用能力育成に関する各種取組頻度 …… 66

⑤ 問 5　情報活用能力における『主体的に学習に取り組む態度』及びファクトチェックの意識 …… 76

⑥ 問 6　コンピュータやインターネットに対する期待等 …… 91

⑦ 問 7　個別最適な学び等に関する状況 …… 101

⑧ 問 8　健康への配慮 …… 103

⑨ 問 9　生成 AI に対する期待等 …… 107

3.1.2. 上位群・下位群の分析と肯定群・否定群の分析結果 …… 111

③ 問 3　学校での情報活用能力育成に関する各種取組頻度 …… 111

④ 問 4　学校外での情報活用能力育成に関する各種取組頻度 …… 116

⑤ 問 5　情報活用能力における「主体的に学習に取り組む態度」及びファクトチェックの意識 …… 119

⑥ 問 6　コンピュータやインターネットに対する期待等 …… 130

⑦ 問 7　個別最適な学び等に関する状況 …… 137

⑧ 問 8　健康への配慮 …… 139

⑨ 問 9　生成 AI に対する期待等 …… 143

3.1.3. 児童生徒質問調査の学校間分散割合 …… 148

③ 問 3　学校での情報活用能力育成に関する各種取組頻度 …… 149

◆ 3.2. 学校質問調査の結果 …… 151

3.2.1. 質問ごとの結果 …… 151

① 問 1　機器整備・活用状況 …… 151

② 問 2　タイピングの指導 …… 153

③ 問 3　情報活用能力育成に関する取組状況 …… 155

④ 問 4　機器等を活用した指導状況 …… 164

⑤ 問 5　端末の積極的・主体的な活用 …… 176

⑥ 問 6　GIGA スクール構想の成果「個別最適な学びに関する効果」 …… 180

⑦ 問 7　GIGA スクール構想の成果「効率化による指導の改善」 …… 182

⑧ 問 8　GIGA スクール構想の成果「オンラインによる学習活動の充実」 …… 184

⑨ 問 9　GIGA スクール構想の成果「学習意欲・学力への影響」 …… 186

⑩ 問 10　GIGA スクール構想の成果「学びの保証に関する効果」 …… 188

⑪ 問 11　GIGA スクール構想による授業の効率的な展開 …… 190

⑫ 問 12　健康面に配慮した指導状況 …… 192

⑬ 問 13　生成 AI の活用状況 …… 196

3.2.2. 上位群・下位群の分析と肯定群・否定群の分析結果 …… 198
① 問１　機器整備・活用状況 …… 198
② 問２　タイピングの指導 …… 199
③ 問３　情報活用能力育成に関する取組状況 …… 200
④ 問４　機器等を活用した指導状況 …… 210
⑤ 問５　端末の積極的・主体的な活用 …… 215
⑥ 問６　GIGA スクール構想の成果「個別最適な学びに関する効果」 …… 219
⑦ 問７　GIGA スクール構想の成果「効率化による指導の改善」 …… 221
⑧ 問８　GIGA スクール構想の成果「オンラインによる学習活動の充実」…… 223
⑨ 問９　GIGA スクール構想の成果「学習意欲・学力への影響」 …… 225
⑩ 問 10　GIGA スクール構想の成果「学びの保証に関する効果」 …… 227
⑪ 問 11　GIGA スクール構想による授業の効率的な展開 …… 229
⑫ 問 12　健康面に配慮した指導状況 …… 230
⑬ 問 13　生成 AI の活用状況…… 234

情報活用能力の育成に向けて…… 235

委員一覧

【企画推進委員会】（五十音順　敬称略　括弧内は任期　役職・氏名・所属・肩書は任期最終年度における情報を掲載）

	秋山　隆	関西大学社会学部 准教授（令和５年度～令和７年度）
〈主査〉※	稲垣　忠	東北学院大学文学部 教授（令和５年度～令和７年度）
	宇佐美 慧	東京大学大学院教育学研究科 准教授（令和５年度）
	宇都　雅輝	電気通信大学大学院情報理工学研究科 准教授（令和５年度～令和７年度）
※	小柳　和喜雄	関西大学総合情報学部 教授（令和５年度～令和６年度）
	鹿野　利春	京都精華大学メディア表現学部 教授（令和５年度～令和７年度）
	佐藤　和紀	信州大学教育学部 准教授（令和５年度～令和７年度）
〈副査〉	泰山　裕	中京大学教養教育研究院 教授（令和５年度～令和７年度）
	奈須　正裕	上智大学総合人間科学部 教授（令和５年度）
	松本　博幸	印西市教育委員会 教育 DX 専門官（令和５年度～令和７年度）
	三井　一希	山梨大学教育学部 准教授（令和５年度～令和７年度）
	光永　悠彦	名古屋大学大学院教育発達科学研究科 准教授（令和５年度～令和７年度）

※役職について、令和５年度～令和６年度は主査・小柳氏、副査・稲垣氏の体制。

なお、上記のほか、令和４年度の調査問題開発に際しては以下の委員に作問を依頼した。

【問題作成等委員会】（五十音順　敬称略　氏名・所属・肩書は作問当時における情報を掲載）

石原　浩一	愛知県春日井市立松原小学校 教諭
井手　広康	愛知県立小牧高等学校 教諭
稲木　健太郎	栃木県壬生町教育委員会事務局 副主幹兼指導主事
上野　耕史	白鷗大学教育学部 教授
大久保 紀一朗	島根大学教職大学院 准教授
菅原　弘一	仙台市立錦ケ丘小学校 校長
土井　国春	徳島県松茂町立喜来小学校 教頭
登本　洋子	東京学芸大学大学院 准教授
廣瀬　志保	山梨県立笛吹高等学校 校長
三井　一希	山梨大学教育学部 准教授
八木澤 史子	千葉大学教育学部 助教

概 要

■目的

本調査は、全国の小学校、中学校、高等学校から抽出した学校に対して、児童生徒の情報活用能力を測る問題形式の調査と、それに関連した学習状況等に関する質問形式の調査を実施し、情報活用能力の育成状況について基礎的なデータを得るとともに、今後の施策を検討するための多角的な分析を行うことを目的に実施された。

■調査方法

実施時期：令和７年１月～２月

調査形態：児童生徒を対象として、キーボードによる文字入力課題、問題調査、児童生徒質問調査を実施。
学校を対象として、学校質問調査を実施
※いずれの調査も CBT（Computer Based Testing）で実施

調査時間：文字入力課題３分、調査問題 30 分× 2、児童生徒質問 15 分
※ガイダンスの時間を含め２単位時間で実施

対象学年（人数）：小学校第５学年（4,471 人）、中学校第２学年（4,840 人）、高等学校第２学年（5,000 人）
計 14,311 人

対象学校（学級）：小学校 167 校、中学校 164 校、高等学校 158 校
計 489 校（各校１学級で実施）
※国公私別、学校規模、学科等に基づき学校を抽出し、それぞれの学校の対象学年から１学級を無作為に抽出

■調査問題

- 全校種共通に出題した問題（156 問）と発達段階に合わせて中・高等学校のみに出題した問題（49 問）の計 205 問
- 全員に同一の問題を出題するのではなく、児童生徒ごとに異なる問題セットを出題
- 今後の調査でも使用することから、調査問題は基本的に非公表
  ※調査問題例（10 問）を本報告書 2.3 節に掲載
- IRT（Item Response Theory、項目反応理論）で分析
  ※ IRT とは、受検者の能力を測る統計的手法の一つで、異なる問題セットに解答した児童生徒の能力を同一尺度で得点化することができる。また、過去に実施された調査や今後の調査も結果を同じ尺度で比較可能である。
  ※今後の調査の公平性を担保するため、分析結果等については実施校に返却しない。

■問題調査の結果概略

- 調査問題得点は、小学校、中学校、高等学校と校種が上がるにつれて高くなる傾向がみられた。この傾向は、令和３年度調査でみられた傾向と同様であった。
- 令和３年度調査と比較すると、全校種に共通して調査問題得点の平均に差はみられなかった。
- 結果を基に情報活用能力の習熟度レベル１～９を設定したところ、各レベルにおいて児童生徒が身に付けていると考えられる情報活用能力は、後出の図表 2-1-1「習熟度レベルの受検者分布・特徴一覧」のように整理された。習熟度レベルが上がるにつれて、より複雑な文脈を理解したり、より多くの問題解決のプロセスが求められたりする場面にも対応できるようになっていると考えられる。

■文字入力課題の結果概略

- キーボードを用いた文字入力課題について、１分間あたりの文字入力数は、小学校、中学校、高等学校と校種が上がるにつれ多くなる傾向がみられた。この傾向は、令和３年度調査でみられた傾向と同様であった。
- １分間あたりの平均文字入力数は、全校種に共通して令和３年度調査よりも増加し、小学校は 23.0 字 (+7.2 字)、中学校は 33.2 字 (+10.2 字)、高等学校 35.2 字 (+6.8 字) であった。
- １分間あたりの文字入力数の分布について、令和３年度調査と比較して令和６年度調査では、全校種において分布が右方へ偏移し、増加傾向がみられた。

■児童生徒質問調査の結果概略

- 全校種に共通して、「情報活用能力における『主体的に学習に取り組む態度』及びファクトチェックの意識」、「コンピュータやインターネットに対する期待等」、「生成 AI に対する期待等」に関する質問項目について、肯定的に回答する傾向がみられた。
- 全校種に共通して「情報活用能力育成に関する各種取組頻度」は「まったくか、ほとんどない」と回答する傾向がみられた。
  一方で、令和３年度調査と比較すると、全校種に共通して、「情報活用能力育成に関する各種取組頻度」に増加傾向がみられた。
- 令和３年度調査と令和６年度調査共に、全校種に共通して、調査問題得点の上位群（10%）の児童生徒が「情報活用能力における『主体的に学習に取り組む態度』及びファクトチェックの意識」、「コンピュータやインターネットに対する期待等」の質問項目に対して、肯定的に回答する傾向がみられた。また、肯定的に回答した児童生徒の方が、調査問題平均得点が高い傾向がみられた。

■学校質問調査の結果概略

- 全校種に共通して、「学習者用コンピュータの活用頻度」、「情報活用能力育成に関する取組状況」、「機器等を活用した指導状況」について、肯定的に回答する傾向がみられた。また、令和３年度調査から令和６年度調査で、全校種に共通して、肯定的に回答する割合は増加する傾向がみられた。
- 全校種に共通して「健康面に配慮した指導状況」は否定的に回答する傾向がみられた。また、令和３年度調査から令和６年度調査で、全校種に共通して、否定的に回答する割合は増加する傾向がみられた。
- 児童生徒質問調査と同様に分析を実施したが、調査問題得点と学校質問調査の質問項目についてはあまり関係性がみられなかった。

第 1 章 情報活用能力調査について

◆ 1.1. 目的

急速に情報化が進展する社会の中で、そこで生き抜くための情報活用能力の必要性が高まっており、我が国の教育においても、学習指導要領の下、各学校段階を通じて、児童生徒の情報活用能力の育成が図られている。

文部科学省としては、「GIGA スクール構想」を掲げ、義務教育段階における 1 人 1 台端末の整備が成されており、利活用が促進されている中、児童生徒における情報活用能力の育成状況を明らかにすることで、中長期的に教育課程の在り方や情報教育の推進方策を検討するとともに、学校における情報活用能力育成に向けた取組を、さらに充実させることを目指している。

こうしたことから、「児童生徒の情報活用能力の把握に関する調査研究」では、全国の小学校、中学校、高等学校等から抽出した学校に対して、児童生徒の情報活用能力を測る問題形式の調査と、それに関連した学習状況等に関する質問形式の調査を実施し、情報活用能力の育成状況について基礎的なデータを得るとともに、今後の施策を検討するための多角的な分析を行うことを目的としている。

◆ 1.2. 情報活用能力とは

情報活用能力は、言語能力、問題発見・解決能力等と同様に、学習の基盤となる資質・能力である。その育成に当たっては、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとされている。

情報活用能力は、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉えて、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力である。

情報活用能力をより具体的に捉えれば、学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報をわかりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりといったことができる力であり、さらに、このような学習活動を遂行する上で必要となる情報手段の基本的な操作の習得や、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力等も含むものである。

■ 1.2.1. 情報活用能力の変遷

社会の情報化は急速に進展し、経済社会に大きな変革をもたらしている。スマートフォンなどの情報通信機器が広く普及したことで、誰もが情報の受け手であると同時に送り手としての役割も担うようになり、これらの機器は、今や私たちにとって必要不可欠なツールとなっている。近年では、AI やロボティクス、ビッグデータ、IoT といった技術が進展し、Society5.0 時代が到来しつつある中で、特に生成 AI をはじめとするデジタル技術の発展は、多様な個人の思いや願い、意志を具現化し得るチャンスを生み出している。一方で、「フェイクニュース」の影響や「フィルターバブル」「エコーチェンバー」といった、デジタル化の負の側面等も指摘されている。

また、小学校から高等学校において、学校における高速大容量のネットワーク環境（校内 LAN）の整備を推進するとともに、GIGA スクール構想の実現により、これまでの実践と ICT の活用を適切に組み合わせていくことで、これからの学校教育を大きく変化させ、様々な課題を解決し、教育の質を向上させることが期待されている。

そうした中で、大量の情報の中から必要な情報を取捨選択したり、情報の表現やコミュニケーションの手段として、コンピュータや情報通信ネットワークなどを効果的に活用したりする能力が求められるようになっている。同時に、ネットワーク上の有害情報や悪意のある情報など、急激な情報化の影の部分への対応も喫緊の課題である。

さらに、情報手段を効果的に活用して、多様な情報を結び付けることで、新たな知識や情報などの創造・発信や問題の解決につなげていくといった、情報社会の進展に主体的に対応できる能力が求められている。

こうした「情報活用能力」の考え方は、各学校における実践の積み重ねや情報技術の進展等を踏まえ、今日まで深化してきている。

■ 1.2.2. 平成元年告示学習指導要領

我が国の初等中等教育における情報化への対応は昭和 40 年代後半ごろからみられるが、「情報活用能力」の育成という観点については、臨時教育審議会（昭和 59 年～ 62 年）及び教育課程審議会（昭和 60 年～ 62 年）等における検討を経て、子供たちに「情報活用能力」を育成することの重要性が示されたことに端を発していると言える。

特に臨時教育審議会第二次答申（昭和 61 年４月）においては、「情報及び情報手段を主体的に選択し活用していくための個人の基礎的な資質（情報活用能力）」を、読み、書き、算盤に並ぶ基礎・基本と位置付けており、これは、今日の情報教育の基本的な考え方となっている。

教育課程審議会答申（昭和 62 年 12 月）においては、「社会の情報化に主体的に対応できる基礎的な資質を養う観点から、情報の理解、選択、処理、創造などに必要な能力及びコンピュータ等の情報手段を活用する能力と態度の育成が図られるよう配慮する。なお、その際、情報化のもたらす様々な影響についても配慮する」と提言されている。

これらの答申を受けて、平成元年告示の学習指導要領では、中学校技術・家庭科において、選択領域として「情報基礎」を新設し、中学校・高等学校段階の関連する各教科で情報に関する内容を取り入れるとともに、各教科の指導において教育機器を活用することとした。

■ 1.2.3. 平成 10・11 年告示学習指導要領

平成 10 年告示の小学校学習指導要領では、「各教科等の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、適切に活用する学習活動を充実する」、中学校学習指導要領では、「各教科等の指導に当たっては、生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用できるようにするための学習活動の充実に努める」（平成 11 年告示の高等学校学習指導要領も同旨）ことを示した。また、高等学校には情報科を新設した。

これに先立ち、平成９年 10 月にとりまとめられた「体系的な情報教育の実施に向けて情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議第 1 次報告」においては、「情報教育で育成すべき『情報活用能力』の範囲を、これからの高度情報通信社会に生きるすべての子供たちが備えるべき資質という観点から明確にする必要がある」とし、「これからの社会においては、様々な情報や情報手段に翻弄されることなく、情報化の進展に主体的に対応できる能力をすべての子供たちに育成することが重要であると考えた。そこで、（中略）情報教育で育成すべき『情報活用能力』を以下のように焦点化し、系統的、体系的な情報教育の目標として位置付ける」として、次に示す３つの観点が示された（図表 1-2-1）。

図表 1-2-1 情報教育の目標

A	課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力（情報活用の実践力）
B	情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解（情報の科学的な理解）
C	社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度（情報社会に参画する態度）

■ 1.2.4. 平成 20・21 年告示学習指導要領

平成 20 年告示の小学校学習指導要領においては、指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項で「各教科等の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、コンピュータで文字を入力するなどの基本的な操作や情報モラルを身に付け、適切に活用できるようにするための学習活動を充実する」とし、中学校学習指導要領においては、「各教科等の指導に当たっては、生徒が情報モラルを身に付け、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切かつ主体的、積極的に活用できるようにするための学習活動を充実する」（平成 21 年告示の高等学校学習指導要領も同旨）とするとともに、各教科の指導計画の作成と内容の取扱いにおいてもコンピュータなどを活用することを示し、一層の充実を図っている。

これに先立つ、初等中等教育における教育の情報化に関する検討会の「初等中等教育の情報教育に係る学習活動の具体的展開について」（平成 18 年８月）においては、「小、中、高等学校の全ての学校段階において、情報教育に係る学習活動を抽出し、それを情報教育の体系の中に位置付けるに当たっては、現行の情報活用能力に係る３観点について、それぞれに係る具体的な指導項目としてどのようなものがあるかを整理することが必要となる。即ち、個々の学習活動が情報活用

能力の 3 観点のどこに位置付けるかに係る判断根拠となるものが必要ということであり、このことは、（中略）情報活用能力の 3 観点を理念のままで終わらせないことにもつながることである」として、情報活用能力の 3 観点を「その定義の文言から」8 つに分類した。

そして、告示後の平成 22 年 10 月にまとめた「教育の情報化に関する手引」においては、情報教育の目標と系統性の意義、発達の段階に応じて各学校段階で身に付けさせる情報活用能力、情報活用能力を身に付けさせる各教科等の学習活動について解説している。

■ 1.2.5. 平成 29・30・31 年改訂学習指導要領における情報活用能力

平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」においては、「教科等の枠を越えた全ての学習の基盤として育まれ活用される資質・能力」として情報活用能力が取り上げられ、その重要性が指摘された。

本答申においては、情報教育の目標を、「情報活用の実践力」、「情報の科学的な理解」及び「情報社会に参画する態度」の 3 観点で捉える考え方について、情報活用能力を育むための指導内容や学習活動を具体的にイメージしやすくし指導を充実させることに寄与してきたとしている。その上で、情報活用能力についても、各教科等において育むことを目指す資質・能力と同様に、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」及び「学びに向かう力、人間性等」の「三つの柱」によって捉えていくことが提言された。

本答申を踏まえ、平成 29 年 3 月に告示した小・中学校の学習指導要領及び平成 30 年 3 月に告示した高等学校の学習指導要領では、情報活用能力を、言語能力や問題発見・解決能力と同様に、学習の基盤となる資質・能力と位置付け、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図り、各学校のカリキュラム・マネジメントの実現を通じて育成することとした。また、学習指導要領解説では、「情報活用能力をより具体的に捉えれば、学習活動において必要に応じてコンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を得たり、情報を整理・比較したり、得られた情報をわかりやすく発信・伝達したり、必要に応じて保存・共有したりといったことができる力であり、さらに、このような学習活動を遂行する上で必要となる情報手段の基本的な操作の習得や、プログラミング的思考、情報モラル、情報セキュリティ、統計等に関する資質・能力等も含むものである」と具体的に示した。

■ 1.2.6. 近年の情報活用能力にまつわる議論

本報告書で示す令和 6 年度に実施した情報活用能力調査は、現行の学習指導要領に則して設計されているが、現行学習指導要領が全面実施されてから中央教育審議会等で進んだ情報活用能力にまつわる議論についても、以下参考として言及したい。

令和 3 年 1 月 26 日の中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」において、情報機器について「これからの学校教育を支える基盤的なツールとして、ICT はもはや必要不可欠なものであることを前提として、学校教育の在り方を検討していくことが必要」と示された。また、情報活用能力に課題があることが指摘され、「情報化が加速度的に進む Society5.0 時代に向けて、情報活用能力など学習の基盤となる資質・能力を育む必要があること」が提言された。

また、文部科学省は令和 6 年 12 月 25 日に中央教育審議会へ諮問を行った。本諮問では、「情報活用能力の育成の重要性が高まっていることも踏まえ、どのように整理や明確化を行うべきか」、また「小中高等学校を通じた情報活用能力の抜本的向上を図る方策についてどのように考えるか」等が中心的な審議事項の 1 つとして示された。

この諮問を基に、学習指導要領改訂に向けた議論が中央教育審議会で進んでいる。令和 7 年 9 月25日に教育課程企画特別部会が報告した「論点整理」では、情報活用能力について「（1）どのように情報技術の活用の実態を高めていくか（主に①活用）、（2）内容として不足している部分をどう充実するか（主に②適切な取扱い、③特性の理解）という観点で総合的に整理することが重要」であると指摘された。また、「小学校の総合的な学習の時間に「情報の領域（仮称）」を付加しつつ、中学校は情報技術に関連する内容を強化した「情報・技術科（仮称）」を新設し、それらを踏まえた高等学校情報科の充実を図る」ことが提案された。

◆ 1.3. 調査の概要

以下、調査の概要を記す。なお、本調査は、令和３年度に実施された情報活用能力調査（以下、令和３年度調査）をベースに新規問題や新規質問項目を加える等したものである。

令和３年度調査の結果については次の URL に掲載されているので、適宜ご参照されたい。

https://www.mext.go.jp/content/20230712-mxt_jogai01-000026776-001.pdf

■ 1.3.1. 調査対象

本報告書の 1.1 節で述べたように、情報活用能力調査の目的は、「全国の小学校、中学校、高等学校等から抽出した学校に対して、児童生徒の情報活用能力を測る問題形式の調査と、それに関連した学習状況等に関する質問形式の調査を実施し、情報活用能力の育成状況について基礎的なデータを得るとともに、今後の施策を検討するための多角的な分析を行うこと」である。

今回、調査対象となる児童生徒を、「小学校、義務教育学校前期課程（以下、「小学校」とする。）の第５学年の児童」、「中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程（以下、「中学校」とする。）の第２学年の生徒」、「高等学校（全日制・定時制課程）、中等教育学校後期課程、高等専門学校（以下、「高等学校」とする。）の第２学年の生徒」とし、その中から実際に調査を受ける児童生徒を抽出した。ここでの小学校、中学校、高等学校については、国立、公立、私立の全ての学校が含まれている。特別支援学校、高等学校の通信制課程の学科等を含まないのは、個々の児童生徒の出席や通学の事情に応じた調査問題等の調整が困難であると判断したためである。

学校での教育の成果を測るには、教育課程の修了直前の最終学年が望ましいが、進学・就職等を控えて調査実施日時の設定が困難であるため、調査対象を小学校においては第５学年、中学校及び高等学校においては第２学年とし、調査を原則３学期に実施することで、できるだけ各学校の教育成果が結果に反映されるようにした。

■ 1.3.2. 抽出方法

情報活用能力調査は、調査対象の児童生徒全員に調査を実施する全数調査ではなく、調査対象から実際に調査を実施する児童生徒を抽出する標本調査として行った。

児童生徒の抽出方法としては、「層化二段集落抽出法」を採用した。その手順は、まず調査対象となる児童生徒が通う「学校」（高等学校においては、学校ではなく学科とする。以下、同じ。）を、小学校及び中学校については設置者・所在地で４層に、高等学校については設置者・学科種別等で６層に分け、対象児童生徒全体に対する各層の児童生徒の割合に基づいて抽出学校数を決定した（図表 1-3-1、図表 1-3-2、図表 1-3-3）。次に、第一段階の抽出として層ごとに、学校の在籍児童生徒数に比例させた確率で学校を抽出し、第二段階の抽出として、第一段階で抽出された学校ごとに、そこに含まれる全クラスから無作為に１クラスを抽出し、抽出されたクラスの児童生徒全員に対して調査を行った。

調査対象校数は、調査の精度と実施可能性とのバランスを考慮し、また全国規模で標本抽出が行われている他の調査を参考にしながら、小学校、中学校、高等学校のそれぞれで 150 校とした。

なお、抽出には、抽出時点で最新であった令和５年度の「学校基本調査」のデータを用いた。

図表 1-3-1 小学校の児童数、抽出学校数

層	学校数（校）	層別合計児童数（人）	児童数の割合	抽出学校数（校）
公立（23 区・政令市）	3,709	272,835	27.9%	45
公立（市立）	12,172	605,577	62.0%	99
公立（町村立）	2,794	78,477	8.0%	13
国私立	317	19,752	2.0%	3
総数	18,992	976,641	100.0%	160

図表 1-3-2 中学校の生徒数、抽出学校数

層	学校数（校）	層別合計生徒数（人）	生徒数の割合	抽出学校数（校）
公立（23 区・政令市）	1,769	243,403	23.6%	38
公立（市立）	5,984	608,769	59.1%	95
公立（町村立）	1,460	81,441	7.9%	13
国私立	840	96,010	9.3%	15
総数	10,053	1,029,623	100.0%	161

図表 1-3-3 高等学校の生徒数、抽出学科数

層	学科数（学科）	層別合計生徒数（人）	生徒数の割合	抽出学科数（学科）
公立普通科等	2,762	442,205	43.5%	70
公立専門学科	3,575	188,249	18.5%	30
国私立普通科等	1,417	321,923	31.7%	51
国私立専門学科	525	29,752	2.9%	5
定時制（国公私立）	1,441	23,233	2.3%	4
高等専門学校（国公私立）	208	10,844	1.1%	2
総数	9,928	1,016,206	100.0%	162

調査の依頼時に、各学校に整備されている機器で調査が正常に実施可能かどうかを診断ソフトで確認し、調査不可と判断された学校については、抽出時に同時に選んでいた代替校に依頼した。

抽出された調査対象校から実施を確約できないとの回答があった場合には、代替校に対しても同時並行で依頼を行った。抽出された調査対象校及び代替校のうち、調査の実施を確約できた学校を「実施予定校」とする。この過程を経て、小学校と中学校の実施予定校数は当初の調査対象校数（各校種 150 校）よりも多くなった。最終的な実施予定校数は、小学校が 167、中学校が 164、高等学校が 160 である。その後、調査の実施直前や実施当日の休校等に伴う日程調整困難や環境不具合発生を理由として実施を辞退する学校があったため、学校の有効実施率が 100%に満たない層が存在する。

実施予定校において抽出された学級に在籍する児童生徒を「実施予定児童」、「実施予定生徒」とした。児童生徒の有効実施率は、小学校が約 93.5%、中学校が約 87.9%、高等学校が約 91.9%であった（図表 1-3-4、図表 1-3-5、図表 1-3-6）。

図表 1-3-4 小学校の有効学校数、有効児童数

層	実施予定学校数（校）	有効学校数（校）	学校有効実施率	実施予定児童数（人）	有効児童数（人）	児童有効実施率
公立（23 区・政令市）	49	49	100.0%	1,457	1,377	94.5%
公立（市立）	102	102	100.0%	2,904	2,697	92.9%
公立（町村立）	13	13	100.0%	336	314	93.5%
国私立	3	3	100.0%	86	83	96.5%
総数	167	167	100.0%	4,783	4,471	93.5%

図表 1-3-5 中学校の有効学校数、有効生徒数

層	実施予定学校数（校）	有効学校数（校）	学校有効実施率	実施予定生徒数（人）	有効生徒数（人）	生徒有効実施率
公立（23 区・政令市）	41	41	100.0%	1,432	1,268	88.5%
公立（市立）	98	98	100.0%	3,228	2,844	88.1%
公立（町村立）	15	15	100.0%	460	408	88.7%
国私立	10	10	100.0%	334	320	95.8%
総数	164	164	100.0%	5,509	4,840	87.9%

図表 1-3-6 高等学校の有効学科数、有効生徒数

層	実施予定学科数（学科）	有効学科数（学科）	学科有効実施率	実施予定生徒数（人）	有効生徒数（人）	生徒有効実施率
公立普通科等	70	69	98.6%	2,577	2,347	91.1%
公立専門学科	30	30	100.0%	937	868	92.6%
国私立普通科等	48	47	97.9%	1,537	1,423	92.6%
国私立専門学科	5	5	100.0%	177	166	93.8%
定時制（国公私立）	4	4	100.0%	91	81	89.0%
高等専門学校（国公私立）	3	3	100.0%	122	115	94.3%
総数	160	158	98.8%	5,441	5,000	91.9%

■ 1.3.3. 調査実施までの流れ

情報活用能力調査の全体の流れは以下に示すとおりである。なお、令和 6 年度調査については令和 7 年 1 月～ 2 月に実施した（図表 1-3-7）。

図表 1-3-7 調査全体の流れ



■ 1.3.4. 調査実施体制

1 . 企画推進委員会の設置

情報活用能力に関する調査の実施に当たって方向性を確認し、調査の集計・分析・公表・問題作成等への助言を行うとともに、調査システム改善への助言と承認を引き続き行う場として、調査研究の企画推進のための委員会として、「企画推進委員会」を設置した。

2 . ワーキンググループ（WG）等の設置

調査の円滑な実施を図るため、企画推進委員会の傘下に、情報活用能力や調査、統計に関する知見を有する研究者、教育行政関係者、教員から構成されるワーキンググループ（WG）等を設置した（図表 1-3-8）。

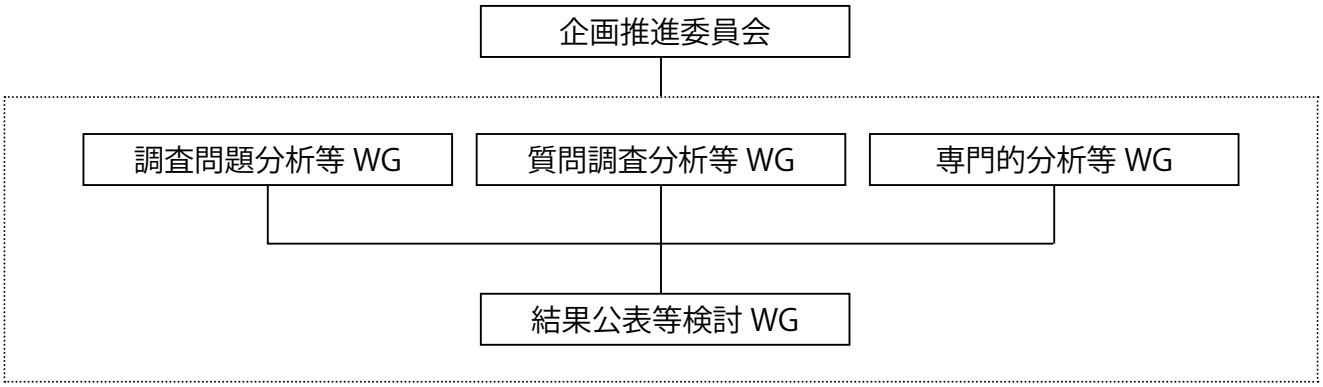
① 調査問題分析等 WG
- ○情報活用能力の観点から調査問題の結果分析及び公表問題の素案選定等の指導・助言
- ○新規問題開発に関する指導・助言

② 質問調査分析等 WG
- ○学校・児童生徒質問調査の結果分析等の指導・助言
- ○学校・児童生徒質問調査と調査問題のクロス分析等の指導・助言

③ 専門的分析等 WG
- ○ IRT（1.5.1 項参照）に基づいた専門的な分析等の指導・助言
- ○統計的な観点からの公表内容に関する指導・助言

④ 結果公表等検討 WG
- ○結果公表に向けた各種公表資料作成（公表問題を含む。）に関する指導・助言
- ○教師向け授業改善資料作成に関する指導・助言

図表 1-3-8 調査実施体制の組織図



■ 1.3.5. 調査の内容

CBT（Computer Based Testing）により、児童生徒を対象とした情報活用能力に関する調査を実施するとともに、児童生徒を対象とした質問調査（以下、「児童生徒質問調査」とする。）、学校長を対象とした質問調査（以下、「学校質問調査」とする。）を実施した。

1. 児童生徒を対象とした調査問題

情報活用能力は、平成 29・30・31 年改訂学習指導要領解説総則編等において整理されている三つの柱、すなわち「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」及び「学びに向かう力、人間性等」によって捉えられ、それらに基づいて調査問題の開発が企図された。

ただし、「学びに向かう力、人間性等」については、調査問題で測定することが現段階では困難であったため、「児童生徒質問調査」によるアンケート方式で確認することとした。

児童生徒を対象とした調査問題は、教科等横断的であり学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力を測定するために作成されたものである。定型的な課題だけではなく、非定型的な課題を解決するといった文脈から問題が設定されているほか、課題を解決するために状況や条件に応じて情報をどのように活用するのか、すなわち情報を用いる際の認知的なスキルを想定した問題を主とした設定になっている。

また、この調査は CBT で実施されたことにより、アプリケーション（表計算ソフト、文書作成ソフト、音楽再生ソフト、プログラミングソフト、ウェブブラウザ等）の操作、あるいはドラッグ操作による解答形式を用いることが可能となった。なお、児童生徒が本調査で用いる CBT システムの操作感に慣れたうえで解答できるよう、関連する練習問題を事前に用意した。

2. 児童生徒質問調査

児童生徒の情報活用に関する学校や家庭等での環境や学習状況等の実態を把握するため、児童生徒を対象とする質問調査をインターネット経由で実施した。

質問の内容は、① 1 日当たりのスマートフォン・携帯電話利用時間、② 1 日当たりのコンピュータ（ノート・タブレット・デスクトップ）利用時間、③学校での情報活用能力育成に関する各種取組頻度、④学校外での情報活用能力育成に関する各種取組頻度、⑤情報活用能力における「主体的に学習に取り組む態度」及びファクトチェックの意識、⑥コンピュータやインターネットに対する期待等、⑦個別最適な学び等に関する状況、⑧健康への配慮、⑨生成 AI に対する期待等に関するものであった。

3. 学校質問調査

学校の情報活用に関する環境や取組状況等の実態を把握するため、主として学校長を対象とする質問調査をインターネット経由で実施した。

質問の内容は、①機器整備・活用状況、②タイピングの指導状況、③情報活用能力育成に関する取組状況、④機器等を活用した指導状況、⑤端末の積極的・主体的な活用、⑥ GIGA スクール構想の成果「個別最適な学びに関する効果」、⑦ GIGA スクール構想の成果「効率化による指導の改善」、⑧ GIGA スクール構想の成果「オンラインによる学習活動の充実」、⑨ GIGA スクール構想の成果「学習意欲・学力への影響」、⑩ GIGA スクール構想の成果「学びの保証に関する効果」、⑪ GIGA スクール構想による授業の効率的な展開、⑫健康面に配慮した指導状況、⑬生成 AI の活用状況に関するものであった。

■ 1.3.6. 実施方法

児童生徒を対象とした情報活用能力を測る調査問題と児童生徒質問調査は、いずれもコンピュータを使用した調査、すなわちコンピュータの画面上に提示された調査問題と質問項目に対して、児童生徒が画面上で解答又は回答する形式とした。なお、調査で使用するコンピュータとしては、児童生徒が在籍する学校に整備されているコンピュータ（キーボード付き）が使用された。

CBT システムとしては、文部科学省が開発した公的 CBT プラットフォームである「文部科学省 CBT システム（MEXCBT: メクビット）」が使用された。

1. 調査時間

児童生徒を対象とした調査問題及び児童生徒質問調査は、連続する 2 単位時間（小学校 45 分× 2 コマ、中学校及び高等学校 50 分× 2 コマ）を用い、 1 時間目は、ガイダンス（15 分）、児童生徒に対する問題調査（30 分）、 2 時間目は、児童生徒に対する問題調査（30 分）、児童生徒質問調査（15 分）を行った。

また、ガイダンスの中で、提示された文章と同じ文章を入力する課題（以下、「文字入力課題」とする。）を出題したほか（3 分）、この調査で使用する CBT システム特有の操作方法を練習するために練習問題を出題した（6 分）。

2. 問題フォーム

児童生徒を対象とした調査問題は、全体で 97 個の大問で構成された。大問は、特定の文脈（第 2 章で公表の調査問題例における「問題名」を参照）に沿う複数の小問（全部で 205 問）によって構成された。また、小問一問のみで構成される大問も存在した。なお、205 問の小問のうち、令和 3 年度調査に出題した小問（以下、既存問題と呼ぶ）が 156 問、今回新たに出題した小問（以下、新規問題と呼ぶ）が 49 問であった。

次に、それらの大問を振り分け、一問題群あたりの平均想定解答時間を 15 分とする「問題群」を小学校用に 19 個、中学校用及び高等学校用に 25 個用意した。

各学校種に用意された問題群から、問題ごとの受検者数が均等となるように 4 個ずつ抽出し、調査対象児童生徒が 2 単位時間をかけて解答する「問題フォーム」（平均想定解答時間は 60 分）を小学校用に 57 種類、中学校用及び高等学校用に 100 種類作成した。それぞれの問題フォームは、抽出された問題群が一部ずつ重なり合うように作成され、CBT システム搭載時には、児童生徒が問題フォームの中からあらかじめ指定された一つの問題フォームに解答するように設定した。

なお、時間切れを理由に後半に出題される大問にたどり着かないことがないよう、問題フォーム内の問題群の出題順が調査全体で均等となるように並べ替える工夫をしている（ただし、各問題群内の大問の出題順は不変）。そして問題群の出題順が異なれば、同じ問題群で構成される問題フォームであっても、それは別の問題フォームという扱いになっている。

図表 1-3-9　問題フォームを構成する問題群の組合せと出題順のイメージ※1

	問題群 1	問題群 2	問題群 3	問題群 4	問題群 5	問題群 6	問題群～
問題フォーム 1	①※2	②	③	④	—	—	—
問題フォーム 2	—	①	②	③	④	—	—
問題フォーム 3	④	—	①	②	③	—	—
問題フォーム 4	③	④	—	①	②	—	—
問題フォーム 5	②	③	④	—	①	—	—
問題フォーム～	…	…	…	…	…	…	…

※ 1 ：実際には小学校 19 個、中・高等学校 25 個の問題群から 4 つの組合せで問題フォームは構成されている。

※ 2 ：表中の丸はその問題フォームにおいてその問題群を抽出したこと、丸囲みの数字はその問題フォームを構成する 4 個の問題群について設定された出題順を示す。

3. 問題形式

児童生徒を対象とした調査問題は、出題形式と解答形式の組合せによって成立する。

出題形式は、調査問題における出題部分の形式であり、以下の形式に分類される（図表 1-3-10）。

図表 1-3-10 出題形式

アプリ	表計算ソフト、文書作成ソフト、音楽再生ソフト、プログラミングソフト、ウェブブラウザ等が用いられる出題形式
図表	グラフ、表が用いられる出題形式
文章・会話	文章（文書、メール、チャット等）、会話（インタビュー、聞き取り等）が用いられる出題形式

解答形式は、調査問題における児童生徒の解答方法の形式であり、以下の形式に分類される（図表 1-3-11）。

図表 1-3-11 解答形式

アプリ操作式	ファイル操作、表計算、グラフ作成、文書作成ソフト、音楽再生ソフト、プログラミングソフト、ウェブブラウザ等のアプリケーションを操作する解答形式
分類・並べ替え式	ドラッグ操作による解答形式
記述式	問いに対する自身の考え等を、文章で解答する解答形式
短答式	定型的な問いに対し、数字や単語、短い文章で解答する形式
選択式	ラジオボタン、プルダウンメニュー、チェックボックス等から、問いに対し適切なものを選択する解答形式

なお、「アプリ操作式」と「分類・並べ替え式」は CBT システム特有の解答形式である。CBT システムを用いた調査によりこれらの解答形式も可能となった。

■ 1.3.7. 採点方法

1. 解答分類と解答類型

各調査問題に対して、求められる資質・能力（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」）を定め、資質・能力に応じた解答分類、解答類型、採点基準等を設定した。 解答分類は、「正答」、「誤答」の２分類、または「完全正答」、「準正答」、「誤答」の３分類からなるものとした。解答類型は、全設問に対し「正答」、「無解答」、「無解答を除く誤答」の３分類を設定し、調査問題の特性によってはさらに細かく分類した。

2. 採点ガイドの作成及び採点者の研修

採点者はセキュリティポリシーを遵守し、児童生徒の解答について、正確に採点できる知識と技能を有する者とした。また、採点を行うに当たって、採点者による採点結果の差異が表れないように、採点ガイドの作成や採点者への研修を行った。採点ガイドは、解答類型の種類や類型に分類するための採点基準、想定される解答例とそれに対する判断等を記載したものである。採点者の研修では、採点ガイドを用いた具体的な採点方法に関する研修や、セキュリティポリシーに関する研修を行った。また、採点者と採点業務を総括するため、採点リーダーを配置した。

3. 採点

児童生徒の解答データに対する採点は、プログラムによる自動採点が可能な調査問題に対しては自動採点を行い、それ以外の調査問題に対しては採点者による目視採点を行った。プログラムによる自動採点では、自動採点後に採点リーダーにより誤採点の有無の確認を実施し、プログラムそのものに誤りがないことも人的に確認した。採点者による目視採点では、１つの解答に対して２名以上の採点者が独立して採点を行うことで、採点の品質を担保した。採点結果が採点者によって異なる場合は採点リーダーが確認し、判断が困難な場合には文部科学省と協議の上最終的な採点結果を決定した。

■ 1.3.8. 過去に行われた情報活用能力調査

コンピュータを使用した情報活用能力を測定する初めての調査は、平成 25 年度に小・中学生を対象とした情報活用能力調査であった。児童生徒用コンピュータとして、同一機種のノートパソコンを学校に持ち込み、オフラインの環境で調査を実施した。調査問題は 3 観点（1.2 節参照）に基づいて小学校用と中学校用が作成され、それぞれ全員が同じ問題について解答し、正答・誤答に着目して分析した。

平成 27 年度には、高校生を対象にコンピュータを用いた情報活用能力調査を実施した。この調査は、生徒が在籍する高等学校に整備されているコンピュータ（キーボード付き）を使用して実施した。調査問題は 3 観点（1.2 節参照）に基づいて作成され、生徒は複数の「問題フォーム」から選ばれた一つの問題フォームに解答して、IRT（1.5.1 項参照）に基づいた分析を行った。

令和 3 年度に実施された情報活用能力調査（令和 3 年度調査）は、小・中・高校生を対象としており、本調査はこの令和 3 年度調査をベースとして設計・実施されている。

◆ 1.4. 調査問題の種類

調査問題の作成に当たって、測定内容は、平成 28 年度から令和元年度まで実施された文部科学省「次世代の教育情報化推進事業『情報教育の推進等に関する調査研究』」（以下、IE-School と呼ぶ。）を参考に検討された。

IE-School では、「IE-School における実践研究を踏まえた情報活用能力の要素の例示」が作成された（図表 1-4-1）。

図表 1-4-1 IE-School における実践研究を踏まえた情報活用能力の要素の例示（平成 30 年度版）

分類		
A	知識及び技能	1 情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能
		2 問題解決・探究における情報活用の方法の理解
		3 情報モラル・情報セキュリティなどについての理解
B	思考力、判断力、表現力等	1 問題解決・探究における情報を活用する力 （プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む）
C	学びに向かう力、人間性等	1 問題解決・探究における情報活用の態度
		2 情報モラル・情報セキュリティなどについての態度

（体系分類について抜粋）

また、IE-School における実践研究では、情報活用能力の育成に関わる事例を学習内容の観点から整理し、「想定される学習内容」として次の図表に示す 4 つに分類した（図表 1-4-2）。

図表 1-4-2 情報活用能力育成のための想定される学習内容

	想定される学習内容	分類
①	基本的な操作等	キーボード入力やインターネット上の情報の閲覧など、基本的な操作の習得に関するもの等
②	問題解決・探究における情報活用	問題を解決するために必要な情報を集め、その情報を整理・分析し、解決への見通しをもつことができる等、問題解決・探究における情報活用に関するもの等
③	プログラミング	単純な繰り返しを含んだプログラムの作成（育成する場面）や問題解決のためにどのような情報を、どのような時に、どれだけ必要とし、どのように処理するかといった道筋を立て、実践しようとするもの等
④	情報モラル・情報セキュリティ	SNS、ブログ等、相互通信を伴う情報手段に関する知識及び技能を身に付けるもの（育成する場面）や情報を多角的・多面的に捉えたり、複数の情報を基に自分の考えを深めたりするもの等

児童生徒を対象とした調査問題は、これらに基づき、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の各要素と、結びつきが考えられる各「想定される学習内容」との組合せにおいて作成された（ただし、調査問題で測定することが現段階で困難であった「学びに向かう力、人間性等」を除く）。その際、原則として実際の活動場面に基づいた問題を作成した。

また、難易度については、小学生から高校生までが受検することを念頭に、小学生でも容易に正答できると考えられる問題から高校生でも正答が難しいと考えられる問題まで、幅広い難易度で問題を作成した。受検時にも幅広い難易度で出題されるよう問題フォームを作成することで、校種や能力によらず全受検者が適切に能力を測れるようにした。加えて、住んでいる地域や普段使用している情報機器の特性など、情報活用能力とは直接関係のない要因によって、解答難易度が左右されないように留意した。

その結果、児童生徒を対象とした調査問題（小問）は以下の表のとおりになった（図表 1-4-3）。

図表 1-4-3 児童生徒を対象とした調査問題数（問）

資質・能力／想定される学習内容		① 基本的な操作等	② 問題解決・探究における情報活用	③ プログラミング	④ 情報モラル・情報セキュリティ	計
A．知識及び技能	1 情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能	30※2	5	18	1	54
	2 問題解決・探究における情報活用の方法の理解	1	67※2	1	2	71
	3 情報モラル・情報セキュリティなどについての理解	1	3	1	26※2	31
B．思考力、判断力、表現力等	1 問題解決・探究における情報を活用する力（プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む）	—※1	31※2	14※2	4※2	49
計		32	106	34	33	205

※1：「資質・能力」と「想定される学習内容」の結びつきの強さも考慮に入れて調査問題を作成しているため、当該箇所（「基本的な操作等」×「思考力、判断力、表現力等」）のように作成されなかった組合せも存在する（次の URL に記載の「IE-School における実践研究を踏まえた学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力の整理」を参考 https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/09/18/1416859_01.pdf）。

※2：第２章で公表した調査問題例の組合せである。

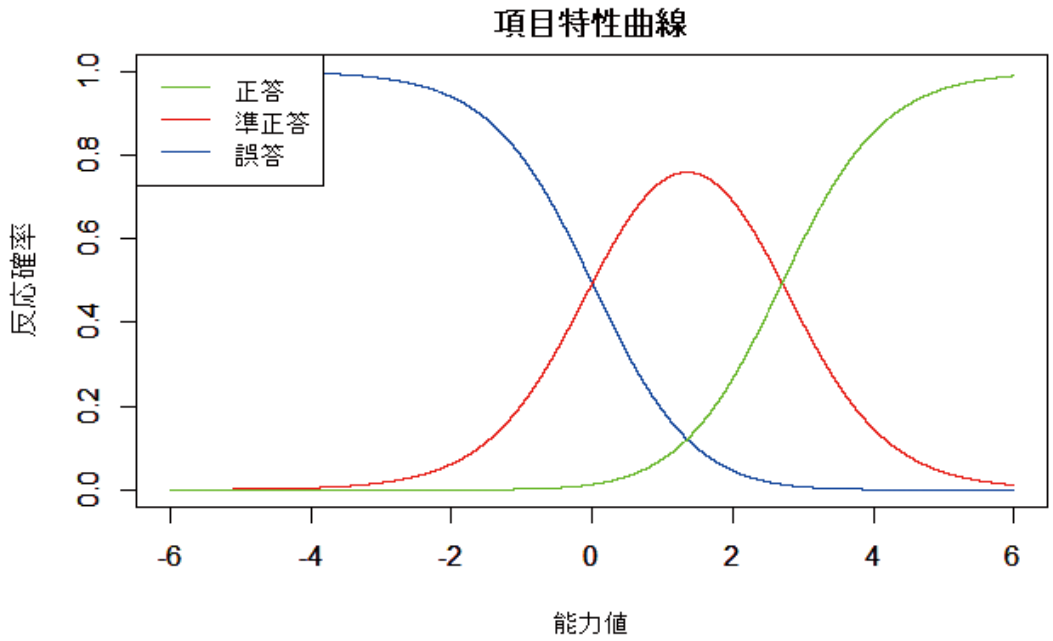
◆ 1.5. 結果の分析と尺度化

■ 1.5.1. IRT（項目反応理論）に基づく尺度化

1 . IRT の概要

本調査では、児童生徒の情報活用能力を得点として推定するために、「IRT（Item Response Theory、項目反応理論）」と呼ばれるテスト理論に基づき、個人の能力と問題の難易度を分析した。IRT は、問題に対して正答となる確率、準正答となる確率、誤答となる確率がそれぞれ個人の能力と問題の特性（難易度等）によって定まる数理モデルを仮定し、調査結果から個々の問題の特性と個々の児童生徒の能力を推定する手法である。以下の説明では、問題を「項目」、正答・準正答・誤答といった解答分類を「カテゴリ」、各カテゴリに解答することを「反応」、推定すべき情報活用能力の程度を表す値を「能力値」、項目の難易度にあたる指標を「困難度」と呼び、項目ごとに各カテゴリとなる反応確率をモデル化した関数の曲線を「項目特性曲線」と呼ぶ（図表 1-5-1）。項目特性曲線は、受検者の能力値と当該項目に対する正答・準正答・誤答確率の対応関係を表す関数であり、IRT では項目ごとの正答確率をこのような数理モデルにより記述することで、受検者の能力分布に依存しない項目の特性を得ることが期待される。

図表 1-5-1 数理モデルの例

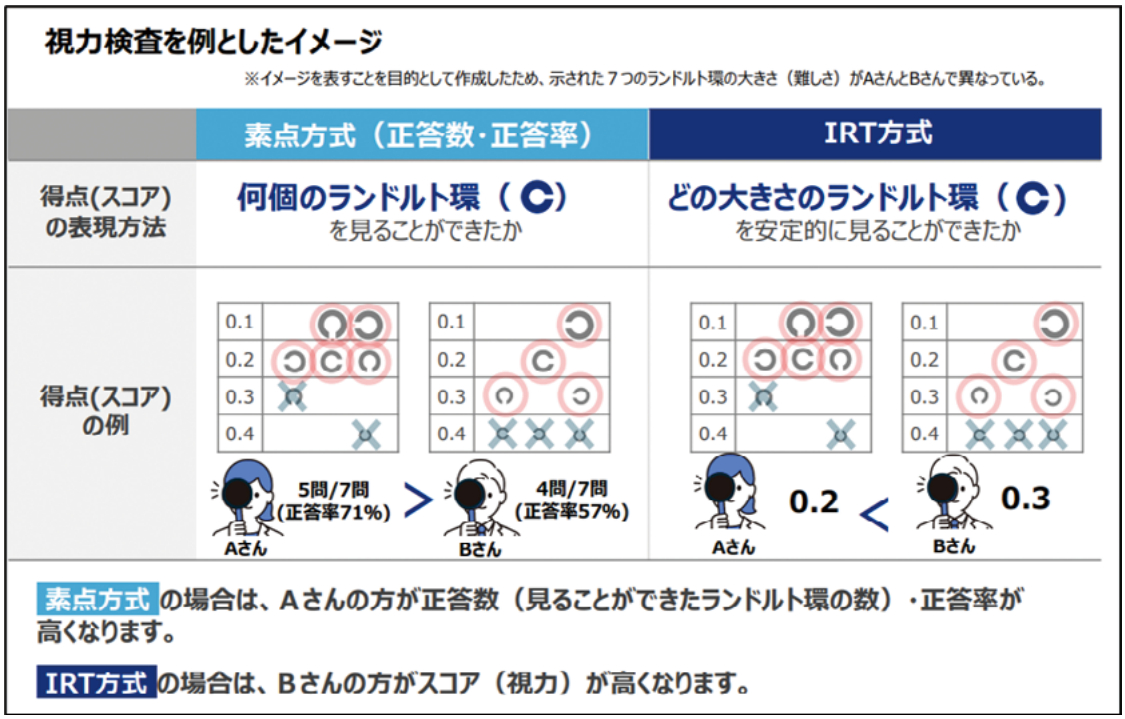


※このモデルでは能力値が上がるにつれて誤答確率が低下し、準正答確率が上昇する、さらに能力値が上がるにつれて準正答確率も低下し、正答確率が上昇することを表現している。

2. IRT による能力値と正答率との違い

1.3.6 項にて述べたように、この調査では児童生徒に対し、全項目のうち一部ずつ重なりあうように項目を出題した。このとき、児童生徒の能力を正答率で表すのであれば、同じ項目を解いた児童生徒の間でしか能力を比較できない。IRT では、項目の特性（困難度等）を推定し、その項目に対する反応をもとに能力を推定するため、異なる項目群が出題された児童生徒でも同じ尺度で比較可能な能力値が推定できる（図表 1-5-2）。

図表 1-5-2 IRT による得点と正答率との違いの例



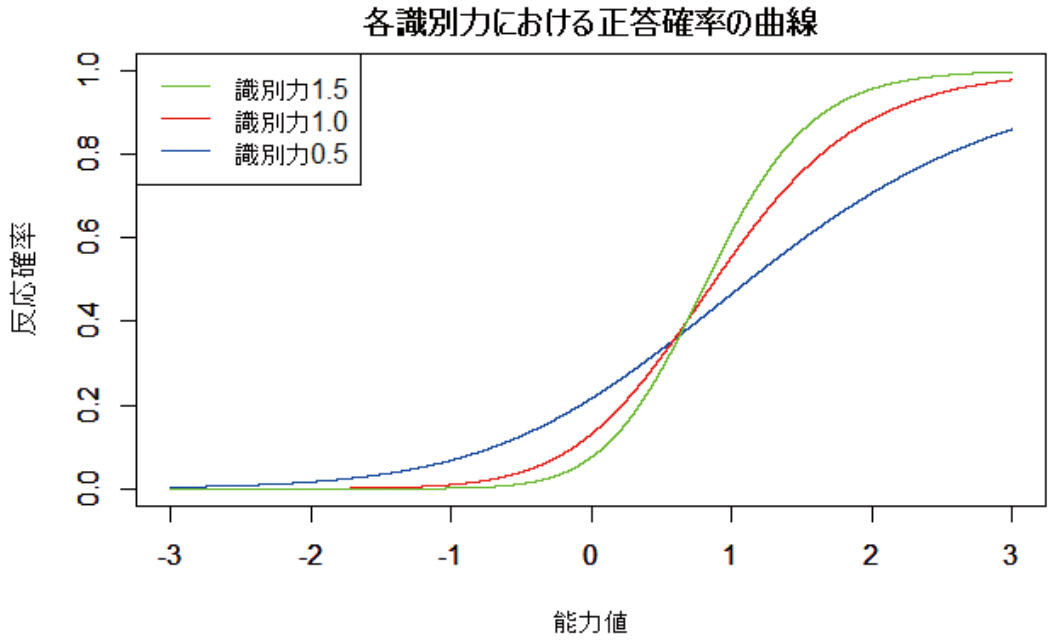
※文部科学省 (2025.7.7)「令和 7 年度全国学力・学習状況調査「中学校理科」IRT を用いた結果返却について」より一部抜粋

また、次回以降の小学生、中学生、高校生を対象とする情報活用能力調査を行うとき、今回出題した項目を使用することで、同じ尺度で得点を比較することが可能である。

3. 本調査で用いた数理モデル

本調査の項目の解答分類には、正答と誤答の他に準正答の 3 分類が存在する項目があるため、誤答、準正答、正答を順序として、このような 3 種類以上で順序がある反応カテゴリを扱うことができる「一般化部分採点モデル（GPCM）」と呼ばれる数理モデルを用いた。このような多値の反応カテゴリを扱うことができるモデルは他に「部分採点モデル（PCM）」等があるが、部分採点モデルとの違いとして一般化部分採点モデルは、個人の能力値によって項目の正答と誤答をはっきりと見分けることができるかどうかの指標（「識別力」という。）を固定するのではなく、項目ごとに推定するモデルである（図表 1-5-3）。

図表 1-5-3 各識別力における正答確率の曲線の傾き具合



※ 識別力は曲線の立ち上がり方（傾き）に影響し、識別力が高い（数値が大きい）ほど「能力が高いが正答ではない確率」や、「能力が低いが正答である確率」が低くなる。すなわち、識別力が高ければ能力によって正答と誤答をはっきりと見分けることが可能な項目といえる。本調査ではこの識別力を推定し、極端に識別力が低い項目はないことを確認している。

4. 年度間比較のための等化

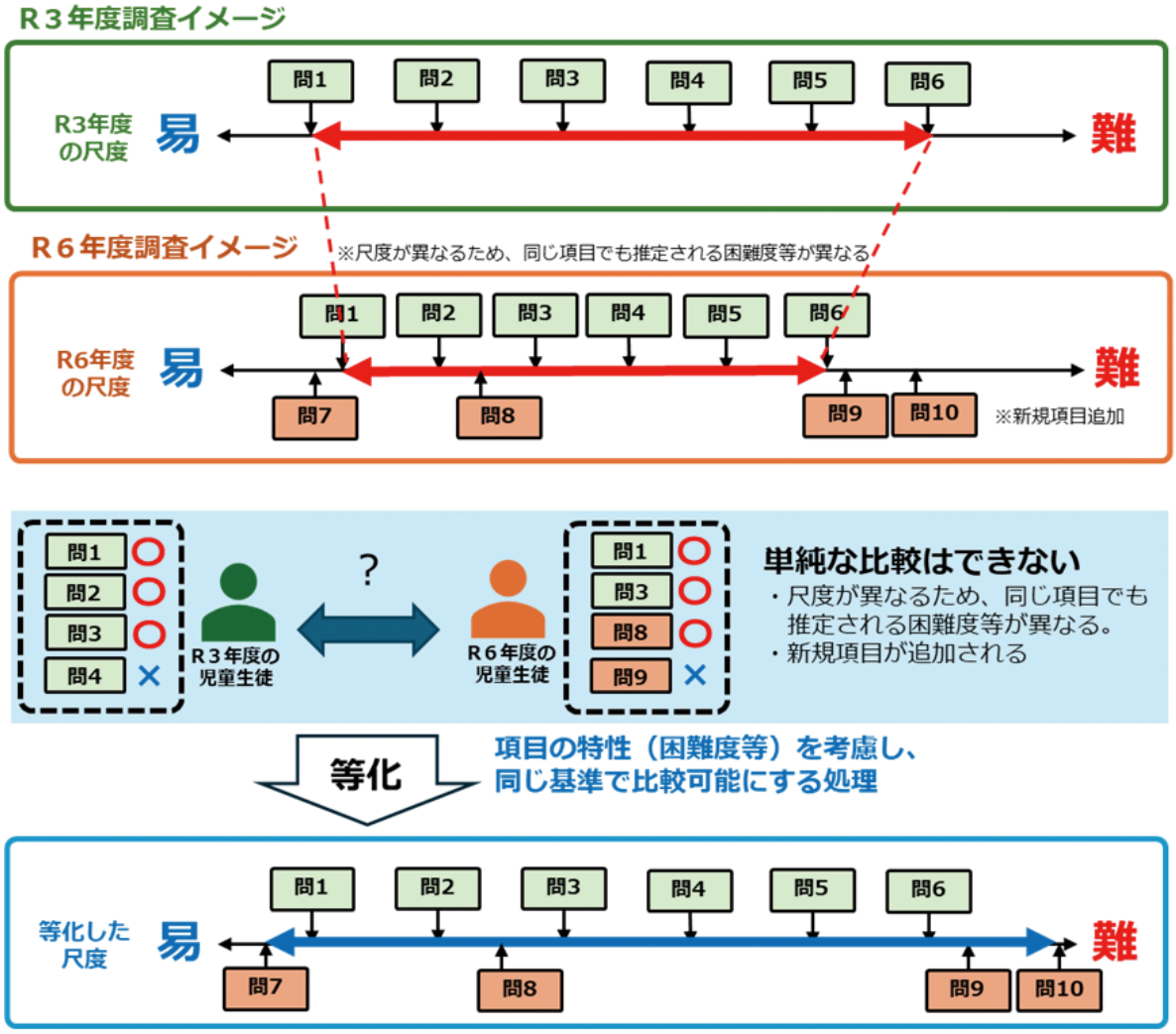
令和 6 年度調査の結果を解釈するために、次の 2 つの処理を行った。

① 令和 6 年度調査の結果のみを用いて、小・中・高の 3 つの異なる母集団を仮定し、全校種に共通する尺度を得る。

② ①で得られた尺度を、令和 3 年度調査の基準集団上の尺度で表示する。

①の操作は、校種ごとに異なる能力値分布が仮定されることから「垂直尺度化」と呼ばれている。一方、②の操作は能力値分布に関する仮定をおかないため「等化」と呼んで区別される。本調査においては先に①の操作を「同時尺度調整法」により行い、次に②の操作を「個別推定」の方法で行った。図表 1-5-4 に等化の操作のイメージを記したが、垂直尺度化の操作も基本的には同様である。

図表 1-5-4　等化のイメージ



令和 3 年度調査と令和 6 年度調査尺度間の等化には共通して出題した項目（「アンカー項目」と呼ばれる）の特性を尺度調整に用いる。ただし、令和 3 年度調査と令和 6 年度調査の調査時点の違いにより、アンカー項目の困難度が変化することが考えられる。例えば、令和 3 年度調査実施時点で多くの受検者にとってなじみがなかったトピックを問う項目が、令和 6 年度調査で多くの受検者に知られるようになった結果、困難度が低下する現象がみられる。アンカー項目の中で、このように項目特性が変化する現象を「項目パラメタドリフト」と呼ぶ。項目パラメタドリフトがみられた項目が存在した場合、それらを除外した残りの項目を等化に用いた。等化係数の推定には「Stocking-Lord 法」を用い、項目パラメタドリフトの判定には「0.3 ロジット法」※を用いた。

また、等化にあたっては令和 3 年度調査の受検者を基準集団と定義し、令和 6 年度調査の尺度を対象として令和 3 年度調査の尺度上に調整する方法を用いた。その際、アンカー項目の項目特性値は、令和 3 年度調査のものを分析に用いた。ただし、アンカー項目のうち、項目パラメタドリフトがみられた項目と新規項目は、令和 6 年度調査結果から推定した項目特性値を、令和 3 年度調査尺度上に調整したものを分析に用いた。

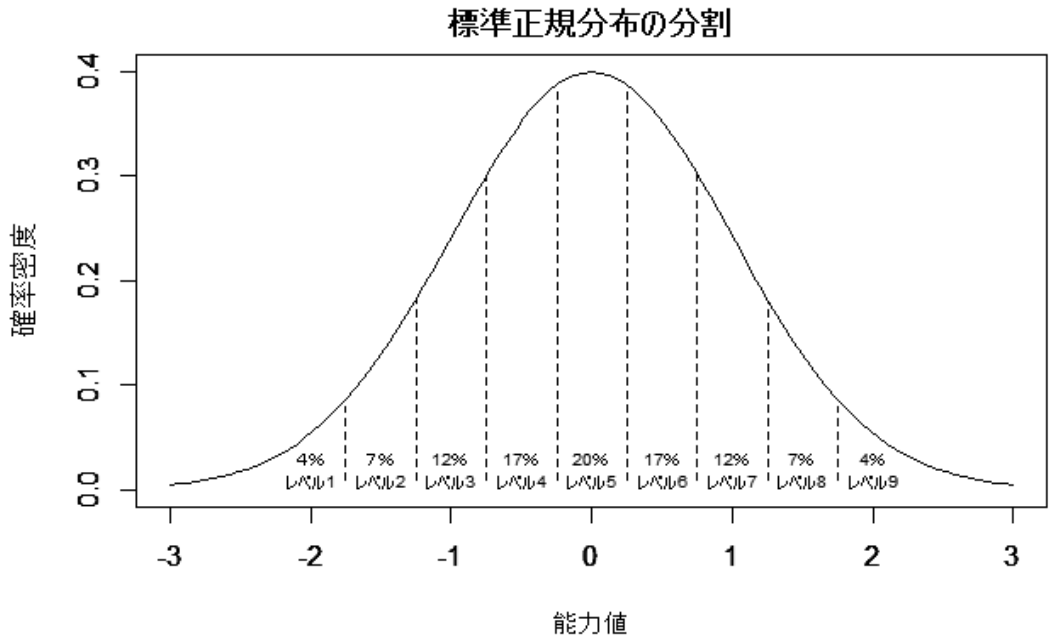
※項目パラメタドリフトの検出方法の一つで、困難度が 0.3 ロジット以上変化した項目を、「項目パラメタドリフトがみられた項目」と判定する方法である。

5. 児童生徒の能力値とその段階分け

本調査では、児童生徒の能力値分布の推定に「推算値」を用いた。令和 3 年度調査の際は小学生の能力値分布を平均 0、標準偏差 1 として推定し、中学生・高校生の能力値については小学生の能力値を基準として推定した。令和 6 年度調査では「年度間比較のための等化」にて述べたように、令和 3 年度調査との共通尺度上で能力値分布を推定した。

また、児童生徒それぞれの特徴を捉えるため、推定した能力値の段階分けを行った。各段階のことを「習熟度レベル」と呼んだ。令和 3 年度調査の際に、「習熟度レベル」の段階分けに「スタナイン」という分割方法を用いており、令和 6 年度調査ではその分位点を継承した。スタナインは、分布を上位から 4 %、7 %、12%、17%、20%、17%、12%、7 %、4 %の割合で 9 群に分割する手法であり、この割合は正規分布を、平均を中心として 1/2 標準偏差の幅で等分割する割合である（図表 1-5-5）。スタナインは順位の割合であることから、習熟度レベルは児童生徒の相対的な位置づけとなっている。令和 6 年度調査では、令和 3 年度調査の習熟度レベルの分位点を継承しているため、両調査における各習熟度レベルの割合の変化を観察することによる経年比較が可能となっている。

図表 1-5-5 スタナインの分割例

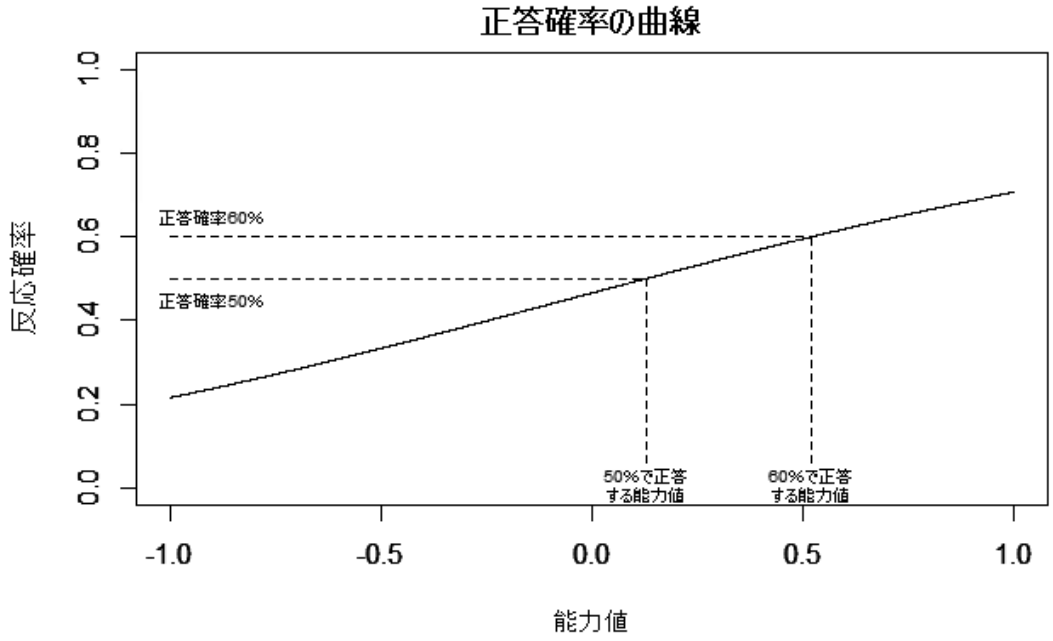


※能力分布が標準正規分布であった場合は、平均が 0 で標準偏差が 1 だからこの例のように -1.75、-1.25、-0.75、-0.25、0.25、0.75、1.25、1.75 と 1/2 の幅で等間隔に分割される。

6. 項目の難易度指標

本調査では、各項目の難易度指標を困難度そのものではなく、「その項目に 60%の確率で正答する児童生徒の能力値」とした。項目についても、児童生徒の段階分けの際に用いた習熟度レベルの分位点で、各項目の難易度指標から習熟度レベル分けを行った。多くのモデルにおいて困難度は「その項目に 50%の確率で正答する児童生徒の能力値」と定義することが多い。しかし、この定義での困難度を項目の難易度指標とした場合、当てはまった習熟度レベルの最低値に位置する能力値を有する児童生徒が、その習熟度レベルに含まれる全ての項目に「50%以下の確率」でしか正答しなくなる。そのため、「ある習熟度レベルに属する児童生徒が、その習熟度レベルの全項目に平均して 50%以上の確率で正答する」ように、項目の難易度指標を算出する際の児童生徒の正答確率を 60%と調整している（図表 1-5-6）。

図表 1-5-6 正答確率の曲線と項目の難易度指標に関する能力値の位置関係



※例えばある児童生徒の得点が 1 点であり、レベル 5 の基準が 1 点から 2 点であったとする。このとき、この児童生徒はレベル 5 に属するにも関わらず、そのレベルに属する項目の得点は 1 点以上であるから、レベル 5 の全ての項目に正答する確率が 50%以下となる。そのため、この図のように 60%で正答する能力値を項目の得点とすることで、レベルの最低点に位置する児童生徒の矛盾点を解消した。「困難度」も IRT で推定する値であり、困難度から極端に難しい項目や易しい項目がないことを確認している。

7 . 予測正答率

令和 6 年度調査では、各項目に対し一般的な正答率ではなく、IRT 分析の結果から算出した「予測正答率」を用いて考察した。素点から算出した一般的な正答率は、その項目の難易度や、回答した受検者集団の能力によって左右されるが、予測正答率は異なる問題セットを解答した受検者間や異なる校種間でも対等に比較が可能な正答率である。

各項目の予測正答率は、次の手順で算出した。

① GPCM モデル式に項目特性値と個人の能力値を適用し、個人の予測正答率を得る（図表 1-5-7）。

② ①の全受検者の予測正答率の平均を、その項目の予測正答率とする（図表 1-5-8）。

図表 1-5-7　①個人の予測正答率の例

予測正答率	項目 1	項目 2	・・・
受検者 A	70%	20%	
受検者 B	60%	10%	
受検者 C	80%	25%	
・・・			

図表 1-5-8　②項目の予測正答率の例

予測正答率	項目 1	項目 2	・・・
全受検者の平均	71%	19%	

なお、準正答が存在する項目については、準正答と正答の反応確率を足した「予測準正答以上率」も同様に算出した。

また、令和 3 年度調査の児童生徒の能力値は、小数点以下の値や負の値となることがあり、そのままではわかりにくい点を考慮して、全児童生徒の平均が 500、標準偏差が 100 となるように変換されている。この操作に伴い、令和 6 年度調査の児童生徒の能力値、及び各項目の難易度指標についても、令和 3 年度調査と同じ変換式を用いて共通尺度上にあることを維持した値に変換した。

本項以降では能力値の変換後の値を「（児童生徒の）調査問題得点」、難易度指標の変換後の値を「項目（問題）の得点」と呼ぶ。

■ 1.5.2. 相関係数と学校間分散割合

本報告書の第 3 章では、児童生徒の得点と質問調査の結果との関係を見る際に、「ポリシリアル相関係数（Polyserial Correlation Coefficient）」を用いている。一般に相関係数とは「積率相関係数」のことを指すが、積率相関係数は得点のような連続した値同士の関係を見るときには適切であるものの、質問調査の「当てはまる」、「どちらかといえば，当てはまる」、「どちらかといえば，当てはまらない」、「当てはまらない」という選択肢に 4 、 3 、 2 、 1 といった数値を与えても、順序に意味があっても間隔には意味がないため、適切な関係を示しているとはいえない。そこで、質問調査の順序のある選択肢の背後に「連続した値」を仮定し、それを推測することで得点との「連続した値」同士の関係を見ることができる「ポリシリアル相関係数」を用いることにした。なお、「積率相関係数」と同様に、「ポリシリアル相関係数」も最大値 1 に近いほど正の関係が強く、 0 に近いほど関係がなく、最小値 -1 に近いほど負の関係が強いことを示している。本報告書では、「ポリシリアル相関係数」を「相関係数」と記載し、特に相関係数 0.2 以上、又は -0.2 以下の場合に「何らかの関係がある」と考え、考察の対象とした。

また、本報告書の 3.1.3 項では、児童生徒の得点と学校との関係を見るために「学校間分散割合」という指標も使っている。これは、「級内相関係数」とも呼ばれるもので、学校間の得点の分散を児童生徒の得点の分散で割った値で、得点のばらつきの何割が学校の違いによるのかを表している。最大値の 1 に近いほど学校の影響が強く、最小値の 0 では学校の影響がないことになる。本報告書では 0.2 以上の場合に学校の影響があると考える。

■ 1.5.3. 上位群と下位群の比較・肯定群と否定群の比較

本報告書の 3.1.2 項、3.2.2 項では、質問調査と調査問題得点の関係性を見出すため、児童生徒を調査問題得点により上位群と下位群に群分けした分析を行った。調査問題の得点の上位 10%を上位群、下位 10%を下位群として、各群における得点化した質問調査の平均点を比較した。また、質問調査から肯定群と否定群に分けた分析も行った。肯定群と否定群の分析は、質問調査に肯定的に回答している（「当てはまる」、「どちらかといえば，当てはまる」等）児童生徒を肯定群、否定的に回答している（「どちらかといえば，当てはまらない」、「当てはまらない」等）児童生徒を否定群として、調査問題得点の平均を比較した。ただし、肯定群・否定群の分析は、明確に肯定的と否定的に分けられる選択肢の質問項目のみを分析対象とした。また、児童生徒質問調査の問 9 は、「わからない・知らない」を選んだ児童生徒を「不明群」として、 3 群間分析（肯定群・否定群・不明群）を行った。上位群と下位群の分析は上位 10%と下位 10%の合計 20%の集団のみを対象とした分析で、肯定群・否定群の分析は受検者全員を対象とした分析である。

平均の差の検定では、令和 3 年度調査の結果と対比させるために分散分析を行った。さらに、いずれかの要因の主効果が有意であった際には、下位分析として多重比較を行った。検定の際は有意水準を 5 %とし、多重比較の補正方法はボンフェローニ法を用いた。なお、分散分析で有意な差がみられなかった質問項目は、下位分析結果の掲載欄を「—」と表示した。肯定群・否定群・不明群の 3 群間の分析についても同様の手続きにて分析を行った。

また、本報告書の 3.1.2 項、3.2.2 項では、 2 群の平均点がどれほど離れているかの指標として標準化平均値差を算出した。標準化平均値差は、標準偏差を単位とした平均値の差で、標準偏差のいくつ分平均値の差があるかを表す。大まかな目安として、大きさが 0.2 以上のとき「小さな差」、0.5 以上のとき「中程度の差」、0.8 以上のとき「大きな差」とされており、本報告書では「中程度の差」以上であった場合、考察を述べることとした。

第2章 問題調査・文字入力課題の結果

この章では、2.1 節にて習熟度レベルから見た児童生徒の特徴、2.2 節にて調査問題得点からわかる傾向、2.3 節にて習熟度レベル別の結果、2.4 節にて文字入力の特徴について述べる。

なお、問題調査の結果概略は次のとおりであった。

■問題調査の結果概略

- 令和３年度調査と同様、調査問題得点は、小学校、中学校、高等学校と校種が上がるにつれて高くなる傾向がみられた。
- 各習熟度レベルの児童生徒の割合は、レベル１～３が小：46.0%、中：16.3%、高：8.2%、レベル４～５が小：44.7%、中：44.1%、高：28.0%、レベル６～７が小：8.9%、中：31.9%、高：38.5%、レベル８～９が小：0.4%、中：7.7%、高：25.3%であった。
- 概観すると、習熟度レベルが上がるにつれ、より複雑な文脈を理解したり、より多くの問題解決のプロセスが求められたりする場面にも対応できるようになっていると考えられる。
- 平均習熟度レベルは、全校種に共通して令和３年度調査からの変容はみられなかった。（小学校：レベル４、中学校：レベル５、高等学校：レベル６）
- 令和３年度調査と比較すると、全校種に共通して調査問題得点の平均に差はみられなかった。

■文字入力課題の結果概略

- 令和３年度調査と同様、１分間あたりの文字入力数は、小学校、中学校、高等学校と校種が上がるにつれて多くなる傾向がみられた。
- １分間あたりの平均文字入力数は、全校種に共通して令和３年度調査よりも増加し、小学校は 23.0 字 (+7.2 字)、中学校は 33.2 字 (+10.2 字)、高等学校 35.2 字 (+6.8 字) であった。
- １分間あたりの文字入力数が 15 字未満の児童生徒の割合は、全校種に共通して令和３年度調査よりも減少し、小学校 30.7% (-20.5 ポイント)、中学校 9.0% (-14.3 ポイント)、高等学校 5.3% (-4.0 ポイント) であった。
- １分間あたりの文字入力数の分布について、令和３年度調査と比較して令和６年度調査では、全校種において分布が右方へ偏移し、増加傾向がみられた。

◆ 2.1. 習熟度レベルから見た児童生徒の特徴

調査問題に対する児童生徒の解答結果から、IRT（1.5.1 項参照）を用いて「問題の難易度」と「児童生徒の能力」を同一尺度で表す得点を算出した。得点を基に、習熟度レベル 1 ～ 9 において、本調査の対象となった小学生・中学生・高校生がどのように分布していたかを、図表 2-1-1 に示した。このとき、令和 6 年度調査では令和 3 年度調査の習熟度レベルの分位点を継承しているため、両調査における各習熟度レベルの割合の変化を観察することによる経年比較が可能となっている（詳細は 1.5.1 項を参照）。

習熟度レベルの平均レベルは、小学校でレベル 4、中学校でレベル 5、高等学校でレベル 6 であった。令和 3 年度調査においても、平均習熟度レベルについて小学校はレベル 4、中学校はレベル 5、高等学校でレベル 6 であったため、平均レベルの観点では令和 3 年度調査から令和 6 年度調査にかけての変容はみられなかったといえる。

なお、図表 2-1-1 の「調査の結果を基に想定できる各レベルの児童生徒が身に付けている情報活用能力の例」には、情報活用能力の観点で各レベルがどのような特徴を有していたかが示されている。これは、ある習熟度レベルに含まれる児童生徒の特徴を、当該レベルに含まれる調査問題の特徴を基に推測して記述したものである。令和 3 年度に作成された記述をベースとしているが、令和 3 年度調査後に調査問題が新規作成されたこと等に伴い、若干の文言修正がなされている。「問題の難易度」は点数によって表され、「その問題に 60%の確率で正答する児童生徒の能力値」が難易度となるよう調整されている（詳細は 1.5.1 項を参照）。ある習熟度レベルの児童生徒は、それより下の全ての習熟度レベルの特徴を身に付けていると考えられる。

また、習熟度レベル 1 ～ 9 のどの段階を求めるかは学校ごとに異なると考えられる。図表 2-1-1 を参考に、児童生徒の姿から各校（各学級）、あるいは児童生徒個人の現在の習熟度レベルを推測の上でさらにステップアップするためにはどのような指導が求められるかを見出し、情報活用能力の育成のための指導計画を立てることが重要だと考えられる。

図表 2-1-1 習熟度レベルの受検者分布・特徴一覧

習熟度レベル	年度	小学校	中学校	高等学校	調査の結果を基に想定できる各レベルの児童生徒が身に付けている情報活用能力の例
レベル 9 669 点 以上	R6	**0.1%**	**3.6%**	**15.5%**	① 情報科学（AI 含む）の特性を理解している ② 根拠となる情報を基に、目的や状況に応じて情報を活用することができる ③ 反復処理を含むプログラムの実行結果を想定しながら修正できる ④ ファクトチェックの方法を理解し、不適切な情報を受信せずに、情報を保護しながら発信できる
	R3	0.1%	1.9%	9.7%	
レベル 8 669 点 ～ 622 点	R6	**0.3%**	**4.1%**	**9.8%**	① 管理者の視点でクラウドサービスの特性を理解している ② 複数の情報を整理・分析して、意図を踏まえた情報の解釈ができる ③ 複数の条件分岐を含むプログラムを理解している / 目的に応じて、フローチャートを考えることができる ④ 不適切な情報発信を指摘できる
	R3	0.4%	5.9%	14.5%	
レベル 7 622 点 ～ 572 点	R6	**2.1%**	**12.4%**	**19.0%**	① クラウドサービスの特性を理解している ② 目的に応じて情報を構造的に解釈し、情報を抽出できる ③ 目的に応じて、反復処理のプログラミングができる ④ 情報モラル・セキュリティに関する、リスクを踏まえた行動ができる
	R3	1.8%	13.1%	20.4%	
レベル 6 572 点 ～ 524 点	R6	**6.8%**	**19.5%**	**19.5%**	① システム（制御システム、Web システム、生成 AI 等）の基本的な仕組みを理解している ② 目的に応じて、情報を整理することができる / 複数の事象を示した図を読み解くことができる ③ 分岐処理のプログラムの実行結果を考えることができる / プログラムの不具合から修正すべき箇所を見つけることができる ④ デジタル情報の発信に関わる肖像権、著作権等の権利やそれらを守る方法を理解している
	R3	6.4%	21.9%	21.9%	
レベル 5 524 点 ～ 480 点	R6	**11.9%**	**19.0%**	**14.0%**	① インターネットの特徴を理解している ② 図、表、グラフ等を含む情報から、情報の目的や意図を理解し、拠り所となる情報や不足情報を示すことができる ③ 分岐処理のプログラムをフローチャートに表すことができる ④ コンピュータウイルス感染の原因について理解している / より安全なパスワードの仕組みを理解している
	R3	15.6%	24.9%	17.4%	
レベル 4 480 点 ～ 417 点	R6	**32.8%**	**25.1%**	**14.0%**	① 目的に応じて、アプリケーションの基本的な機能を活用できる ② 目的に応じて、多様な情報（図表、地図、音声等）を分類・要約することができる ③ 簡単な分岐処理のプログラミングができる ④ 自分の情報を守ったり、健康に留意したりしながら情報端末を使うことができる
	R3	25.8%	17.8%	9.3%	
レベル 3 417 点 ～ 381 点	R6	**15.3%**	**6.9%**	**3.3%**	① 指示に従って、アプリケーションの基本的な機能を活用できる ② 複数の条件に応じて、多様な情報（図表、地図、音声等）から特徴を見つけることができる ③ 条件に応じてフローチャートを修正したり、情報処理の手順を図で表したりすることができる ④ SNS を使うときの注意点を理解している
	R3	23.6%	9.2%	4.1%	
レベル 2 381 点 ～ 329 点	R6	**18.8%**	**6.2%**	**3.2%**	① 基本的なアプリケーションの機能を理解している ② 複数の条件に応じて、情報を選択し、比較して特徴を見つけることができる ③ 簡単な反復処理のプログラミングができる ④ 情報には権利があることを理解している / パスワードの役割を理解している
	R3	15.9%	3.9%	1.8%	
レベル 1 329 点 未満	R6	**11.9%**	**3.2%**	**1.7%**	① ドラッグ＆ドロップなどのコンピュータの簡単な操作ができる ② 簡単なグラフや表から情報の読み取りができる / 指示された情報の比較ができる ③ 簡単な順次処理のプログラミングができる ④ ID とパスワードの重要性を理解している
	R3	10.4%	1.3%	0.9%	

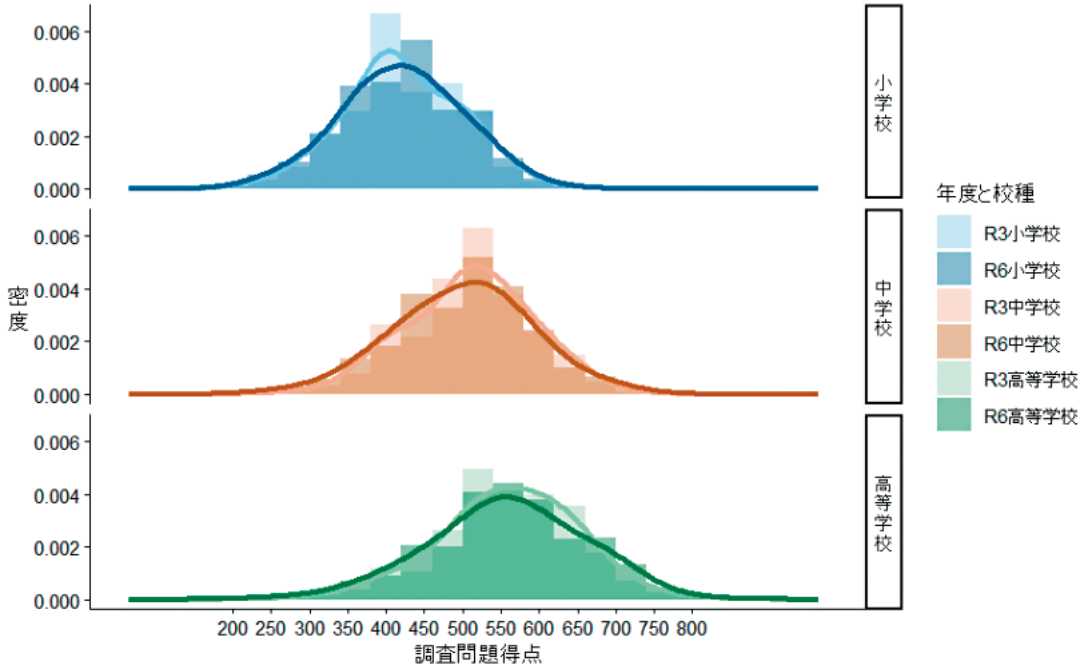
①基本的な操作等、②問題解決・探究における情報活用、③プログラミング、④情報モラル・セキュリティ

※本調査関連資料「情報活用能力育成のためのアイデア集　『情報活用能力調査』の結果から見る指導改善のポイント」では、習熟度レベル１～９に加えて「層」という概念を併用している。学習方略を検討する上で扱いやすいよう９つよりも粒度を粗くすることを目的としたもので、習熟度レベル１～３を第１層、レベル４～５を第２層、レベル６～７を第３層、レベル８～９を第４層と呼称している。

◆ 2.2. 調査問題得点からわかる傾向

調査問題得点の分布を単純に 50 点区切りで示した結果が図表 2-2-1 である。図表 2-1-1 に類似して、図表 2-2-1 においても、小学校、中学校、高等学校の順で得点分布を示す山が右側に位置しており、校種が上がるにつれ調査問題得点が高くなる傾向がみられた。

図表 2-2-1 校種別にみた調査問題得点の分布（50 点区切り）



調査問題得点の平均について、令和３年度調査と令和６年度調査の差を分析したが、差の検定を行い標準化平均値差（1.5.3 項参照）を調べたところ、全校種に共通して 0.2 以上の差はみられなかった。

調査問題得点のばらつきの差を調べるため、上位 10%群同士、下位 10%群同士で同様の分析を行ったところ、全校種に共通して令和６年度調査の方が、上位群同士では得点が高く、下位群同士では得点が低い傾向がみられた。

したがって、令和３年度調査と比較すると、調査問題得点の平均に差はみられなかったが、令和６年度調査の方がばらつきは大きくなったと考えられる。

◆ 2.3. 習熟度レベル別の結果

本節では、本調査で得られた習熟度レベル 1 ～ 9 について、「調査の結果を基に想定できる各レベルの児童生徒が身に付けている情報活用能力の例」（図表 2-1-1）をもとに特徴を分析した。

また、補足として、各習熟度レベルにおける設問数の分布を図表 2-3-1 に示した。本調査では、正答・誤答の 2 カテゴリを設けた設問を 197 問、完全正答・準正答・誤答の 3 カテゴリを設けた設問を 8 問、合計 205 問出題した。前者の設問は「正答」を正答とみなした際の、後者の設問は「完全正答」と「準正答」を正答とみなした際のレベルを当該設問の「レベル」とみなしたうえで、図表 2-3-1 で分布を示している。集計の結果、いずれの習熟度レベルも少なくとも 9 問存在していた。

図表 2-3-1 習熟度レベル別にみた設問数（問）

	習熟度レベル									合計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
準正答なし	8	14	24	29	34	26	18	15	29	197
準正答あり	1	3	2	0	0	1	0	0	1	8
合計	9	17	26	29	34	27	18	15	30	205

■ 2.3.1. レベル 1 （小学校 11.9%、中学校 3.2%、高等学校 1.7%）

習熟度レベル 1 に該当する調査問題群に基づくと、習熟度レベル 1 の児童生徒が身に付けていると想定される情報活用能力は図表 2-3-2 のように整理された。

児童生徒が身に付けていると想定される情報活用能力を IE-School の情報活用能力の体系表例で想定されている学習内容の 4 つに分けて整理している。

図表 2-3-2 調査の結果を基に想定できる習熟度レベル 1 の児童生徒が身に付けている情報活用能力の例

	調査の結果を基に想定できる児童生徒が身に付けている情報活用能力の例	想定される学習内容
①	ドラッグ & ドロップなどのコンピュータの簡単な操作ができる	基本的な操作等
②	簡単なグラフや表から情報の読み取りができる / 指示された情報の比較ができる	問題解決・探究における情報活用
③	簡単な順次処理のプログラミングができる	プログラミング
④	ID とパスワードの重要性を理解している	情報モラル・セキュリティ

習熟度レベル 1 の児童生徒の姿としては、「基本的な操作等」についてドラッグ & ドロップやクリックなどのコンピュータの簡単な操作ができると考えられる。「問題解決・探究における情報活用」については、棒グラフや円グラフ、表などから指定された情報を読み取ることができたり、観点が指定された状況で、情報同士を比較することができたりすると考えられる。また、「情報モラル・セキュリティ」について、レベル 1 に該当する児童生徒であっても、ID とパスワードの重要性は理解できていると考えられる。現在は様々なサービスにおいて ID やパスワードの利用場面が多く、このような経験の中で自ずと身の回りの情報を守る態度が身に付くのではないかと考えられる。

このようにレベル 1 に該当する児童生徒たちは、教員の指示をもとに、教科等の中で情報活用能力を発揮して学習するための基本的な情報活用能力を身に付けていると考えられる。

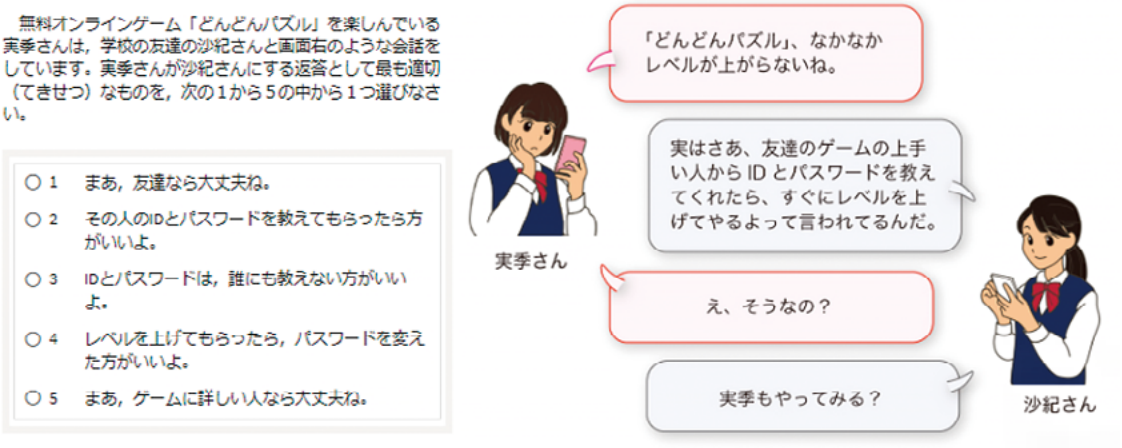
なお、レベル 1 では「基本的な操作等」に該当する設問は 0 問であった。CBT に係る基本的な操作（例：クリック、ドラッグ & ドロップ）は、調査冒頭で児童生徒が「練習問題」として取り組む設計としていた。

以下、レベル 1 に該当した調査問題の例を示す。

●調査問題例

項目	内容			
問題名	スマホのゲーム（小問２）			
問題の概要	ID とパスワードの管理について、友達に適切なアドバイスをすることができる。			
情報活用能力の要素	A3 情報モラル・情報セキュリティなどについての理解			
想定される学習内容	④情報モラル・セキュリティ			
解答形式	選択式			
正答	３　と解答しているもの			
予測正答率※	年度	小学校	中学校	高等学校
	R6	79.6%	88.5%	92.3%
	R3	80.0%	89.8%	93.1%

※出題される調査問題は受検者ごとに異なるため、単純な正答率では校種間等の異なる条件で直接比較することができない。
そのため、条件が互いに異なる場合でも比較可能となるように統計処理を行った正答率を算出した。（1.5.1 項参照）



●解答類型とその分布

類型	内容	正誤	割合（小）	割合（中）	割合（高）
1	1　と解答しているもの		2.3%	1.7%	1.7%
2	2　と解答しているもの		3.0%	1.9%	0.8%
3	3　と解答しているもの	◎	83.6%	89.9%	94.2%
4	4　と解答しているもの		6.9%	4.5%	2.4%
5	5　と解答しているもの		2.5%	1.0%	0.4%
99	上記以外の解答		—	—	—
0	無解答		1.8%	0.9%	0.6%

●分析・考察

本問を正答した児童生徒は、ID とパスワードの大まかな機能、また、それらを他者に教えないことの重要性をある程度理解しているものと考えられる。児童生徒の姿としては、自分が保有するアカウントを他者から守ることができていると考えられる。

最も多かった誤答は、全校種とも同一で、選択肢４「レベルを上げてもらったら、パスワードを変えた方がいいよ。」であった。当該選択肢によって誤答した児童生徒は、パスワードの機能を理解しているが、自らのアカウントが他者によって悪用されうることに対する用心が不十分（例：短い時間ならばパスワードを他者に引き渡しても構わないという誤認識）等の理由から、誤答したものと考えられる。パスワードの重要性を理解すると、情報の機密性を確保し、本人はもとより、周囲の人や物事の重要な情報資産を保護することにつながる。学校内外で自他の望まない情報資産の流出が起こらないよう、また、アカウントの悪用が起こらないようにするためにも、ID やパスワードの秘匿の指導が重要であると考えられる。

■ 2.3.2. レベル 2 （小学校 18.8%、中学校 6.2%、高等学校 3.2%）

習熟度レベル 2 に該当する調査問題群に基づくと、習熟度レベル 2 の児童生徒が身に付けていると想定される情報活用能力は図表 2-3-3 のように整理された。

図表 2-3-3 調査の結果を基に想定できる習熟度レベル 2 の児童生徒が身に付けている情報活用能力の例

	調査の結果を基に想定できる児童生徒が身に付けている情報活用能力の例	想定される学習内容
①	基本的なアプリケーションの機能を理解している	基本的な操作等
②	複数の条件に応じて、情報を選択し、比較して特徴を見つけることができる	問題解決・探究における情報活用
③	簡単な反復処理のプログラミングができる	プログラミング
④	情報には権利があることを理解している / パスワードの役割を理解している	情報モラル・セキュリティ

習熟度レベル 2 の児童生徒の姿としては、「基本的な操作等」について、基本的なアプリケーションの機能を理解していると考えられる。「問題解決・探究における情報活用」については、レベル 1 よりもやや高度な情報活用として、複数条件に応じた情報選択・比較等ができると考えられる。「プログラミング」についても、レベル 1 では順次処理だったのが、レベル 2 では反復処理のプログラミングが簡単なレベルの範囲でできると考えられる。「情報モラル・セキュリティ」については、レベル 1 よりもパスワードの役割がより理解でき、また、ID・パスワードに限定されていたがより広がり、情報における権利の理解ができると考えられる。

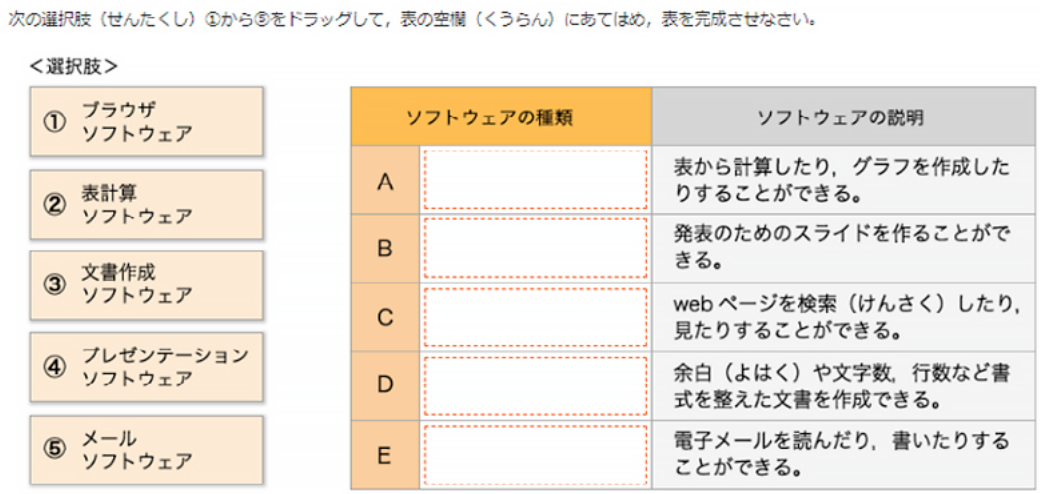
なお、図表 2-3-3 には表現されていないものの、レベル 2 ではレベル 1 にはみられなかった特徴として、「思考力、判断力、表現力等」を測定する調査問題が数問みられている点が挙げられる。レベル 2 の児童生徒では、知識及び技能を習得しているだけでなく、思考力、判断力、表現力等によって情報を活用する力も一定程度備わっているものと推測される。

以下、レベル 2 に該当した調査問題の例を示す。

●調査問題例

項目	内容			
問題名	アプリケーション（小問 1）			
問題の概要	アプリケーションの種類とその説明について理解している。			
情報活用能力の要素	A1 情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能			
想定される学習内容	①基本的な操作等			
解答形式	分類・並べ替え式			
正答	全て正しく解答しているもの			
予測正答率※	年度	小学校	中学校	高等学校
	R6	75.7%	88.2%	92.8%
	R3	70.1%	88.4%	93.3%

※出題される調査問題は受検者ごとに異なるため、単純な正答率では校種間等の異なる条件で直接比較することができない。
そのため、条件が互いに異なる場合でも比較可能となるように統計処理を行った正答率を算出した。（1.5.1 項参照）



●解答類型とその分布

類型	内容	正誤	割合（小）	割合（中）	割合（高）
1	全て正しく解答しているもの （A：②、B：④、C：①、D：③、E：⑤）	◎	74.7%	89.1%	93.8%
99	上記以外の解答		23.4%	9.9%	5.3%
0	無解答		1.9%	1.0%	0.9%

●分析・考察

本問を正答した児童生徒は、ブラウザや表計算ソフトウェア等の基本的なアプリケーションの機能の概要を理解していると考えられる。児童生徒の姿としては、授業等で使用しているアプリケーションについて、その名称を大まかに認知できていると推測される。

最も多かった誤答箇所は、D の解答欄である。③（文書作成ソフトウェア）が正答である。最も多かった誤答は、④（プレゼンテーションソフト）であった。本解答欄を誤答した児童生徒は、文書作成ソフトウェアと比べてプレゼンテーションソフトウェアは文字数や行数などの管理に長けていないといった深い理解に至っていない可能性が考えられ、他の解答欄が正答であったとしても、「ソフトウェアの説明」に含まれる単語をキーに最適なカードを置く等の解法によって正解となった可能性も否定できない。

アプリケーション間の違いを理解することは、学習活動においてより適したアプリケーションを選択し、効果的に学習に臨むことができるというメリットがある。アプリケーションに対する理解が深まるよう、様々な種類のアプリケーションを活用してみることが重要だと考えられる。

■ 2.3.3. レベル３（小学校 15.3%、中学校 6.9%、高等学校 3.3%）

習熟度レベル３に該当する調査問題群に基づくと、習熟度レベル３の児童生徒が身に付けていると想定される情報活用能力は図表 2-3-4 のように整理された。

図表 2-3-4 調査の結果を基に想定できる習熟度レベル３の児童生徒が身に付けている情報活用能力の例

	調査の結果を基に想定できる児童生徒が身に付けている情報活用能力の例	想定される学習内容
①	指示に従って、アプリケーションの基本的な機能を活用できる	基本的な操作等
②	複数の条件に応じて、多様な情報（図表、地図、音声等）から特徴を見つけることができる	問題解決・探究における情報活用
③	条件に応じてフローチャートを修正したり、情報処理の手順を図で表したりすることができる	プログラミング
④	SNS を使うときの注意点を理解している	情報モラル・セキュリティ

習熟度レベル３の児童生徒の姿としては、「基本的な操作等」について、アプリケーションが持つ基本的な機能を活用できると考えられる。「問題解決・探究における情報活用」については、レベル２よりも情報の活用が高度になり、より多様な情報（図表、地図、音声等）から特徴を見つけることができるようになると考えられる。「プログラミング」においても、条件に応じてフローチャートを修正したり、図表を用いて情報処理の手順を示したりすることが可能であると考えられる。また、「情報モラル・セキュリティ」においても、より社会化されて SNS を使うときの注意点が理解できていると考えられる。

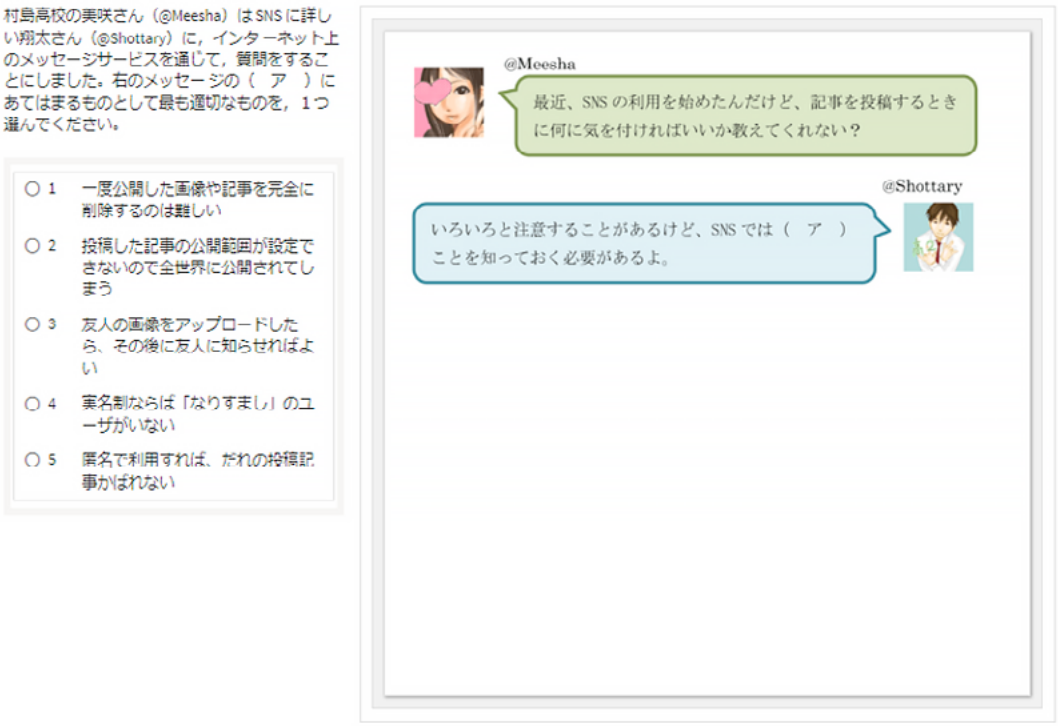
レベル１～３の児童生徒の姿を概観すると、情報技術を活用した基本的な学習の基盤を身に付けていると考えられる。

以下、レベル３に該当した調査問題の例を示す。

●調査問題例

項目	内容			
問題名	SNS			
問題の概要	SNS の利用に当たり、記事を投稿する際の注意点を理解している。			
情報活用能力の要素	A3 情報モラル・情報セキュリティなどについての理解			
想定される学習内容	④情報モラル・セキュリティ			
解答形式	選択式			
正答	1　と解答しているもの			
予測正答率※	年度	小学校	中学校	高等学校
	R6	66.3%	80.3%	86.7%
	R3	58.5%	78.3%	85.7%

※出題される調査問題は受検者ごとに異なるため、単純な正答率では校種間等の異なる条件で直接比較することができない。
そのため、条件が互いに異なる場合でも比較可能となるように統計処理を行った正答率を算出した。（1.5.1 項参照）



●解答類型とその分布

類型	内容	正誤	割合（小）	割合（中）	割合（高）
1	1　と解答しているもの	◎	57.1%	84.5%	92.4%
2	2　と解答しているもの		33.9%	10.6%	5.0%
3	3　と解答しているもの		2.5%	0.8%	0.3%
4	4　と解答しているもの		3.1%	1.3%	0.4%
5	5　と解答しているもの		2.4%	1.3%	0.5%
99	上記以外の解答		—	—	—
0	無解答		1.1%	1.5%	1.4%

●分析・考察

本問は情報モラル・セキュリティに関するもので、発信した情報が本人の意思にかかわらず情報空間に残り続けてしまうことに留意できるかを問うものである。

正答した児童生徒は、一度 SNS に投稿した文章や画像等の情報を消すことがいかに困難であるかを理解できているものと考えられる。児童生徒の姿としては、SNS への記事投稿に際して注意を払い、適切に SNS の特徴を理解したうえで情報発信が行えているものと推測される。児童生徒質問調査問４（８）では学校外で「SNS で情報を発信する」ことの頻度を尋ねており、SNS で情報発信をする人の割合※は小学生 17.9%、中学生 46.9%、高校生 61.5% であった（※全受検者から利用頻度が「まったくか、ほとんどない」「わからない」児童生徒を差し引いた割合）。本問を正答した児童生徒の割合は上表の通り、小学生 57.1%、中学生 84.5%、高校生 92.4% であり、SNS 情報発信者の割合を上回っている。

誤答した児童生徒は、SNS の機能を十分に把握していない、自他の情報を適切に保護できていない、あるいは SNS を悪用する他者の可能性を考慮できていない可能性が考えられる。

最も多かった誤答は、「投稿した記事の公開範囲が設定できないので全世界に公開されてしまう」であった。利用促進のため、SNS には自身や他者の情報を保護するための一定程度の機能が備わっており、また、順次アップデートして新たに機能搭載されているにもかかわらず、それらの機能の存在を十分に把握していないものと考えられる。SNS のリスクや個人情報を保護するための機能を理解することは、情報空間の中で自他の身を適切に守りながら他者とコミュニケーションをとり、社会の中でより豊かに生きることに寄与する。SNS を安全に活用できるよう、日頃から情報モラル・セキュリティに係る指導に取り入れることが重要であると考えられる。

■ 2.3.4. レベル４（小学校 32.8%、中学校 25.1%、高等学校 14.0%）

習熟度レベル４に該当する調査問題群に基づくと、習熟度レベル４の児童生徒が身に付けていると想定される情報活用能力は図表 2-3-5 のように整理された。

図表 2-3-5 調査の結果を基に想定できる習熟度レベル４の児童生徒が身に付けている情報活用能力の例

	調査の結果を基に想定できる児童生徒が身に付けている情報活用能力の例	想定される学習内容
①	目的に応じて、アプリケーションの基本的な機能を活用できる	基本的な操作等
②	目的に応じて、多様な情報（図表、地図、音声等）を分類・要約することができる	問題解決・探究における情報活用
③	簡単な分岐処理のプログラミングができる	プログラミング
④	自分の情報を守ったり、健康に留意したりしながら情報端末を使うことができる	情報モラル・セキュリティ

習熟度レベル４の児童生徒の姿としては、「基本的な操作等」について、指示がない環境でも目的に応じてアプリケーションの基本的な機能を活用できると考えられる。「問題解決・探究における情報活用」については、図表や地図、音声等の多様な情報をもとに特徴を見つけること（レベル３）からステップ・アップして、分類・要約もできると考えられる。また、「プログラミング」について、レベル１・２では順次処理・反復処理を取り扱えるようになっていたが、レベル４では分岐処理を含むプログラミングができると考えられる。「情報モラル・セキュリティ」については、実践的に自分の情報を守ったり、自分自身の健康に留意して情報端末の活用ができたりすると考えられる。

このように、レベル４に該当する児童生徒はそれまでの学習経験に基づき、目的に応じてアプリケーションを操作したり、分類・要約などの整理を行ったり、実際に自分の情報を守るための行動を選択することができるなど、情報活用能力を主体的に発揮することが可能になってくると考えられる。

以下、レベル４に該当した調査問題の例を示す。

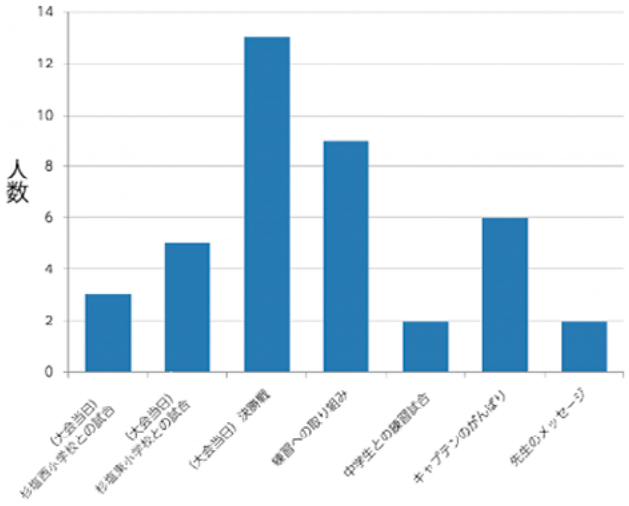
●調査問題例

項目	内容			
問題名	放送委員会（小問２）			
問題の概要	アンケート結果から、インタビュー内容を考えることができる。			
情報活用能力の要素	B1 問題解決・探究における情報を活用する力（プログラミング的思考・情報モラル・情報セキュリティを含む）			
想定される学習内容	②情報活用			
解答形式	選択式			
正答	3　と解答しているもの			
予測正答率※	年度	小学校	中学校	高等学校
	R6	45.3%	66.5%	77.8%
	R3	45.5%	69.5%	79.6%

※出題される調査問題は受検者ごとに異なるため、単純な正答率では校種間等の異なる条件で直接比較することができない。
そのため、条件が互いに異なる場合でも比較可能となるように統計処理を行った正答率を算出した。（1.5.1 項参照）

結菜さんは，準優勝（じゅんゆうしょう）したバスケットボール部員４０人に，「バスケットボール大会に関すること」について「１番印象（いんしょう）に残っていること」のアンケートを行いました。結果は右のグラフのとおりです。

放送委員会の委員は，このグラフをもとに，どんなことをインタビューするか考えを出し合いました。**アンケートの結果をふまえて，インタビューの内容（ないよう）を考えているもの**として最も適切（てきせつ）なものを，次の１から６の中から１つ選びなさい。



○ 1　「バスケットボール部は練習への取り組みが印象に残っている人が一番多いね。だから，練習への取り組みについて詳（くわ）しく聞いてみたいな。」

○ 2　「杉塩西小学校との試合と杉塩東小学校との試合が印象に残っている人を合わせると，決勝戦が印象に残っている人の人数をこえるね。決勝戦もたしかに大事だけど，それまでの道のりを聞いてみたいな。」

○ 3　「印象に残っている２つを挙げるとすると，決勝戦，練習への取り組みだね。この２つを合わせると部員の半数をこえるよ。インタビューではこの２つを必ず聞こう。」

○ 4　「練習への取り組みとキャプテンのがんばりが印象に残っている人が，１番目，２番目に多いね。もしかしたら，この２つに関係があるかもしれないね。練習の時にキャプテンがどのようにがんばっていたのかインタビューしても良いかもしれないね。」

○ 5　「みんな意見が同じくらいだね。インタビューすることをしぼるのはむずかしいね。」

○ 6　「決勝戦が印象に残っている人は，部員の半数をこえるね。だから決勝戦についてインタビューしよう。」

●解答類型とその分布

類型	内容	正誤	割合（小）	割合（中）	割合（高）
1	1　と解答しているもの		6.3%	2.1%	1.5%
2	2　と解答しているもの		10.7%	3.6%	3.5%
3	3　と解答しているもの	◎	45.6%	70.6%	78.0%
4	4　と解答しているもの		7.4%	4.7%	2.8%
5	5　と解答しているもの		1.1%	1.0%	0.1%
6	6　と解答しているもの		24.6%	16.9%	12.4%
99	上記以外の解答		—	—	—
0	無解答		4.4%	1.0%	1.6%

●分析・考察

本問は、アンケート結果を示すグラフを参照し、アンケート結果を正しく読み取り、なおかつそれに基づいてインタビュー内容を考えている発言を選択する設問であった。受検者に対する明示はないが、計５つの選択肢はすべて、事実を述べた１文と考えを述べた１文の計２文で構成されている。

本問を正答した児童生徒は、棒グラフで提示されている結果を正しく読み取ることができると考えられる。児童生徒の姿としては、教科書・資料集やインターネット上等に掲載されている定量的なデータを読み取り、知識を広げることができていると推測される。

ここで留意したいのは、各選択肢の事実を述べた１文目に着目すれば、概ね正答を導けるという点である。正答は選択肢３「印象に残っている２つを挙げるとすると、決勝戦、練習への取り組みだね。（後略）」であり、他の選択肢では誤った読み取りを行っている。本問を誤答した児童生徒は、棒グラフを適切に読み取れなかった、もしくは、棒グラフはある程度読み取れるが考えを表現している２文目によって判断が影響されてしまった等の理由が考えられる。

最も多かった誤答は「決勝戦が印象に残っている人は、部員の半数をこえるね。だから決勝戦についてインタビューしよう。」である。理由として複数考えられる。第一に、グラフの最大値 14 人を部員の総数と勘違いした可能性が考えられる。「バスケットボール部員 40 人」といった背景情報にも留意するよう指導することが重要だと考えられる。第二に、考えを示す 2 文目が具体的かつ確信を持った表現であることが特徴であり、これによって誤答者が惑わされた可能性が考えられる。周辺の情報に惑わされずにデータを読み取ることができるよう、情報の客観性と主観性を区別し取り扱うことの指導をすることが重要だと考えられる。

■ 2.3.5. レベル 5 （小学校 11.9%、中学校 19.0%、高等学校 14.0%）

習熟度レベル 5 に該当する調査問題群に基づくと、習熟度レベル 5 の児童生徒が身に付けていると想定される情報活用能力は図表 2-3-6 のように整理された。

図表 2-3-6 調査の結果を基に想定できる習熟度レベル 5 の児童生徒が身に付けている情報活用能力の例

	調査の結果を基に想定できる児童生徒が身に付けている情報活用能力の例	想定される学習内容
①	インターネットの特徴を理解している	基本的な操作等
②	図、表、グラフ等を含む情報から、情報の目的や意図を理解し、拠り所となる情報や不足情報を示すことができる	問題解決・探究における情報活用
③	分岐処理のプログラムをフローチャートに表すことができる	プログラミング
④	コンピュータウイルス感染の原因について理解している	情報モラル・セキュリティ

習熟度レベル 5 の児童生徒の姿としては、「基本的な操作等」について、インターネットの特徴を理解していると考えられる。「問題解決・探究における情報活用」では、図表を含む情報をより深く理解し、拠り所となる情報や不足情報を示す等、より完全な情報の生成に向けて主体的に関わることが可能になると考えられる。「プログラミング」については、レベル 4 では簡単な分岐処理のプログラミングができていたが、レベル 5 では分岐処理を含むプログラムをフローチャートに整理することができるようになっていると考えられる。「情報モラル・セキュリティ」については、レベル 4 以下では自他を守る術の理解ができていたが、レベル 5 ではコンピュータウイルスへの感染について原因の理解や、より安全性を追求したパスワードの設定まで到達していると考えられる。

レベル 4 ～ 5 の児童生徒の姿を概観すると、情報技術の特徴を踏まえ、安全や健康に配慮して、探究的な学習ができると考えられる。

以下、レベル 5 に該当した調査問題の例を示す。

●調査問題例

項目	内容			
問題名	Web ページ			
問題の概要	階層構造がある Web ページについて目的のページを開くことができる。			
情報活用能力の要素	A1 情報と情報技術を適切に活用するための知識と技能			
想定される学習内容	①基本的な操作等			
解答形式	アプリ操作式			
正答	「トップページ＞くらしの情報＞防災（すぎしお地域防災 Web）」の経路で「すぎしお地域防災 Web」のトップページを開いているもの			
予測正答率※	年度	小学校	中学校	高等学校
	R6	41.6%	62.8%	74.7%
	R3	50.9%	74.6%	83.7%

※出題される調査問題は受検者ごとに異なるため、単純な正答率では校種間等の異なる条件で直接比較することができない。
そのため、条件が互いに異なる場合でも比較可能となるように統計処理を行った正答率を算出した。（1.5.1 項参照）

望美さんは地域（ちいき）の防災（ぼうさい）について調べようと，杉塩市Webサイトのトップページを開いています。ここから「すぎしお地域防災Web」を表示（ひょうじ）させなさい。

★「すぎしお地域防災Web」を表示させたら，「進む」を押（お）してください。



●解答類型とその分布

類型	内容	正誤	割合（小）	割合（中）	割合（高）
1	「トップページ＞くらしの情報＞防災（すぎしお地域防災 Web）」の経路で「すぎしお地域防災 Web」のトップページを開いているもの	◎	42.8%	61.1%	74.5%
99	上記以外の解答		25.3%	17.2%	9.2%
0	無解答		31.9%	21.6%	16.3%

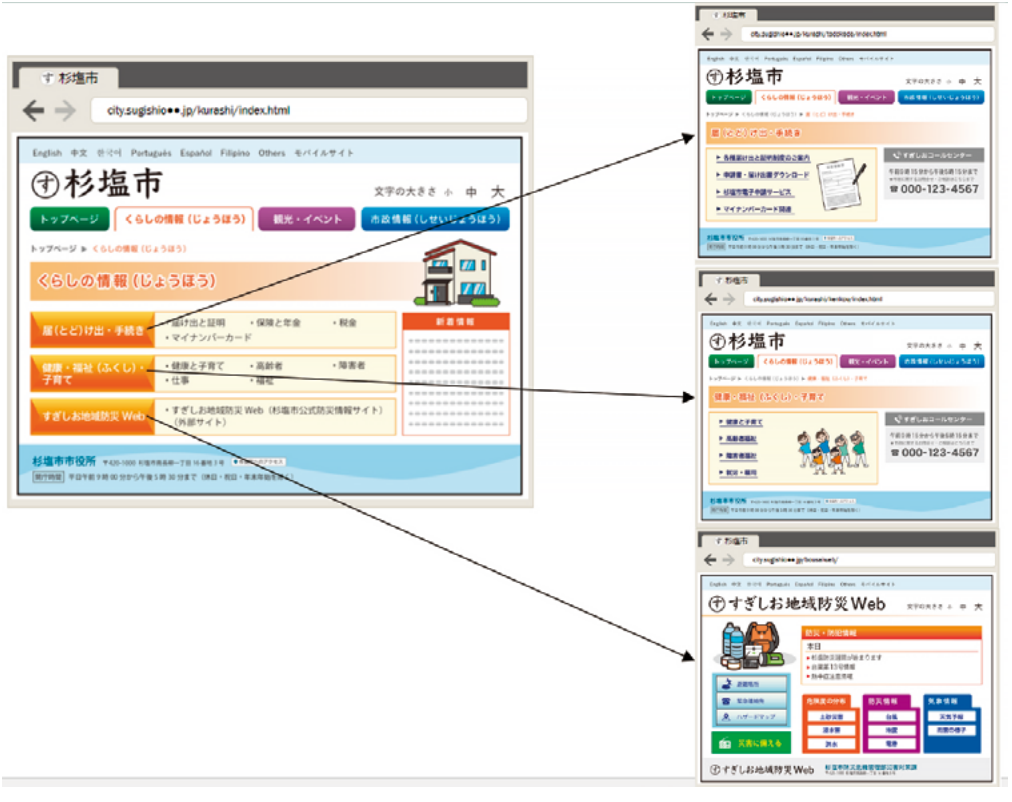
●分析・考察

本問は、階層構造をもつ疑似 Web ページから希望する情報が掲載されたページにたどり着くことができるかを問うものである。トップページから正答画面である「すぎしお地域防災 Web」までの画面構成は下図の通りである。なお、本調査において登場する疑似 Web ページは、調査冒頭の練習問題にて操作方法を確認している。

本問を正答した児童生徒は、自治体 Web ページのような比較的シンプルで構造が整理された Web ページにおいて、必要な情報を試行錯誤しながら探し出すことができているものと考えられる。児童生徒の姿としては、情報機器を活用した調べ学習等において自身が求める情報や他者に求められた情報を、インターネットを活用して入手できているものと推測される。

本問の特徴の一つとして、無解答率の高さが挙げられる。無解答率は小学校 31.9%、中学校 21.6%、高等学校 16.3% であり、各校種とも全調査問題中のワースト 5 位に入る。また、有解答（疑似 Web ページの画面範囲に対してクリックなど何らかの操作を行ったもの）のうち、最も多かった誤答は「トップページ」を開いた状態で解答送信を行ったケースであった。以上のことを踏まえると、誤答した児童生徒は、Web ページにおいて階層を行き来することをためらった可能性が考えられる。インターネット上には危険なページへの誘導もあるため、Web ページ上をむやみにクリックして探索しないことを適切とする見方もあるかもしれない一方で、本問ではあくまで自治体 Web ページを題材としており、特にカテゴリボタンのクリックは比較的安全性が担保されていると考えられる。現代では Web ブラウザの検索エンジンの性能に加え、生成 AI による検索やその要約機能の進化が目覚ましいため、児童生徒は Web サイト内をさまよい探索する経験が減っている可能性がある。Web サイトの階層を行き来しながら探索することは一見不便であるが、より自分が求める内容に近い情報が得られる可能性や、思いがけない情報との出会いの可能性などの恩恵もある。ダイレクトな検索結果に依存せずに Web サイトの階層構造を意識しながら情報を収集する経験を取り入れることが重要であると考えられる。


望美さんは地域（ちいき）の防災（ぼうさい）について調べようと，杉塩市Webサイトのトップページを開いています。ここから「すぎしお地域防災Web」を表示（ひょうじ）させなさい。
★「すぎしお地域防災Web」を表示させたら，「進む」を押（お）してください。
杉塩市
city.sugishio●●.jp/index.html
㋮杉塩市
トップページ
くらしの情報（じょうほう）
観光・イベント
市政情報（しせいじょうほう）
自然あふれる杉塩市
杉塩市役所


杉塩市
city.sugishio●●.jp/kurashi/index.html
㋮杉塩市
トップページ
くらしの情報（じょうほう）
観光・イベント
市政情報（しせいじょうほう）
くらしの情報（じょうほう）
届（とど）け出・手続き
健康・福祉（ふくし）・子育て
すぎしお地域防災 Web
杉塩市役所
000-123-4567
すぎしお地域防災Web

■ 2.3.6. レベル６（小学校 6.8%、中学校 19.5%、高等学校 19.5%）

習熟度レベル６に該当する調査問題群に基づくと、習熟度レベル６の児童生徒が身に付けていると想定される情報活用能力は図表 2-3-7 のように整理された。

図表 2-3-7 調査の結果を基に想定できる習熟度レベル６の児童生徒が身に付けている情報活用能力の例

	調査の結果を基に想定できる児童生徒が身に付けている情報活用能力の例	想定される学習内容
①	システム（制御システム、Web システム、生成 AI 等）の基本的な仕組みを理解している	基本的な操作等
②	目的に応じて、情報を整理することができる / 複数の事象 を示した図を読み解くことができる	問題解決・探究における情報活用
③	分岐処理のプログラムの実行結果を考えることができる / プログラムの不具合から修正すべき箇所を見つけることができる	プログラミング
④	デジタル情報の発信に関わる肖像権、著作権等の権利 やそれらを守る方法を理解している	情報モラル・セキュリティ

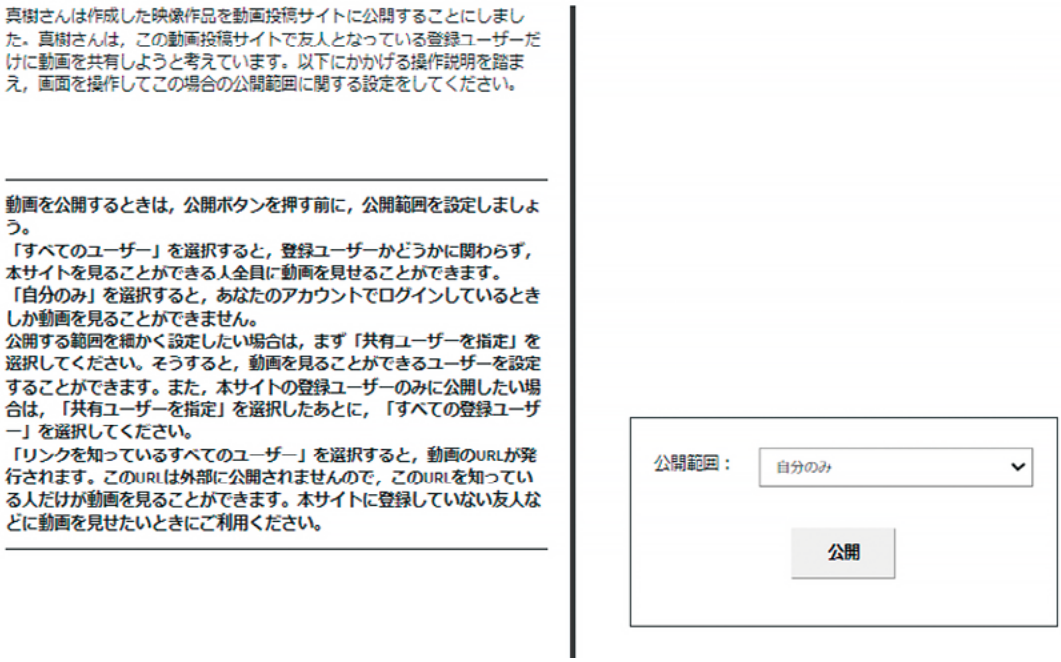
習熟度レベル６の児童生徒の姿としては、「基本的な操作等」について、レベル５までは比較的端末活用から経験的に習得することができる内容であったが、レベル６ではシステムの基本的な仕組みまで理解できていると考えられる。「問題解決・探究における情報活用」については、目的に応じて情報を整理したり、複数の事象を示す複雑な図を読み取ったりすることができると考えられる。「プログラミング」については、分岐処理を含むプログラムの実行結果を想像することができ、また、実践的にプログラミングの不具合箇所を指摘できると考えられる。「情報モラル・セキュリティ」については、重要な情報を保護するだけでなく、肖像権や著作権等の様々な権利にまで配慮が及んでいると考えられる。

以下、レベル６に該当した調査問題の例を示す。

●調査問題例

項目	内容			
問題名	動画投稿			
問題の概要	動画サイトに作品を公開する際に、登録ユーザーのみの共有とする場合の公開範囲を設定することができる。			
情報活用能力の要素	B1 受け手の状況を踏まえて発信する力			
想定される学習内容	④情報モラル・セキュリティ			
解答形式	アプリ操作式			
正答	正しく選択しているもの			
予測正答率※	年度	小学校	中学校	高等学校
	R6	37.1%	53.7%	64.6%
	R3	47.3%	61.3%	68.5%

※出題される調査問題は受検者ごとに異なるため、単純な正答率では校種間等の異なる条件で直接比較することができない。
そのため、条件が互いに異なる場合でも比較可能となるように統計処理を行った正答率を算出した。（1.5.1 項参照）



●**解答類型とその分布**

類型	内容	正誤	割合（小）	割合（中）	割合（高）
1	正しく選択しているもの	◎	—	56.0%	61.4%
99	上記以外の解答		—	38.9%	34.8%
0	無解答		—	5.1%	3.7%

●**分析・考察**

本問は、中学校・高等学校に限定して出題された問題であり、動画サイトに作品を公開する場面において、公開範囲を特定のカテゴリーに絞って設定することを求めている。具体的には、解答者には公開範囲を設定する画面が最初から提示されており、解答者は、「この動画投稿サイトで友人となっている登録ユーザーだけに動画を共有しようと考えて」いる状況の中で「公開範囲」を設定する。プルダウンメニューから選択肢４つ、すなわち「自分のみ」、「共有ユーザーを指定」、「リンクを知っているすべてのユーザー」、「すべてのユーザー」のうち１つを選択する。２つ目の「共有ユーザーを指定」を選択した場合には、さらに指定内容を設定する（下図）。指定内容としては、選択肢３つ、すなわち「友人となっている登録ユーザー」、「友人となっている登録ユーザーおよび友人の友人である登録ユーザー」、「すべての登録ユーザー」のうち１つを選択する。各カテゴリーの概要説明は、設問文直下に掲載されている。正答は、「共有ユーザーを指定」を選択後、下位カテゴリで「友人となっている登録ユーザー」を選択した解答である。

本問を正答した児童生徒は、ファイルの公開範囲を設定するシチュエーションをある程度理解しており、なおかつ、目標となる公開範囲設定を抽象化したうえで逆算的に設定を行うことができているものと考えられる。具体的には、目標「友人となっている登録ユーザー」への公開範囲指定を「共有ユーザーを指定」に抽象化、もしくは設問文直下の説明書き３段落目の「公開する範囲を細かく設定したい」に抽象化できていると推測される。児童生徒質問調査問３（８）では学校内で「自分が調べたことや考えたことを他の人に共有したり、他の人のものを参考にしたりするためにコンピュータを使う（クラウド上にデータを保存するなど）」ことの頻度を尋ねており、あてはまる人の割合※は中学生 57.0%、高校生 51.6% であった（※全受検者から利用頻度が「まったくか、ほとんどない」「わからない」生徒を差し引いた割合）。本問を正答した生徒の割合は上表の通り、中学生 56.0%、高校生 61.4% であり、上記の（８）にあてはまる生徒の割合と同程度、もしくは上回っている。

誤答した児童生徒は、公開範囲設定のシチュエーションに慣れておらず、目標である「友人となっている登録ユーザー」という概念をうまく理解できなかった可能性等が考えられる。

最も多かった誤答は「共有ユーザーを指定」を選択後、下位カテゴリで「すべての登録ユーザー」を選択した解答であった。設問文直下の説明書きに「本サイトの登録ユーザーのみに公開したい場合は、『共有ユーザーを指定』を選択したあとに、「すべての登録ユーザー」を選択してください。」との記述がある。当該記述は説明書きにある操作の中で、最もゴール

に近い。そのため、「友人となっている登録ユーザー」というさらなる限定を十分に意識しないまま、このような誤答がなされた可能性が考えられる。

公開範囲を設定することは、目的に応じた範囲で情報を共有して、他者と協働的に学ぶことに寄与する。クラウドサービス等の利用にあたり、日頃から情報の公開範囲を意識させることや実際に操作して公開範囲を設定することを指導に取り入れることは重要であると考えられる。



■ 2.3.7. レベル 7 （小学校 2.1%、中学校 12.4%、高等学校 19.0%）

習熟度レベル 7 に該当する調査問題群に基づくと、習熟度レベル 7 の児童生徒が身に付けていると想定される情報活用能力は図表 2-3-8 のように整理された。

図表 2-3-8 調査の結果を基に想定できる習熟度レベル 7 の児童生徒が身に付けている情報活用能力の例

調査の結果を基に想定できる児童生徒が身に付けている情報活用能力の例	想定される学習内容
クラウドサービスの特性を理解している	基本的な操作等
目的に応じて情報を構造的に解釈し、情報を抽出できる	問題解決・探究における情報活用
目的に応じて、反復処理のプログラミングができる	プログラミング
情報モラル・セキュリティに関する、リスクを踏まえた行動ができる	情報モラル・セキュリティ

習熟度レベル 7 の児童生徒の姿としては、「基本的な操作等」について、クラウドサービスの特性を理解していると考えられる。「問題解決・探究における情報活用」については、目的に応じて情報を構造的に解釈し、適切に情報を抽出できると考えられる。「プログラミング」については、レベル 2 では簡単な反復処理ができていたが、レベル 7 では目的に応じた反復処理を含むプログラミングができるようになっていると考えられる。「情報モラル・セキュリティ」については、情報モラル・セキュリティに関する、リスクを踏まえた行動ができると考えられる。

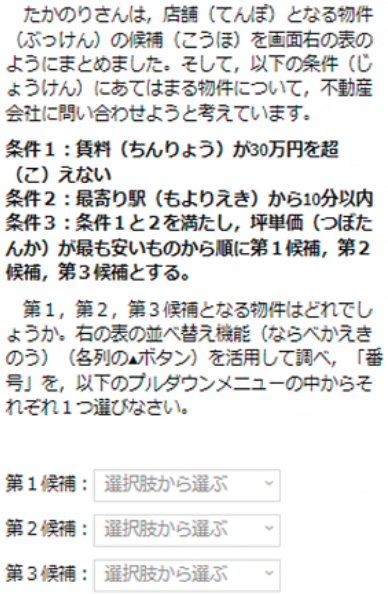
レベル 6 ～ 7 の児童生徒の姿を概観すると、情報技術の特性を踏まえ、リスクや権利に配慮して、探究的な学習ができると考えられる。

以下、レベル 7 に該当した調査問題の例を示す。

●調査問題例

項目	内容			
問題名	ラーメン店の開業（小問３）			
問題の概要	表の情報をもとに、複数の条件から、候補物件を選ぶことができる。			
情報活用能力の要素	A2 情報収集・整理・分析・表現・発信の理解			
想定される学習内容	②情報活用			
解答形式	アプリ操作式			
正答	第 1 候補：10　と解答しているもの 第 2 候補：２　と解答しているもの 第 3 候補：６　と解答しているもの			
予測正答率※	年度	小学校	中学校	高等学校
	R6	21.9%	39.4%	53.1%
	R3	21.9%	41.4%	54.1%

※出題される調査問題は受検者ごとに異なるため、単純な正答率では校種間等の異なる条件で直接比較することができない。
そのため、条件が互いに異なる場合でも比較可能となるように統計処理を行った正答率を算出した。（1.5.1 項参照）



たかのりさんは，店舗（てんぽ）となる物件（ぶっけん）の候補（こうほ）を画面右の表のようにまとめました。そして，以下の条件（じょうけん）にあてはまる物件について，不動産会社に問い合わせようと考えています。

条件１：賃料（ちんりょう）が30万円を超（こ）えない
条件２：最寄り駅（もよりえき）から10分以内
条件３：条件１と２を満たし，坪単価（つぼたんか）が最も安いものから順に第１候補，第２候補，第３候補とする。

第１，第２，第３候補となる物件はどれでしょうか。右の表の並べ替え機能（ならべかえきのう）（各列の▲ボタン）を活用して調べ，「番号」を，以下のプルダウンメニューの中からそれぞれ１つ選びなさい。

第１候補：選択肢から選ぶ
第２候補：選択肢から選ぶ
第３候補：選択肢から選ぶ

<表>

番号▲	交通	徒歩▲	使用部分面積▲	坪数▲	賃料▲	坪単価▲
1	満石駅	13分	60.5㎡	18.301	21.7万円	1.186万円
2	高倉駅	7分	78.5㎡	23.746	25.9万円	1.091万円
3	高倉駅	2分	100.8㎡	30.492	32.4万円	1.063万円
4	満石駅	2分	66.2㎡	20.025	47.2万円	2.357万円
5	宮が山駅	18分	36.6㎡	11.071	15.8万円	1.427万円
6	森が谷駅	3分	79.6㎡	24.079	27.6万円	1.146万円
7	宮が山駅	13分	42.2㎡	12.765	17.3万円	1.355万円
8	満石駅	6分	77.1㎡	23.323	31.5万円	1.351万円
9	満石駅	8分	70.1㎡	21.205	28.6万円	1.349万円
10	高倉駅	6分	63.4㎡	19.178	20.8万円	1.085万円
11	高倉駅	5分	122.3㎡	36.996	35.1万円	0.949万円
12	満石駅	5分	55.6㎡	16.819	23.5万円	1.397万円
13	三田山駅	12分	63.4㎡	19.178	18.6万円	0.97万円
14	双山駅	1分	80.6㎡	24.381	30.5万円	1.251万円
15	満石駅	4分	53.5㎡	16.184	20.7万円	1.279万円

●解答類型とその分布

類型	内容	正誤	割合（小）	割合（中）	割合（高）
1	第 1 候補：10　と解答しているもの 第 2 候補：２　と解答しているもの 第 3 候補：６　と解答しているもの	◎	—	38.0%	—
99	上記以外の解答		—	57.4%	—
0	無解答		—	4.6%	—

●分析・考察

本問は、中学校のみに出題した。解答者は、表計算ソフト上に表示された物件データから、複数の条件に当てはまる物件を第１～３候補まで選ぶことが求められた。並べ替え機能の使い方は、設問文中に説明されている。「条件３」では「条件１と２を満たし、坪単価が最も安いものから順に第１候補、第２候補、第３候補とする」と記されており、条件１・２よりも強く順序性が求められることから、並び替え機能は特に条件３で活用することが望ましいといえる。

本問を正答した児童生徒は、提示された複数の条件を理解し、それらの条件が表計算ソフト上のデータのどこと対応しているかを判断し、そのうえで並び替え機能を適宜活用しながら条件を満たす行を効率的にピックアップできるものと考えられる。ただし、正答者のうち、表計算ソフトを操作した形跡がなかった生徒は６割強に及び、受検者に配付した手元のメモ欄を活用して情報を整理したものとみられる。

本問を誤答した児童生徒は、設問文からうまく条件を理解することができなかった、設問文と表とを対応付けることができなかった、もしくは表計算ソフトを効果的に活用できなかったものと考えられる。特に有解答で誤答した児童生徒の８割方は、表計算ソフトを操作した形跡がなかった。

表計算ソフトの並び替え機能を活用すれば、行数や列数の多い複雑なデータでも早く正確に欲しい情報を抽出することができ、データ分析を効率よく行える。児童生徒の日常に表計算ソフトの活用を根付かせるためにも、まずは行数や列数の少ない小さなデータでもよいので、表計算ソフトの活用方法を指導することが重要だと考えられる。

<表>

番号▲	交通	徒歩▲	使用部分面積▲	坪数▲	賃料▲	坪単価▲
11	高倉駅	5分	122.3㎡	36.996	35.1万円	0.949万円
13	三田山駅	12分	63.4㎡	19.178	18.6万円	0.97万円
3	高倉駅	2分	100.8㎡	30.492	32.4万円	1.063万円
10	高倉駅	6分	63.4㎡	19.178	20.8万円	1.085万円
2	高倉駅	7分	78.5㎡	23.746	25.9万円	1.091万円
6	森が谷駅	3分	79.6㎡	24.079	27.6万円	1.146万円
1	溝石駅	13分	60.5㎡	18.301	21.7万円	1.186万円
14	双山駅	1分	80.6㎡	24.381	30.5万円	1.251万円
15	溝石駅	4分	53.5㎡	16.184	20.7万円	1.279万円
9	溝石駅	8分	70.1㎡	21.205	28.6万円	1.349万円
8	溝石駅	6分	77.1㎡	23.323	31.5万円	1.351万円
7	宮が山駅	13分	42.2㎡	12.765	17.3万円	1.355万円
12	溝石駅	5分	55.6㎡	16.819	23.5万円	1.397万円
5	宮が山駅	18分	36.6㎡	11.071	15.8万円	1.427万円
4	溝石駅	2分	66.2㎡	20.025	47.2万円	2.357万円

■ 2.3.8. レベル８（小学校 0.3%、中学校 4.1%、高等学校 9.8%）

習熟度レベル８に該当する調査問題群に基づくと、習熟度レベル８の児童生徒が身に付けていると想定される情報活用能力は図表 2-3-9 のように整理された。

図表 2-3-9　調査の結果を基に想定できる習熟度レベル８の児童生徒が身に付けている情報活用能力の例

	調査の結果を基に想定できる児童生徒が身に付けている情報活用能力の例	想定される学習内容
①	管理者の視点でクラウドサービスの特性を理解している	基本的な操作等
②	複数の情報を整理・分析して、意図を踏まえた情報の解釈ができる	問題解決・探究における情報活用
③	複数の条件分岐を含むプログラムを理解している / 目的に応じて、フローチャートを考えることができる	プログラミング
④	不適切な情報発信を指摘できる	情報モラル・セキュリティ

習熟度レベル８の児童生徒の姿としては、「基本的な操作等」について、レベル７ではあくまで利用者視点であったが、レベル８では管理者視点でもクラウドサービスの特性を理解していると考えられる。「問題解決・探究における情報活用」について、複数の情報を整理・分析して、発信者の意図を踏まえながら情報の解釈ができていると考えられる。「プログラミング」については、レベル５で示した調査問題例は条件分岐を１つだけ含んだプログラムについての設問であったが、レベル８では複数の条件分岐を含んだより高度なプログラムの理解ができると考えられる。「情報モラル・セキュリティ」については、SNS にまつわる不適切な情報発信について指摘できると考えられる。

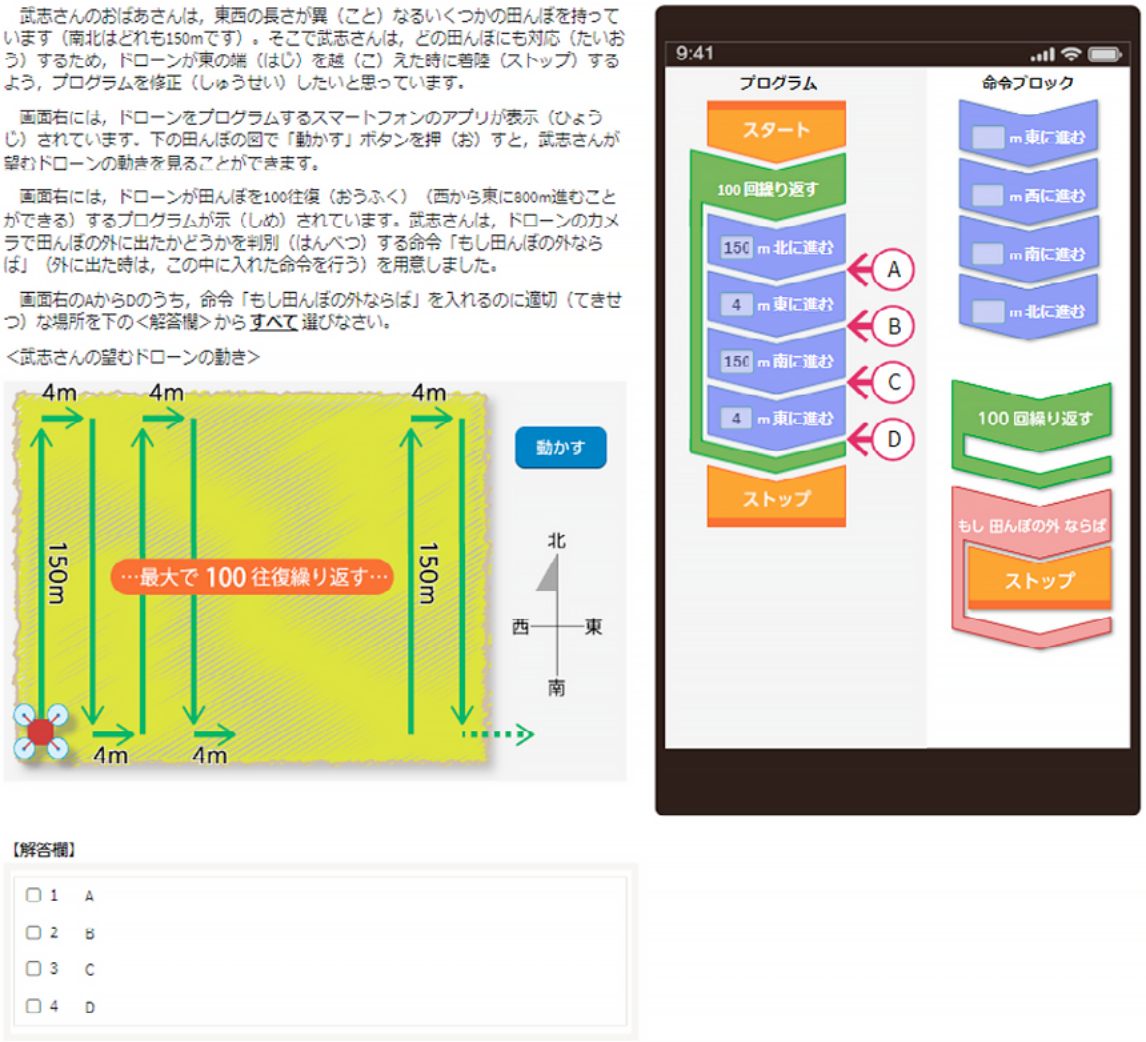
レベル８の児童生徒は、学習者主体の情報活用に加えて、受け手や状況、目的に応じて自分の情報活用の状況を確認し、修正しながら、より良い情報活用を目指すために必要となる情報活用能力を身に付けていると考えられる。

以下、レベル８に該当した調査問題の例を示す。

●調査問題例

項目	内容			
問題名	ドローンで田んぼの管理（小問３）			
問題の概要	田んぼの東端を越えた時にドローンが着陸するように、プログラムを修正することができる。			
情報活用能力の要素	B1 必要な情報を収集・整理・分析・表現する力			
想定される学習内容	③プログラミング			
解答形式	選択式			
正答	２、４　と解答しているもの			
予測正答率※	年度	小学校	中学校	高等学校
	R6	8.0%	19.4%	31.9%
	R3	8.0%	20.3%	31.7%

※出題される調査問題は受検者ごとに異なるため、単純な正答率では校種間等の異なる条件で直接比較することができない。
そのため、条件が互いに異なる場合でも比較可能となるように統計処理を行った正答率を算出した。（1.5.1 項参照）



●解答類型とその分布

類型	内容	正誤	割合（小）	割合（中）	割合（高）
1	2、4と解答しているもの	◎	8.9%	21.5%	30.8%
99	上記以外の解答		79.7%	72.1%	60.5%
0	無解答		11.4%	6.3%	8.7%

●分析・考察

本問では、未完成のドローンのプログラムに対して条件分岐を挿入することで、プログラムを完成させることを求めている。なお、本調査において登場するプログラミングアプリは、調査冒頭の練習問題にて操作方法を確認している。

本問を正答した児童生徒は、設問文から求められるドローンの動きを理解したうえで、未完成のプログラムから再現されるドローンの動き、及び与えられた命令「もし田んぼの外ならば」の機能をイメージし、未完成プログラムの中から当該命令を挿入すべき箇所を見出して適切に修正できたものと考えられる。

誤答した児童生徒は、要件となっているドローンの動きや未完成プログラムのイメージ、あるいは命令「もし田んぼの外ならば」の機能のイメージ等がうまくできていなかった可能性が考えられる。最も多かった誤答は、4（D の位置）のみを解答したものであった。確かに図だけを確認すると D の位置が正しいが、設問文では「武志さんのおばあさんは、東西の長さが異なるいくつかの田んぼを持って」いること、「武志さんは、どの田んぼにも対応するため、ドローンが東の端を越えたときに着陸（ストップ）するよう、プログラムを修正したい」ことが記されている。したがって、図で例示されている南側で着陸するパターンに加え、北側で着陸するパターンも想定する必要があるため、2（B の位置）も解答する必要があった。

様々なケースを想定しながら要件定義をし、ドローンやロボットの軌道をプログラムで実現できるようになることは、テクノロジーを活用した身近な課題や社会課題の解決に寄与する。複雑なプログラムにも応じることができるようにするためにも、具体的な場面をもとに必要な軌道をイメージさせたうえでプログラミングをする機会を設けることが重要だと考えられる。

■ 2.3.9. レベル９（小学校 0.1%、中学校 3.6%、高等学校 15.5%）

習熟度レベル９に該当する調査問題群に基づくと、習熟度レベル９の児童生徒が身に付けていると想定される情報活用能力は図表 2-3-10 のように整理された。

図表 2-3-10 調査の結果を基に想定できる習熟度レベル９の児童生徒が身に付けている情報活用能力の例

	調査の結果を基に想定できる児童生徒が身に付けている情報活用能力の例	想定される学習内容
①	情報科学（AI 含む）の特性を理解している	基本的な操作等
②	根拠となる情報を基に、探究的に情報を活用することができる	問題解決・探究における情報活用
③	反復処理を含むプログラムの実行結果を想定しながら修正できる	プログラミング
④	ファクトチェックの方法を理解し、不適切な情報を受信せずに、情報を保護しながら発信できる	情報モラル・セキュリティ

習熟度レベル９は本調査における最高レベルに位置付けられる。レベル９の児童生徒の姿としては、「基本的な操作等」について、情報科学（AI 含む）の特性の理解にまで至っていると考えられる。「問題解決・探究における情報活用」については、根拠となる情報を基に、より探究的に情報を活用できると考えられる。また、他人の主張の根拠を確かめることができるようになっている。「プログラミング」については、レベル７では目的に応じて反復処理のプログラミングができていたが、レベル９以上ではさらに反復処理を含むプログラムの実行結果を想定しながら修正までできると考えられる。また、「情報モラル・セキュリティ」については、偽情報・誤情報等に対するファクトチェックの方法を理解し、不適切な情報の受信を回避し、情報を保護しながら発信もできると考えられる。

なお、図表 2-3-10 には表現しきれていないが、解答形式に着目するとレベル９の設問群の特徴として記述式問題が占める割合が大きかった（約 13%）。記述式問題では、自分の考えを整理し文章化するとともに、入力しなくてはならない。このように記述式問題は正答までのプロセスが多いため、レベル９に到達して正答できるようになるものと考えられる。

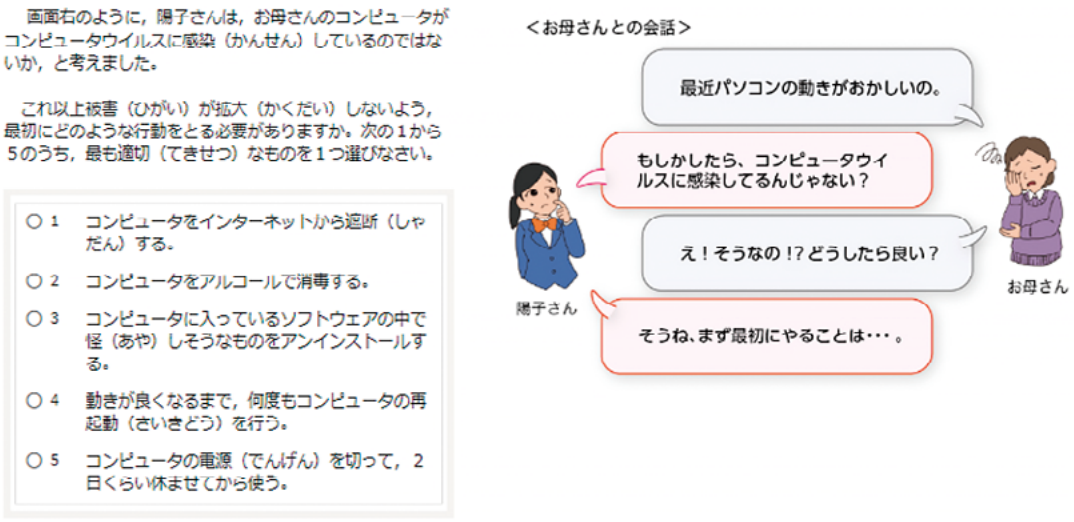
レベル８～９の児童生徒の姿を概観すると、情報技術の特性や適切な取扱いの理解に基づいて、複雑な状況で探究的な学習ができると考えられる。

以下、レベル９に該当した調査問題の例を示す。

●調査問題例（1）

項目	内容			
問題名	コンピュータウイルスに感染（小問 1）			
問題の概要	コンピュータウイルスに感染した恐れのあるコンピュータに対する初動の対応を理解している。			
情報活用能力の要素	A3 情報モラル・情報セキュリティの理解			
想定される学習内容	④情報モラル・セキュリティ			
解答形式	選択式			
正答	1　と解答しているもの			
予測正答率※	年度	小学校	中学校	高等学校
	R6	29.9%	37.1%	42.7%
	R3	33.7%	42.0%	47.0%

※出題される調査問題は受検者ごとに異なるため、単純な正答率では校種間等の異なる条件で直接比較することができない。
そのため、条件が互いに異なる場合でも比較可能となるように統計処理を行った正答率を算出した。（1.5.1 項参照）



●解答類型とその分布（1）

類型	内容	正誤	割合（小）	割合（中）	割合（高）
1	1　と解答しているもの	◎	27.7%	37.6%	44.8%
2	2　と解答しているもの		1.5%	0.4%	0.8%
3	3　と解答しているもの		39.2%	51.3%	48.2%
4	4　と解答しているもの		4.2%	2.3%	1.3%
5	5　と解答しているもの		24.9%	7.8%	3.9%
99	上記以外の解答		—	—	—
0	無解答		2.6%	0.5%	1.0%

●分析・考察（1）

本問は、コンピュータウイルスに感染している疑いのあるコンピュータがある状況下で、被害拡大を防ぐための行動を選ぶ設問である。

正答した児童生徒は、インターネットを介してコンピュータウイルスによる被害が拡大することを理解しているものと考えられる。児童生徒の姿としては、コンピュータウイルスへの感染可能性に対して「自分は大丈夫だ」と思いこまずに、もしものときの備えができているものと推測される。

誤答した児童生徒は、コンピュータウイルスがコンピューター台のみならず、周囲のコンピュータにも感染拡大する可能性をとらえきれていない可能性が考えられる。 最も多かった誤答は、「コンピュータに入っているソフトウェアの中で怪しそうなものをアンインストールする」であった。これは会話文にある「コンピュータの動きがおかしい」ことに対する対処になりうるかもしれないが、周囲への被害の「拡大」を防ぐためにはインターネットから遮断することが求められる。

コンピュータウイルスの感染拡大に備えることは、周囲のコンピュータを守ることに寄与する。未然にトラブルを防ぐための指導だけでなく、発生してしまった後も即座に対処できるよう、コンピュータにまつわる危機管理の指導を取り入れることが重要であると考えられる。

●**調査問題例（2）**

項目	内容			
問題名	アクション映画（小問３）			
問題の概要	上映時間や最寄り駅の出発時間などの条件を基に、また、経路検索サービスを用いて、複数の映画についてそれぞれ最も早く見ることのできる映画館を判断することができる。			
情報活用能力の要素	A2 情報収集・整理・分析・表現・発信の理解			
想定される学習内容	②情報活用			
解答形式	選択式			
正答	エスケイプ・フロム・ウォー : シネマ 93 三人のスパイ : 東洋シネマズ 脱走刑事 : ドラゴンシアター			
予測正答率※	年度	小学校	中学校	高等学校
	R6	3.7%	11.2%	21.7%
	R3	3.6%	11.6%	20.8%

※出題される調査問題は受検者ごとに異なるため、単純な正答率では校種間等の異なる条件で直接比較することができない。
そのため、条件が互いに異なる場合でも比較可能となるように統計処理を行った正答率を算出した。（1.5.1 項参照）



彩乃さんたちの家の付近の映画館では，以下の３種類のアクション映画が上映されています。
９：００以降に最寄りの絵島駅を出発する場合，それぞれの映画を最も早く見ることができる映画館はどれですか。画面の経路検索サービスを使用して，答えなさい。

映画館	映画名	上映時間	上映開始時刻
東洋シネマズ	エスケイプ・フロム・ウォー	155 分	09:20　12:15　15:10 18:05　21:00(～23:35)
	三人のスパイ	140 分	09:45　12:25　15:05 17:45　20:30(～22:50)
	脱走刑事	105 分	11:40　14:25　19:15 21:15(～23:00)
シネマ 93	エスケイプ・フロム・ウォー	155 分	09:55　12:50　15:15 17:50　20:45(～23:20)
	三人のスパイ	140 分	09:30　12:15　15:00 17:45　20:30(～22:50)
ドラゴンシアター	三人のスパイ	140 分	09:40　12:25　15:05 17:55　20:45(～23:05)
	脱走刑事	105 分	11:10　14:45　18:30 20:45(～22:30)
シアター CCC	エスケイプ・フロム・ウォー	155 分	09:10　12:10　16:40 19:40(～22:15)
	脱走刑事	105 分	09:50　11:55　14:00 18:30　20:40(～22:25)

解答欄：

エスケイプ・フロム・ウォー　選択肢から選ぶ

三人のスパイ　選択肢から選ぶ

脱走刑事　選択肢から選ぶ

出発地　絵島駅

目的地　東洋シネマズ

日時指定　9　時　00　分

◉ 出発　○ 到着

検索

●解答類型とその分布（2）

類型	内容	正誤	割合（小）	割合（中）	割合（高）
1	エスケイプ・フロム・ウォー : シネマ 93 三人のスパイ : 東洋シネマズ 脱走刑事 : ドラゴンシアター	◎	—	11.2%	23.7%
99	上記以外の解答		—	74.7%	68.5%
0	無解答		—	14.1%	7.8%

●分析・考察（2）

本問は中学校と高等学校に対して出題した。経路検索サービスと映画の上映時刻表を活用し、条件を満たす最適なプランを見出すことができるかを問うものである。具体的には、条件 1 として最速出発時刻が指定されていること（9:00 以降出発）、条件 2 として、条件 1 を満たしつつ 4 つの映画館の中で最速で映画を見るようにしたいことがある。映画館は 4 種類、映画は 3 種類登場し、 1 つの上映時刻表に情報が掲載されている。検索結果は、下図のように表示される。

正答した児童生徒は、条件を理解し、経路検索サービスを活用して条件を満たした対象物を抽出し、さらに抽出物を比較して最適なものを 1 つ選ぶことができているものと考えられる。児童生徒の姿としては、検索サービスを活用してよりよい計画を立てることができているものと推測される。

誤答した児童生徒のパターンは複数考えられ、例えば、条件を把握しきれなかったこと、問題解決までの道筋を立てることができなかったこと、経路検索サービスの使い方がわからなかったこと等が可能性として考えられる。

３つの解答欄を個別に分析すると、最も多かった誤答は、「9:00 以降に最寄りの絵島駅を出発する場合」という出発時刻の指定を踏まえなかった解答であった。すなわち、上映時刻表を見比べて最も早い時刻から上映されている映画館を解答したものとみられる（エスケイプ・フロム・ウォーは 09:10 のシアター CCC、三人のスパイは 09:30 のシネマ 93、脱走刑事は 09:50 のシアター CCC）。なお、経路検索サービスを使わずに上映開始時刻表単体で導ける解答欄はなく、なおかつ、３つの解答欄について 1 つでも正答できた類型 99 の生徒は凡そ 6 割いたことから、類型 99 の解答をした生徒の中にも経路検索サービスを多少なりとも活用できた生徒もいたと考えられる。

条件がある中で経路検索サービスを用いて探索的にプランを立てることは、時間的・金銭的に効率よく生活したり、自分の行動範囲を広げたりすることに寄与する。条件を加味しながら複雑な情報や検索サービスを活用できるよう、実生活に即した検索サービスの活用体験を取り入れることが重要であると考えられる。



◆ 2.4. 文字入力の特徴

本調査における文字入力課題は、児童生徒の ICT 機器（端末）の基本的な操作等の実態を確認するのが目的であり、キーボードが使用された。課題文は、総文字数が 285 文字（平仮名、片仮名、漢字、アルファベット等の組合せ）、入力時間は３分間、全校種共通であった。また、令和３年度調査で出題した課題文と同一であり、調査方法も同様であった。

出題した課題文は非公表であるが、課題文に類似させたサンプル文（287 文字）を以下掲載する。なお、課題実施の際は、児童生徒が特定の文字の入力方法がわからず行き詰まってしまうことを避けるべく、わからない文字は飛ばすことができることを児童生徒に説明していた。

サンプル文

えいたさんは、休みの日に家で作った具だくさんみそ汁の作り方について、クラスの友達に伝えるためにスピーチメモを作りました。（１）じゃがいもは厚さ１ｃｍのいちょう切り、ごぼうはささがきにして、水に５分ほどさらします。大根は厚さ５mmのいちょう切り、にんじんは千切りにします。ねぎは、小口切りにします。
（２）だし汁、じゃがいも、大根を鍋に入れて火にかけます。煮立ったら、にんじん、ごぼうを加えて、やわらかくなるまで弱火で１０分ほど煮ます。
（３）みそをボウルに入れて、煮汁を大さじ２程度加えて溶き伸ばし、鍋に入れます。ねぎを加え、ねぎに火が通ったら汁わんに盛り付けて完成です。

令和６年度調査のキーボードによる１分間あたりの文字入力数を、令和３年度調査と校種ごとに比較すると、図表 2-4-1 のとおりであった。平均文字入力数は、令和６年度調査では小学校が 23.0 字（+7.2 字）、中学校が 33.2 字（+10.2 字）、高等学校が 35.2 字（+6.8 字）であり、全校種において令和３年度調査から増加した（括弧内の数字は令和３年度調査からの増減）。

図表 2-4-1 １分間あたりの文字入力数（字）

文字入力数	小学校		中学校		高等学校	
	R3	R6	R3	R6	R3	R6
最小値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
25%分位数	7.7	12.3	15.7	23.3	19.0	26.3
中央値	14.7	21.3	21.3	33.0	26.3	34.0
75%分位数	21.3	32.7	29.3	41.9	34.7	42.3
最大値	74.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0
平均値	15.8	23.0	23.0	33.2	28.4	35.2
標準偏差	10.7	14.9	11.6	15.1	12.4	14.4

※集計対象（文字入力課題の受検者）：令和６年度調査：小学校 4,437 人、中学校 4,822 人、高等学校 4,967 人
令和３年度調査：小学校 4,480 人、中学校 4,837 人、高等学校 4,882 人

図表 2-4-2 は、１分間あたりの文字入力数の分布を表しており、図表 2-4-3 は、それをグラフで示したものである。

１分間あたりの文字入力数が 15 字未満の児童生徒は、令和６年度調査では小学校が 30.7%（-20.5%）、中学校が 9.0%（-14.3%）、高等学校が 5.3%（-4.0%）であり、全校種において令和３年度調査から減少した（括弧内の数字は令和３年度調査からの増減）。各学校種における最も多い分布は、令和６年度調査では小学校が 15 字以上 20 字未満の区分（16.5%）、中学校が 30 字以上 35 字未満の区分（16.6%）、高等学校も 30 字以上 35 字未満の区分（17.5%）であった。

１分間あたりの文字入力数の分布について、令和３年度調査と比較して令和６年度調査では、全校種において分布の山が右にずれており、文字入力数の増加傾向がみられた。

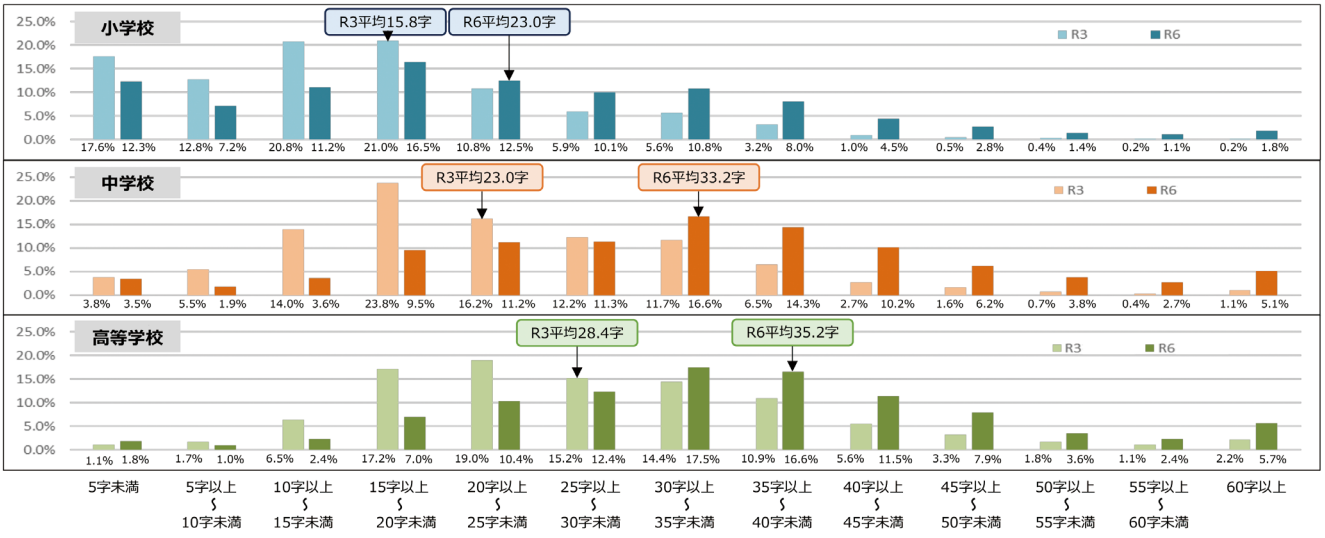
端末が整備され、活用が進んでいる中で、文字入力スキルは端末・アプリケーションを活用した学習場面において、自分の考えを表現するためにより重要になると考えられる。文房具のように端末を普段から活用して文字入力の経験を積み重ね、多様な文字の入力方法について教員がサポートしていき、文字入力の速度や正確性を高めることが重要だと考えられる。

図表 2-4-2 １分間あたりの文字入力数の分布（%）

文字入力数	小学校		中学校		高等学校	
	R3	R6	R3	R6	R3	R6
5 字未満	17.6	12.3	3.8	3.5	1.1	1.8
5 字以上 10 字未満	12.8	7.2	5.5	1.9	1.7	1.0
10 字以上 15 字未満	20.8	11.2	14.0	3.6	6.5	2.4
15 字以上 20 字未満	21.0	16.5	23.8	9.5	17.2	7.0
20 字以上 25 字未満	10.8	12.5	16.2	11.2	19.0	10.4
25 字以上 30 字未満	5.9	10.1	12.2	11.3	15.2	12.4
30 字以上 35 字未満	5.6	10.8	11.7	16.6	14.4	17.5
35 字以上 40 字未満	3.2	8.0	6.5	14.3	10.9	16.6
40 字以上 45 字未満	1.0	4.5	2.7	10.2	5.6	11.5
45 字以上 50 字未満	0.5	2.8	1.6	6.2	3.3	7.9
50 字以上 55 字未満	0.4	1.4	0.7	3.8	1.8	3.6
55 字以上 60 字未満	0.2	1.1	0.4	2.7	1.1	2.4
60 字以上	0.2	1.8	1.1	5.1	2.2	5.7

※集計対象（文字入力課題の受検者）：令和６年度調査：小学校 4,437 人、中学校 4,822 人、高等学校 4,967 人
令和３年度調査：小学校 4,480 人、中学校 4,837 人、高等学校 4,882 人

図表 2-4-3 １分間あたりの文字入力数の分布（%）



第3章 児童生徒質問調査・学校質問調査の結果

この章では、3.1 節にて情報活用能力と児童生徒の特徴について、3.2 節にて情報活用能力と学校の特徴について述べる。なお、児童生徒質問調査及び学校質問調査の結果概略は次のとおりであった。

■児童生徒質問調査の結果概略

- 全校種に共通して、「情報活用能力における『主体的に学習に取り組む態度』及びファクトチェックの意識」、「コンピュータやインターネットに対する期待等」、「生成 AI に対する期待等」に関する質問項目について、肯定的に回答する傾向がみられた。
- 全校種に共通して、「情報活用能力育成に関する各種取組頻度」は「まったくか、ほとんどない」と回答する傾向がみられた。
  - ○特にこの傾向がみられた質問項目は、「図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）」、「コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。」「コンピュータを使ってプログラミングをする。」「コンピュータを使って一つのものを他の人と協力して編集しながら作成する（共同編集するなど）。」であった。

  一方で、令和 3 年度調査と比較すると、全校種に共通して、「情報活用能力育成に関する各種取組頻度」に増加傾向がみられた。
  - ○学校での情報活用能力育成に関する各種取組頻度について、特にこの傾向がみられた質問項目は、「自分で学んだことや、学んだ成果を残し、振り返るためにコンピュータを使う（授業の感想を書く、ポートフォリオに保存するなど）。」であった。
  - ○学校外での情報活用能力育成に関する各種取組頻度について、特にこの傾向がみられた質問項目は、「E メール（電子メール）を使う。」、「コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。」であった。
- 令和 3 年度調査・令和 6 年度調査共に、全校種に共通して、調査問題得点の上位群（10%）の児童生徒が「情報活用能力における『主体的に学習に取り組む態度』及びファクトチェックの意識」、「コンピュータやインターネットに対する期待等」の質問項目に対して、肯定的に回答する傾向がみられた。
  - ○特にこの傾向がみられた質問項目は、「自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。」、「インターネットの情報は正しいものとは限らない。」であった。
- 令和 3 年度調査・令和 6 年度調査共に、全校種に共通して、「情報活用能力における『主体的に学習に取り組む態度』及びファクトチェックの意識」、「コンピュータやインターネットに対する期待等」の質問項目に対し、肯定的に回答した児童生徒の方が、調査問題平均得点が高い傾向がみられた。
  - ○特にこの傾向がみられた質問項目は、「インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。」、「ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。」、「コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。」、「インターネットの情報は正しいものとは限らない。」、「インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。」であった。

■学校質問調査の結果概略

- 全校種に共通して、「学習者用コンピュータの活用頻度」について、「ほぼ毎日（1日の中で複数の授業で活用）」または「ほぼ毎日（1日の中で1回程度の授業で活用）」もしくは「週3回以上」と回答する傾向がみられた。また、令和3年度調査と比較すると、この回答の割合には増加傾向がみられた。
- 全校種に共通して、「情報活用能力育成に関する取組状況」について肯定的に回答する傾向がみられた。また、令和3年度調査と比較すると、肯定的に回答する割合には増加傾向がみられた。
  - ○特にこの傾向がみられた質問項目は、「教員が情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。」、「情報活用能力の育成方法に関する学校外の研修（指導主事や外部有識者等による研修）に、教員が参加している。」であった。
- 全校種に共通して、「機器等を活用した指導状況」について、「ほとんどの教員が行っている」または「半数程度の教員が行っている」と回答する傾向がみられた。また、令和3年度調査と比較すると、この回答の割合には増加傾向がみられた。
  - ○特にこの傾向がみられた質問項目は、「児童生徒が互いの考えを交換し共有して話合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。」、「グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。」であった。
- 全校種に共通して、「健康面に配慮した指導状況」は否定的に回答する傾向がみられた。また、令和3年度調査と比較すると、否定的に回答する割合には増加傾向がみられた。
  - ○特にこの傾向がみられた質問項目は、「情報機器を利用するときは、30分に1回は20秒以上、目を休めるように児童生徒に指導している。」、「情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を30cm以上離すように児童生徒に指導している。」であった。
- 児童生徒質問調査と同様に3種類の分析（相関分析、上位群・下位群の分析、肯定群・否定群の分析）を実施したが、調査問題得点と学校質問調査の質問項目については、相関はみられず、上位群・下位群の分析と肯定群・否定群の分析についてはあまり関係性がみられなかった。
  - ○高等学校では、上位群（10%）の生徒が通う学校の方が「行事、委員会活動、教師からの連絡等、授業以外の場面で児童生徒はコンピュータを日常的に活用している。」と回答する傾向がみられた。

◆ 3.1. 児童生徒質問調査の結果

この節では、児童生徒質問調査の集計・分析結果を問ごとに述べる。

■ 3.1.1. 質問ごとの結果

この項では、質問項目ごとの各選択肢の回答割合、各選択肢に該当する児童生徒の平均得点、選択肢と得点との相関係数について結果を掲載し、考察を述べる。1.5.2 項で述べたように、相関係数が 0.2 以上、又は -0.2 以下の場合に「何らかの関係がある」と考え、考察の対象とした。

①　問 1　 1 日あたりのスマートフォン・携帯電話の利用時間

児童生徒質問調査の問 1 では、調査に参加した児童生徒に対して、 1 日あたりのスマートフォン・携帯電話の利用時間を尋ねた。以下では各選択肢の回答割合を示す（図表 3-1-1）。なお、各選択肢について優劣の判断が困難な点から、問 1 の回答に関する平均得点、相関係数の分析は行っていない。

> あなたはスマートフォン・携帯電話を 1 日にどのくらい利用しますか。以下の（1）～（2）それぞれについて、当てはまるものを 1 つ選んでください。

1．令和 6 年度調査結果

図表 3-1-1 児童生徒質問調査の問 1 「1 日あたりのスマートフォン・携帯電話の利用時間」
（小学校：4422 人、中学校：4810 人、高等学校：4938 人）

（回答割合）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点							
		1 日に 6 時間より長い	1 日に 5 時間より長く 6 時間まで	1 日に 4 時間より長く 5 時間まで	1 日に 3 時間より長く 4 時間まで	1 日に 2 時間より長く 3 時間まで	1 日に 1 時間より長く 2 時間まで	1 日に 1 ～ 60 分	利用しない
小	（1）学校で	0.8%	0.5%	0.6%	0.9%	1.9%	2.8%	10.0%	82.6%
	（2）学校以外の場所で	5.4%	3.1%	4.5%	7.5%	11.6%	18.2%	24.9%	24.7%
中	（1）学校で	0.6%	0.3%	0.5%	0.8%	1.4%	1.8%	4.4%	90.2%
	（2）学校以外の場所で	9.7%	6.0%	10.2%	17.5%	23.2%	17.8%	9.1%	6.3%
高	（1）学校で	0.9%	0.6%	0.9%	2.1%	5.7%	12.3%	30.9%	46.6%
	（2）学校以外の場所で	12.6%	6.7%	12.8%	20.4%	27.3%	14.2%	5.4%	0.6%

学校でスマートフォン・携帯電話を 1 日に 1 分以上利用している児童生徒は、小中高それぞれ 17.4%、9.8%、53.4%であった。また、学校以外の場所でスマートフォン・携帯電話を 1 日に 1 分以上利用している児童生徒は、小中高それぞれ 75.3%、93.7%、99.4%であった。

②　問２　１日あたりのコンピュータの利用時間

児童生徒質問調査の問２では、調査に参加した児童生徒に対して、１日あたりのコンピュータの利用時間を尋ねた。以下では各選択肢の回答割合を示す（図表 3-1-2）。なお、各選択肢について優劣の判断が困難な点から、問２の回答に関する平均得点、相関係数の分析は行っていない。

> あなたはコンピュータ（ノート・タブレット・デスクトップ）を１日にどのくらい利用しますか。以下の（１）～（２）それぞれについて、当てはまるものを１つ選んでください。

１．令和６年度調査結果

図表 3-1-2 児童生徒質問調査の問２「１日あたりのコンピュータの利用時間」
（小学校：4422 人、中学校：4810 人、高等学校：4938 人）

（回答割合）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点							
		１日に６時間より長い	１日に５時間より長く６時間まで	１日に４時間より長く５時間まで	１日に３時間より長く４時間まで	１日に２時間より長く３時間まで	１日に１時間より長く２時間まで	１日に１～60 分	利用しない
小	（１）学校で	0.4%	1.3%	1.7%	3.1%	6.4%	18.8%	56.2%	12.1%
	（２）学校以外の場所で	2.7%	1.2%	2.4%	4.6%	8.9%	18.4%	33.1%	28.7%
中	（１）学校で	0.4%	0.5%	0.9%	2.2%	6.8%	20.0%	57.8%	11.3%
	（２）学校以外の場所で	2.0%	1.2%	1.6%	3.6%	7.3%	11.6%	27.2%	45.4%
高	（１）学校で	1.0%	2.4%	2.9%	5.4%	9.9%	19.0%	43.0%	16.5%
	（２）学校以外の場所で	2.1%	1.1%	2.0%	3.9%	8.4%	13.5%	26.3%	42.6%

学校でコンピュータを１日に１分以上利用している児童生徒は、小中高それぞれ 87.9%、88.7%、83.5%であった。また、学校以外の場所でコンピュータを１日に１分以上利用している児童生徒は、小中高それぞれ 71.3%、54.6%、57.4%であった。

③　問３　学校での情報活用能力育成に関する各種取組頻度

児童生徒質問調査の問３では、調査に参加した児童生徒に対して、学校での情報活用能力育成に関する各種取組頻度を尋ねた。以下では各選択肢の回答割合と平均得点、選択肢と得点との相関係数の分析結果を示す（図表 3-1-3）。なお、問３は令和３年度調査から継続して出題した質問項目を含むため、比較可能な質問項目については令和３年度調査との比較のための図表を掲載した（図表 3-1-4）。ただし、選択肢が令和３年度調査と令和６年度調査で異なるため、回答割合と各選択肢における平均得点は選択肢を比較できるように併合するなどして、割合を再算出した上で比較した。一方、相関係数を求める際は選択肢を併合しないで各選択肢に与えた得点をそのまま用いた。

あなたは学校で、次のようなことをどのくらいおこなっていますか。以下の（１）～（12）それぞれについて、当てはまるものを１つ選んでください。

１．令和６年度調査結果

図表 3-1-3 児童生徒質問調査の問３「学校での情報活用能力育成に関する各種取組頻度」
（小学校：4422 人、中学校：4810 人、高等学校：4938 人）

（回答割合）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点						
		ほぼ毎日	週３回以上	週１～２回以上	月１回以上	月１回未満	まったくか、ほとんどない	わからない
小	（１）インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。	25.9%	23.7%	24.9%	7.7%	2.4%	7.3%	8.2%
	（２）学校図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。	4.7%	7.7%	19.9%	15.0%	10.9%	35.0%	6.9%
	（３）コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。	11.1%	15.2%	22.8%	16.8%	7.6%	16.1%	10.4%
	（４）コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。	3.9%	8.5%	17.8%	17.4%	11.4%	26.3%	14.7%
	（５）コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。	2.3%	5.5%	13.0%	22.6%	19.6%	25.1%	12.0%
	（６）コンピュータを使ってプログラミングをする。	3.6%	4.7%	10.4%	12.1%	12.2%	46.7%	10.2%
	（７）自分で学んだことや、学んだ成果を残し、振り返るためにコンピュータを使う（授業の感想を書く、ポートフォリオに保存するなど）。	6.2%	8.8%	17.0%	14.7%	10.0%	29.3%	14.0%
	（８）自分が調べたことや考えたことを他の人に共有したり、他の人のものを参考にしたりするためにコンピュータを使う（クラウド上にデータを保存するなど）。	4.9%	7.9%	17.1%	15.0%	10.1%	27.1%	17.8%
	（９）他の人が調べたことや考えたことを参考に、自分の学習を進めるためにコンピュータを使う。	5.9%	9.9%	20.1%	17.1%	10.2%	23.3%	13.5%

校種	内容	選択肢ごとの平均得点						
		ほぼ毎日	週３回以上	週１～２回以上	月１回以上	月１回未満	まったくか、ほとんどない	わからない
小	（10）コンピュータを使って一つのものを他の人と協力して編集しながら作成する（共同編集するなど）。	3.4%	6.5%	14.2%	19.0%	14.2%	29.7%	13.0%
	（11）コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。	5.6%	7.6%	20.1%	17.8%	11.3%	28.4%	9.2%
	（12）コンピュータやスマートフォンなどを使ってメッセージやコメントのやり取りをする（チャットを含む）。	23.3%	9.1%	8.5%	5.6%	4.7%	38.0%	10.9%
中	（1）インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。	35.7%	21.5%	23.2%	8.0%	2.2%	4.8%	4.6%
	（2）学校図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。	2.4%	2.9%	6.4%	9.0%	10.6%	65.2%	3.5%
	（3）コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。	11.8%	12.2%	21.8%	18.4%	10.6%	18.8%	6.4%
	（4）コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。	3.6%	5.0%	12.9%	18.1%	14.5%	37.3%	8.6%
	（5）コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。	1.0%	2.4%	8.8%	27.6%	31.9%	22.9%	5.5%
	（6）コンピュータを使ってプログラミングをする。	0.9%	1.4%	4.1%	6.3%	11.8%	68.3%	7.3%
	（7）自分で学んだことや、学んだ成果を残し、振り返るためにコンピュータを使う（授業の感想を書く、ポートフォリオに保存するなど）。	5.5%	9.9%	16.9%	16.7%	11.2%	32.9%	6.8%
	（8）自分が調べたことや考えたことを他の人に共有したり、他の人のものを参考にしたりするためにコンピュータを使う（クラウド上にデータを保存するなど）。	3.9%	6.9%	14.8%	18.7%	12.7%	32.0%	11.0%
	（9）他の人が調べたことや考えたことを参考に、自分の学習を進めるためにコンピュータを使う。	4.0%	7.6%	17.8%	18.0%	11.4%	31.4%	9.9%
	（10）コンピュータを使って一つのものを他の人と協力して編集しながら作成する（共同編集するなど）。	1.5%	3.0%	10.3%	20.0%	22.0%	35.6%	7.6%
	（11）コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。	4.7%	6.4%	13.9%	17.3%	14.3%	37.9%	5.4%

校種	内容	選択肢ごとの平均得点						
		ほぼ毎日	週３回以上	週１～２回以上	月１回以上	月１回未満	まったくか、ほとんどない	わからない
中	（12）コンピュータやスマートフォンなどを使ってメッセージやコメントのやり取りをする（チャットを含む）。	40.8%	7.1%	4.4%	3.0%	3.2%	36.5%	5.0%
高	（1）インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。	57.9%	16.8%	14.3%	3.5%	1.2%	4.3%	1.9%
	（2）学校図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。	0.9%	1.2%	2.2%	4.2%	6.8%	82.4%	2.3%
	（3）コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。	15.5%	12.1%	20.6%	15.4%	9.7%	23.0%	3.7%
	（4）コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。	4.0%	4.9%	12.6%	14.9%	15.6%	43.9%	4.1%
	（5）コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。	1.0%	1.3%	9.1%	21.9%	36.1%	27.6%	3.0%
	（6）コンピュータを使ってプログラミングをする。	1.0%	1.6%	6.7%	6.0%	9.2%	71.7%	3.8%
	（7）自分で学んだことや、学んだ成果を残し、振り返るためにコンピュータを使う（授業の感想を書く、ポートフォリオに保存するなど）。	4.6%	6.8%	16.2%	16.6%	12.0%	40.3%	3.5%
	（8）自分が調べたことや考えたことを他の人に共有したり、他の人のものを参考にしたりするためにコンピュータを使う（クラウド上にデータを保存するなど）。	5.1%	6.7%	12.1%	14.5%	13.2%	42.4%	6.0%
	（9）他の人が調べたことや考えたことを参考に、自分の学習を進めるためにコンピュータを使う。	5.5%	8.2%	14.1%	14.2%	9.8%	42.3%	5.8%
	（10）コンピュータを使って一つのものを他の人と協力して編集しながら作成する（共同編集するなど）。	1.2%	2.7%	10.4%	16.3%	20.1%	45.6%	3.6%
	（11）コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。	8.1%	8.8%	16.0%	14.8%	11.6%	37.4%	3.3%
	（12）コンピュータやスマートフォンなどを使ってメッセージやコメントのやり取りをする（チャットを含む）。	62.6%	7.7%	4.9%	2.6%	2.2%	17.8%	2.1%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点							相関係数
		ほぼ毎日	週３回以上	週1～2回以上	月１回以上	月１回未満	まったくか、ほとんどない	わからない	
小	（1）インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。	419	430	428	437	406	398	395	0.05
	（2）学校図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。	422	420	422	433	432	419	391	0.01
	（3）コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。	428	433	429	431	420	404	395	0.11
	（4）コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。	420	414	421	439	430	419	404	-0.01
	（5）コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。	417	414	416	438	438	415	389	0.00
	（6）コンピュータを使ってプログラミングをする。	409	404	403	426	432	429	399	-0.13
	（7）自分で学んだことや、学んだ成果を残し、振り返るためにコンピュータを使う（授業の感想を書く、ポートフォリオに保存するなど）。	418	424	427	430	426	424	398	0.00
	（8）自分が調べたことや考えたことを他の人に共有したり、他の人のものを参考にしたりするためにコンピュータを使う（クラウド上にデータを保存するなど）。	414	426	424	434	433	419	406	0.01
	（9）他の人が調べたことや考えたことを参考に、自分の学習を進めるためにコンピュータを使う。	415	420	426	433	425	419	405	0.00
	（10）コンピュータを使って一つのものを他の人と協力して編集しながら作成する（共同編集するなど）。	407	409	421	432	440	422	396	-0.05
	（11）コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。	411	415	423	439	432	421	386	-0.03
	（12）コンピュータやスマートフォンなどを使ってメッセージやコメントのやり取りをする（チャットを含む）。	408	415	416	421	435	439	395	-0.19
中	（1）インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。	497	508	508	517	498	483	464	-0.01
	（2）学校図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。	491	492	507	510	513	501	452	0.01
	（3）コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。	507	515	510	510	510	480	454	0.10

校種	内容	選択肢ごとの平均得点							相関係数
		ほぼ毎日	週３回以上	週1～2回以上	月１回以上	月１回未満	まったくか、ほとんどない	わからない	
中	（4）コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。	479	488	501	519	517	499	462	-0.02
	（5）コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。	469	488	504	516	511	484	449	0.06
	（6）コンピュータを使ってプログラミングをする。	464	469	488	484	513	509	445	-0.13
	（7）自分で学んだことや、学んだ成果を残し、振り返るためにコンピュータを使う（授業の感想を書く、ポートフォリオに保存するなど）。	495	505	510	512	520	495	447	0.03
	（8）自分が調べたことや考えたことを他の人に共有したり、他の人のものを参考にしたりするためにコンピュータを使う（クラウド上にデータを保存するなど）。	478	494	510	516	517	498	468	-0.01
	（9）他の人が調べたことや考えたことを参考に、自分の学習を進めるためにコンピュータを使う。	487	501	504	519	514	497	470	0.01
	（10）コンピュータを使って一つのものを他の人と協力して編集しながら作成する（共同編集するなど）。	456	478	501	515	519	497	449	-0.02
	（11）コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。	498	501	499	514	516	500	438	0.00
	（12）コンピュータやスマートフォンなどを使ってメッセージやコメントのやり取りをする（チャットを含む）。	490	504	493	501	510	520	448	-0.18
高	（1）インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。	564	562	553	559	565	529	463	0.08
	（2）学校図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。	485	528	545	578	597	559	443	-0.04
	（3）コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。	564	576	571	573	572	530	487	0.13
	（4）コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。	540	553	559	585	589	547	487	0.03
	（5）コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。	469	538	565	579	575	533	465	0.08
	（6）コンピュータを使ってプログラミングをする。	480	538	565	571	584	560	471	-0.02

校種	内容	選択肢ごとの平均得点							相関係数
		ほぼ毎日	週３回以上	週1～2回以上	月１回以上	月１回未満	まったくか、ほとんどない	わからない	
高	（７）自分で学んだことや、学んだ成果を残し、振り返るためにコンピュータを使う（授業の感想を書く、ポートフォリオに保存するなど）。	551	559	566	577	576	550	473	0.05
	（８）自分が調べたことや考えたことを他の人に共有したり、他の人のものを参考にしたりするためにコンピュータを使う（クラウド上にデータを保存するなど）。	565	565	563	584	583	546	504	0.08
	（９）他の人が調べたことや考えたことを参考に、自分の学習を進めるためにコンピュータを使う。	564	565	569	580	578	547	517	0.09
	（10）コンピュータを使って一つのものを他の人と協力して編集しながら作成する（共同編集するなど）。	501	538	576	585	585	543	463	0.10
	（11）コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。	577	580	568	567	575	545	469	0.13
	（12）コンピュータやスマートフォンなどを使ってメッセージやコメントのやり取りをする（チャットを含む）。	561	556	559	563	573	560	466	0.00

※選択肢の得点化……「ほぼ毎日」６点、「週３回以上」５点、「週１～２回以上」４点、「月１回以上」３点、「月１回未満」２点、「まったくか、ほとんどない」１点、「わからない」得点なし

この問では、質問項目が多数存在するため、取組頻度が最も多い取組と、最も少ない取組に着目した。「まったくか，ほとんどない」（「わからない」は除外している）以外の回答割合を足して比較し、割合の和が最も大きかった質問項目を「多かった取組」として取り上げた。そして、「まったくか，ほとんどない」の回答割合が最も大きかった質問項目を「少なかった取組」として取り上げた。

全校種に共通して多かった取組は、「（１）インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。」であった。小学校及び中学校で少なかった取組は、「（６）コンピュータを使ってプログラミングをする。」であった。高等学校で少なかった取組は、「（２）学校図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。」であった。

児童生徒の学校における情報活用能力育成に関する各種取組頻度と得点との関係では、全校種とも、いずれの質問項目も相関係数の大きさが 0.2 を超えなかった。

2．令和３年度調査結果との比較

図表 3-1-4 児童生徒質問調査の問３「学校での情報活用能力育成に関する各種取組頻度」（令和３年度調査結果との比較）
（令和６年度調査　小学校：4422 人、中学校：4810 人、高等学校：4938 人）
（令和３年度調査　小学校：4461 人、中学校：4816 人、高等学校：4812 人）

（回答割合）

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点			
		R6		ほぼ毎日／週３回以上	週１～２回以上	月１回以上	月１回未満／まったくか、ほとんどない
		R3		毎日／ほぼ毎日	週に１～２回	月に１～２回	まったくか、ほとんどない
小	（1）	R6	**インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。**	**54.0%**	**27.1%**	**8.3%**	**10.5%**
		R3	インターネットを使って情報を収集する。	22.7%	38.6%	21.6%	17.1%
	（2）	R6	**学校図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。**	**13.3%**	**21.4%**	**16.1%**	**49.2%**
		R3	学校図書館で情報を収集する。	2.3%	13.7%	30.7%	53.3%
	（3）	R6	**コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。**	**29.4%**	**25.4%**	**18.7%**	**26.5%**
		R3	コンピュータを使って文章を作成する。	7.5%	21.6%	34.4%	36.5%
	（4）	R6	**コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。**	**14.5%**	**20.9%**	**20.4%**	**44.2%**
		R3	コンピュータを使って図や表に情報をまとめる。	2.7%	12.7%	30.1%	54.5%
	（5）	R6	**コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。**	**8.8%**	**14.8%**	**25.7%**	**50.8%**
		R3		3.7%	13.7%	37.2%	45.3%
	（6）	R6	**コンピュータを使ってプログラミングをする。**	**9.2%**	**11.6%**	**13.5%**	**65.7%**
		R3	コンピュータを使ってプログラムを作成する。	3.5%	8.2%	22.0%	66.3%
	（7）	R6	**自分で学んだことや、学んだ成果を残し、振り返るためにコンピュータを使う（授業の感想を書く、ポートフォリオに保存するなど）。**	**17.4%**	**19.8%**	**17.2%**	**45.7%**
		R3	学んだことや学んだ成果を記録するためにコンピュータを使う。	3.7%	10.9%	21.4%	64.0%
	（8）	R6	**自分が調べたことや考えたことを他の人に共有したり、他の人のものを参考にしたりするためにコンピュータを使う（クラウド上にデータを保存するなど）。**	**15.7%**	**20.9%**	**18.2%**	**45.3%**
		R3	調べたことや考えたことを共有するためにコンピュータを使う。	6.8%	18.2%	32.5%	42.5%
	（9）	R6	**他の人が調べたことや考えたことを参考に、自分の学習を進めるためにコンピュータを使う。**	**18.2%**	**23.2%**	**19.8%**	**38.7%**
		R3	—	—	—	—	—
	（10）	R6	**コンピュータを使って一つのものを他の人と協力して編集しながら作成する（共同編集するなど）。**	**11.3%**	**16.4%**	**21.8%**	**50.5%**
		R3	—	—	—	—	—
	（11）	R6	**コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。**	**14.5%**	**22.1%**	**19.6%**	**43.8%**
		R3	コンピュータを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。	7.4%	20.2%	34.0%	38.3%
	（12）	R6	**コンピュータやスマートフォンなどを使ってメッセージやコメントのやり取りをする（チャットを含む）。**	**36.3%**	**9.5%**	**6.2%**	**47.9%**
		R3	—	—	—	—	—

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点			
		R6		ほぼ毎日／週３回以上	週１～２回以上	月１回以上	月１回未満／まったくか、ほとんどない
		R3		毎日／ほぼ毎日	週に１～２回	月に１～２回	まったくか、ほとんどない
中	（1）	R6	**インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。**	**60.0%**	**24.3%**	**8.4%**	**7.3%**
		R3	インターネットを使って情報を収集する。	26.9%	39.0%	22.5%	11.5%
	（2）	R6	**学校図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。**	**5.5%**	**6.6%**	**9.3%**	**78.5%**
		R3	学校図書館で情報を収集する。	1.0%	3.4%	13.4%	82.2%
	（3）	R6	**コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。**	**25.6%**	**23.3%**	**19.6%**	**31.4%**
		R3	コンピュータを使って文章を作成する。	8.3%	19.0%	36.9%	35.8%
	（4）	R6	**コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。**	**9.4%**	**14.1%**	**19.8%**	**56.7%**
		R3	コンピュータを使って図や表に情報をまとめる。	2.1%	9.2%	27.5%	61.2%
	（5）	R6	**コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。**	**3.6%**	**9.3%**	**29.2%**	**57.9%**
		R3		1.0%	7.2%	45.5%	46.3%
	（6）	R6	**コンピュータを使ってプログラミングをする。**	**2.4%**	**4.4%**	**6.8%**	**86.3%**
		R3	コンピュータを使ってプログラムを作成する。	0.8%	5.1%	16.7%	77.5%
	（7）	R6	**自分で学んだことや、学んだ成果を残し、振り返るためにコンピュータを使う（授業の感想を書く、ポートフォリオに保存するなど）。**	**16.5%**	**18.1%**	**18.0%**	**47.4%**
		R3	学んだことや学んだ成果を記録するためにコンピュータを使う。	5.1%	11.7%	19.0%	64.2%
	（8）	R6	**自分が調べたことや考えたことを他の人に共有したり、他の人のものを参考にしたりするためにコンピュータを使う（クラウド上にデータを保存するなど）。**	**12.1%**	**16.7%**	**21.0%**	**50.2%**
		R3	調べたことや考えたことを共有するためにコンピュータを使う。	7.8%	19.1%	31.0%	42.0%
	（9）	R6	**他の人が調べたことや考えたことを参考に、自分の学習を進めるためにコンピュータを使う。**	**12.8%**	**19.7%**	**20.0%**	**47.5%**
		R3	—	—	—	—	—
	（10）	R6	**コンピュータを使って一つのものを他の人と協力して編集しながら作成する（共同編集するなど）。**	**4.9%**	**11.1%**	**21.6%**	**62.4%**
		R3	—	—	—	—	—
	（11）	R6	**コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。**	**11.8%**	**14.7%**	**18.3%**	**55.2%**
		R3	コンピュータを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。	4.6%	13.7%	28.2%	53.6%
	（12）	R6	**コンピュータやスマートフォンなどを使ってメッセージやコメントのやり取りをする（チャットを含む）。**	**50.4%**	**4.7%**	**3.2%**	**41.8%**
		R3	—	—	—	—	—

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点			
		R6		ほぼ毎日／週３回以上	週１～２回以上	月１回以上	月１回未満／まったくか、ほとんどない
		R3		毎日／ほぼ毎日	週に１～２回	月に１～２回	まったくか、ほとんどない
高	（1）	R6	**インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。**	**76.2%**	**14.6%**	**3.6%**	**5.6%**
		R3	インターネットを使って情報を収集する。	37.1%	24.3%	16.6%	22.0%
	（2）	R6	**学校図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。**	**2.1%**	**2.3%**	**4.3%**	**91.3%**
		R3	学校図書館で情報を収集する。	1.0%	2.2%	8.9%	87.9%
	（3）	R6	**コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。**	**28.6%**	**21.4%**	**16.0%**	**33.9%**
		R3	コンピュータを使って文章を作成する。	7.6%	18.0%	24.5%	49.9%
	（4）	R6	**コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。**	**9.3%**	**13.2%**	**15.5%**	**62.1%**
		R3	コンピュータを使って図や表に情報をまとめる。	1.5%	11.8%	18.3%	68.4%
	（5）	R6	**コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。**	**2.3%**	**9.3%**	**22.6%**	**65.7%**
		R3		0.7%	7.3%	26.5%	65.6%
	（6）	R6	**コンピュータを使ってプログラミングをする。**	**2.7%**	**6.9%**	**6.3%**	**84.1%**
		R3	コンピュータを使ってプログラムを作成する。	0.8%	4.8%	7.8%	86.6%
	（7）	R6	**自分で学んだことや、学んだ成果を残し、振り返るためにコンピュータを使う（授業の感想を書く、ポートフォリオに保存するなど）。**	**11.8%**	**16.8%**	**17.2%**	**54.1%**
		R3	学んだことや学んだ成果を記録するためにコンピュータを使う。	3.5%	7.6%	16.1%	72.7%
	（8）	R6	**自分が調べたことや考えたことを他の人に共有したり、他の人のものを参考にしたりするためにコンピュータを使う（クラウド上にデータを保存するなど）。**	**12.6%**	**12.9%**	**15.5%**	**59.0%**
		R3	調べたことや考えたことを共有するためにコンピュータを使う。	5.3%	11.2%	19.0%	64.5%
	（9）	R6	**他の人が調べたことや考えたことを参考に、自分の学習を進めるためにコンピュータを使う。**	**14.6%**	**14.9%**	**15.1%**	**55.3%**
		R3	—	—	—	—	—
	（10）	R6	**コンピュータを使って一つのものを他の人と協力して編集しながら作成する（共同編集するなど）。**	**4.1%**	**10.8%**	**17.0%**	**68.1%**
		R3	—	—	—	—	—
	（11）	R6	**コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。**	**17.5%**	**16.5%**	**15.3%**	**50.6%**
		R3	コンピュータを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。	4.5%	9.5%	13.2%	72.8%
	（12）	R6	**コンピュータやスマートフォンなどを使ってメッセージやコメントのやり取りをする（チャットを含む）。**	**71.8%**	**5.0%**	**2.7%**	**20.5%**
		R3	—	—	—	—	—

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		R6		ほぼ毎日／週３回以上	週１～２回以上	月１回以上	月１回未満／まったくか、ほとんどない	
		R3		毎日／ほぼ毎日	週に１～２回	月に１～２回	まったくか、ほとんどない	
小	（1）	R6	**インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。**	**424**	**428**	**437**	**400**	**0.05**
		R3	インターネットを使って情報を収集する。	428	433	417	399	0.13
	（2）	R6	**学校図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。**	**421**	**422**	**433**	**422**	**0.01**
		R3	学校図書館で情報を収集する。	425	427	429	418	0.06
	（3）	R6	**コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。**	**431**	**429**	**431**	**409**	**0.11**
		R3	コンピュータを使って文章を作成する。	427	428	427	414	0.07
	（4）	R6	**コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。**	**416**	**421**	**439**	**423**	**-0.01**
		R3	コンピュータを使って図や表に情報をまとめる。	405	425	423	423	-0.02
	（5）	R6	**コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。**	**415**	**416**	**438**	**425**	**0.00**
		R3		422	425	431	415	0.07
	（6）	R6	**コンピュータを使ってプログラミングをする。**	**406**	**403**	**426**	**430**	**-0.13**
		R3	コンピュータを使ってプログラムを作成する。	421	418	418	425	-0.04
	（7）	R6	**自分で学んだことや、学んだ成果を残し、振り返るためにコンピュータを使う（授業の感想を書く、ポートフォリオに保存するなど）。**	**422**	**427**	**430**	**424**	**0.00**
		R3	学んだことや学んだ成果を記録するためにコンピュータを使う。	423	422	416	425	-0.03
	（8）	R6	**自分が調べたことや考えたことを他の人に共有したり、他の人のものを参考にしたりするためにコンピュータを使う（クラウド上にデータを保存するなど）。**	**421**	**424**	**434**	**423**	**0.01**
		R3	調べたことや考えたことを共有するためにコンピュータを使う。	423	427	428	417	0.05
	（9）	R6	**他の人が調べたことや考えたことを参考に、自分の学習を進めるためにコンピュータを使う。**	**418**	**426**	**433**	**421**	**0.00**
		R3	—	—	—	—	—	—
	（10）	R6	**コンピュータを使って一つのものを他の人と協力して編集しながら作成する（共同編集するなど）。**	**408**	**421**	**432**	**428**	**-0.05**
		R3	—	—	—	—	—	—
	（11）	R6	**コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。**	**413**	**423**	**439**	**424**	**-0.03**
		R3	コンピュータを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。	421	425	429	416	0.04
	（12）	R6	**コンピュータやスマートフォンなどを使ってメッセージやコメントのやり取りをする（チャットを含む）。**	**410**	**416**	**421**	**438**	**-0.19**
		R3	—	—	—	—	—	—

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		R6		ほぼ毎日／週３回以上	週１～２回以上	月１回以上	月１回未満／まったくか、ほとんどない	
		R3		毎日／ほぼ毎日	週に１～２回	月に１～２回	まったくか、ほとんどない	
中	（1）	R6	**インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。**	**501**	**508**	**517**	**488**	**-0.01**
		R3	インターネットを使って情報を収集する。	512	513	511	498	0.03
	（2）	R6	**学校図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。**	**492**	**507**	**510**	**502**	**0.01**
		R3	学校図書館で情報を収集する。	507	515	506	511	-0.02
	（3）	R6	**コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。**	**511**	**510**	**510**	**491**	**0.10**
		R3	コンピュータを使って文章を作成する。	521	521	516	498	0.12
	（4）	R6	**コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。**	**484**	**501**	**519**	**504**	**-0.02**
		R3	コンピュータを使って図や表に情報をまとめる。	513	513	513	509	0.02
	（5）	R6	**コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。**	**483**	**504**	**516**	**500**	**0.06**
		R3		496	519	516	505	0.06
	（6）	R6	**コンピュータを使ってプログラミングをする。**	**467**	**488**	**484**	**509**	**-0.13**
		R3	コンピュータを使ってプログラムを作成する。	500	508	502	513	-0.06
	（7）	R6	**自分で学んだことや、学んだ成果を残し、振り返るためにコンピュータを使う（授業の感想を書く、ポートフォリオに保存するなど）。**	**501**	**510**	**512**	**502**	**0.03**
		R3	学んだことや学んだ成果を記録するためにコンピュータを使う。	529	521	510	508	0.08
	（8）	R6	**自分が調べたことや考えたことを他の人に共有したり、他の人のものを参考にしたりするためにコンピュータを使う（クラウド上にデータを保存するなど）。**	**488**	**510**	**516**	**503**	**-0.01**
		R3	調べたことや考えたことを共有するためにコンピュータを使う。	524	517	514	503	0.09
	（9）	R6	**他の人が調べたことや考えたことを参考に、自分の学習を進めるためにコンピュータを使う。**	**496**	**504**	**519**	**501**	**0.01**
		R3	—	—	—	—	—	—
	（10）	R6	**コンピュータを使って一つのものを他の人と協力して編集しながら作成する（共同編集するなど）。**	**471**	**501**	**515**	**506**	**-0.02**
		R3	—	—	—	—	—	—
	（11）	R6	**コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。**	**500**	**499**	**514**	**504**	**0.00**
		R3	コンピュータを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。	517	510	516	507	0.04
	（12）	R6	**コンピュータやスマートフォンなどを使ってメッセージやコメントのやり取りをする（チャットを含む）。**	**492**	**493**	**501**	**519**	**-0.18**
		R3	—	—	—	—	—	—

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		R6		ほぼ毎日／週３回以上	週１～２回以上	月１回以上	月１回未満／まったくか、ほとんどない	
		R3		毎日／ほぼ毎日	週に１～２回	月に１～２回	まったくか、ほとんどない	
高	（1）	R6	**インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。**	**563**	**553**	**559**	**537**	**0.08**
		R3	インターネットを使って情報を収集する。	566	568	554	552	0.07
	（2）	R6	**学校図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。**	**509**	**545**	**578**	**562**	**-0.04**
		R3	学校図書館で情報を収集する。	506	570	569	561	-0.03
	（3）	R6	**コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。**	**569**	**571**	**573**	**542**	**0.13**
		R3	コンピュータを使って文章を作成する。	559	568	574	553	0.05
	（4）	R6	**コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。**	**547**	**559**	**585**	**558**	**0.03**
		R3	コンピュータを使って図や表に情報をまとめる。	544	554	575	559	0.00
	（5）	R6	**コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。**	**508**	**565**	**579**	**557**	**0.08**
		R3		497	560	573	557	0.03
	（6）	R6	**コンピュータを使ってプログラミングをする。**	**517**	**565**	**571**	**562**	**-0.02**
		R3	コンピュータを使ってプログラムを作成する。	538	552	544	564	-0.10
	（7）	R6	**自分で学んだことや、学んだ成果を残し、振り返るためにコンピュータを使う（授業の感想を書く、ポートフォリオに保存するなど）。**	**556**	**566**	**577**	**556**	**0.05**
		R3	学んだことや学んだ成果を記録するためにコンピュータを使う。	567	567	571	558	0.05
	（8）	R6	**自分が調べたことや考えたことを他の人に共有したり、他の人のものを参考にしたりするためにコンピュータを使う（クラウド上にデータを保存するなど）。**	**565**	**563**	**584**	**555**	**0.08**
		R3	調べたことや考えたことを共有するためにコンピュータを使う。	561	563	569	559	0.03
	（9）	R6	**他の人が調べたことや考えたことを参考に、自分の学習を進めるためにコンピュータを使う。**	**565**	**569**	**580**	**553**	**0.09**
		R3	—	—	—	—	—	—
	（10）	R6	**コンピュータを使って一つのものを他の人と協力して編集しながら作成する（共同編集するなど）。**	**527**	**576**	**585**	**556**	**0.10**
		R3	—	—	—	—	—	—
	（11）	R6	**コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。**	**579**	**568**	**567**	**552**	**0.13**
		R3	コンピュータを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。	586	567	564	559	0.08
	（12）	R6	**コンピュータやスマートフォンなどを使ってメッセージやコメントのやり取りをする（チャットを含む）。**	**560**	**559**	**563**	**561**	**0.00**
		R3	—	—	—	—	—	—

※選択肢の得点化……

令和６年度調査：「ほぼ毎日」６点、「週３回以上」５点、「週１～２回以上」４点、「月１回以上」３点、「月１回未満」２点、「まったくか、ほとんどない」１点、「わからない」得点なし

令和３年度調査：「毎日」５点、「ほぼ毎日」４点、「週に１～２回」３点、「月に１～２回」２点、「まったくか、ほとんどない」１点

令和３年度調査から令和６年度調査で「月１回未満／まったくか、ほとんどない」（「わからない」は除外している）以外の回答割合の和が最も増加したのは、小学校及び中学校では「（７）自分で学んだことや、学んだ成果を残し、振り返るためにコンピュータを使う（授業の感想を書く、ポートフォリオに保存するなど）。」、高等学校では「(11) コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。」であった。「月１回未満／まったくか、ほとんどない」の割合が最も増加したのは、小学校では「(11) コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。」、中学校では「（５）コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。」、高等学校では「（２）学校図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。」であった。

④　問４　学校外での情報活用能力育成に関する各種取組頻度

児童生徒質問調査の問４では、調査に参加した児童生徒に対して、学校外での情報活用能力育成に関する各種取組頻度を尋ねた。以下では各選択肢の回答割合と平均得点、選択肢と得点との相関係数の分析結果を示す（図表 3-1-5）。なお、問４は令和３年度調査から継続して出題した質問項目を含むため、比較可能な質問項目については令和３年度調査との比較のための図表を掲載した（図表 3-1-6）。ただし、選択肢が令和３年度調査と令和６年度調査で異なるため、回答割合と各選択肢における平均得点は選択肢を比較できるように併合するなどして、割合を再算出した上で比較した。一方、相関係数を求める際は選択肢を併合しないで各選択肢に与えた得点をそのまま用いた。

あなたは学校以外の場所で、次のようなことをどのくらいおこなっていますか。以下の（１）～（９）それぞれについて、当てはまるものを１つ選んでください。

１．令和６年度調査結果

図表 3-1-5 児童生徒質問調査の問４「学校外での情報活用能力育成に関する各種取組頻度」
（小学校：4422 人、中学校：4810 人、高等学校：4938 人）

（回答割合）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点						
		ほぼ毎日	週３回以上	週１～２回以上	月１回以上	月１回未満	まったくか、ほとんどない	わからない
小	（１）インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。	30.5%	18.9%	20.7%	8.7%	4.0%	12.8%	4.4%
	（２）図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。	4.2%	5.6%	12.6%	13.6%	10.8%	46.5%	6.7%
	（３）コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。	11.1%	8.7%	15.2%	12.1%	8.3%	35.6%	8.9%
	（４）コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。	3.0%	4.9%	10.0%	11.2%	9.4%	49.3%	12.2%
	（５）コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。	2.2%	3.8%	8.1%	12.3%	11.9%	51.6%	10.0%
	（６）コンピュータを使ってプログラミングをする。	4.1%	4.6%	9.8%	8.6%	9.2%	55.3%	8.5%
	（７）コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。	5.9%	6.3%	13.4%	12.2%	9.8%	43.8%	8.6%
	（８）SNS で情報を発信する。	4.0%	3.6%	4.2%	3.1%	3.0%	70.1%	11.9%
	（９）E メール（電子メール）を使う。	14.9%	7.3%	6.7%	3.4%	2.7%	43.2%	21.9%

校種	内容	選択肢ごとの平均得点						
		ほぼ毎日	週３回以上	週１～２回以上	月１回以上	月１回未満	まったくか、ほとんどない	わからない
中	（１）インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。	58.1%	17.1%	11.7%	3.7%	1.6%	6.1%	1.7%
	（２）図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。	1.9%	2.3%	4.9%	7.7%	8.3%	71.0%	3.8%
	（３）コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。	19.4%	8.9%	10.6%	8.8%	6.4%	40.9%	4.9%
	（４）コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。	3.8%	3.1%	6.4%	8.2%	8.7%	64.9%	4.8%
	（５）コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。	1.6%	1.1%	3.7%	9.5%	10.5%	69.1%	4.5%
	（６）コンピュータを使ってプログラミングをする。	1.7%	1.1%	3.2%	4.4%	6.2%	78.6%	4.7%
	（７）コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。	5.7%	5.6%	11.2%	11.2%	10.9%	51.6%	3.8%
	（８）SNS で情報を発信する。	12.7%	8.2%	9.3%	9.6%	7.1%	47.4%	5.7%
	（９）E メール（電子メール）を使う。	23.6%	6.9%	6.5%	5.2%	4.7%	38.5%	14.5%
高	（１）インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。	75.0%	11.0%	6.2%	1.5%	0.6%	4.3%	1.3%
	（２）図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。	1.0%	1.3%	2.1%	4.3%	6.3%	82.5%	2.5%
	（３）コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。	20.8%	7.9%	10.3%	9.3%	7.5%	41.3%	2.9%
	（４）コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。	3.7%	2.7%	5.9%	7.9%	9.6%	67.0%	3.1%
	（５）コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。	1.1%	1.2%	3.5%	9.0%	15.0%	67.9%	2.3%
	（６）コンピュータを使ってプログラミングをする。	1.0%	1.2%	3.1%	2.8%	5.5%	83.4%	2.9%
	（７）コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。	9.7%	8.6%	14.3%	12.3%	8.5%	44.0%	2.7%
	（８）SNS で情報を発信する。	17.0%	10.0%	12.0%	13.4%	9.1%	35.2%	3.4%
	（９）E メール（電子メール）を使う。	17.7%	7.0%	8.6%	9.4%	7.1%	42.7%	7.4%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点							相関係数
		ほぼ毎日	週 3 回以上	週 1～2 回以上	月 1 回以上	月 1 回未満	まったくか、ほとんどない	わからない	
小	（1）インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。	422	430	427	429	418	412	370	0.04
	（2）図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。	417	421	413	434	430	423	390	-0.03
	（3）コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。	428	421	417	430	431	426	386	-0.02
	（4）コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。	406	406	408	430	424	433	387	-0.14
	（5）コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。	398	403	401	424	425	433	382	-0.16
	（6）コンピュータを使ってプログラミングをする。	410	402	407	425	430	429	390	-0.13
	（7）コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。	420	413	417	427	432	428	383	-0.07
	（8）SNS で情報を発信する。	403	410	399	420	417	431	384	-0.16
	（9）E メール（電子メール）を使う。	422	421	419	428	435	430	403	-0.06
中	（1）インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。	507	511	496	486	494	462	409	0.15
	（2）図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。	487	482	507	518	525	501	436	0.01
	（3）コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。	514	516	500	517	508	495	441	0.10
	（4）コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。	485	490	493	509	518	504	442	-0.06
	（5）コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。	475	463	485	505	510	506	435	-0.08
	（6）コンピュータを使ってプログラミングをする。	484	499	491	498	515	505	427	-0.06
	（7）コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。	509	513	501	511	515	500	417	0.04
	（8）SNS で情報を発信する。	495	492	492	507	505	510	456	-0.09
	（9）E メール（電子メール）を使う。	503	512	502	517	512	504	477	0.00

校種	内容	選択肢ごとの平均得点							相関係数
		ほぼ毎日	週３回以上	週1～2回以上	月１回以上	月１回未満	まったくか、ほとんどない	わからない	
高	（1）インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。	570	543	534	508	507	488	430	0.29
	（2）図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。	476	503	532	574	601	559	477	-0.10
	（3）コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。	571	564	570	587	587	542	473	0.12
	（4）コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。	548	542	554	592	594	555	468	0.02
	（5）コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。	483	492	543	577	583	557	456	-0.04
	（6）コンピュータを使ってプログラミングをする。	510	515	540	555	584	562	460	-0.11
	（7）コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。	582	585	574	576	570	541	469	0.19
	（8）SNS で情報を発信する。	557	551	553	571	573	561	490	-0.03
	（9）E メール（電子メール）を使う。	562	553	572	578	576	555	517	0.03

※選択肢の得点化……「ほぼ毎日」６点、「週３回以上」５点、「週１～２回以上」４点、「月１回以上」３点、「月１回未満」２点、「まったくか、ほとんどない」１点、「わからない」得点なし

この問では、質問項目が多数存在するため、取組頻度が最も多い取組と、最も少ない取組に着目した。「まったくか，ほとんどない」（「わからない」は除外している）以外の回答割合を足して比較し、割合の和が最も大きかった質問項目を「多かった取組」として取り上げた。そして、「まったくか，ほとんどない」の回答割合が最も大きかった質問項目を「少なかった取組」として取り上げた。全校種に共通して多かった取組は、「（１）インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。」であった。小学校で少なかった取組は、「（８）SNS で情報を発信する。」であった。中学校及び高等学校で少なかった取組は、「（６）コンピュータを使ってプログラミングをする。」であった。

児童生徒の学校における情報活用能力育成に関する各種取組頻度と得点との関係では、高等学校において、「（１）インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。」について、0.2 以上のごく弱い正の相関がみられた。

2．令和 3 年度調査結果との比較

図表 3-1-6 児童生徒質問調査の問 4「学校外での情報活用能力育成に関する各種取組頻度」（令和 3 年度調査結果との比較）

（令和 6 年度調査　小学校：4422 人、中学校：4810 人、高等学校：4938 人）

（令和 3 年度調査　小学校：4456 人、中学校：4814 人、高等学校：4811 人）

（回答割合）

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点			
		R6		ほぼ毎日／週 3 回以上	週 1 ～ 2 回以上	月 1 回以上	月 1 回未満／まったくか、ほとんどない
		R3		毎日／ほぼ毎日	週に 1 ～ 2 回	月に 1 ～ 2 回	まったくか、ほとんどない
小	（1）	R6	**インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。**	**51.6%**	**21.7%**	**9.1%**	**17.6%**
		R3	インターネットを使って情報を収集する。	27.6%	24.5%	21.1%	26.9%
	（2）	R6	**図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。**	**10.5%**	**13.5%**	**14.5%**	**61.4%**
		R3	図書館・書店で情報を収集する。	2.4%	8.3%	26.0%	63.2%
	（3）	R6	**コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。**	**21.7%**	**16.7%**	**13.3%**	**48.2%**
		R3	コンピュータを使って文章を作成する。	6.6%	11.2%	19.9%	62.3%
	（4）	R6	**コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。**	**9.0%**	**11.4%**	**12.7%**	**66.9%**
		R3	コンピュータを使って図や表に情報をまとめる。	1.9%	6.3%	15.1%	76.7%
	（5）	R6	**コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。**	**6.7%**	**9.0%**	**13.7%**	**70.6%**
		R3		2.9%	7.2%	18.4%	71.5%
	（6）	R6	**コンピュータを使ってプログラミングをする。**	**9.5%**	**10.7%**	**9.4%**	**70.4%**
		R3	コンピュータを使ってプログラムを作成する。	3.5%	6.7%	14.9%	74.9%
	（7）	R6	**コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。**	**13.3%**	**14.7%**	**13.3%**	**58.7%**
		R3	コンピュータを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。	6.4%	12.3%	22.2%	59.1%
	（8）	R6	**SNS で情報を発信する。**	**8.6%**	**4.8%**	**3.5%**	**83.1%**
		R3		3.3%	3.3%	4.4%	88.9%
	（9）	R6	**E メール（電子メール）を使う。**	**28.4%**	**8.6%**	**4.3%**	**58.7%**
		R3	E メールを使う。	9.7%	6.5%	6.4%	77.5%

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点			
		R6		ほぼ毎日／週３回以上	週１～２回以上	月１回以上	月１回未満／まったくか、ほとんどない
		R3		毎日／ほぼ毎日	週に１～２回	月に１～２回	まったくか、ほとんどない
中	（1）	R6	**インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。**	**76.6%**	**12.0%**	**3.7%**	**7.8%**
		R3	インターネットを使って情報を収集する。	66.3%	17.7%	7.1%	9.0%
	（2）	R6	**図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。**	**4.4%**	**5.1%**	**8.0%**	**82.5%**
		R3	図書館・書店で情報を収集する。	1.9%	6.2%	22.2%	69.7%
	（3）	R6	**コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。**	**29.8%**	**11.2%**	**9.3%**	**49.8%**
		R3	コンピュータを使って文章を作成する。	18.9%	9.2%	14.4%	57.5%
	（4）	R6	**コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。**	**7.3%**	**6.7%**	**8.7%**	**77.4%**
		R3	コンピュータを使って図や表に情報をまとめる。	1.9%	3.6%	9.0%	85.5%
	（5）	R6	**コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。**	**2.8%**	**3.9%**	**10.0%**	**83.4%**
		R3		1.1%	2.4%	10.4%	86.2%
	（6）	R6	**コンピュータを使ってプログラミングをする。**	**3.0%**	**3.3%**	**4.6%**	**89.0%**
		R3	コンピュータを使ってプログラムを作成する。	1.7%	2.9%	7.1%	88.3%
	（7）	R6	**コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。**	**11.7%**	**11.7%**	**11.6%**	**65.0%**
		R3	コンピュータを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。	4.9%	9.4%	16.8%	68.9%
	（8）	R6	**SNS で情報を発信する。**	**22.1%**	**9.9%**	**10.2%**	**57.8%**
		R3		17.6%	11.0%	9.9%	61.4%
	（9）	R6	**E メール（電子メール）を使う。**	**35.7%**	**7.6%**	**6.1%**	**50.5%**
		R3	E メールを使う。	12.8%	9.2%	12.0%	66.0%

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点			
		R6		ほぼ毎日／週３回以上	週１～２回以上	月１回以上	月１回未満／まったくか、ほとんどない
		R3		毎日／ほぼ毎日	週に１～２回	月に１～２回	まったくか、ほとんどない
高	（1）	R6	**インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。**	**87.1%**	**6.3%**	**1.6%**	**5.0%**
		R3	インターネットを使って情報を収集する。	76.1%	11.3%	4.7%	8.0%
	（2）	R6	**図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。**	**2.4%**	**2.1%**	**4.4%**	**91.1%**
		R3	図書館・書店で情報を収集する。	1.6%	4.7%	19.7%	74.0%
	（3）	R6	**コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。**	**29.5%**	**10.7%**	**9.6%**	**50.3%**
		R3	コンピュータを使って文章を作成する。	14.7%	8.5%	14.2%	62.6%
	（4）	R6	**コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。**	**6.6%**	**6.1%**	**8.2%**	**79.1%**
		R3	コンピュータを使って図や表に情報をまとめる。	1.9%	3.4%	8.2%	86.5%
	（5）	R6	**コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。**	**2.3%**	**3.6%**	**9.2%**	**84.9%**
		R3		0.9%	2.0%	8.8%	88.3%
	（6）	R6	**コンピュータを使ってプログラミングをする。**	**2.3%**	**3.2%**	**2.9%**	**91.7%**
		R3	コンピュータを使ってプログラムを作成する。	1.3%	1.8%	4.6%	92.3%
	（7）	R6	**コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。**	**18.8%**	**14.6%**	**12.7%**	**53.9%**
		R3	コンピュータを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。	6.3%	10.0%	12.7%	71.0%
	（8）	R6	**SNS で情報を発信する。**	**27.9%**	**12.4%**	**13.9%**	**45.8%**
		R3		26.5%	18.4%	15.7%	39.4%
	（9）	R6	**E メール（電子メール）を使う。**	**26.7%**	**9.3%**	**10.2%**	**53.8%**
		R3	E メールを使う。	10.7%	11.9%	17.7%	59.8%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		R6		ほぼ毎日／週３回以上	週１～２回以上	月１回以上	月１回未満／まったくか、ほとんどない	
		R3		毎日／ほぼ毎日	週に１～２回	月に１～２回	まったくか、ほとんどない	
小	（1）	R6	**インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。**	**425**	**427**	**429**	**413**	**0.04**
		R3	インターネットを使って情報を収集する。	440	434	417	399	0.21
	（2）	R6	**図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。**	**419**	**413**	**434**	**424**	**-0.03**
		R3	図書館・書店で情報を収集する。	425	430	434	417	0.09
	（3）	R6	**コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。**	**424**	**417**	**430**	**427**	**-0.02**
		R3	コンピュータを使って文章を作成する。	433	426	417	423	0.03
	（4）	R6	**コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。**	**406**	**408**	**430**	**431**	**-0.14**
		R3	コンピュータを使って図や表に情報をまとめる。	400	409	412	426	-0.12
	（5）	R6	**コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。**	**401**	**401**	**424**	**432**	**-0.16**
		R3		409	411	417	426	-0.09
	（6）	R6	**コンピュータを使ってプログラミングをする。**	**406**	**407**	**425**	**429**	**-0.13**
		R3	コンピュータを使ってプログラムを作成する。	419	428	418	423	-0.01
	（7）	R6	**コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。**	**416**	**417**	**427**	**429**	**-0.07**
		R3	コンピュータを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。	427	418	422	424	-0.01
	（8）	R6	**SNS で情報を発信する。**	**406**	**399**	**420**	**431**	**-0.16**
		R3		412	404	399	425	-0.11
	（9）	R6	**E メール（電子メール）を使う。**	**421**	**419**	**428**	**430**	**-0.06**
		R3	E メールを使う。	413	426	413	424	-0.06

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		R6		ほぼ毎日／週３回以上	週１～２回以上	月１回以上	月１回未満／まったくか、ほとんどない	
		R3		毎日／ほぼ毎日	週に１～２回	月に１～２回	まったくか、ほとんどない	
中	（1）	R6	**インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。**	**508**	**496**	**486**	**469**	**0.15**
		R3	インターネットを使って情報を収集する。	520	507	482	470	0.20
	（2）	R6	**図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。**	**484**	**507**	**518**	**503**	**0.01**
		R3	図書館・書店で情報を収集する。	511	526	527	504	0.12
	（3）	R6	**コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。**	**515**	**500**	**517**	**496**	**0.10**
		R3	コンピュータを使って文章を作成する。	524	522	521	502	0.14
	（4）	R6	**コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。**	**487**	**493**	**509**	**506**	**-0.06**
		R3	コンピュータを使って図や表に情報をまとめる。	508	503	517	510	0.00
	（5）	R6	**コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。**	**470**	**485**	**505**	**506**	**-0.08**
		R3		498	494	506	512	-0.06
	（6）	R6	**コンピュータを使ってプログラミングをする。**	**490**	**491**	**498**	**506**	**-0.06**
		R3	コンピュータを使ってプログラムを作成する。	508	518	501	511	-0.01
	（7）	R6	**コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。**	**511**	**501**	**511**	**503**	**0.04**
		R3	コンピュータを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。	525	523	513	508	0.08
	（8）	R6	**SNS で情報を発信する。**	**494**	**492**	**507**	**509**	**-0.09**
		R3		514	505	507	512	0.00
	（9）	R6	**E メール（電子メール）を使う。**	**505**	**502**	**517**	**505**	**0.00**
		R3	E メールを使う。	502	510	523	510	-0.03

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		R6		ほぼ毎日／週３回以上	週１～２回以上	月１回以上	月１回未満／まったくか、ほとんどない	
		R3		毎日／ほぼ毎日	週に１～２回	月に１～２回	まったくか、ほとんどない	
高	（1）	R6	**インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。**	**567**	**534**	**508**	**490**	**0.29**
		R3	インターネットを使って情報を収集する。	571	555	522	498	0.27
	（2）	R6	**図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。**	**492**	**532**	**574**	**562**	**-0.10**
		R3	図書館・書店で情報を収集する。	511	574	584	556	0.06
	（3）	R6	**コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。**	**569**	**570**	**587**	**549**	**0.12**
		R3	コンピュータを使って文章を作成する。	571	574	579	553	0.10
	（4）	R6	**コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。**	**545**	**554**	**592**	**560**	**0.02**
		R3	コンピュータを使って図や表に情報をまとめる。	514	565	579	561	-0.04
	（5）	R6	**コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。**	**487**	**543**	**577**	**562**	**-0.04**
		R3		469	539	572	562	-0.11
	（6）	R6	**コンピュータを使ってプログラミングをする。**	**513**	**540**	**555**	**564**	**-0.11**
		R3	コンピュータを使ってプログラムを作成する。	520	560	545	563	-0.12
	（7）	R6	**コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。**	**584**	**574**	**576**	**546**	**0.19**
		R3	コンピュータを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。	585	585	569	555	0.15
	（8）	R6	**SNS で情報を発信する。**	**555**	**553**	**571**	**563**	**-0.03**
		R3		563	566	558	560	0.02
	（9）	R6	**E メール（電子メール）を使う。**	**559**	**572**	**578**	**558**	**0.03**
		R3	E メールを使う。	560	571	570	557	0.03

※選択肢の得点化……

令和６年度調査：「ほぼ毎日」６点、「週３回以上」５点、「週１～２回以上」４点、「月１回以上」３点、「月１回未満」２点、「まったくか、ほとんどない」１点、「わからない」得点なし

令和３年度調査：「毎日」５点、「ほぼ毎日」４点、「週に１～２回」３点、「月に１～２回」２点、「まったくか、ほとんどない」１点

令和３年度調査から令和６年度調査で「月１回未満／まったくか、ほとんどない」（「わからない」は除外している）以外の回答割合の和が最も増加したのは、小学校及び中学校では「（９）E メール（電子メール）を使う。」、高等学校では「（７）コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。」であった。「月１回未満／まったくか、ほとんどない」の割合が最も増加したのは、中学校及び高等学校では「（２）図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。」であった。小学校で「月１回未満／まったくか、ほとんどない」の割合が増加した質問項目はみられなかった。

⑤　問 5　情報活用能力における『主体的に学習に取り組む態度』及びファクトチェックの意識

児童生徒質問調査の問 5 では、調査に参加した児童生徒に対して、情報活用能力における『主体的に学習に取り組む態度』及びファクトチェックの意識を尋ねた。以下では各選択肢の回答割合と平均得点、選択肢と得点との相関係数の分析結果を示す（図表 3-1-7）。なお、問 5 は令和 3 年度調査から継続して出題した質問項目を含むため、比較可能な質問項目については令和 3 年度調査との比較のための図表を掲載した（図表 3-1-8）。

> あなたは次のようなことをどのくらい意識していますか。以下の（1）～（16）それぞれについて、当てはまるものを 1 つ選んでください。

1．令和 6 年度調査結果

図表 3-1-7 児童生徒質問調査の問 5 「情報活用能力における『主体的に学習に取り組む態度』及びファクトチェックの意識」
（小学校：4422 人、中学校：4810 人、高等学校：4938 人）

（回答割合）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点			
		意識している	どちらかといえば、意識している	どちらかといえば、意識していない	意識していない
小	（1）集めた情報のつながり（関係）を考えて理解しようとする。	27.0%	50.6%	16.4%	5.9%
	（2）情報をいろいろな面から見たり考えたりしようとする。	30.4%	43.6%	19.7%	6.3%
	（3）コンピュータやインターネットをどのように使うのか計画を立てて取り組もうとする。	28.9%	39.8%	21.7%	9.6%
	（4）集めた情報を用いて新しい考えをつくろうとする。	25.0%	39.5%	24.7%	10.8%
	（5）コンピュータやインターネットをどのように使ったのかを振り返り、良かった点や改善点を見出そうとする。	19.3%	35.0%	29.4%	16.4%
	（6）自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。	51.2%	35.7%	9.0%	4.1%
	（7）インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。	72.0%	23.4%	3.3%	1.4%
	（8）ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。	75.0%	19.2%	3.8%	1.9%
	（9）コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。	77.6%	16.4%	4.2%	1.8%
	（10）インターネットで発信した情報に責任があることを考えて行動しようとする。	64.7%	27.2%	5.3%	2.8%
	（11）コンピュータやインターネットの利用によって健康に影響があることを考えて行動しようとする。	40.0%	37.9%	15.9%	6.2%
	（12）インターネットは共用のものであるという意識を持って行動しようとする。	52.1%	35.9%	9.0%	3.1%
	（13）コンピュータやインターネットをよりよい生活やよりよい社会づくりに生かそうとする。	30.8%	40.9%	21.2%	7.1%

校種	内容	選択肢ごとの平均得点			
		意識している	どちらかといえば、意識している	どちらかといえば、意識していない	意識していない
小	（14）検索サイトや SNS 上で見た情報の発信元（誰が発信しているか）を確認する。	31.6%	33.2%	20.2%	15.1%
	（15）検索サイトや SNS 上で見た情報の発信時期（いつ発信されたか）を確認する。	31.8%	31.6%	20.7%	15.9%
	（16）インターネットで情報を検索したときには、いろいろな Web サイトや他のメディア（本、テレビ、新聞など）の情報と比較するなどして、検索した情報が正しいかを確認する。	30.3%	35.3%	21.6%	12.7%
中	（1）集めた情報のつながり（関係）を考えて理解しようとする。	28.2%	47.7%	16.4%	7.8%
	（2）情報をいろいろな面から見たり考えたりしようとする。	33.4%	42.3%	17.3%	7.0%
	（3）コンピュータやインターネットをどのように使うのか計画を立てて取り組もうとする。	20.8%	37.4%	27.4%	14.4%
	（4）集めた情報を用いて新しい考えをつくろうとする。	22.5%	38.7%	25.9%	12.8%
	（5）コンピュータやインターネットをどのように使ったのかを振り返り、良かった点や改善点を見出そうとする。	14.9%	29.0%	30.1%	25.9%
	（6）自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。	51.1%	36.2%	8.3%	4.4%
	（7）インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。	74.1%	22.0%	2.2%	1.7%
	（8）ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。	77.7%	17.9%	2.8%	1.5%
	（9）コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。	78.4%	17.2%	2.6%	1.8%
	（10）インターネットで発信した情報に責任があることを考えて行動しようとする。	69.4%	25.0%	3.5%	2.1%
	（11）コンピュータやインターネットの利用によって健康に影響があることを考えて行動しようとする。	37.6%	36.9%	17.8%	7.7%
	（12）インターネットは共用のものであるという意識を持って行動しようとする。	51.1%	34.5%	10.2%	4.2%
	（13）コンピュータやインターネットをよりよい生活やよりよい社会づくりに生かそうとする。	33.1%	38.5%	20.5%	8.0%
	（14）検索サイトや SNS 上で見た情報の発信元（誰が発信しているか）を確認する。	38.9%	35.1%	17.1%	8.9%
	（15）検索サイトや SNS 上で見た情報の発信時期（いつ発信されたか）を確認する。	39.2%	36.2%	15.7%	8.9%

校種	内容	選択肢ごとの平均得点			
		意識している	どちらかといえば、意識している	どちらかといえば、意識していない	意識していない
中	（16）インターネットで情報を検索したときには、いろいろな Web サイトや他のメディア（本、テレビ、新聞など）の情報と比較するなどして、検索した情報が正しいかを確認する。	29.5%	36.6%	22.0%	11.9%
高	（1）集めた情報のつながり（関係）を考えて理解しようとする。	33.0%	45.5%	13.9%	7.6%
	（2）情報をいろいろな面から見たり考えたりしようとする。	40.7%	41.2%	11.9%	6.3%
	（3）コンピュータやインターネットをどのように使うのか計画を立てて取り組もうとする。	18.9%	34.1%	28.5%	18.4%
	（4）集めた情報を用いて新しい考えをつくろうとする。	23.3%	36.1%	26.1%	14.5%
	（5）コンピュータやインターネットをどのように使ったのかを振り返り、良かった点や改善点を見出そうとする。	14.0%	26.3%	29.6%	30.1%
	（6）自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。	51.4%	34.8%	8.0%	5.8%
	（7）インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。	75.0%	21.0%	1.9%	2.1%
	（8）ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。	74.7%	20.6%	2.9%	1.9%
	（9）コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。	77.9%	17.6%	2.6%	1.9%
	（10）インターネットで発信した情報に責任があることを考えて行動しようとする。	72.1%	22.4%	3.2%	2.3%
	（11）コンピュータやインターネットの利用によって健康に影響があることを考えて行動しようとする。	38.4%	36.6%	17.3%	7.7%
	（12）インターネットは共用のものであるという意識を持って行動しようとする。	50.0%	33.7%	11.5%	4.8%
	（13）コンピュータやインターネットをよりよい生活やよりよい社会づくりに生かそうとする。	36.5%	36.8%	17.3%	9.4%
	（14）検索サイトや SNS 上で見た情報の発信元（誰が発信しているか）を確認する。	41.3%	38.1%	14.1%	6.4%
	（15）検索サイトや SNS 上で見た情報の発信時期（いつ発信されたか）を確認する。	44.2%	36.6%	13.2%	6.0%
	（16）インターネットで情報を検索したときには、いろいろな Web サイトや他のメディア（本、テレビ、新聞など）の情報と比較するなどして、検索した情報が正しいかを確認する。	34.5%	39.2%	16.5%	9.8%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		意識している	どちらかといえば、意識している	どちらかといえば、意識していない	意識していない	
小	（1）集めた情報のつながり（関係）を考えて理解しようとする。	425	424	415	402	0.07
	（2）情報をいろいろな面から見たり考えたりしようとする。	430	421	413	411	0.09
	（3）コンピュータやインターネットをどのように使うのか計画を立てて取り組もうとする。	427	421	420	408	0.07
	（4）集めた情報を用いて新しい考えをつくろうとする。	433	422	417	402	0.12
	（5）コンピュータやインターネットをどのように使ったのかを振り返り、良かった点や改善点を見出そうとする。	419	419	423	426	-0.03
	（6）自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。	434	413	399	390	0.20
	（7）インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。	431	403	379	364	0.26
	（8）ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。	432	400	365	353	0.33
	（9）コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。	431	395	369	350	0.34
	（10）インターネットで発信した情報に責任があることを考えて行動しようとする。	430	410	389	387	0.20
	（11）コンピュータやインターネットの利用によって健康に影響があることを考えて行動しようとする。	423	422	422	411	0.03
	（12）インターネットは共用のものであるという意識を持って行動しようとする。	429	417	408	384	0.14
	（13）コンピュータやインターネットをよりよい生活やよりよい社会づくりに生かそうとする。	422	421	423	417	0.01
	（14）検索サイトや SNS 上で見た情報の発信元（誰が発信しているか）を確認する。	426	421	422	411	0.06
	（15）検索サイトや SNS 上で見た情報の発信時期（いつ発信されたか）を確認する。	424	423	421	413	0.05
	（16）インターネットで情報を検索したときには、いろいろな Web サイトや他のメディア（本、テレビ、新聞など）の情報と比較するなどして、検索した情報が正しいかを確認する。	420	422	423	421	-0.01

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		意識している	どちらかといえば、意識している	どちらかといえば、意識していない	意識していない	
中	（1）集めた情報のつながり（関係）を考えて理解しようとする。	508	505	490	478	0.10
	（2）情報をいろいろな面から見たり考えたりしようとする。	516	501	485	469	0.17
	（3）コンピュータやインターネットをどのように使うのか計画を立てて取り組もうとする。	502	504	502	491	0.04
	（4）集めた情報を用いて新しい考えをつくろうとする。	513	507	495	478	0.13
	（5）コンピュータやインターネットをどのように使ったのかを振り返り、良かった点や改善点を見出そうとする。	499	494	507	504	-0.04
	（6）自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。	515	494	474	441	0.24
	（7）インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。	510	486	439	396	0.28
	（8）ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。	509	482	464	392	0.27
	（9）コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。	508	485	471	413	0.24
	（10）インターネットで発信した情報に責任があることを考えて行動しようとする。	509	491	462	409	0.24
	（11）コンピュータやインターネットの利用によって健康に影響があることを考えて行動しようとする。	502	503	503	480	0.04
	（12）インターネットは共用のものであるという意識を持って行動しようとする。	508	495	502	465	0.10
	（13）コンピュータやインターネットをよりよい生活やよりよい社会づくりに生かそうとする。	501	501	506	487	0.02
	（14）検索サイトや SNS 上で見た情報の発信元（誰が発信しているか）を確認する。	506	504	496	480	0.09
	（15）検索サイトや SNS 上で見た情報の発信時期（いつ発信されたか）を確認する。	508	504	489	479	0.11
	（16）インターネットで情報を検索したときには、いろいろな Web サイトや他のメディア（本、テレビ、新聞など）の情報と比較するなどして、検索した情報が正しいかを確認する。	505	500	503	489	0.05

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		意識している	どちらかといえば、意識している	どちらかといえば、意識していない	意識していない	
高	（1）集めた情報のつながり（関係）を考えて理解しようとする。	573	560	542	514	0.17
	（2）情報をいろいろな面から見たり考えたりしようとする。	578	558	524	499	0.25
	（3）コンピュータやインターネットをどのように使うのか計画を立てて取り組もうとする。	557	561	564	546	0.03
	（4）集めた情報を用いて新しい考えをつくろうとする。	568	565	558	528	0.12
	（5）コンピュータやインターネットをどのように使ったのかを振り返り、良かった点や改善点を見出そうとする。	551	554	564	560	-0.04
	（6）自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。	576	552	524	486	0.27
	（7）インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。	569	539	487	451	0.30
	（8）ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。	566	549	488	453	0.25
	（9）コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。	565	546	512	449	0.25
	（10）インターネットで発信した情報に責任があることを考えて行動しようとする。	567	548	510	454	0.25
	（11）コンピュータやインターネットの利用によって健康に影響があることを考えて行動しようとする。	556	562	568	532	0.02
	（12）インターネットは共用のものであるという意識を持って行動しようとする。	563	558	554	523	0.08
	（13）コンピュータやインターネットをよりよい生活やよりよい社会づくりに生かそうとする。	561	557	569	537	0.03
	（14）検索サイトや SNS 上で見た情報の発信元（誰が発信しているか）を確認する。	565	561	552	518	0.11
	（15）検索サイトや SNS 上で見た情報の発信時期（いつ発信されたか）を確認する。	567	557	556	506	0.13
	（16）インターネットで情報を検索したときには、いろいろな Web サイトや他のメディア（本、テレビ、新聞など）の情報と比較するなどして、検索した情報が正しいかを確認する。	561	564	559	527	0.08

※選択肢の得点化……「意識している」４点、「どちらかといえば、意識している」３点、「どちらかといえば、意識していない」２点、「意識していない」１点

全校種に共通して、ほとんどの項目において肯定的回答（「意識している」、「どちらかといえば、意識している」）の割合が 50%以上であった。

児童生徒の「情報活用能力における『主体的に学習に取り組む態度』」と得点との関係では、C1「問題解決・探究における情報活用の態度」を想定して作成された項目（１）～（５）では 0.2 以上の相関がみられなかったものの、C2「情報モラル・情報セキュリティなどについての態度」を想定して作成された項目（６）～（13）では複数項目において 0.2 以上の相関がみられた。具体的には、全校種に共通して、「（７）インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。」、「（８）ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。」、「（９）コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。」、「（10）インターネットで発信した情報に責任があることを考えて行動しようとする。」について、0.2 以上のごく弱い正の相関がみられた。これに加えて、中学校においては、「（６）自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。」についても、0.2 以上のごく弱い正の相関がみられた。高等学校においては、「（２）情報をいろいろな面から見たり考えたりしようとする。」、「（６）自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。」についても、0.2 以上のごく弱い正の相関がみられた。

2．令和 3 年度調査結果との比較

図表 3-1-8 児童生徒質問調査の問 5「情報活用能力における『主体的に学習に取り組む態度』及びファクトチェックの意識」（令和 3 年度調査結果との比較）

（令和 6 年度調査　小学校：4422 人、中学校：4810 人、高等学校：4938 人）
（令和 3 年度調査　小学校：4450 人、中学校：4809 人、高等学校：4810 人）

（回答割合）

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点			
		R6		意識している	どちらかといえば、意識している	どちらかといえば、意識していない	意識していない
		R3		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
小	（1）	R6	**集めた情報のつながり（関係）を考えて理解しようとする。**	**27.0%**	**50.6%**	**16.4%**	**5.9%**
		R3	集めた情報のつながりを考えて理解しようとする。	24.3%	47.8%	19.0%	8.9%
	（2）	R6	**情報をいろいろな面から見たり考えたりしようとする。**	**30.4%**	**43.6%**	**19.7%**	**6.3%**
		R3		24.4%	43.2%	22.4%	10.0%
	（3）	R6	**コンピュータやインターネットをどのように使うのか計画を立てて取り組もうとする。**	**28.9%**	**39.8%**	**21.7%**	**9.6%**
		R3		24.2%	37.2%	25.6%	13.0%
	（4）	R6	**集めた情報を用いて新しい考えをつくろうとする。**	**25.0%**	**39.5%**	**24.7%**	**10.8%**
		R3		19.3%	35.5%	29.7%	15.5%
	（5）	R6	**コンピュータやインターネットをどのように使ったのかを振り返り、良かった点や改善点を見出そうとする。**	**19.3%**	**35.0%**	**29.4%**	**16.4%**
		R3		15.5%	31.6%	32.2%	20.8%
	（6）	R6	**自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。**	**51.2%**	**35.7%**	**9.0%**	**4.1%**
		R3		46.7%	35.3%	10.6%	7.4%
	（7）	R6	**インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。**	**72.0%**	**23.4%**	**3.3%**	**1.4%**
		R3		73.4%	21.0%	3.1%	2.5%
	（8）	R6	**ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。**	**75.0%**	**19.2%**	**3.8%**	**1.9%**
		R3		76.7%	16.0%	3.3%	3.9%
	（9）	R6	**コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。**	**77.6%**	**16.4%**	**4.2%**	**1.8%**
		R3		80.1%	11.7%	3.5%	4.7%
	（10）	R6	**インターネットで発信した情報に責任があることを考えて行動しようとする。**	**64.7%**	**27.2%**	**5.3%**	**2.8%**
		R3		66.3%	24.5%	5.0%	4.2%
	（11）	R6	**コンピュータやインターネットの利用によって健康に影響があることを考えて行動しようとする。**	**40.0%**	**37.9%**	**15.9%**	**6.2%**
		R3		47.8%	32.9%	12.2%	7.1%
	（12）	R6	**インターネットは共用のものであるという意識を持って行動しようとする。**	**52.1%**	**35.9%**	**9.0%**	**3.1%**
		R3		55.8%	31.8%	7.8%	4.5%

校種	項番	年度 R6 / R3	内容	選択肢ごとの平均得点			
				意識している / 当てはまる	どちらかといえば、意識している / どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、意識していない / どちらかといえば、当てはまらない	意識していない / 当てはまらない
小	(13)	R6	コンピュータやインターネットをよりよい生活やよりよい社会づくりに生かそうとする。	30.8%	40.9%	21.2%	7.1%
		R3		39.3%	38.5%	15.6%	6.5%
	(14)	R6	検索サイトや SNS 上で見た情報の発信元（誰が発信しているか）を確認する。	31.6%	33.2%	20.2%	15.1%
		R3	—	—	—	—	—
	(15)	R6	検索サイトや SNS 上で見た情報の発信時期（いつ発信されたか）を確認する。	31.8%	31.6%	20.7%	15.9%
		R3	—	—	—	—	—
	(16)	R6	インターネットで情報を検索したときには、いろいろな Web サイトや他のメディア（本、テレビ、新聞など）の情報と比較するなどして、検索した情報が正しいかを確認する。	30.3%	35.3%	21.6%	12.7%
		R3	—	—	—	—	—
中	(1)	R6	集めた情報のつながり（関係）を考えて理解しようとする。	28.2%	47.7%	16.4%	7.8%
		R3	集めた情報のつながりを考えて理解しようとする。	27.4%	47.7%	17.8%	7.1%
	(2)	R6	情報をいろいろな面から見たり考えたりしようとする。	33.4%	42.3%	17.3%	7.0%
		R3		30.5%	45.1%	17.8%	6.6%
	(3)	R6	コンピュータやインターネットをどのように使うのか計画を立てて取り組もうとする。	20.8%	37.4%	27.4%	14.4%
		R3		18.2%	36.9%	30.9%	14.0%
	(4)	R6	集めた情報を用いて新しい考えをつくろうとする。	22.5%	38.7%	25.9%	12.8%
		R3		20.1%	38.5%	28.9%	12.5%
	(5)	R6	コンピュータやインターネットをどのように使ったのかを振り返り、良かった点や改善点を見出そうとする。	14.9%	29.0%	30.1%	25.9%
		R3		14.1%	28.3%	32.9%	24.7%
	(6)	R6	自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。	51.1%	36.2%	8.3%	4.4%
		R3		59.0%	31.4%	6.2%	3.4%
	(7)	R6	インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。	74.1%	22.0%	2.2%	1.7%
		R3		78.9%	18.5%	1.5%	1.1%
	(8)	R6	ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。	77.7%	17.9%	2.8%	1.5%
		R3		83.7%	13.6%	1.6%	1.1%
	(9)	R6	コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。	78.4%	17.2%	2.6%	1.8%
		R3		85.9%	11.0%	1.6%	1.5%
	(10)	R6	インターネットで発信した情報に責任があることを考えて行動しようとする。	69.4%	25.0%	3.5%	2.1%
		R3		77.2%	19.3%	2.2%	1.3%

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点			
		R6		意識している	どちらかといえば、意識している	どちらかといえば、意識していない	意識していない
		R3		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
中	(11)	R6	コンピュータやインターネットの利用によって健康に影響があることを考えて行動しようとする。	37.6%	36.9%	17.8%	7.7%
		R3		43.3%	35.6%	15.9%	5.2%
	(12)	R6	インターネットは共用のものであるという意識を持って行動しようとする。	51.1%	34.5%	10.2%	4.2%
		R3		61.0%	30.2%	6.6%	2.2%
	(13)	R6	コンピュータやインターネットをよりよい生活やよりよい社会づくりに生かそうとする。	33.1%	38.5%	20.5%	8.0%
		R3		44.0%	38.8%	12.8%	4.4%
	(14)	R6	検索サイトや SNS 上で見た情報の発信元（誰が発信しているか）を確認する。	38.9%	35.1%	17.1%	8.9%
		R3	—	—	—	—	—
	(15)	R6	検索サイトや SNS 上で見た情報の発信時期（いつ発信されたか）を確認する。	39.2%	36.2%	15.7%	8.9%
		R3	—	—	—	—	—
	(16)	R6	インターネットで情報を検索したときには、いろいろな Web サイトや他のメディア（本、テレビ、新聞など）の情報と比較するなどして、検索した情報が正しいかを確認する。	29.5%	36.6%	22.0%	11.9%
		R3	—	—	—	—	—
高	(1)	R6	集めた情報のつながり（関係）を考えて理解しようとする。	33.0%	45.5%	13.9%	7.6%
		R3	集めた情報のつながりを考えて理解しようとする。	30.7%	47.3%	15.0%	7.0%
	(2)	R6	情報をいろいろな面から見たり考えたりしようとする。	40.7%	41.2%	11.9%	6.3%
		R3		36.2%	44.2%	13.7%	5.9%
	(3)	R6	コンピュータやインターネットをどのように使うのか計画を立てて取り組もうとする。	18.9%	34.1%	28.5%	18.4%
		R3		14.3%	34.0%	33.4%	18.3%
	(4)	R6	集めた情報を用いて新しい考えをつくろうとする。	23.3%	36.1%	26.1%	14.5%
		R3		19.6%	37.7%	29.4%	13.3%
	(5)	R6	コンピュータやインターネットをどのように使ったのかを振り返り、良かった点や改善点を見出そうとする。	14.0%	26.3%	29.6%	30.1%
		R3		11.9%	27.7%	32.3%	28.1%
	(6)	R6	自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。	51.4%	34.8%	8.0%	5.8%
		R3		52.5%	36.4%	7.1%	4.0%
	(7)	R6	インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。	75.0%	21.0%	1.9%	2.1%
		R3		75.1%	21.5%	2.2%	1.2%
	(8)	R6	ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。	74.7%	20.6%	2.9%	1.9%
		R3		76.6%	19.5%	2.8%	1.1%

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点			
		R6		意識している	どちらかといえば、意識している	どちらかといえば、意識していない	意識していない
		R3		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
高	（9）	R6	コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。	77.9%	17.6%	2.6%	1.9%
		R3		81.4%	15.2%	2.0%	1.4%
	（10）	R6	インターネットで発信した情報に責任があることを考えて行動しようとする。	72.1%	22.4%	3.2%	2.3%
		R3		73.4%	22.6%	2.6%	1.4%
	（11）	R6	コンピュータやインターネットの利用によって健康に影響があることを考えて行動しようとする。	38.4%	36.6%	17.3%	7.7%
		R3		40.1%	36.4%	17.1%	6.4%
	（12）	R6	インターネットは共用のものであるという意識を持って行動しようとする。	50.0%	33.7%	11.5%	4.8%
		R3		56.3%	33.0%	7.9%	2.8%
	（13）	R6	コンピュータやインターネットをよりよい生活やよりよい社会づくりに生かそうとする。	36.5%	36.8%	17.3%	9.4%
		R3		45.6%	38.9%	11.0%	4.5%
	（14）	R6	検索サイトや SNS 上で見た情報の発信元（誰が発信しているか）を確認する。	41.3%	38.1%	14.1%	6.4%
		R3	—	—	—	—	—
	（15）	R6	検索サイトや SNS 上で見た情報の発信時期（いつ発信されたか）を確認する。	44.2%	36.6%	13.2%	6.0%
		R3	—	—	—	—	—
	（16）	R6	インターネットで情報を検索したときには、いろいろな Web サイトや他のメディア（本、テレビ、新聞など）の情報と比較するなどして、検索した情報が正しいかを確認する。	34.5%	39.2%	16.5%	9.8%
		R3	—	—	—	—	—

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関係数）

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		R6		意識している	どちらかといえば、意識している	どちらかといえば、意識していない	意識していない	
		R3		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	
小	（1）	R6	**集めた情報のつながり（関係）を考えて理解しようとする。**	**425**	**424**	**415**	**402**	**0.07**
		R3	集めた情報のつながりを考えて理解しようとする。	434	426	413	395	0.15
	（2）	R6	**情報をいろいろな面から見たり考えたりしようとする。**	**430**	**421**	**413**	**411**	**0.09**
		R3		436	426	412	399	0.16
	（3）	R6	**コンピュータやインターネットをどのように使うのか計画を立てて取り組もうとする。**	**427**	**421**	**420**	**408**	**0.07**
		R3		429	427	421	405	0.09
	（4）	R6	**集めた情報を用いて新しい考えをつくろうとする。**	**433**	**422**	**417**	**402**	**0.12**
		R3		434	429	419	402	0.14
	（5）	R6	**コンピュータやインターネットをどのように使ったのかを振り返り、良かった点や改善点を見出そうとする。**	**419**	**419**	**423**	**426**	**-0.03**
		R3		422	424	424	420	0.01
	（6）	R6	**自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。**	**434**	**413**	**399**	**390**	**0.20**
		R3		438	418	398	385	0.25
	（7）	R6	**インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。**	**431**	**403**	**379**	**364**	**0.26**
		R3		429	415	378	362	0.24
	（8）	R6	**ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。**	**432**	**400**	**365**	**353**	**0.33**
		R3		433	407	359	352	0.38
	（9）	R6	**コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。**	**431**	**395**	**369**	**350**	**0.34**
		R3		432	401	354	364	0.39
	（10）	R6	**インターネットで発信した情報に責任があることを考えて行動しようとする。**	**430**	**410**	**389**	**387**	**0.20**
		R3		432	414	381	376	0.26
	（11）	R6	**コンピュータやインターネットの利用によって健康に影響があることを考えて行動しようとする。**	**423**	**422**	**422**	**411**	**0.03**
		R3		427	426	415	396	0.11
	（12）	R6	**インターネットは共用のものであるという意識を持って行動しようとする。**	**429**	**417**	**408**	**384**	**0.14**
		R3		431	418	405	378	0.19
	（13）	R6	**コンピュータやインターネットをよりよい生活やよりよい社会づくりに生かそうとする。**	**422**	**421**	**423**	**417**	**0.01**
		R3		423	428	417	404	0.06
	（14）	R6	**検索サイトや SNS 上で見た情報の発信元（誰が発信しているか）を確認する。**	**426**	**421**	**422**	**411**	**0.06**
		R3	—	—	—	—	—	—

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		R6		意識している	どちらかといえば、意識している	どちらかといえば、意識していない	意識していない	
		R3		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	
小	(15)	R6	**検索サイトや SNS 上で見た情報の発信時期（いつ発信されたか）を確認する。**	**424**	**423**	**421**	**413**	**0.05**
		R3	—	—	—	—	—	—
	(16)	R6	**インターネットで情報を検索したときには、いろいろな Web サイトや他のメディア（本、テレビ、新聞など）の情報と比較するなどして、検索した情報が正しいかを確認する。**	**420**	**422**	**423**	**421**	**-0.01**
		R3	—	—	—	—	—	—
中	(1)	R6	**集めた情報のつながり（関係）を考えて理解しようとする。**	**508**	**505**	**490**	**478**	**0.10**
		R3	集めた情報のつながりを考えて理解しようとする。	518	516	498	478	0.14
	(2)	R6	**情報をいろいろな面から見たり考えたりしようとする。**	**516**	**501**	**485**	**469**	**0.17**
		R3		516	517	499	475	0.13
	(3)	R6	**コンピュータやインターネットをどのように使うのか計画を立てて取り組もうとする。**	**502**	**504**	**502**	**491**	**0.04**
		R3		507	511	517	502	0.00
	(4)	R6	**集めた情報を用いて新しい考えをつくろうとする。**	**513**	**507**	**495**	**478**	**0.13**
		R3		518	518	507	485	0.13
	(5)	R6	**コンピュータやインターネットをどのように使ったのかを振り返り、良かった点や改善点を見出そうとする。**	**499**	**494**	**507**	**504**	**-0.04**
		R3		503	511	516	509	-0.03
	(6)	R6	**自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。**	**515**	**494**	**474**	**441**	**0.24**
		R3		521	505	476	449	0.24
	(7)	R6	**インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。**	**510**	**486**	**439**	**396**	**0.28**
		R3		515	504	461	436	0.17
	(8)	R6	**ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。**	**509**	**482**	**464**	**392**	**0.27**
		R3		515	497	467	433	0.21
	(9)	R6	**コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。**	**508**	**485**	**471**	**413**	**0.24**
		R3		515	496	452	443	0.24
	(10)	R6	**インターネットで発信した情報に責任があることを考えて行動しようとする。**	**509**	**491**	**462**	**409**	**0.24**
		R3		514	507	465	437	0.17
	(11)	R6	**コンピュータやインターネットの利用によって健康に影響があることを考えて行動しようとする。**	**502**	**503**	**503**	**480**	**0.04**
		R3		504	517	519	504	-0.06
	(12)	R6	**インターネットは共用のものであるという意識を持って行動しようとする。**	**508**	**495**	**502**	**465**	**0.10**
		R3		513	512	505	465	0.07

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		R6		意識している	どちらかといえば、意識している	どちらかといえば、意識していない	意識していない	
		R3		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	
中	(13)	R6	**コンピュータやインターネットをよりよい生活やよりよい社会づくりに生かそうとする。**	**501**	**501**	**506**	**487**	**0.02**
		R3		508	516	511	489	0.01
	(14)	R6	**検索サイトや SNS 上で見た情報の発信元（誰が発信しているか）を確認する。**	**506**	**504**	**496**	**480**	**0.09**
		R3	—	—	—	—	—	—
	(15)	R6	**検索サイトや SNS 上で見た情報の発信時期（いつ発信されたか）を確認する。**	**508**	**504**	**489**	**479**	**0.11**
		R3	—	—	—	—	—	—
	(16)	R6	**インターネットで情報を検索したときには、いろいろな Web サイトや他のメディア（本、テレビ、新聞など）の情報と比較するなどして、検索した情報が正しいかを確認する。**	**505**	**500**	**503**	**489**	**0.05**
		R3	—	—	—	—	—	—
高	(1)	R6	**集めた情報のつながり（関係）を考えて理解しようとする。**	**573**	**560**	**542**	**514**	**0.17**
		R3	集めた情報のつながりを考えて理解しようとする。	570	566	549	518	0.15
	(2)	R6	**情報をいろいろな面から見たり考えたりしようとする。**	**578**	**558**	**524**	**499**	**0.25**
		R3		574	562	547	516	0.17
	(3)	R6	**コンピュータやインターネットをどのように使うのか計画を立てて取り組もうとする。**	**557**	**561**	**564**	**546**	**0.03**
		R3		553	561	569	554	-0.01
	(4)	R6	**集めた情報を用いて新しい考えをつくろうとする。**	**568**	**565**	**558**	**528**	**0.12**
		R3		565	569	558	541	0.09
	(5)	R6	**コンピュータやインターネットをどのように使ったのかを振り返り、良かった点や改善点を見出そうとする。**	**551**	**554**	**564**	**560**	**-0.04**
		R3		554	554	568	564	-0.05
	(6)	R6	**自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。**	**576**	**552**	**524**	**486**	**0.27**
		R3		574	556	535	497	0.23
	(7)	R6	**インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。**	**569**	**539**	**487**	**451**	**0.30**
		R3		568	550	501	488	0.21
	(8)	R6	**ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。**	**566**	**549**	**488**	**453**	**0.25**
		R3		566	555	518	464	0.18
	(9)	R6	**コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。**	**565**	**546**	**512**	**449**	**0.25**
		R3		566	553	496	476	0.23
	(10)	R6	**インターネットで発信した情報に責任があることを考えて行動しようとする。**	**567**	**548**	**510**	**454**	**0.25**
		R3		568	552	508	482	0.20

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		R6		意識している	どちらかといえば、意識している	どちらかといえば、意識していない	意識していない	
		R3		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	
高	(11)	R6	**コンピュータやインターネットの利用によって健康に影響があることを考えて行動しようとする。**	**556**	**562**	**568**	**532**	**0.02**
		R3		557	563	571	556	-0.04
	(12)	R6	**インターネットは共用のものであるという意識を持って行動しようとする。**	**563**	**558**	**554**	**523**	**0.08**
		R3		563	559	565	551	0.02
	(13)	R6	**コンピュータやインターネットをよりよい生活やよりよい社会づくりに生かそうとする。**	**561**	**557**	**569**	**537**	**0.03**
		R3		560	564	564	548	0.00
	(14)	R6	**検索サイトや SNS 上で見た情報の発信元（誰が発信しているか）を確認する。**	**565**	**561**	**552**	**518**	**0.11**
		R3	—	—	—	—	—	—
	(15)	R6	**検索サイトや SNS 上で見た情報の発信時期（いつ発信されたか）を確認する。**	**567**	**557**	**556**	**506**	**0.13**
		R3	—	—	—	—	—	—
	(16)	R6	**インターネットで情報を検索したときには、いろいろな Web サイトや他のメディア（本、テレビ、新聞など）の情報と比較するなどして、検索した情報が正しいかを確認する。**	**561**	**564**	**559**	**527**	**0.08**
		R3	—	—	—	—	—	—

※選択肢の得点化……

令和６年度調査：「意識している」４点、「どちらかといえば、意識している」３点、「どちらかといえば、意識していない」２点、「意識していない」１点

令和３年度調査：「当てはまる」４点、「どちらかといえば、当てはまる」３点、「どちらかといえば、当てはまらない」２点、「当てはまらない」１点

令和３年度調査から令和６年度調査で肯定的回答（「意識している」、「どちらかといえば、意識している」）の割合が最も増加したのは、小学校では「（４）集めた情報を用いて新しい考えをつくろうとする。」、中学校及び高等学校では「（３）コンピュータやインターネットをどのように使うのか計画を立てて取り組もうとする。」であった。否定的回答（「どちらかといえば、意識していない」、「意識していない」）の割合が最も増加したのは、全校種に共通して「（13）コンピュータやインターネットをよりよい生活やよりよい社会づくりに生かそうとする。」であった。

⑥　問６　コンピュータやインターネットに対する期待等

児童生徒質問調査の問６では、調査に参加した児童生徒に対して、コンピュータやインターネットに対する期待等を尋ねた。以下では各選択肢の回答割合と平均得点、選択肢と得点との相関係数の分析結果を示す（図表 3-1-9）。なお、問６は令和３年度調査から継続して出題した質問項目を含むため、比較可能な質問項目については令和３年度調査との比較のための図表を掲載した（図表 3-1-10）。

> コンピュータやインターネットの利用について、あなたはどのように考えていますか。以下の（１）～（９）それぞれについて、当てはまるものを１つ選んでください。

１．令和６年度調査結果

図表 3-1-9 児童生徒質問調査の問６「コンピュータやインターネットに対する期待等」
（小学校：4422 人、中学校：4810 人、高等学校：4938 人）

（回答割合）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点			
		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
小	（１）コンピュータやインターネットに興味がある。	61.1%	28.5%	7.2%	3.3%
	（２）コンピュータやインターネットは、将来の仕事に役立つ。	56.1%	33.3%	8.0%	2.6%
	（３）コンピュータやインターネットは、学習に役立つ。	63.1%	30.2%	4.9%	1.7%
	（４）コンピュータやインターネットが、どのように進化していくのか楽しみだ。	53.8%	28.4%	12.3%	5.5%
	（５）コンピュータやインターネットは得意である。	34.3%	38.8%	19.1%	7.8%
	（６）キーボードで入力することは得意である。	30.8%	33.3%	22.4%	13.5%
	（７）インターネットの情報は正しいものとは限らない。	72.0%	21.8%	4.3%	1.8%
	（８）インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。	88.6%	7.1%	2.0%	2.2%
	（９）インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。	86.1%	9.4%	2.0%	2.5%

校種	内容	選択肢ごとの平均得点			
		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
中	（1）コンピュータやインターネットに興味がある。	61.0%	29.1%	7.4%	2.5%
	（2）コンピュータやインターネットは、将来の仕事に役立つ。	65.4%	28.4%	4.4%	1.8%
	（3）コンピュータやインターネットは、学習に役立つ。	59.6%	33.3%	5.0%	2.1%
	（4）コンピュータやインターネットが、どのように進化していくのか楽しみだ。	52.7%	29.1%	12.1%	6.0%
	（5）コンピュータやインターネットは得意である。	22.6%	38.4%	28.6%	10.4%
	（6）キーボードで入力することは得意である。	19.5%	32.8%	32.4%	15.3%
	（7）インターネットの情報は正しいものとは限らない。	73.5%	23.1%	2.2%	1.2%
	（8）インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。	87.8%	9.6%	1.5%	1.1%
	（9）インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。	88.1%	9.9%	1.1%	0.9%
高	（1）コンピュータやインターネットに興味がある。	54.9%	31.5%	9.7%	3.9%
	（2）コンピュータやインターネットは、将来の仕事に役立つ。	67.8%	26.7%	3.7%	1.8%
	（3）コンピュータやインターネットは、学習に役立つ。	63.5%	30.3%	4.1%	2.0%
	（4）コンピュータやインターネットが、どのように進化していくのか楽しみだ。	54.4%	30.9%	10.3%	4.4%
	（5）コンピュータやインターネットは得意である。	17.0%	36.4%	33.4%	13.2%
	（6）キーボードで入力することは得意である。	15.4%	27.5%	37.9%	19.2%
	（7）インターネットの情報は正しいものとは限らない。	77.3%	19.7%	2.1%	0.8%
	（8）インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。	86.9%	10.0%	1.7%	1.4%
	（9）インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。	89.6%	8.2%	1.1%	1.1%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	
小	（1）コンピュータやインターネットに興味がある。	427	414	408	403	0.12
	（2）コンピュータやインターネットは、将来の仕事に役立つ。	428	418	400	384	0.15
	（3）コンピュータやインターネットは、学習に役立つ。	428	415	388	387	0.16
	（4）コンピュータやインターネットが、どのように進化していくのか楽しみだ。	426	418	414	410	0.08
	（5）コンピュータやインターネットは得意である。	424	426	416	401	0.08
	（6）キーボードで入力することは得意である。	431	426	417	396	0.14
	（7）インターネットの情報は正しいものとは限らない。	430	409	372	353	0.27
	（8）インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。	427	389	356	364	0.33
	（9）インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。	427	393	372	366	0.30
中	（1）コンピュータやインターネットに興味がある。	509	495	474	462	0.16
	（2）コンピュータやインターネットは、将来の仕事に役立つ。	511	489	462	445	0.21
	（3）コンピュータやインターネットは、学習に役立つ。	507	495	488	463	0.11
	（4）コンピュータやインターネットが、どのように進化していくのか楽しみだ。	509	497	490	476	0.12
	（5）コンピュータやインターネットは得意である。	501	504	502	490	0.03
	（6）キーボードで入力することは得意である。	505	504	501	490	0.05
	（7）インターネットの情報は正しいものとは限らない。	511	480	440	403	0.28
	（8）インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。	506	480	434	416	0.26
	（9）インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。	506	476	428	409	0.27

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	
高	（1）コンピュータやインターネットに興味がある。	571	552	536	484	0.21
	（2）コンピュータやインターネットは、将来の仕事に役立つ。	572	539	495	450	0.30
	（3）コンピュータやインターネットは、学習に役立つ。	567	551	524	472	0.19
	（4）コンピュータやインターネットが、どのように進化していくのか楽しみだ。	570	553	536	507	0.18
	（5）コンピュータやインターネットは得意である。	555	567	559	539	0.05
	（6）キーボードで入力することは得意である。	556	565	561	546	0.04
	（7）インターネットの情報は正しいものとは限らない。	571	526	465	417	0.35
	（8）インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。	565	532	477	450	0.31
	（9）インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。	564	522	468	431	0.35

※選択肢の得点化……「当てはまる」４点、「どちらかといえば、当てはまる」３点、「どちらかといえば、当てはまらない」２点、「当てはまらない」１点

全校種に共通して、ほとんどの項目において肯定的回答（「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」）の割合が50%以上であった。

児童生徒の「コンピュータやインターネットに対する期待等」と得点との関係では、全校種に共通して、「（7）インターネットの情報は正しいものとは限らない。」、「（8）インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。」、「（9）インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。」について、0.2以上のごく弱い正の相関がみられた。これに加えて、中学校においては、「（2）コンピュータやインターネットは、将来の仕事に役立つ。」について、0.2 以上のごく弱い正の相関がみられた。高等学校においては、「（1）コンピュータやインターネットに興味がある。」、「（2）コンピュータやインターネットは、将来の仕事に役立つ。」について、0.2 以上のごく弱い正の相関がみられた。

2．令和 3 年度調査結果との比較

図表 3-1-10 児童生徒質問調査の問 6 「コンピュータやインターネットに対する期待等」（令和 3 年度調査結果との比較）

（令和 6 年度調査　小学校：4422 人、中学校：4810 人、高等学校：4938 人）

（令和 3 年度調査　小学校：4447 人、中学校：4806 人、高等学校：4805 人）

（回答割合）

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点			
				当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
小	（1）	R6	コンピュータやインターネットに興味がある。	**61.1%**	**28.5%**	**7.2%**	**3.3%**
		R3		66.4%	23.3%	6.8%	3.5%
	（2）	R6	コンピュータやインターネットは、将来の仕事に役立つ。	**56.1%**	**33.3%**	**8.0%**	**2.6%**
		R3		60.3%	28.8%	7.3%	3.6%
	（3）	R6	コンピュータやインターネットは、学習に役立つ。	**63.1%**	**30.2%**	**4.9%**	**1.7%**
		R3		65.4%	28.3%	4.1%	2.1%
	（4）	R6	コンピュータやインターネットが、どのように進化していくのか楽しみだ。	**53.8%**	**28.4%**	**12.3%**	**5.5%**
		R3		61.1%	24.0%	9.9%	5.1%
	（5）	R6	コンピュータやインターネットは得意である。	**34.3%**	**38.8%**	**19.1%**	**7.8%**
		R3		34.0%	36.9%	21.3%	7.8%
	（6）	R6	キーボードで入力することは得意である。	**30.8%**	**33.3%**	**22.4%**	**13.5%**
		R3		25.5%	34.7%	26.4%	13.4%
	（7）	R6	インターネットの情報は正しいものとは限らない。	**72.0%**	**21.8%**	**4.3%**	**1.8%**
		R3		69.4%	21.9%	5.8%	2.8%
	（8）	R6	インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。	**88.6%**	**7.1%**	**2.0%**	**2.2%**
		R3		89.8%	6.1%	2.2%	2.0%
	（9）	R6	インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。	**86.1%**	**9.4%**	**2.0%**	**2.5%**
		R3	—	—	—	—	—

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点			
				当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
中	（1）	R6	コンピュータやインターネットに興味がある。	61.0%	29.1%	7.4%	2.5%
		R3		75.5%	19.6%	3.7%	1.2%
	（2）	R6	コンピュータやインターネットは、将来の仕事に役立つ。	65.4%	28.4%	4.4%	1.8%
		R3		75.2%	20.6%	3.1%	1.2%
	（3）	R6	コンピュータやインターネットは、学習に役立つ。	59.6%	33.3%	5.0%	2.1%
		R3		64.3%	29.5%	4.4%	1.8%
	（4）	R6	コンピュータやインターネットが、どのように進化していくのか楽しみだ。	52.7%	29.1%	12.1%	6.0%
		R3		65.1%	24.4%	7.2%	3.3%
	（5）	R6	コンピュータやインターネットは得意である。	22.6%	38.4%	28.6%	10.4%
		R3		24.7%	39.1%	27.5%	8.7%
	（6）	R6	キーボードで入力することは得意である。	19.5%	32.8%	32.4%	15.3%
		R3		16.0%	29.8%	36.3%	17.9%
	（7）	R6	インターネットの情報は正しいものとは限らない。	73.5%	23.1%	2.2%	1.2%
		R3		74.7%	21.2%	3.2%	0.8%
	（8）	R6	インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。	87.8%	9.6%	1.5%	1.1%
		R3		89.4%	8.2%	1.4%	1.1%
	（9）	R6	インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。	88.1%	9.9%	1.1%	0.9%
		R3	—	—	—	—	—

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点			
				当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
高	（1）	R6	コンピュータやインターネットに興味がある。	**54.9%**	**31.5%**	**9.7%**	**3.9%**
		R3		63.3%	27.0%	7.3%	2.5%
	（2）	R6	コンピュータやインターネットは、将来の仕事に役立つ。	**67.8%**	**26.7%**	**3.7%**	**1.8%**
		R3		73.2%	22.3%	2.9%	1.6%
	（3）	R6	コンピュータやインターネットは、学習に役立つ。	**63.5%**	**30.3%**	**4.1%**	**2.0%**
		R3		63.2%	31.1%	4.0%	1.7%
	（4）	R6	コンピュータやインターネットが、どのように進化していくのか楽しみだ。	**54.4%**	**30.9%**	**10.3%**	**4.4%**
		R3		60.4%	28.0%	8.2%	3.5%
	（5）	R6	コンピュータやインターネットは得意である。	**17.0%**	**36.4%**	**33.4%**	**13.2%**
		R3		18.6%	36.2%	33.0%	12.1%
	（6）	R6	キーボードで入力することは得意である。	**15.4%**	**27.5%**	**37.9%**	**19.2%**
		R3		14.1%	25.8%	39.0%	21.0%
	（7）	R6	インターネットの情報は正しいものとは限らない。	**77.3%**	**19.7%**	**2.1%**	**0.8%**
		R3		77.8%	19.6%	1.6%	1.0%
	（8）	R6	インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。	**86.9%**	**10.0%**	**1.7%**	**1.4%**
		R3		85.2%	11.3%	2.0%	1.5%
	（9）	R6	インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。	**89.6%**	**8.2%**	**1.1%**	**1.1%**
		R3	—	—	—	—	—

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
				当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	
小	（1）	R6	コンピュータやインターネットに興味がある。	**427**	**414**	**408**	**403**	**0.12**
		R3		429	415	409	391	0.15
	（2）	R6	コンピュータやインターネットは、将来の仕事に役立つ。	**428**	**418**	**400**	**384**	**0.15**
		R3		429	419	402	388	0.16
	（3）	R6	コンピュータやインターネットは、学習に役立つ。	**428**	**415**	**388**	**387**	**0.16**
		R3		427	420	387	386	0.14
	（4）	R6	コンピュータやインターネットが、どのように進化していくのか楽しみだ。	**426**	**418**	**414**	**410**	**0.08**
		R3		427	420	412	404	0.10
	（5）	R6	コンピュータやインターネットは得意である。	**424**	**426**	**416**	**401**	**0.08**
		R3		428	428	416	398	0.11
	（6）	R6	キーボードで入力することは得意である。	**431**	**426**	**417**	**396**	**0.14**
		R3		435	428	416	400	0.15
	（7）	R6	インターネットの情報は正しいものとは限らない。	**430**	**409**	**372**	**353**	**0.27**
		R3		435	406	369	370	0.33
	（8）	R6	インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。	**427**	**389**	**356**	**364**	**0.33**
		R3		428	392	350	355	0.38
	（9）	R6	インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。	**427**	**393**	**372**	**366**	**0.30**
		R3	—	—	—	—	—	—

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
				当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	
中	（1）	R6	コンピュータやインターネットに興味がある。	**509**	**495**	**474**	**462**	**0.16**
		R3		515	502	481	463	0.16
	（2）	R6	コンピュータやインターネットは、将来の仕事に役立つ。	**511**	**489**	**462**	**445**	**0.21**
		R3		517	500	471	432	0.21
	（3）	R6	コンピュータやインターネットは、学習に役立つ。	**507**	**495**	**488**	**463**	**0.11**
		R3		513	509	503	485	0.06
	（4）	R6	コンピュータやインターネットが、どのように進化していくのか楽しみだ。	**509**	**497**	**490**	**476**	**0.12**
		R3		513	512	496	498	0.06
	（5）	R6	コンピュータやインターネットは得意である。	**501**	**504**	**502**	**490**	**0.03**
		R3		506	516	511	501	0.01
	（6）	R6	キーボードで入力することは得意である。	**505**	**504**	**501**	**490**	**0.05**
		R3		509	518	510	502	0.04
	（7）	R6	インターネットの情報は正しいものとは限らない。	**511**	**480**	**440**	**403**	**0.28**
		R3		518	498	459	440	0.22
	（8）	R6	インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。	**506**	**480**	**434**	**416**	**0.26**
		R3		512	511	465	455	0.14
	（9）	R6	インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。	**506**	**476**	**428**	**409**	**0.27**
		R3	—	—	—	—	—	—

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
				当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	
高	（1）	R6	**コンピュータやインターネットに興味がある。**	**571**	**552**	**536**	**484**	**0.21**
		R3		569	557	534	499	0.18
	（2）	R6	**コンピュータやインターネットは、将来の仕事に役立つ。**	**572**	**539**	**495**	**450**	**0.30**
		R3		569	548	507	478	0.25
	（3）	R6	**コンピュータやインターネットは、学習に役立つ。**	**567**	**551**	**524**	**472**	**0.19**
		R3		566	557	544	502	0.12
	（4）	R6	**コンピュータやインターネットが、どのように進化していくのか楽しみだ。**	**570**	**553**	**536**	**507**	**0.18**
		R3		567	558	545	527	0.12
	（5）	R6	**コンピュータやインターネットは得意である。**	**555**	**567**	**559**	**539**	**0.05**
		R3		558	569	562	543	0.05
	（6）	R6	**キーボードで入力することは得意である。**	**556**	**565**	**561**	**546**	**0.04**
		R3		558	566	564	553	0.02
	（7）	R6	**インターネットの情報は正しいものとは限らない。**	**571**	**526**	**465**	**417**	**0.35**
		R3		571	534	487	458	0.32
	（8）	R6	**インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。**	**565**	**532**	**477**	**450**	**0.31**
		R3		566	542	512	504	0.22
	（9）	R6	**インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。**	**564**	**522**	**468**	**431**	**0.35**
		R3	—	—	—	—	—	—

※選択肢の得点化……「当てはまる」４点、「どちらかといえば、当てはまる」３点、「どちらかといえば、当てはまらない」２点、「当てはまらない」１点

令和３年度調査から令和６年度調査で肯定的回答（「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」）の割合が最も増加したのは、全校種に共通して「（６）キーボードで入力することは得意である。」であった。否定的回答（「どちらかといえば、当てはまらない」、「当てはまらない」）の割合が最も増加したのは、小学校及び中学校では「（４）コンピュータやインターネットが、どのように進化していくのか楽しみだ。」、高等学校では「（１）コンピュータやインターネットに興味がある。」であった。

⑦　問７　個別最適な学び等に関する状況

児童生徒質問調査の問７では、調査に参加した児童生徒に対して、「個別最適な学び等に関する状況」を尋ねた。以下では各選択肢の回答割合と平均得点、選択肢と得点との相関係数の分析結果を示す（図表 3-1-11）。

> 次のようなことは，あなたにどのくらい当てはまりますか。以下の（１）～（13）それぞれについて，当てはまるものを１つ選んでください。

１．令和６年度調査結果

図表 3-1-11 児童生徒質問調査の問７「個別最適な学び等に関する状況」

（小学校：4422 人、中学校：4810 人、高等学校：4938 人）

（回答割合）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点			
		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
小	（１）授業の初めに学習の進め方を考えている。	23.9%	41.7%	25.0%	9.3%
	（２）授業の中で学習がうまくいっているかを考えている。	34.3%	40.5%	18.5%	6.6%
	（３）授業の終わりに学習がうまくいったかを振り返っている。	23.6%	36.0%	27.7%	12.6%
	（４）授業の中で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	24.8%	38.9%	25.8%	10.5%
中	（１）授業の初めに学習の進め方を考えている。	14.7%	36.7%	33.2%	15.4%
	（２）授業の中で学習がうまくいっているかを考えている。	24.8%	43.8%	22.0%	9.5%
	（３）授業の終わりに学習がうまくいったかを振り返っている。	17.9%	35.3%	31.4%	15.5%
	（４）授業の中で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	17.0%	36.4%	31.5%	15.0%
高	（１）授業の初めに学習の進め方を考えている。	12.0%	32.4%	37.3%	18.2%
	（２）授業の中で学習がうまくいっているかを考えている。	20.6%	44.7%	24.0%	10.7%
	（３）授業の終わりに学習がうまくいったかを振り返っている。	13.4%	35.8%	33.4%	17.4%
	（４）授業の中で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	13.3%	31.4%	35.6%	19.7%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	
小	（1）授業の初めに学習の進め方を考えている。	411	424	427	420	-0.05
	（2）授業の中で学習がうまくいっているかを考えている。	426	422	416	410	0.06
	（3）授業の終わりに学習がうまくいったかを振り返っている。	425	424	419	415	0.05
	（4）授業の中で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	425	423	420	412	0.05
中	（1）授業の初めに学習の進め方を考えている。	484	505	505	499	-0.04
	（2）授業の中で学習がうまくいっているかを考えている。	509	503	494	488	0.08
	（3）授業の終わりに学習がうまくいったかを振り返っている。	502	507	500	489	0.05
	（4）授業の中で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	505	504	498	495	0.04
高	（1）授業の初めに学習の進め方を考えている。	535	563	568	547	-0.02
	（2）授業の中で学習がうまくいっているかを考えている。	562	567	549	535	0.09
	（3）授業の終わりに学習がうまくいったかを振り返っている。	554	568	559	541	0.06
	（4）授業の中で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	551	562	560	553	0.00

※選択肢の得点化……「当てはまる」４点、「どちらかといえば、当てはまる」３点、「どちらかといえば、当てはまらない」２点、「当てはまらない」１点

全校種とも、ほとんどの項目において肯定的回答（「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」）の割合が 50% 以上であった。

児童生徒の「個別最適な学び等に関する状況」と得点との関係では、全校種とも、いずれの質問項目も相関係数の大きさが 0.2 を超えなかった。

⑧　問８　健康への配慮

児童生徒質問調査の問８では、調査に参加した児童生徒に対して、「健康への配慮」を尋ねた。以下では各選択肢の回答割合と平均得点、選択肢と得点との相関係数の分析結果を示す（図表 3-1-12）。なお、問８は令和３年度調査から継続して出題した質問項目を含むため、比較可能な質問項目については令和３年度調査との比較のための図表を掲載した（図表 3-1-13）。

次のようなことは、あなたにどのくらい当てはまりますか。以下の（1）～（3）それぞれについて、当てはまるものを１つ選んでください。

１．令和６年度調査結果

図表 3-1-12 児童生徒質問調査の問８「健康への配慮」
（小学校：4422 人、中学校：4810 人、高等学校：4938 人）

（回答割合）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点			
		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
小	（1）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、目と画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。	24.9%	36.5%	27.0%	11.6%
	（2）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。	20.9%	26.1%	27.3%	25.7%
	（3）夜、寝る 1 時間前からはコンピュータやスマートフォンの利用を控えるようにしている。	31.4%	21.8%	23.1%	23.7%
中	（1）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、目と画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。	17.3%	31.7%	34.1%	17.0%
	（2）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。	11.3%	16.9%	33.5%	38.3%
	（3）夜、寝る 1 時間前からはコンピュータやスマートフォンの利用を控えるようにしている。	13.2%	15.4%	26.8%	44.6%
高	（1）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、目と画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。	15.1%	30.9%	36.5%	17.6%
	（2）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。	8.9%	15.6%	34.3%	41.2%
	（3）夜、寝る 1 時間前からはコンピュータやスマートフォンの利用を控えるようにしている。	8.0%	12.0%	27.1%	52.9%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	
小	（1）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、目と画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。	417	423	427	415	-0.02
	（2）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。	422	417	426	421	-0.01
	（3）夜、寝る 1 時間前からはコンピュータやスマートフォンの利用を控えるようにしている。	422	418	428	417	0.01
中	（1）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、目と画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。	497	502	504	497	0.00
	（2）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。	490	496	507	502	-0.04
	（3）夜、寝る 1 時間前からはコンピュータやスマートフォンの利用を控えるようにしている。	495	488	505	505	-0.06
高	（1）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、目と画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。	545	554	565	562	-0.06
	（2）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。	535	541	563	566	-0.12
	（3）夜、寝る 1 時間前からはコンピュータやスマートフォンの利用を控えるようにしている。	536	528	557	569	-0.16

※選択肢の得点化……「当てはまる」 4 点、「どちらかといえば、当てはまる」 3 点、「どちらかといえば、当てはまらない」 2 点、「当てはまらない」 1 点

小学校において、「（1）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、目と画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。」、「（3）夜、寝る 1 時間前からはコンピュータやスマートフォンの利用を控えるようにしている。」の肯定的回答率が 50%以上であった。中学校及び高等学校において、肯定的回答率が 50%以上の質問項目はみられなかった。

児童生徒の「健康への配慮」と得点との関係では、全校種とも、いずれの質問項目も相関係数の大きさが 0.2 を超えなかった。

2．令和 3 年度調査結果との比較

図表 3-1-13 児童生徒質問調査の問 8 「健康への配慮」（令和 3 年度調査結果との比較）

（令和 6 年度調査　小学校：4422 人、中学校：4810 人、高等学校：4938 人）
（令和 3 年度調査　小学校：4447 人、中学校：4806 人、高等学校：4805 人）

（回答割合）

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点			
				当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
小	（1）	R6	**コンピュータやスマートフォンを利用するときは、目と画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。**	**24.9%**	**36.5%**	**27.0%**	**11.6%**
		R3	情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。	25.6%	36.9%	27.3%	10.2%
	（2）	R6	**コンピュータやスマートフォンを利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。**	**20.9%**	**26.1%**	**27.3%**	**25.7%**
		R3	情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。	24.2%	26.6%	27.0%	22.2%
	（3）	R6	**夜、寝る 1 時間前からはコンピュータやスマートフォンの利用を控えるようにしている。**	**31.4%**	**21.8%**	**23.1%**	**23.7%**
		R3	夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控（ひか）えるようにしている。	33.6%	23.8%	21.9%	20.6%
中	（1）	R6	**コンピュータやスマートフォンを利用するときは、目と画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。**	**17.3%**	**31.7%**	**34.1%**	**17.0%**
		R3	情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。	19.4%	32.3%	34.1%	14.1%
	（2）	R6	**コンピュータやスマートフォンを利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。**	**11.3%**	**16.9%**	**33.5%**	**38.3%**
		R3	情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。	12.8%	18.7%	33.7%	34.8%
	（3）	R6	**夜、寝る 1 時間前からはコンピュータやスマートフォンの利用を控えるようにしている。**	**13.2%**	**15.4%**	**26.8%**	**44.6%**
		R3	夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控（ひか）えるようにしている。	13.9%	16.1%	26.9%	43.1%
高	（1）	R6	**コンピュータやスマートフォンを利用するときは、目と画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。**	**15.1%**	**30.9%**	**36.5%**	**17.6%**
		R3	情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。	17.3%	30.8%	36.8%	15.2%
	（2）	R6	**コンピュータやスマートフォンを利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。**	**8.9%**	**15.6%**	**34.3%**	**41.2%**
		R3	情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。	10.3%	16.6%	34.9%	38.2%
	（3）	R6	**夜、寝る 1 時間前からはコンピュータやスマートフォンの利用を控えるようにしている。**	**8.0%**	**12.0%**	**27.1%**	**52.9%**
		R3	夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控（ひか）えるようにしている。	8.1%	12.3%	24.9%	54.7%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
				当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	
小	（1）	R6	**コンピュータやスマートフォンを利用するときは、目と画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。**	**417**	**423**	**427**	**415**	**-0.02**
		R3	情報機器を利用するときは，目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。	417	426	425	419	-0.02
	（2）	R6	**コンピュータやスマートフォンを利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。**	**422**	**417**	**426**	**421**	**-0.01**
		R3	情報機器を利用するときは，30 分に 1 回は 20 秒以上，目を休めるようにしている。	420	421	426	423	-0.02
	（3）	R6	**夜、寝る 1 時間前からはコンピュータやスマートフォンの利用を控えるようにしている。**	**422**	**418**	**428**	**417**	**0.01**
		R3	夜，寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控（ひか）えるようにしている。	420	421	427	426	-0.04
中	（1）	R6	**コンピュータやスマートフォンを利用するときは、目と画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。**	**497**	**502**	**504**	**497**	**0.00**
		R3	情報機器を利用するときは，目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。	496	514	516	510	-0.06
	（2）	R6	**コンピュータやスマートフォンを利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。**	**490**	**496**	**507**	**502**	**-0.04**
		R3	情報機器を利用するときは，30 分に 1 回は 20 秒以上，目を休めるようにしている。	498	506	517	512	-0.06
	（3）	R6	**夜、寝る 1 時間前からはコンピュータやスマートフォンの利用を控えるようにしている。**	**495**	**488**	**505**	**505**	**-0.06**
		R3	夜，寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控（ひか）えるようにしている。	499	509	514	514	-0.06
高	（1）	R6	**コンピュータやスマートフォンを利用するときは、目と画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。**	**545**	**554**	**565**	**562**	**-0.06**
		R3	情報機器を利用するときは，目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。	546	562	569	559	-0.06
	（2）	R6	**コンピュータやスマートフォンを利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。**	**535**	**541**	**563**	**566**	**-0.12**
		R3	情報機器を利用するときは，30 分に 1 回は 20 秒以上，目を休めるようにしている。	535	551	568	567	-0.12
	（3）	R6	**夜、寝る 1 時間前からはコンピュータやスマートフォンの利用を控えるようにしている。**	**536**	**528**	**557**	**569**	**-0.16**
		R3	夜，寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控（ひか）えるようにしている。	527	545	562	570	-0.17

※選択肢の得点化……「当てはまる」 4 点、「どちらかといえば、当てはまる」 3 点、「どちらかといえば、当てはまらない」 2 点、「当てはまらない」 1 点

全校種に共通して、全ての質問項目で否定的回答（「どちらかといえば、当てはまらない」、「当てはまらない」）の割合が増加した。

⑨　問９　生成 AI に対する期待等

児童生徒質問調査の問９では、調査に参加した児童生徒に対して、「生成 AI に対する期待等」を尋ねた。以下では各選択肢の回答割合と平均得点、選択肢と得点との相関係数の分析結果を示す（図表 3-1-14）。

> 生成 AI（画像や文章などを生成する AI）の利用について、あなたはどのように利用し、どのように考えていますか。以下の（１）～（６）それぞれについて、当てはまるものを１つ選んでください。

１．令和６年度調査結果

図表 3-1-14 児童生徒質問調査の問９「生成 AI に対する期待等」
（小学校：4422 人、中学校：4810 人、高等学校：4938 人）

（回答割合）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点		
		使ったことがある	使ったことがない	わからない・知らない
小	（１）生成 AI を使ったことがある。	23.0%	39.3%	37.7%
中	（１）生成 AI を使ったことがある。	31.6%	45.0%	23.4%
高	（１）生成 AI を使ったことがある。	47.4%	36.5%	16.2%

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				
		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	わからない・知らない
小	（２）生成 AI に興味がある。	23.7%	19.5%	12.9%	20.1%	23.9%
	（３）生成 AI は学習に役立つ。	18.6%	21.1%	10.6%	8.5%	41.2%
	（４）生成 AI に指示文（プロンプト）を入力する際は、個人情報やプライバシーに関する情報を入力するべきではない。	45.9%	11.4%	4.2%	4.1%	34.4%
	（５）生成 AI を使って調べたときは、複数の情報源をもとに確認するべきだ。	36.0%	19.1%	4.7%	3.6%	36.5%
	（６）生成 AI によって得られた結果は、参考の一つに過ぎず、最後は自分で判断すべきだ。	43.6%	20.4%	4.3%	2.6%	29.2%

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				
		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	わからない・知らない
中	（2）生成 AI に興味がある。	20.1%	22.9%	17.9%	25.4%	13.7%
	（3）生成 AI は学習に役立つ。	17.7%	24.8%	12.9%	11.1%	33.5%
	（4）生成 AI に指示文（プロンプト）を入力する際は、個人情報やプライバシーに関する情報を入力するべきではない。	51.5%	16.4%	4.1%	3.8%	24.2%
	（5）生成 AI を使って調べたときは、複数の情報源をもとに確認するべきだ。	43.1%	22.7%	4.2%	2.9%	27.1%
	（6）生成 AI によって得られた結果は、参考の一つに過ぎず、最後は自分で判断すべきだ。	55.3%	19.7%	2.6%	1.9%	20.5%
高	（2）生成 AI に興味がある。	25.5%	27.4%	18.6%	18.4%	10.1%
	（3）生成 AI は学習に役立つ。	26.7%	31.5%	11.4%	8.3%	22.0%
	（4）生成 AI に指示文（プロンプト）を入力する際は、個人情報やプライバシーに関する情報を入力するべきではない。	59.1%	18.0%	4.3%	3.1%	15.5%
	（5）生成 AI を使って調べたときは、複数の情報源をもとに確認するべきだ。	53.5%	24.2%	4.3%	2.4%	15.7%
	（6）生成 AI によって得られた結果は、参考の一つに過ぎず、最後は自分で判断すべきだ。	66.0%	18.3%	2.7%	1.6%	11.3%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点			相関係数
		使ったことがある	使ったことがない	わからない・知らない	
小	（1）生成 AI を使ったことがある。	431	434	402	-0.03
中	（1）生成 AI を使ったことがある。	521	506	463	0.11
高	（1）生成 AI を使ったことがある。	584	554	493	0.19

校種	内容	選択肢ごとの平均得点					相関係数
		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	わからない・知らない	
小	（2）生成 AI に興味がある。	438	436	419	419	396	0.12
	（3）生成 AI は学習に役立つ。	419	432	426	421	417	-0.01
	（4）生成 AI に指示文（プロンプト）を入力する際は、個人情報やプライバシーに関する情報を入力するべきではない。	442	405	379	386	408	0.33
	（5）生成 AI を使って調べたときは、複数の情報源をもとに確認するべきだ。	439	421	400	385	411	0.23
	（6）生成AIによって得られた結果は、参考の一つに過ぎず、最後は自分で判断すべきだ。	439	419	386	373	406	0.27
中	（2）生成 AI に興味がある。	526	522	498	490	454	0.19
	（3）生成 AI は学習に役立つ。	510	511	513	495	487	0.04
	（4）生成 AI に指示文（プロンプト）を入力する際は、個人情報やプライバシーに関する情報を入力するべきではない。	523	497	462	451	472	0.30
	（5）生成 AI を使って調べたときは、複数の情報源をもとに確認するべきだ。	521	505	471	451	475	0.23
	（6）生成AIによって得られた結果は、参考の一つに過ぎず、最後は自分で判断すべきだ。	522	488	468	434	466	0.29

校種	内容	選択肢ごとの平均得点					相関係数
		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	わからない・知らない	
高	（2）生成 AI に興味がある。	587	577	558	535	482	0.21
	（3）生成 AI は学習に役立つ。	577	569	572	543	520	0.09
	（4）生成 AI に指示文（プロンプト）を入力する際は、個人情報やプライバシーに関する情報を入力するべきではない。	582	555	512	479	500	0.33
	（5）生成 AI を使って調べたときは、複数の情報源をもとに確認するべきだ。	583	558	501	477	502	0.31
	（6）生成AIによって得られた結果は、参考の一つに過ぎず、最後は自分で判断すべきだ。	582	541	474	460	483	0.37

※選択肢の得点化……「当てはまる」 4 点、「どちらかといえば、当てはまる」 3 点、「どちらかといえば、当てはまらない」 2 点、「当てはまらない」 1 点、「わからない・知らない」得点なし

（2）～（6）について、全校種に共通して、ほとんどの項目において肯定的回答（「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」）の割合が 50%以上であった。

児童生徒の「生成 AI に対する期待等」と得点との関係では、全校種に共通して、「（4）生成 AI に指示文（プロンプト）を入力する際は、個人情報やプライバシーに関する情報を入力するべきではない。」、「（5）生成 AI を使って調べたときは、複数の情報源をもとに確認するべきだ。」、「（6）生成 AI によって得られた結果は、参考の一つに過ぎず、最後は自分で判断すべきだ。」について、0.2 以上のごく弱い正の相関がみられた。これに加えて、高等学校においては、「（2）生成 AI に興味がある。」について、0.2 以上のごく弱い正の相関がみられた。

■ 3.1.2. 上位群・下位群の分析と肯定群・否定群の分析結果

この項では、質問調査と調査問題得点の関係性を見出すために行った、児童生徒を調査問題得点上位群・下位群に分けた分析結果と、質問項目肯定群・否定群に分けた分析結果を示す。上位群・下位群に分けた分析では、調査問題の得点の上位 10%を上位群、下位 10%を下位群として、各群における得点化した質問調査の平均点を比較した。

以降、t 検定において有意水準 5 %で有意であり、かつ標準化平均値差が 0.5 以上であったものについて、群間に差がみられたとみなした。ただし、1.5.3 項にて述べたとおり、検定の際は補正を行った。また、3.1.1 項にて分析を行わなかった問 1 と問 2 はここでも分析対象外とした。

③　問 3　学校での情報活用能力育成に関する各種取組頻度

問 3 について、上位群・下位群の分析では令和 6 年度調査「ほぼ毎日／週 3 回以上」 4 点、「週 1 ～ 2 回以上」 3 点、「月 1 回以上」 2 点、「月 1 回未満／まったくか、ほとんどない」 1 点、「わからない」得点なし、令和 3 年度調査「毎日／ほぼ毎日」 4 点、「週に 1 ～ 2 回」 3 点、「月に 1 ～ 2 回」 2 点、「まったくか、ほとんどない」 1 点とみなして分析を行った（図表 3-1-15）。なお、問 3 の上位群・下位群の分析に際しては、「わからない・覚えていない」の回答を除外したうえで両群を形成した。また、問 3 は明確に肯定群・否定群の群分けを行うことができないため、上位群・下位群の分析結果のみを示す。

図表 3-1-15（上位群・下位群の分析）

校種	内容	R3			R6		
		上位群 平均点 / 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差	上位群 平均点 / 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差
小	（1）インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。（R3：インターネットを使って情報を収集する。）	2.84 / 2.39	6.51***	0.43	3.28 / 3.09	2.57*	0.17
	（2）学校図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。（R3：学校図書館で情報を収集する。）	1.71 / 1.56	—	—	2.04 / 2.05	—	—
	（3）コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。（R3：コンピュータを使って文章を作成する。）	2.10 / 1.89	3.32**	0.22	2.73 / 2.38	4.29***	0.30
	（4）コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。（R3：コンピュータを使って図や表に情報をまとめる。）	1.63 / 1.66	—	—	1.97 / 2.10	—	—
	（5）コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。	1.81 / 1.65	—	—	1.79 / 1.92	—	—
	（6）コンピュータを使ってプログラミングをする。（R3：コンピュータを使ってプログラムを作成する。）	1.50 / 1.60	-1.69	-0.11	1.54 / 1.93	-5.27***	-0.36

校種	内容	R3			R6		
		上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差	上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差
小	（7）自分で学んだことや、学んだ成果を残し、振り返るためにコンピュータを使う（授業の感想を書く、ポートフォリオに保存するなど）。 （R3：学んだことや学んだ成果を記録するためにコンピュータを使う。）	1.59 1.64	—	—	2.10 2.13	—	—
	（8）自分が調べたことや考えたことを他の人に共有したり、他の人のものを参考にしたりするためにコンピュータを使う（クラウド上にデータを保存するなど）。 （R3：調べたことや考えたことを共有するためにコンピュータを使う。）	2.00 1.85	—	—	2.10 2.10	—	—
	（9）他の人が調べたことや考えたことを参考に、自分の学習を進めるためにコンピュータを使う。	— —	—	—	3.00 3.00	0.00	0.00
	（10）コンピュータを使って一つのものを他の人と協力して編集しながら作成する（共同編集するなど）。	— —	—	—	2.53 2.75	-2.06*	-0.15
	（11）コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。 （R3：コンピュータを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。）	2.00 1.88	—	—	2.04 2.22	—	—
	（12）コンピュータやスマートフォンなどを使ってメッセージやコメントのやり取りをする（チャットを含む）。	— —	—	—	2.40 3.64	-8.69***	-0.61
中	（1）インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。 （R3：インターネットを使って情報を収集する。）	2.85 2.68	—	—	3.33 3.35	—	—
	（2）学校図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。 （R3：学校図書館で情報を収集する。）	1.27 1.26	—	—	1.42 1.42	—	—

校種	内容	R3			R6		
		上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差	上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差
中	（3）コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。 （R3：コンピュータを使って文章を作成する。）	2.14 1.77	6.27***	0.40	2.57 2.19	4.85***	0.32
	（4）コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。 （R3：コンピュータを使って図や表に情報をまとめる。）	1.56 1.50	—	—	1.74 1.84	—	—
	（5）コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。	1.68 1.56	2.93*	0.19	1.65 1.57	1.43	0.09
	（6）コンピュータを使ってプログラミングをする。 （R3：コンピュータを使ってプログラムを作成する。）	1.27 1.36	-2.28 †	-0.15	1.21 1.44	-4.54***	-0.29
	（7）自分で学んだことや、学んだ成果を残し、振り返るためにコンピュータを使う（授業の感想を書く、ポートフォリオに保存するなど）。 （R3：学んだことや学んだ成果を記録するためにコンピュータを使う。）	1.71 1.47	4.15***	0.27	2.04 2.00	0.58	0.04
	（8）自分が調べたことや考えたことを他の人に共有したり、他の人のものを参考にしたりするためにコンピュータを使う（クラウド上にデータを保存するなど）。 （R3：調べたことや考えたことを共有するためにコンピュータを使う。）	2.06 1.75	5.14***	0.33	1.92 1.98	-0.85	-0.06
	（9）他の人が調べたことや考えたことを参考に、自分の学習を進めるためにコンピュータを使う。	— —	—	—	2.67 2.64	0.24	0.02
	（10）コンピュータを使って一つのものを他の人と協力して編集しながら作成する（共同編集するなど）。	— —	—	—	2.23 2.31	-0.98	-0.07

校種	内容	R3			R6		
		上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差	上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差
中	（11）コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。 （R3：コンピュータを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。）	1.73 1.63	—	—	1.78 1.86	—	—
中	（12）コンピュータやスマートフォンなどを使ってメッセージやコメントのやり取りをする（チャットを含む）。	— —	—	—	3.10 4.30	-8.34***	-0.55
高	（1）インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。 （R3：インターネットを使って情報を収集する。）	2.90 2.63	3.64**	0.23	3.68 3.50	3.62**	0.21
高	（2）学校図書館で情報を収集する(本を読む、調べるなど)。 （R3：学校図書館で情報を収集する。）	1.18 1.21	-0.70	-0.04	1.16 1.28	-2.95*	-0.18
高	（3）コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。 （R3：コンピュータを使って文章を作成する。）	1.95 1.75	3.18**	0.20	2.63 2.23	5.69***	0.33
高	（4）コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。 （R3：コンピュータを使って図や表に情報をまとめる。）	1.52 1.50	—	—	1.74 1.80	—	—
高	（5）コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。	1.49 1.44	—	—	1.55 1.53	—	—
高	（6）コンピュータを使ってプログラミングをする。 （R3：コンピュータを使ってプログラムを作成する。）	1.20 1.30	-2.48†	-0.16	1.30 1.40	-2.26†	-0.14
高	（7）自分で学んだことや、学んだ成果を残し、振り返るためにコンピュータを使う（授業の感想を書く、ポートフォリオに保存するなど）。 （R3：学んだことや学んだ成果を記録するためにコンピュータを使う。）	1.47 1.38	1.87	0.12	1.93 1.84	1.31	0.08

校種	内容	R3			R6		
		上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差	上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差
高	（8）自分が調べたことや考えたことを他の人に共有したり、他の人のものを参考にしたりするためにコンピュータを使う（クラウド上にデータを保存するなど）。 （R3：調べたことや考えたことを共有するためにコンピュータを使う。）	1.65 1.57	1.40	0.09	1.90 1.76	2.13	0.12
	（9）他の人が調べたことや考えたことを参考に、自分の学習を進めるためにコンピュータを使う。	— —	—	—	2.73 2.32	3.87***	0.25
	（10）コンピュータを使って一つのものを他の人と協力して編集しながら作成する（共同編集するなど）。	— —	—	—	2.30 1.99	3.65***	0.24
	（11）コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。 （R3：コンピュータを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。）	1.57 1.36	3.87***	0.25	2.18 1.84	5.10***	0.29
	（12）コンピュータやスマートフォンなどを使ってメッセージやコメントのやり取りをする（チャットを含む）。	— —	—	—	4.64 4.58	0.42	0.03

※「***」0.1%水準で有意、「**」１%水準で有意、「*」５%水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

●令和６年度調査の小学校及び中学校では、上位群の児童生徒の方が「(12) コンピュータやスマートフォンなどを使ってメッセージやコメントのやり取りをする（チャットを含む）。」の取組頻度が低い傾向がみられた。【上位群・下位群】

④　問４　学校外での情報活用能力育成に関する各種取組頻度

問４について、上位群・下位群の分析では令和６年度調査「ほぼ毎日／週３回以上」４点、「週１～２回以上」３点、「月１回以上」２点、「月１回未満／まったくか、ほとんどない」１点、「わからない」得点なし、令和３年度調査「毎日／ほぼ毎日」４点、「週に１～２回」３点、「月に１～２回」２点、「まったくか、ほとんどない」１点とみなして分析を行った（図表 3-1-16）。なお、問４の上位群・下位群の分析に際しては、「わからない・覚えていない」の回答を除外したうえで両群を形成した。また、問４は明確に肯定群・否定群の群分けを行うことができないため、上位群・下位群の分析結果のみを示す。

図表 3-1-16（上位群・下位群の分析）

校種	内容	R3			R6		
		上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差	上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差
小	（1）インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。 （R3：インターネットを使って情報を収集する。）	2.86 2.04	11.02***	0.73	3.11 2.97	1.72	0.12
	（2）図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。 （R3：図書館・書店で情報を収集する。）	1.63 1.44	—	—	1.76 1.88	—	—
	（3）コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。 （R3：コンピュータを使って文章を作成する。）	1.65 1.56	—	—	2.05 2.20	—	—
	（4）コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。 （R3：コンピュータを使って図や表に情報をまとめる。）	1.25 1.45	-4.16***	-0.28	1.48 1.89	-5.65***	-0.40
	（5）コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。	1.32 1.49	-3.49**	-0.23	1.36 1.78	-6.29***	-0.44
	（6）コンピュータを使ってプログラミングをする。 （R3：コンピュータを使ってプログラムを作成する。）	1.42 1.43	-0.20	-0.01	1.52 1.90	-5.09***	-0.35
	（7）コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。 （R3：コンピュータを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。）	1.65 1.65	-0.06	0.00	1.75 2.01	-3.37**	-0.23
	（8）SNS で情報を発信する。	1.14 1.31	-3.75***	-0.25	1.24 1.61	-5.72***	-0.40

校種	内容	R3			R6		
		上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差	上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（9）E メール（電子メール）を使う。（R3：E メールを使う。）	1.44 1.58	-2.10	-0.14	1.92 2.21	-3.05**	-0.22
中	（1）インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。（R3：インターネットを使って情報を収集する。）	3.66 2.96	10.93***	0.70	3.73 3.32	6.96***	0.42
	（2）図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。（R3：図書館・書店で情報を収集する。）	1.53 1.31	4.99***	0.32	1.34 1.38	-0.75	-0.05
	（3）コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。（R3：コンピュータを使って文章を作成する。）	2.10 1.63	6.54***	0.42	2.36 2.00	4.20***	0.28
	（4）コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。（R3：コンピュータを使って図や表に情報をまとめる。）	1.25 1.25	0.06	0.00	1.41 1.58	-2.78*	-0.18
	（5）コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。	1.17 1.25	-2.31 †	-0.15	1.24 1.39	-3.08**	-0.19
	（6）コンピュータを使ってプログラミングをする。（R3：コンピュータを使ってプログラムを作成する。）	1.21 1.23	—	—	1.25 1.33	—	—
	（7）コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。（R3：コンピュータを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。）	1.60 1.43	3.07**	0.20	1.79 1.68	1.55	0.10
	（8）SNS で情報を発信する。	1.83 1.83	0.01	0.00	1.77 2.08	-3.84***	-0.25
	（9）E メール（電子メール）を使う。（R3：E メールを使う。）	1.68 1.74	—	—	2.27 2.26	—	—

校種	内容	R3			R6		
		上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差	上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差
高	（1）インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。 （R3：インターネットを使って情報を収集する。）	3.76 2.96	12.36***	0.79	3.90 3.43	9.80***	0.64
	（2）図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。 （R3：図書館・書店で情報を収集する。）	1.44 1.31	—	—	1.13 1.33	—	—
	（3）コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。 （R3：コンピュータを使って文章を作成する。）	1.94 1.58	5.11***	0.33	2.38 1.98	5.30***	0.30
	（4）コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。 （R3：コンピュータを使って図や表に情報をまとめる。）	1.27 1.30	—	—	1.44 1.51	—	—
	（5）コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。	1.18 1.28	-2.69*	-0.17	1.24 1.44	-4.28***	-0.27
	（6）コンピュータを使ってプログラミングをする。 （R3：コンピュータを使ってプログラムを作成する。）	1.15 1.25	-2.42 †	-0.15	1.16 1.36	-4.72***	-0.29
	（7）コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。 （R3：コンピュータを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。）	1.76 1.35	6.76***	0.43	2.24 1.69	8.49***	0.47
	（8）SNS で情報を発信する。	2.27 2.18	—	—	2.20 2.32	—	—
	（9）E メール（電子メール）を使う。 （R3：E メールを使う。）	1.85 1.72	1.88	0.12	2.15 2.05	1.37	0.08

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

高等学校では、令和 3 年度調査・令和 6 年度調査に共通して上位群の生徒の方が「（1）インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。」の取組頻度が高い傾向がみられた。【上位群・下位群】

⑤　問５　情報活用能力における「主体的に学習に取り組む態度」及びファクトチェックの意識

問５について、上位群・下位群の分析では令和６年度調査「意識している」を４点、「どちらかといえば、意識している」を３点、「どちらかといえば、意識していない」を２点、「意識していない」を１点、令和３年度調査「当てはまる」を４点、「どちらかといえば、当てはまる」を３点、「どちらかといえば、当てはまらない」を２点、「当てはまらない」を１点とみなして分析を行った（図表 3-1-17）。肯定群・否定群の分析では令和６年度調査「意識している」、「どちらかといえば、意識している」を肯定群、「どちらかといえば、意識していない」、「意識していない」を否定群、令和３年度調査「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」を肯定群、「どちらかといえば、当てはまらない」、「当てはまらない」を否定群として分析を行った（図表 3-1-18）。

図表 3-1-17（上位群・下位群の分析）

校種	内容	R3			R6		
		上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差	上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差
小	（1）集めた情報のつながり（関係）を考えて理解しようとする。（R3：集めた情報のつながりを考えて理解しようとする。）	3.09 2.67	7.02***	0.47	3.09 2.89	3.74***	0.24
	（2）情報をいろいろな面から見たり考えたりしようとする。	3.07 2.59	7.71***	0.51	3.15 2.89	4.64***	0.30
	（3）コンピュータやインターネットをどのように使うのか計画を立てて取り組もうとする。	2.84 2.55	4.50***	0.30	2.95 2.77	3.01*	0.20
	（4）集めた情報を用いて新しい考えをつくろうとする。	2.82 2.38	6.78***	0.45	3.00 2.64	5.84***	0.38
	（5）コンピュータやインターネットをどのように使ったのかを振り返り、良かった点や改善点を見出そうとする。	2.44 2.38	—	—	2.52 2.62	—	—
	（6）自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。	3.53 2.81	12.18***	0.81	3.57 3.14	8.62***	0.55
	（7）インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。	3.78 3.34	8.91***	0.59	3.81 3.40	9.91***	0.62
	（8）ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。	3.87 3.13	13.78***	0.91	3.84 3.30	12.14***	0.74
	（9）コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。	3.89 3.12	14.22***	0.94	3.87 3.34	12.35***	0.75
	（10）インターネットで発信した情報に責任があることを考えて行動しようとする。	3.72 3.12	11.19***	0.74	3.67 3.29	7.63***	0.48

校種	内容	R3			R6		
		上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差	上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差
小	（11）コンピュータやインターネットの利用によって健康に影響があることを考えて行動しようとする。	3.31 2.91	6.22***	0.41	3.13 3.05	1.37	0.09
	（12）インターネットは共用のものであるという意識を持って行動しようとする。	3.55 3.02	9.02***	0.60	3.50 3.18	6.23***	0.40
	（13）コンピュータやインターネットをよりよい生活やよりよい社会づくりに生かそうとする。	3.17 2.94	3.75***	0.25	2.99 2.95	0.58	0.04
	（14）検索サイトや SNS 上で見た情報の発信元（誰が発信しているか）を確認する。	— —	—	—	2.95 2.75	2.93**	0.20
	（15）検索サイトや SNS 上で見た情報の発信時期（いつ発信されたか）を確認する。	— —	—	—	2.90 2.75	2.16*	0.14
	（16）インターネットで情報を検索したときには、いろいろな Web サイトや他のメディア（本、テレビ、新聞など）の情報と比較するなどして、検索した情報が正しいかを確認する。	— —	—	—	2.88 2.90	-0.32	-0.02
中	（1）集めた情報のつながり（関係）を考えて理解しようとする。 （R3：集めた情報のつながりを考えて理解しようとする。）	3.12 2.77	6.24***	0.40	3.14 2.86	5.18***	0.32
	（2）情報をいろいろな面から見たり考えたりしようとする。	3.14 2.80	6.09***	0.39	3.26 2.81	8.14***	0.50
	（3）コンピュータやインターネットをどのように使うのか計画を立てて取り組もうとする。	2.58 2.59	—	—	2.69 2.57	—	—
	（4）集めた情報を用いて新しい考えをつくろうとする。	2.84 2.46	6.27***	0.40	2.94 2.52	7.07***	0.44
	（5）コンピュータやインターネットをどのように使ったのかを振り返り、良かった点や改善点を見出そうとする。	2.30 2.37	-1.06	-0.07	2.27 2.39	-1.81	-0.11

校種	内容	R3			R6		
		上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差	上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差
中	（6）自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。	3.64 3.10	10.64***	0.68	3.54 2.97	11.20***	0.66
	（7）インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。	3.79 3.57	5.53***	0.35	3.79 3.37	10.08***	0.57
	（8）ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。	3.85 3.61	6.37***	0.41	3.81 3.43	9.42***	0.53
	（9）コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。	3.88 3.59	7.19***	0.46	3.78 3.45	7.75***	0.45
	（10）インターネットで発信した情報に責任があることを考えて行動しようとする。	3.75 3.52	5.63***	0.36	3.72 3.31	9.28***	0.53
	（11）コンピュータやインターネットの利用によって健康に影響があることを考えて行動しようとする。	3.07 3.21	—	—	3.09 2.95	—	—
	（12）インターネットは共用のものであるという意識を持って行動しようとする。	3.51 3.35	3.17**	0.20	3.38 3.12	4.77***	0.30
	（13）コンピュータやインターネットをよりよい生活やよりよい社会づくりに生かそうとする。	3.21 3.20	—	—	2.93 2.90	—	—
	（14）検索サイトや SNS 上で見た情報の発信元（誰が発信しているか）を確認する。	— —	—	—	3.15 2.89	4.24***	0.27
	（15）検索サイトや SNS 上で見た情報の発信時期（いつ発信されたか）を確認する。	— —	—	—	3.19 2.86	5.40***	0.35
	（16）インターネットで情報を検索したときには、いろいろな Web サイトや他のメディア（本、テレビ、新聞など）の情報と比較するなどして、検索した情報が正しいかを確認する。	— —	—	—	2.95 2.79	2.58*	0.16

校種	内容	R3			R6		
		上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差	上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差
高	（1）集めた情報のつながり（関係）を考えて理解しようとする。（R3：集めた情報のつながりを考えて理解しようとする。）	3.22 2.79	7.64***	0.49	3.26 2.82	8.67***	0.50
	（2）情報をいろいろな面から見たり考えたりしようとする。	3.32 2.84	8.71***	0.56	3.41 2.78	12.68***	0.74
	（3）コンピュータやインターネットをどのように使うのか計画を立てて取り組もうとする。	2.46 2.47	—	—	2.54 2.44	—	—
	（4）集めた情報を用いて新しい考えをつくろうとする。	2.80 2.49	5.13***	0.33	2.82 2.48	6.18***	0.35
	（5）コンピュータやインターネットをどのように使ったのかを振り返り、良かった点や改善点を見出そうとする。	2.22 2.36	-2.23	-0.14	2.20 2.31	-1.95	-0.11
	（6）自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。	3.53 2.97	10.43***	0.67	3.54 2.85	13.87***	0.82
	（7）インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。	3.78 3.43	8.26***	0.53	3.80 3.30	11.72***	0.72
	（8）ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。	3.76 3.46	7.10***	0.45	3.76 3.33	10.08***	0.62
	（9）コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。	3.82 3.48	7.54***	0.48	3.78 3.36	9.70***	0.59
	（10）インターネットで発信した情報に責任があることを考えて行動しようとする。	3.75 3.39	8.08***	0.52	3.74 3.29	10.19***	0.62
	（11）コンピュータやインターネットの利用によって健康に影響があることを考えて行動しようとする。	3.02 3.08	—	—	3.02 2.92	—	—

校種	内容	R3			R6		
		上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差	上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差
高	（12）インターネットは共用のものであるという意識を持って行動しようとする。	3.40 3.30	1.97	0.13	3.31 3.06	4.72***	0.27
	（13）コンピュータやインターネットをよりよい生活やよりよい社会づくりに生かそうとする。	3.24 3.17	1.24	0.08	3.00 2.89	2.02	0.11
	（14）検索サイトや SNS 上で見た情報の発信元（誰が発信しているか）を確認する。	— —	—	—	3.25 2.92	5.64***	0.36
	（15）検索サイトや SNS 上で見た情報の発信時期（いつ発信されたか）を確認する。	— —	—	—	3.28 2.89	6.75***	0.43
	（16）インターネットで情報を検索したときには、いろいろな Web サイトや他のメディア（本、テレビ、新聞など）の情報と比較するなどして、検索した情報が正しいかを確認する。	— —	—	—	3.09 2.83	4.24***	0.27

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

図表 3-1-18（肯定群・否定群の分析）

校種	内容	R3			R6		
		肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差	肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（1）集めた情報のつながり（関係）を考えて理解しようとする。（R3：集めた情報のつながりを考えて理解しようとする。）	429 407	8.60***	0.29	424 411	4.50***	0.16
	（2）情報をいろいろな面から見たり考えたりしようとする。	430 408	8.94***	0.29	425 413	4.50***	0.15
	（3）コンピュータやインターネットをどのように使うのか計画を立てて取り組もうとする。	427 415	5.11***	0.16	424 417	2.64*	0.09
	（4）集めた情報を用いて新しい考えをつくろうとする。	431 413	7.78***	0.23	426 412	5.70***	0.18
	（5）コンピュータやインターネットをどのように使ったのかを振り返り、良かった点や改善点を見出そうとする。	423 422	—	—	419 424	—	—
	（6）自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。	429 392	12.72***	0.49	425 396	8.64***	0.37
	（7）インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。	426 371	11.42***	0.74	424 375	8.35***	0.63
	（8）ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。	428 355	18.07***	0.99	425 361	12.51***	0.83
	（9）コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。	428 359	17.67***	0.94	425 363	12.12***	0.79
	（10）インターネットで発信した情報に責任があることを考えて行動しようとする。	427 379	12.34***	0.64	424 388	7.80***	0.46
	（11）コンピュータやインターネットの利用によって健康に影響があることを考えて行動しようとする。	426 408	6.03***	0.24	422 419	1.16	0.04

校種	内容	R3			R6		
		肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差	肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（12）インターネットは共用のものであるという意識を持って行動しようとする。	427 395	8.40***	0.41	424 402	5.92***	0.28
	（13）コンピュータやインターネットをよりよい生活やよりよい社会づくりに生かそうとする。	426 413	4.35***	0.16	422 421	0.14	0.00
	（14）検索サイトや SNS 上で見た情報の発信元（誰が発信しているか）を確認する。	— —	—	—	424 418	2.46*	0.08
	（15）検索サイトや SNS 上で見た情報の発信時期（いつ発信されたか）を確認する。	— —	—	—	424 417	2.59**	0.08
	（16）インターネットで情報を検索したときには、いろいろな Web サイトや他のメディア（本、テレビ、新聞など）の情報と比較するなどして、検索した情報が正しいかを確認する。	— —	—	—	421 422	-0.47	-0.01
中	（1）集めた情報のつながり（関係）を考えて理解しようとする。	517 493	8.98***	0.30	506 486	6.56***	0.22
	（2）情報をいろいろな面から見たり考えたりしようとする。	517 492	8.98***	0.31	508 481	8.93***	0.30
	（3）コンピュータやインターネットをどのように使うのか計画を立てて取り組もうとする。	509 513	—	—	503 498	—	—
	（4）集めた情報を用いて新しい考えをつくろうとする。	518 501	7.44***	0.22	509 489	7.52***	0.22
	（5）コンピュータやインターネットをどのように使ったのかを振り返り、良かった点や改善点を見出そうとする。	508 513	-2.09	-0.06	496 505	-3.59**	-0.10
	（6）自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。	516 467	11.91***	0.61	507 463	10.53***	0.49

校種	内容	R3			R6		
		肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差	肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
中	（7）インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。	513 451	7.69***	0.77	504 421	11.47***	0.95
	（8）ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。	513 453	7.43***	0.74	504 439	9.05***	0.73
	（9）コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。	513 448	8.42***	0.81	504 447	7.61***	0.63
	（10）インターネットで発信した情報に責任があることを考えて行動しようとする。	513 455	7.74***	0.73	505 442	9.89***	0.71
	（11）コンピュータやインターネットの利用によって健康に影響があることを考えて行動しようとする。	510 515	—	—	503 496	—	—
	（12）インターネットは共用のものであるという意識を持って行動しようとする。	512 495	3.83***	0.22	503 491	3.00*	0.13
	（13）コンピュータやインターネットをよりよい生活やよりよい社会づくりに生かそうとする。	512 505	—	—	501 501	—	—
	（14）検索サイトや SNS 上で見た情報の発信元（誰が発信しているか）を確認する。	— —	—	—	505 490	4.91***	0.16
	（15）検索サイトや SNS 上で見た情報の発信時期（いつ発信されたか）を確認する。	— —	—	—	506 485	6.95***	0.23
	（16）インターネットで情報を検索したときには、いろいろな Web サイトや他のメディア（本、テレビ、新聞など）の情報と比較するなどして、検索した情報が正しいかを確認する。	— —	—	—	503 498	1.57	0.05

校種	内容	R3			R6		
		肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差	肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
高	（1）集めた情報のつながり（関係）を考えて理解しようとする。	568 539	9.18***	0.32	566 532	9.59***	0.33
	（2）情報をいろいろな面から見たり考えたりしようとする。	567 538	9.19***	0.33	568 516	13.88***	0.53
	（3）コンピュータやインターネットをどのように使うのか計画を立てて取り組もうとする。	559 564	—	—	560 557	—	—
	（4）集めた情報を用いて新しい考えをつくろうとする。	568 553	5.73***	0.17	566 548	6.22***	0.18
	（5）コンピュータやインターネットをどのように使ったのかを振り返り、良かった点や改善点を見出そうとする。	554 566	-4.51***	-0.13	553 562	-3.00*	-0.09
	（6）自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。	566 521	10.18***	0.52	566 508	13.43***	0.59
	（7）インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。	564 497	7.72***	0.77	562 468	11.05***	0.95
	（8）ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。	564 503	7.82***	0.69	563 474	11.24***	0.89
	（9）コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。	564 487	9.12***	0.87	562 485	8.91***	0.78
	（10）インターネットで発信した情報に責任があることを考えて行動しようとする。	564 499	8.41***	0.74	563 486	10.52***	0.76
	（11）コンピュータやインターネットの利用によって健康に影響があることを考えて行動しようとする。	560 567	—	—	559 557	—	—

校種	内容	R3			R6		
		肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差	肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
高	（12）インターネットは共用のものであるという意識を持って行動しようとする。	561 561	0.05	0.00	561 545	3.71***	0.16
	（13）コンピュータやインターネットをよりよい生活やよりよい社会づくりに生かそうとする。	562 559	—	—	559 558	—	—
	（14）検索サイトや SNS 上で見た情報の発信元（誰が発信しているか）を確認する。	— —	—	—	563 541	5.92***	0.22
	（15）検索サイトや SNS 上で見た情報の発信時期（いつ発信されたか）を確認する。	— —	—	—	563 540	5.80***	0.22
	（16）インターネットで情報を検索したときには、いろいろな Web サイトや他のメディア（本、テレビ、新聞など）の情報と比較するなどして、検索した情報が正しいかを確認する。	— —	—	—	562 547	4.71***	0.15

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

- 小学校では、令和 3 年度調査・令和 6 年度調査に共通して上位群の児童の方が「（6）自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。」、「（7）インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。」、「（8）ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。」、「（9）コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。」ことを意識している傾向がみられた。【上位群・下位群】
- 小学校では、令和 3 年度調査・令和 6 年度調査に共通して「（7）インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。」、「（8）ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。」、「（9）コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。」ことを意識している児童の方が、調査問題の得点は高い傾向がみられた。【肯定群・否定群】
- 中学校では、令和 3 年度調査・令和 6 年度調査に共通して上位群の生徒の方が、「（6）自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。」ことを意識している傾向がみられた。【上位群・下位群】
- 加えて、令和 6 年度調査の中学校では、上位群の生徒の方が「（2）情報をいろいろな面から見たり考えたりしようとする。」、「（7）インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。」、「（8）ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。」、「（10）インターネットで発信した情報に責任があることを考えて行動しようとする。」ことについても、意識している傾向がみられた。【上位群・下位群】
- 中学校では、令和 3 年度調査・令和 6 年度調査に共通して「（7）インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。」、「（8）ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。」、「（9）コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。」、「（10）インターネットで発信した情報に責任があることを考えて行動しようとする。」ことを意識している生徒の方が、調査問題の得点は高い傾向がみられた。【肯定群・否定群】

- 高等学校では、令和３年度調査・令和６年度調査に共通して上位群の生徒の方が「（２）情報をいろいろな面から見たり考えたりしようとする。」、「（６）自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。」、「（７）インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。」、「(10) インターネットで発信した情報に責任があることを考えて行動しようとする。」ことを意識している傾向がみられた。【上位群・下位群】
- 加えて、令和６年度調査の高等学校では、上位群の生徒の方が「（８）ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。」、「（９）コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。」ことを意識している傾向がみられた。【上位群・下位群】
- 高等学校では、令和３年度調査・令和６年度調査に共通して「（６）自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。」、「（７）インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。」、「（８）ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。」、「（９）コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。」、「(10) インターネットで発信した情報に責任があることを考えて行動しようとする。」ことを意識している生徒の方が、調査問題の得点は高い傾向がみられた。【肯定群・否定群】
- 加えて、令和６年度調査の高等学校では、上位群の生徒の方が「（２）情報をいろいろな面から見たり考えたりしようとする。」ことを意識している生徒の方が、調査問題の得点は高い傾向がみられた。【肯定群・否定群】
- 全校種共に、令和３年度調査・令和６年度調査に共通して上位群の児童生徒の方が「（６）自分や他の人が作った作品や情報には権利があることを考えて大切にしようとする。」ことを意識している傾向がみられた。【上位群・下位群】
- 全校種共に、令和３年度調査・令和６年度調査に共通して「（７）インターネット上のルールやマナーを考えて行動しようとする。」、「（８）ID やパスワード、自分や友達の個人情報などの重要性を考えて行動しようとする。」、「（９）コンピュータへの不正アクセス、情報の不正な取得などに関わらないようにしようとする。」ことを意識している児童生徒の方が、調査問題の得点は高い傾向がみられた。【肯定群・否定群】

⑥　問６　コンピュータやインターネットに対する期待等

問６について、上位群・下位群の分析では「当てはまる」を４点、「どちらかといえば、当てはまる」を３点、「どちらかといえば、当てはまらない」を２点、「当てはまらない」を１点とみなして分析を行った（図表 3-1-19）。肯定群・否定群の分析では「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」を肯定群、「どちらかといえば、当てはまらない」、「当てはまらない」を否定群として分析を行った（図表 3-1-20）。

図表 3-1-19（上位群・下位群の分析）

校種	内容	R3			R6		
		上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差	上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差
小	（1）コンピュータやインターネットに興味がある。	3.69 3.35	6.53***	0.43	3.59 3.35	4.69***	0.30
	（2）コンピュータやインターネットは、将来の仕事に役立つ。	3.62 3.26	6.85***	0.45	3.59 3.25	6.89***	0.44
	（3）コンピュータやインターネットは、学習に役立つ。	3.67 3.37	6.15***	0.41	3.65 3.36	6.20***	0.39
	（4）コンピュータやインターネットが、どのように進化していくのか楽しみだ。	3.52 3.22	4.96***	0.33	3.41 3.20	3.58**	0.23
	（5）コンピュータやインターネットは得意である。	3.14 2.81	5.37***	0.36	3.12 2.88	4.02***	0.26
	（6）キーボードで入力することは得意である。	2.98 2.48	7.74***	0.51	3.04 2.60	6.59***	0.42
	（7）インターネットの情報は正しいものとは限らない。	3.82 3.14	13.49***	0.89	3.81 3.35	10.70***	0.66
	（8）インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。	3.94 3.49	10.17***	0.67	3.94 3.54	9.75***	0.59
	（9）インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。	— —	—	—	3.91 3.50	9.12***	0.61

校種	内容	R3			R6		
		上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差	上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差
中	（1）コンピュータやインターネットに興味がある。	3.78 3.54	5.94***	0.38	3.66 3.31	7.63***	0.45
	（2）コンピュータやインターネットは、将来の仕事に役立つ。	3.81 3.50	7.60***	0.49	3.74 3.36	9.33***	0.54
	（3）コンピュータやインターネットは、学習に役立つ。	3.59 3.48	2.41 †	0.15	3.58 3.36	4.91***	0.30
	（4）コンピュータやインターネットが、どのように進化していくのか楽しみだ。	3.57 3.44	2.75*	0.18	3.42 3.13	5.32***	0.33
	（5）コンピュータやインターネットは得意である。	2.87 2.84	—	—	2.83 2.71	—	—
	（6）キーボードで入力することは得意である。	2.54 2.42	1.98	0.13	2.68 2.47	3.45**	0.22
	（7）インターネットの情報は正しいものとは限らない。	3.79 3.47	8.00***	0.51	3.84 3.41	11.35***	0.64
	（8）インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。	3.87 3.73	3.93***	0.25	3.90 3.64	7.85***	0.44
	（9）インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。	— —	—	—	3.90 3.61	7.65***	0.49

校種	内容	R3			R6		
		上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差	上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差
高	（1）コンピュータやインターネットに興味がある。	3.63 3.20	8.20***	0.53	3.57 3.09	10.02***	0.59
	（2）コンピュータやインターネットは、将来の仕事に役立つ。	3.78 3.33	10.07***	0.65	3.76 3.23	12.72***	0.77
	（3）コンピュータやインターネットは、学習に役立つ。	3.60 3.34	5.65***	0.36	3.64 3.27	8.51***	0.51
	（4）コンピュータやインターネットが、どのように進化していくのか楽しみだ。	3.55 3.22	6.27***	0.40	3.50 3.07	9.03***	0.52
	（5）コンピュータやインターネットは得意である。	2.72 2.54	3.05**	0.20	2.68 2.54	2.71*	0.15
	（6）キーボードで入力することは得意である。	2.41 2.29	1.92	0.12	2.46 2.36	1.88	0.11
	（7）インターネットの情報は正しいものとは限らない。	3.88 3.43	11.45***	0.73	3.87 3.40	12.76***	0.79
	（8）インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。	3.85 3.57	6.93***	0.44	3.89 3.51	9.68***	0.61
	（9）インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。	— —	—	—	3.92 3.56	9.11***	0.57

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

図表 3-1-20（肯定群・否定群の分析）

校種	内容	R3			R6		
		肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差	肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（1）コンピュータやインターネットに興味がある。	425 403	5.81***	0.29	423 407	4.11***	0.21
	（2）コンピュータやインターネットは、将来の仕事に役立つ。	426 397	7.96***	0.38	424 396	7.33***	0.36
	（3）コンピュータやインターネットは、学習に役立つ。	425 387	7.77***	0.51	424 388	7.30***	0.46
	（4）コンピュータやインターネットが、どのように進化していくのか楽しみだ。	425 409	4.78***	0.21	423 413	3.52**	0.14
	（5）コンピュータやインターネットは得意である。	428 411	6.76***	0.22	425 412	5.05***	0.17
	（6）キーボードで入力することは得意である。	431 411	8.57***	0.26	428 409	7.90***	0.25
	（7）インターネットの情報は正しいものとは限らない。	428 369	15.05***	0.79	425 367	11.79***	0.75
	（8）インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。	426 352	13.46***	0.98	424 360	10.50***	0.82
	（9）インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。	— —	—	—	424 369	9.56***	0.71

校種	内容	R3			R6		
		肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差	肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
中	（1）コンピュータやインターネットに興味がある。	513 477	5.99***	0.45	504 471	7.73***	0.38
	（2）コンピュータやインターネットは、将来の仕事に役立つ。	513 460	8.48***	0.66	504 457	8.68***	0.53
	（3）コンピュータやインターネットは、学習に役立つ。	512 498	2.76*	0.18	503 481	3.96***	0.24
	（4）コンピュータやインターネットが、どのように進化していくのか楽しみだ。	513 496	4.04***	0.20	505 486	5.55***	0.21
	（5）コンピュータやインターネットは得意である。	512 509	1.34	0.04	503 498	1.65	0.05
	（6）キーボードで入力することは得意である。	515 507	3.18**	0.09	505 497	2.95*	0.09
	（7）インターネットの情報は正しいものとは限らない。	513 455	8.89***	0.72	504 427	9.97***	0.87
	（8）インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。	512 461	5.86***	0.64	503 427	8.18***	0.86
	（9）インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。	— —	—	—	503 419	7.51***	0.94

校種	内容	R3			R6		
		肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差	肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
高	（1）コンピュータやインターネットに興味がある。	565 525	8.34***	0.45	564 521	10.24***	0.43
	（2）コンピュータやインターネットは、将来の仕事に役立つ。	564 497	9.40***	0.78	563 480	11.63***	0.83
	（3）コンピュータやインターネットは、学習に役立つ。	563 532	4.78***	0.36	562 507	8.05***	0.55
	（4）コンピュータやインターネットが、どのように進化していくのか楽しみだ。	564 540	5.72***	0.28	564 527	8.55***	0.36
	（5）コンピュータやインターネットは得意である。	565 557	3.28**	0.10	563 553	3.49**	0.10
	（6）キーボードで入力することは得意である。	563 560	1.05	0.03	561 556	1.86	0.05
	（7）インターネットの情報は正しいものとは限らない。	564 476	9.28***	1.00	562 452	11.63***	1.11
	（8）インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。	563 509	6.00***	0.62	561 465	9.80***	0.97
	（9）インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。	— —	—	—	561 450	9.78***	1.11

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

- 小学校では、令和３年度調査・令和６年度調査に共通して上位群の児童の方が「（7）インターネットの情報は正しいものとは限らない。」、「（8）インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。」について、肯定的な傾向がみられた。【上位群・下位群】
- 加えて、令和６年度調査の小学校では、上位群の児童の方が「（9）インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。」についても、肯定的な傾向がみられた。【上位群・下位群】
- 小学校では、令和３年度調査・令和６年度調査に共通して「（7）インターネットの情報は正しいものとは限らない。」、「（8）インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。」について、肯定的な児童の方が、調査問題の得点は高い傾向がみられた。【肯定群・否定群】
- 加えて、令和６年度調査の小学校では、「（9）インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。」についても、肯定的な児童の方が、調査問題の得点は高い傾向がみられた。【肯定群・否定群】
- 中学校では、令和３年度調査・令和６年度調査に共通して上位群の生徒の方が「（7）インターネットの情報は正しいものとは限らない。」について、肯定的な傾向がみられた。【上位群・下位群】
- 加えて、令和６年度調査の中学校では、上位群の生徒の方が「（2）コンピュータやインターネットは、将来の仕事に役立つ。」についても、肯定的な傾向がみられた。【上位群・下位群】
- 中学校では、令和３年度調査・令和６年度調査に共通して「（2）コンピュータやインターネットは、将来の仕事に役立つ。」、「（7）インターネットの情報は正しいものとは限らない。」、「（8）インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。」について、肯定的な生徒の方が、調査問題の得点は高い傾向がみられた。【肯定群・否定群】
- 加えて、令和６年度調査の中学校では、「（9）インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。」についても、肯定的な生徒の方が、調査問題の得点は高い傾向がみられた。【肯定群・否定群】
- 高等学校では、令和３年度調査・令和６年度調査に共通して上位群の生徒の方が「（1）コンピュータやインターネットに興味がある。」、「（2）コンピュータやインターネットは、将来の仕事に役立つ。」、「（7）インターネットの情報は正しいものとは限らない。」について、肯定的な傾向がみられた。【上位群・下位群】
- 加えて、令和６年度調査の高等学校では、上位群の生徒の方が「（3）コンピュータやインターネットは、学習に役立つ。」、「（4）コンピュータやインターネットが、どのように進化していくのか楽しみだ。」、「（8）インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。」、「（9）インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。」についても、肯定的な傾向がみられた。【上位群・下位群】
- 高等学校では、「（2）コンピュータやインターネットは、将来の仕事に役立つ。」、「（7）インターネットの情報は正しいものとは限らない。」、「（8）インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。」について、肯定的な生徒の方が、調査問題の得点は高い傾向がみられた。【肯定群・否定群】
- 加えて、令和６年度調査の高等学校では、「（3）コンピュータやインターネットは、学習に役立つ。」、「（9）インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。」について、肯定的な生徒の方が、調査問題の得点は高い傾向がみられた。【肯定群・否定群】
- 全校種共に、令和３年度調査・令和６年度調査に共通して上位群の児童生徒の方が「（7）インターネットの情報は正しいものとは限らない。」について、肯定的な傾向がみられた。【上位群・下位群】
- 全校種共に、令和３年度調査・令和６年度調査に共通して「（7）インターネットの情報は正しいものとは限らない。」、「（8）インターネット上で他人をばかにすることはいけないことだ。」について、肯定的な児童生徒の方が、調査問題の得点は高い傾向がみられた。【肯定群・否定群】
- 全校種共に、令和６年度調査では「（9）インターネット上で他者を攻撃したり不快にさせたりする行為を見たときに、その行為に加わることはいけないことだ。」について、肯定的な児童生徒の方が、調査問題の得点は高い傾向がみられた。【肯定群・否定群】

⑦　問 7　個別最適な学び等に関する状況

問 7 について、上位群・下位群の分析では「当てはまる」を 4 点、「どちらかといえば、当てはまる」を 3 点、「どちらかといえば、当てはまらない」を 2 点、「当てはまらない」を 1 点とみなして分析を行った（図表 3-1-21）。肯定群・否定群の分析では「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」を肯定群、「どちらかといえば、当てはまらない」、「当てはまらない」を否定群として分析を行った（図表 3-1-22）。

図表 3-1-21（上位群・下位群の分析）

校種	内容	上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（1）授業の初めに学習の進め方を考えている。	2.78 2.91	-2.16*	-0.14
	（2）授業の中で学習がうまくいっているかを考えている。	3.13 2.95	2.96**	0.20
	（3）授業の終わりに学習がうまくいったかを振り返っている。	2.79 2.65	2.14*	0.14
	（4）授業の中で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	2.91 2.75	2.68**	0.18
中	（1）授業の初めに学習の進め方を考えている。	2.45 2.59	-2.40*	-0.15
	（2）授業の中で学習がうまくいっているかを考えている。	2.92 2.71	3.46***	0.22
	（3）授業の終わりに学習がうまくいったかを振り返っている。	2.62 2.47	2.38*	0.15
	（4）授業の中で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	2.63 2.54	1.44	0.09
高	（1）授業の初めに学習の進め方を考えている。	2.34 2.42	-1.47	-0.09
	（2）授業の中で学習がうまくいっているかを考えている。	2.87 2.59	4.84***	0.31
	（3）授業の終わりに学習がうまくいったかを振り返っている。	2.53 2.39	2.24*	0.14
	（4）授業の中で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	2.42 2.44	-0.33	-0.02

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

図表 3-1-22（肯定群・否定群の分析）

校種	内容	肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（1）授業の初めに学習の進め方を考えている。	420 425	-2.29*	-0.07
	（2）授業の中で学習がうまくいっているかを考えている。	424 414	3.52***	0.12
	（3）授業の終わりに学習がうまくいったかを振り返っている。	424 417	2.85**	0.09
	（4）授業の中で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	424 418	2.50*	0.08
中	（1）授業の初めに学習の進め方を考えている。	499 503	-1.53	-0.04
	（2）授業の中で学習がうまくいっているかを考えている。	505 492	4.87***	0.15
	（3）授業の終わりに学習がうまくいったかを振り返っている。	505 496	3.60***	0.10
	（4）授業の中で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	504 497	2.64**	0.08
高	（1）授業の初めに学習の進め方を考えている。	555 561	-1.94†	-0.06
	（2）授業の中で学習がうまくいっているかを考えている。	566 545	6.86***	0.21
	（3）授業の終わりに学習がうまくいったかを振り返っている。	564 553	3.92***	0.11
	（4）授業の中で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	559 558	0.42	0.01

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

- 全校種に共通して、上位群と下位群の児童生徒による「個別最適な学び等に関する状況」に、中程度以上の差はみられなかった。【上位群・下位群】
- 全校種に共通して、「個別最適な学び等に関する状況」について、肯定群と否定群の児童生徒の調査問題得点に、中程度以上の差はみられなかった。【肯定群・否定群】

⑧　問８　健康への配慮

問８について、上位群・下位群の分析では「当てはまる」を４点、「どちらかといえば、当てはまる」を３点、「どちらかといえば、当てはまらない」を２点、「当てはまらない」を１点とみなして分析を行った（図表 3-1-23）。肯定群・否定群の分析では「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」を肯定群、「どちらかといえば、当てはまらない」、「当てはまらない」を否定群として分析を行った（図表 3-1-24）。

図表 3-1-23（上位群・下位群の分析）

校種	内容	R3			R6		
		上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差	上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差
小	（1）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、目と画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。 （R3：情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。）	2.75 2.77	—	—	2.73 2.76	—	—
	（2）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。 （R3：情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。）	2.46 2.54	—	—	2.42 2.46	—	—
	（3）夜、寝る 1 時間前からはコンピュータやスマートフォンの利用を控えるようにしている。 （R3：夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控（ひか）えるようにしている。）	2.66 2.75	—	—	2.64 2.61	—	—
中	（1）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、目と画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。 （R3：情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。）	2.48 2.71	-3.76***	-0.24	2.49 2.51	-0.27	-0.02
	（2）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。 （R3：情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。）	2.03 2.24	-3.22**	-0.21	2.02 2.17	-2.31 †	-0.14

校種	内容	R3			R6		
		上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差	上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差
中	（3）夜、寝る 1 時間前からはコンピュータやスマートフォンの利用を控えるようにしている。 （R3：夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控（ひか）えるようにしている。）	1.94 2.19	-3.62**	-0.23	1.90 2.14	-3.48**	-0.22
高	（1）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、目と画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。 （R3：情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。）	2.48 2.62	-2.36 †	-0.15	2.34 2.53	-3.62**	-0.20
	（2）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。 （R3：情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。）	1.92 2.29	-5.81***	-0.37	1.80 2.15	-6.38***	-0.36
	（3）夜、寝る 1 時間前からはコンピュータやスマートフォンの利用を控えるようにしている。 （R3：夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控（ひか）えるようにしている。）	1.64 2.11	-7.38***	-0.47	1.61 2.05	-8.20***	-0.47

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

図表 3-1-24（肯定群・否定群の分析）

校種	内容	R3			R6		
		肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差	肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（1）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、目と画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。（R3：情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。）	422 424	—	—	420 423	—	—
小	（2）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。（R3：情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。）	421 425	-1.92	-0.06	419 424	-1.91	-0.06
小	（3）夜、寝る 1 時間前からはコンピュータやスマートフォンの利用を控えるようにしている。（R3：夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控（ひか）えるようにしている。）	420 426	-2.58*	-0.08	420 423	-0.93	-0.03
中	（1）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、目と画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。（R3：情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。）	507 515	-3.16**	-0.09	500 502	-0.61	-0.02
中	（2）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。（R3：情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。）	503 515	-4.57***	-0.14	494 504	-3.38**	-0.11
中	（3）夜、寝る 1 時間前からはコンピュータやスマートフォンの利用を控えるようにしている。（R3：夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控（ひか）えるようにしている。）	504 514	-3.74***	-0.12	491 505	-4.64***	-0.15

校種	内容	R3			R6		
		肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差	肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
高	（1）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、目と画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。 （R3：情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すようにしている。）	556 566	-4.11***	-0.12	552 564	-4.42***	-0.13
	（2）コンピュータやスマートフォンを利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。 （R3：情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるようにしている。）	545 567	-7.51***	-0.26	539 565	-7.51***	-0.26
	（3）夜、寝る 1 時間前からはコンピュータやスマートフォンの利用を控えるようにしている。 （R3：夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控（ひか）えるようにしている。）	538 567	-8.64***	-0.33	531 565	-8.87***	-0.34

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

- 全校種に共通して、上位群と下位群の児童生徒による「健康への配慮」に、中程度以上の差はみられなかった。【上位群・下位群】
- 全校種に共通して、「健康への配慮」について、肯定群と否定群の児童生徒の調査問題得点に、中程度以上の差はみられなかった。【肯定群・否定群】

⑨　問９　生成 AI に対する期待等

問９について、（１）の上位群・下位群の分析では「使ったことがある」を２点、「使ったことがない」を１点とみなして分析を行った（図表 3-1-25）。（２）～（６）は「当てはまる」を４点、「どちらかといえば、当てはまる」を３点、「どちらかといえば、当てはまらない」を２点、「当てはまらない」を１点とみなして分析を行った（図表 3-1-25）。なお、問９の上位群・下位群の分析に際しては、「わからない・知らない」の回答を除外したうえで両群を形成した。また、問９は「わからない・知らない」が明確に肯定群・否定群の群分けを行うことができないため、本選択肢を選んだ児童生徒を「不明群」とし、肯定群・否定群・不明群の３群間分析結果を示す（図表 3-1-26）。

図表 3-1-25（上位群・下位群の分析）

校種	内容	上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（１）生成 AI を使ったことがある。	1.39 1.43	-0.82	-0.07
	（２）生成 AI に興味がある。	2.95 2.54	4.67***	0.36
	（３）生成 AI は学習に役立つ。	2.83 2.87	-0.46	-0.04
	（４）生成AIに指示文（プロンプト）を入力する際は、個人情報やプライバシーに関する情報を入力するべきではない。	3.81 3.05	10.92***	0.90
	（５）生成 AI を使って調べたときは、複数の情報源をもとに確認するべきだ。	3.61 3.08	7.32***	0.61
	（６）生成 AI によって得られた結果は、参考の一つに過ぎず、最後は自分で判断すべきだ。	3.70 3.12	9.34***	0.73
中	（１）生成 AI を使ったことがある。	1.51 1.38	3.64***	0.26
	（２）生成 AI に興味がある。	2.87 2.24	8.15***	0.56
	（３）生成 AI は学習に役立つ。	2.79 2.67	1.43	0.11
	（４）生成AIに指示文（プロンプト）を入力する際は、個人情報やプライバシーに関する情報を入力するべきではない。	3.73 3.05	10.89***	0.80
	（５）生成 AI を使って調べたときは、複数の情報源をもとに確認するべきだ。	3.66 3.09	9.36***	0.70
	（６）生成 AI によって得られた結果は、参考の一つに過ぎず、最後は自分で判断すべきだ。	3.80 3.26	10.50***	0.75

校種	内容	上位群平均点 / 下位群平均点	t 値	標準化平均値差
高	（1）生成 AI を使ったことがある。	1.69 / 1.44	7.67***	0.53
	（2）生成 AI に興味がある。	3.00 / 2.33	9.70***	0.64
	（3）生成 AI は学習に役立つ。	3.02 / 2.73	4.10***	0.29
	（4）生成AIに指示文（プロンプト）を入力する際は、個人情報やプライバシーに関する情報を入力するべきではない。	3.74 / 3.02	12.37***	0.85
	（5）生成 AI を使って調べたときは、複数の情報源をもとに確認するべきだ。	3.70 / 3.02	12.21***	0.84
	（6）生成 AI によって得られた結果は、参考の一つに過ぎず、最後は自分で判断すべきだ。	3.85 / 3.21	13.36***	0.90

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

図表 3-1-26（肯定群・否定群・不明群の分析）

校種	内容	平均点			多重比較	t 値	標準化平均値差
		肯定群	否定群	不明群			
小	（1）生成 AI を使ったことがある。	431	434	402	肯定群 > 不明群	8.80***	0.36
					否定群 > 不明群	12.30***	0.42
					—	—	—
	（2）生成 AI に興味がある。	437	419	396	肯定群 > 否定群	6.88***	0.24
					肯定群 > 不明群	13.87***	0.52
					否定群 > 不明群	7.39***	0.30
	（3）生成 AI は学習に役立つ。	425	424	417	—	—	—
					—	—	—
					—	—	—
	（4）生成 AI に指示文（プロンプト）を入力する際は、個人情報やプライバシーに関する情報を入力するべきではない。	435	383	408	肯定群 > 否定群	12.10***	0.67
					肯定群 > 不明群	10.73***	0.34
					不明群 > 否定群	5.77***	0.34
	（5）生成 AI を使って調べたときは、複数の情報源をもとに確認するべきだ。	433	394	411	肯定群 > 否定群	8.82***	0.49
					肯定群 > 不明群	8.73***	0.28
					不明群 > 否定群	3.87***	0.23
	（6）生成AIによって得られた結果は、参考の一つに過ぎず、最後は自分で判断すべきだ。	433	381	406	肯定群 > 否定群	11.23***	0.65
					肯定群 > 不明群	10.76***	0.35
					不明群 > 否定群	5.04***	0.33
中	（1）生成 AI を使ったことがある。	521	506	463	肯定群 > 不明群	17.07***	0.66
					否定群 > 不明群	13.88***	0.50
					—	—	—
	（2）生成 AI に興味がある。	524	493	454	肯定群 > 否定群	11.25***	0.35
					肯定群 > 不明群	17.77***	0.78
					否定群 > 不明群	10.18***	0.46
	（3）生成 AI は学習に役立つ。	511	505	487	肯定群 > 不明群	8.17***	0.27
					否定群 > 不明群	5.33***	0.21
					—	—	—

校種	内容	平均点			多重比較	t 値	標準化平均値差
		肯定群	否定群	不明群			
中	（4）生成 AI に指示文（プロンプト）を入力する際は、個人情報やプライバシーに関する情報を入力するべきではない。	517	456	472	肯定群 > 否定群	12.03***	0.69
					肯定群 > 不明群	15.39***	0.52
					—	—	—
	（5）生成 AI を使って調べたときは、複数の情報源をもとに確認するべきだ。	516	463	475	肯定群 > 否定群	9.95***	0.60
					肯定群 > 不明群	14.19***	0.46
					—	—	—
	（6）生成AIによって得られた結果は、参考の一つに過ぎず、最後は自分で判断すべきだ。	513	454	466	肯定群 > 否定群	9.04***	0.68
					肯定群 > 不明群	15.37***	0.54
					—	—	—
高	（1）生成 AI を使ったことがある。	584	554	493	肯定群 > 否定群	9.90***	0.31
					肯定群 > 不明群	23.29***	0.95
					否定群 > 不明群	15.08***	0.64
	（2）生成 AI に興味がある。	581	546	482	肯定群 > 否定群	11.94***	0.36
					肯定群 > 不明群	21.53***	1.04
					否定群 > 不明群	13.47***	0.67
	（3）生成 AI は学習に役立つ。	573	560	520	肯定群 > 不明群	15.30***	0.55
					否定群 > 不明群	8.76***	0.39
					—	—	—
	（4）生成 AI に指示文（プロンプト）を入力する際は、個人情報やプライバシーに関する情報を入力するべきではない。	576	498	500	肯定群 > 否定群	12.63***	0.82
					肯定群 > 不明群	19.72***	0.81
					—	—	—
	（5）生成 AI を使って調べたときは、複数の情報源をもとに確認するべきだ。	575	493	502	肯定群 > 否定群	13.22***	0.86
					肯定群 > 不明群	19.24***	0.77
					—	—	—
	（6）生成AIによって得られた結果は、参考の一つに過ぎず、最後は自分で判断すべきだ。	573	469	483	肯定群 > 否定群	14.20***	1.10
					肯定群 > 不明群	21.40***	0.95
					—	—	—

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色で表現した。

- 小学校では、上位群の児童の方が「（4）生成 AI に指示文（プロンプト）を入力する際は、個人情報やプライバシーに関する情報を入力するべきではない。」、「（5）生成 AI を使って調べたときは、複数の情報源をもとに確認するべきだ。」、「（6）生成 AI によって得られた結果は、参考の一つに過ぎず、最後は自分で判断すべきだ。」について、肯定的な傾向がみられた。【上位群・下位群】
- 小学校では、「（4）生成 AI に指示文（プロンプト）を入力する際は、個人情報やプライバシーに関する情報を入力するべきではない。」、「（6）生成 AI によって得られた結果は、参考の一つに過ぎず、最後は自分で判断すべきだ。」について、肯定群の方が否定群より調査問題得点が高い傾向がみられた。また、「（2）生成 AI に興味がある。」については肯定群の方が不明群より調査問題得点が高い傾向がみられた。【肯定群・否定群・不明群】
- 中学校では、上位群の生徒の方が「（2）生成 AI に興味がある。」、「（4）生成 AI に指示文（プロンプト）を入力する際は、個人情報やプライバシーに関する情報を入力するべきではない。」、「（5）生成 AI を使って調べたときは、複数の情報源をもとに確認するべきだ。」、「（6）生成 AI によって得られた結果は、参考の一つに過ぎず、最後は自分で判断すべきだ。」について、肯定的な傾向がみられた。【上位群・下位群】
- 中学校では、「（4）生成 AI に指示文（プロンプト）を入力する際は、個人情報やプライバシーに関する情報を入力するべきではない。」、「（5）生成 AI を使って調べたときは、複数の情報源をもとに確認するべきだ。」、「（6）生成 AI によって得られた結果は、参考の一つに過ぎず、最後は自分で判断すべきだ。」について、肯定群の方が否定群より調査問題得点が高い傾向がみられた。また、「（1）生成 AI を使ったことがある。」、「（2）生成 AI に興味がある。」、（4）、（6）について、肯定群の方が不明群より調査問題得点が高い傾向がみられた。さらに（1）は否定群の方が不明群より調査問題得点が高い傾向がみられた。【肯定群・否定群・不明群】
- 高等学校では、上位群の生徒の方が「（3）生成 AI は学習に役立つ。」以外について、肯定的に回答する傾向がみられた。【上位群・下位群】
- 高等学校では、「（4）生成 AI に指示文（プロンプト）を入力する際は、個人情報やプライバシーに関する情報を入力するべきではない。」、「（5）生成 AI を使って調べたときは、複数の情報源をもとに確認するべきだ。」、「（6）生成 AI によって得られた結果は、参考の一つに過ぎず、最後は自分で判断すべきだ。」について、肯定群の方が否定群より調査問題得点が高い傾向がみられた。また、全ての質問項目について、肯定群の方が不明群より調査問題得点が高い傾向がみられた。さらに「（1）生成 AI を使ったことがある。」、「（2）生成 AI に興味がある。」は否定群の方が不明群より調査問題得点が高い傾向がみられた。【肯定群・否定群・不明群】
- 全校種に共通して、上位群の児童生徒の方が「（4）生成 AI に指示文（プロンプト）を入力する際は、個人情報やプライバシーに関する情報を入力するべきではない。」、「（5）生成 AI を使って調べたときは、複数の情報源をもとに確認するべきだ。」、「（6）生成 AI によって得られた結果は、参考の一つに過ぎず、最後は自分で判断すべきだ。」について、肯定的な傾向がみられた。【上位群・下位群】
- 全校種に共通して、「（4）生成 AI に指示文（プロンプト）を入力する際は、個人情報やプライバシーに関する情報を入力するべきではない。」、「（6）生成 AI によって得られた結果は、参考の一つに過ぎず、最後は自分で判断すべきだ。」について、肯定群の方が否定群より調査問題得点が高い傾向がみられた。また、「（2）生成 AI に興味がある。」については肯定群の方が不明群より調査問題得点が高い傾向がみられた。【肯定群・否定群・不明群】

■ 3.1.3. 児童生徒質問調査の学校間分散割合

この項では、児童生徒質問調査の回答に学校の影響があるか調べるために算出した、学校間分散割合について述べる。

概況として、学校間分散割合が 0.2 以上であった項目の、全項目に占める割合を（図表 3-1-27）に示した。本章で確認してきたように、令和 6 年度調査では令和 3 年度調査から継続使用している項目だけでなく、修正・新規追加・割愛された項目もある点には留意が必要であるものの、学校間分散割合が 0.2 以上の項目が全項目に占める割合は令和 3 年度調査よりも令和 6 年度調査で小さくなっていた。児童生徒質問調査で測定した内容について、全体として令和 3 年度調査よりも令和 6 年度調査の方が学校間のばらつきが小さくなった、もしくは、学級内のばらつきが大きくなったといえる。

図表 3-1-27 学校間分散割合が 0.2 以上の項目の割合

	小学校	中学校	高等学校
R6	1.6%（1/63）	1.6%（1/63）	7.9%（5/63）
R3	8.7%（6/69）	11.4%（8/70）	10.0%（7/70）

※令和 6 年度調査は全 63 項目、令和 3 年度調査は小学校が全 69 項目、中学校及び高等学校が全 70 項目

令和 6 年度調査の学校間分散割合について、問ごとに結果を確認すると、最小値・最大値は図表 3-1-28 に示す結果が得られた。

図表 3-1-28　学校間分散割合の問ごとの最小値・最大値

	質問項目数	小学校		中学校		高等学校	
		最小値	最大値	最小値	最大値	最小値	最大値
問 1	2	0.035	0.036	0.016	0.059	0.169	0.396
問 2	2	0.018	0.177	0.029	0.198	0.105	0.482
問 3	12	0.035	0.229	0.037	0.282	0.036	0.257
問 4	9	0.019	0.084	0.013	0.059	0.019	0.169
問 5	16	0.016	0.052	0.004	0.035	0.018	0.059
問 6	9	0.007	0.048	0.001	0.024	0.025	0.067
問 7	4	0.041	0.068	0.028	0.062	0.043	0.055
問 8	3	0.029	0.039	0.009	0.018	0.020	0.035
問 9	6	0.025	0.066	0.027	0.070	0.114	0.155

学校間分散割合が 0.2 以上の項目がみられた問は、問 1（高等学校のみ）、問 2（高等学校のみ）、問 3（全校種）であった。以下では、特に学校間分散割合が大きい項目がみられた問 3 について、各質問項目の結果を示す（図表 3-1-29）。

③　問 3　学校での情報活用能力育成に関する各種取組頻度

図表 3-1-29（学校間分散割合）

内容	R3			R6		
	小学校	中学校	高等学校	小学校	中学校	高等学校
（1）インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）。（R3：インターネットを使って情報を収集する。）	0.106	0.172	0.212	0.072	0.093	0.190
（2）学校図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。（R3:学校図書館で情報を収集する。）	0.050	0.033	0.058	0.069	0.055	0.036
（3）コンピュータを使って文章を作成する（文字、コメントを書くなど）。（R3：コンピュータを使って文章を作成する。）	0.197	0.208	0.162	0.146	0.129	0.123
（4）コンピュータを使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）。（R3：コンピュータを使って図や表に情報をまとめる。）	0.150	0.175	0.225	0.089	0.106	0.093
（5）コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。	0.317	0.249	0.292	0.162	0.190	0.207
（6）コンピュータを使ってプログラミングをする。（R3：コンピュータを使ってプログラムを作成する。）	0.136	0.134	0.208	0.060	0.080	0.257
（7）自分で学んだことや、学んだ成果を残し、振り返るためにコンピュータを使う（授業の感想を書く、ポートフォリオに保存するなど）。（R3：学んだことや学んだ成果を記録するためにコンピュータを使う。）	0.137	0.247	0.106	0.229	0.282	0.199
（8）自分が調べたことや考えたことを他の人に共有したり、他の人のものを参考にしたりするためにコンピュータを使う（クラウド上にデータを保存するなど）。（R3：調べたことや考えたことを共有するためにコンピュータを使う。）	0.186	0.240	0.136	0.144	0.112	0.109
（9）他の人が調べたことや考えたことを参考に、自分の学習を進めるためにコンピュータを使う。	—	—	—	0.151	0.143	0.113

内容	R3			R6		
	小学校	中学校	高等学校	小学校	中学校	高等学校
（10）コンピュータを使って一つのものを他の人と協力して編集しながら作成する（共同編集するなど）。	—	—	—	0.177	0.149	0.256
（11）コンピュータやスマートフォンなどを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。（R3：コンピュータを使ってデジタルのドリルや問題集などに取り組む。）	0.278	0.326	0.194	0.115	0.173	0.195
（12）コンピュータやスマートフォンなどを使ってメッセージやコメントのやり取りをする（チャットを含む）。	—	—	—	0.035	0.037	0.085

※学校間分散割合が 0.2 より大きい場合は暖色で表現した。

問 3 において、学校間分散割合が 0.2 以上であった項目の数について着目すると、令和 6 年度調査では小学校及び中学校が 12 項目中 1 項目（8.3%）、高等学校が 12 項目中 3 項目（25.0%）であった。令和 3 年度調査では小学校が 9 項目中 2 項目（22.2%）、中学校が 9 項目中 5 項目（55.6%）、高等学校が 9 項目中 4 項目（44.4%）であり、いずれの校種においても令和 3 年度調査から令和 6 年度調査にかけて学校間分散割合が 0.2 以上の項目の割合が減少した。3.1.1. 項で報告した通り、問 3 で尋ねた情報活用能力育成の取組は全体的に令和 3 年度調査よりも令和 6 年度調査で実施頻度が高まっていた。これらを踏まえると、情報活用能力育成の取組が以前よりも頻度高く行われ、なおかつ、学校間の取組頻度の差異も小さくなっている可能性が考えられる。もしくは、学級内での学びの多様化の結果として、情報活用能力育成に係る取組の学級内のばらつきが大きくなった可能性が考えられる。

各質問項目に着目すると、小学校及び中学校に共通して学校間分散割合が 0.2 以上の項目は、「（7）自分で学んだことや、学んだ成果を残し、振り返るためにコンピュータを使う（授業の感想を書く、ポートフォリオに保存するなど）。」であった。つまり、基本的な活動については学校間での取組頻度の差が小さいが、学習の成果をポートフォリオ等に記録するような活動の頻度については、学校によって異なる可能性が考えられる。

高等学校において、学校間分散割合が 0.2 以上の項目は、「（5）コンピュータを使ってプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する。」、「（6）コンピュータを使ってプログラミングをする。」、「（10）コンピュータを使って一つのものを他の人と協力して編集しながら作成する（共同編集するなど）。」であった。特に（5）、（6）は令和 3 年度調査から継続して出題した項目であり、令和 3 年度調査でも学校間分散割合が 0.2 以上であったことから、これらの活動の頻度は今なお学校（学科）によって異なる可能性が考えられる。

このように、在籍する学校による、情報活用能力育成に関する活動の機会の差異は減少傾向にある一方で、一部の活動については学校による差がみられている。引き続き、情報活用能力育成の機会が担保されるよう各校で取組を推進することが重要であると考えられる。

また、別の見方をすると、学校間分散割合が低いということは、当該活動が学校内（本調査では 1 校につき 1 学級が参加しているため、「学級内」）で取組頻度に差があるとも考えられる。特に、全校種に共通して学校間分散割合が 0.1 以下であった「（2）学校図書館で情報を収集する（本を読む、調べるなど）。」、「（12）コンピュータやスマートフォンなどを使ってメッセージやコメントのやり取りをする（チャットを含む）。」については個人差が大きい可能性が考えられる。

◆ 3.2. 学校質問調査の結果

この節では、学校質問調査の集計・分析結果を問ごとに述べる。なお、1.3.5 項で述べたように、学校質問調査は学校長を対象とした質問調査であるため、１学校につき１回答存在する。

■ 3.2.1. 質問ごとの結果

① 問１　機器整備・活用状況

学校質問調査の問１では、調査に参加した学校の校長に対して、「機器整備・活用状況」を尋ねた。以下では、各選択肢の回答割合と平均得点、選択肢と得点との相関係数の分析結果を示す（図表 3-2-1）。なお、問１は令和３年度調査から継続して出題した質問項目を含むため、比較可能な質問項目については令和３年度調査との比較のための図表を掲載した（図表 3-2-2）。ただし、選択肢が令和３年度調査と令和６年度調査で異なるため、回答割合と各選択肢における平均得点は選択肢を比較できるように併合するなどして、割合を再算出した上で比較した。一方、相関係数を求める際は選択肢を併合しないで各選択肢に与えた得点をそのまま用いた。

> あなたの学校では、学習者用コンピュータを授業でどの程度活用していますか。学校の状況に最も近いものを１つ選んでください。

１. 令和６年度調査結果

図表 3-2-1 学校質問調査の問１「機器整備・活用状況」

（小学校：167 校、中学校：164 校、高等学校：158 校）

（回答割合）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点					
		ほぼ毎日（１日の中で複数の授業で活用）	ほぼ毎日（１日の中で１回程度の授業で活用）	週３回以上	週１回以上	月１回以上	月１回未満
小	あなたの学校では、学習者用コンピュータを授業でどの程度活用していますか。学校の状況に最も近いものを１つ選んでください。	53.9%	31.7%	10.8%	3.6%	0.0%	0.0%
中		67.7%	17.1%	11.0%	4.3%	0.0%	0.0%
高		63.3%	18.4%	10.8%	6.3%	1.3%	0.0%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び相関係数）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点						相関係数
		ほぼ毎日（１日の中で複数の授業で活用）	ほぼ毎日（１日の中で１回程度の授業で活用）	週３回以上	週１回以上	月１回以上	月１回未満	
小	あなたの学校では、学習者用コンピュータを授業でどの程度活用していますか。学校の状況に最も近いものを１つ選んでください。	422	423	411	417	—	—	0.03
中		500	505	500	492	—	—	0.01
高		556	549	576	577	429	—	-0.02

※選択肢の得点化……「ほぼ毎日（１日の中で複数の授業で活用）」６点、「ほぼ毎日（１日の中で１回程度の授業で活用）」５点、「週３回以上」４点、「週１回以上」３点、「月１回以上」２点、「月１回未満」１点

「ほぼ毎日（１日の中で複数の授業で活用）」、「ほぼ毎日（１日の中で１回程度の授業で活用）」、「週３回以上」の回答割合の和は、全校種に共通して 90%以上であった。

学習者用コンピュータの活用頻度と得点との関係では、全校種とも、いずれの質問項目も相関係数の大きさが 0.2 を超えなかった。

2. 令和 3 年度調査結果との比較

図表 3-2-2 学校質問調査の問 1「機器整備・活用状況」（令和 3 年度調査結果との比較）

（令和 6 年度調査　小学校：167 校、中学校：164 校、高等学校：158 校）

（令和 3 年度調査　小学校：161 校、中学校：162 校、高等学校：156 校）

（回答割合）

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点			
		R6		ほぼ毎日（1 日の中で複数の授業で活用）／ほぼ毎日（1 日の中で 1 回程度の授業で活用）／週 3 回以上	週 1 回以上	月 1 回以上	月 1 回未満
		R3		ほぼ毎日	週 1 回以上	月 1 回以上	月 1 回未満
小	（1）	R6	あなたの学校では、学習者用コンピュータを授業でどの程度活用していますか。学校の状況に最も近いものを 1 つ選んでください。	**96.4%**	**3.6%**	**0.0%**	**0.0%**
		R3		67.1%	31.1%	1.9%	0.0%
中	（1）	R6	あなたの学校では、学習者用コンピュータを授業でどの程度活用していますか。学校の状況に最も近いものを 1 つ選んでください。	**95.7%**	**4.3%**	**0.0%**	**0.0%**
		R3		66.7%	29.6%	3.7%	0.0%
高	（1）	R6	あなたの学校では、学習者用コンピュータを授業でどの程度活用していますか。学校の状況に最も近いものを 1 つ選んでください。	**92.4%**	**6.3%**	**1.3%**	**0.0%**
		R3		42.9%	37.2%	12.8%	7.1%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び相関係数）

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		R6		ほぼ毎日（1 日の中で複数の授業で活用）／ほぼ毎日（1 日の中で 1 回程度の授業で活用）／週 3 回以上	週 1 回以上	月 1 回以上	月 1 回未満	
		R3		ほぼ毎日	週 1 回以上	月 1 回以上	月 1 回未満	
小	（1）	R6	あなたの学校では、学習者用コンピュータを授業でどの程度活用していますか。学校の状況に最も近いものを 1 つ選んでください。	**421**	**417**	—	—	**0.03**
		R3		422	424	412	—	-0.01
中	（1）	R6	あなたの学校では、学習者用コンピュータを授業でどの程度活用していますか。学校の状況に最も近いものを 1 つ選んでください。	**501**	**492**	—	—	**0.01**
		R3		511	511	487	—	0.04
高	（1）	R6	あなたの学校では、学習者用コンピュータを授業でどの程度活用していますか。学校の状況に最も近いものを 1 つ選んでください。	**557**	**577**	**429**	—	**-0.02**
		R3		560	564	552	565	0.00

※選択肢の得点化……

令和 6 年度調査：「ほぼ毎日（1 日の中で複数の授業で活用）」 6 点、「ほぼ毎日（1 日の中で 1 回程度の授業で活用）」 5 点、「週 3 回以上」 4 点、「週 1 回以上」 3 点、「月 1 回以上」 2 点、「月 1 回未満」 1 点

令和 3 年度調査：「ほぼ毎日」 4 点、「週 1 回以上」 3 点、「月 1 回以上」 2 点、「月 1 回未満」 1 点

学習者用コンピュータの活用頻度について、「ほぼ毎日（1 日の中で複数の授業で活用）／ほぼ毎日（1 日の中で 1 回程度の授業で活用）／週 3 回以上」と回答した割合は、小学校では 29.3%、中学校では 29.1%、高等学校では 49.5%増加した。

② 問２　タイピングの指導

学校質問調査の問２では、調査に参加した学校の校長に対して、「タイピングの指導」を尋ねた。以下では、各選択肢の回答割合と平均得点、選択肢と得点との相関係数の分析結果を示す（図表 3-2-3）。なお、問２は小学校のみに尋ねた質問であるため、以下では小学校の結果のみを示す。また、（３）、（４）は各選択肢について優劣の判断が困難な点から、相関係数の分析は行っていない。

> あなたの学校では、タイピングの指導を行っていますか。以下の（１）～（４）それぞれについて、学校の状況に最も近いものを１つ選んでください。
> ※小学校のみ

１. 令和６年度調査結果

図表 3-2-3 学校質問調査の問２「タイピングの指導」（小学校：167 校）

（回答割合）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点	
		行っている	行っていない
小	（１）タイピングの指導を組織的・計画的に行っている。	61.2%	38.8%

校種	内容	選択肢ごとの平均得点					
		１年生	２年生	３年生	４年生	５年生	６年生
小	（２）タイピング指導の開始学年 ※（１）で「行っている」と回答した場合のみ	33.7%	11.9%	50.5%	3.0%	0.0%	1.0%

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				
		国語	総合的な学習の時間	朝や帰りの時間	（特定の教科等ではなく）１人１台端末を使う際に適宜指導	その他（自由記述）
小	（３）タイピング指導に充てている時間 ※（１）で「行っている」と回答した場合のみ	10.8%	15.5%	20.3%	48.6%	4.7%

校種	内容	選択肢ごとの平均得点					
		有償のソフト・アプリ（Web サイト含む）	無償のソフト・アプリ（Web サイト含む）	学校独自の教材	教育委員会等の公的機関の提供している教材	教科書（小学校３年生国語など）	その他（自由記述）
小	（４）タイピング指導の際に活用している教材 ※（１）で「行っている」と回答した場合のみ	5.6%	54.2%	0.0%	23.9%	16.2%	0.0%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び相関係数）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点		相関係数
		行っている	行っていない	
小	（1）タイピングの指導を組織的・計画的に行っている。	421	423	-0.02

※選択肢の得点化……「行っている」２点、「行っていない」１点

校種	内容	選択肢ごとの平均得点						相関係数
		１年生	２年生	３年生	４年生	５年生	６年生	
小	（2）タイピング指導の開始学年 ※（1）で「行っている」と回答した場合のみ	426	423	416	423	—	441	0.05

※選択肢の得点化……「１年生」６点、「２年生」５点、「３年生」４点、「４年生」３点、「５年生」２点、「６年生」１点

校種	内容	選択肢ごとの平均得点					相関係数
		国語	総合的な学習の時間	朝や帰りの時間	（特定の教科等ではなく）１人１台端末を使う際に適宜指導	その他（自由記述）	
小	（3）タイピング指導に充てている時間 ※（1）で「行っている」と回答した場合のみ	416	418	424	419	427	—

校種	内容	選択肢ごとの平均得点						相関係数
		有償のソフト・アプリ（Web サイト含む）	無償のソフト・アプリ（Web サイト含む）	学校独自の教材	教育委員会等の公的機関の提供している教材	教科書（小学校３年生国語など）	その他（自由記述）	
小	（4）タイピング指導の際に活用している教材 ※（1）で「行っている」と回答した場合のみ	408	422	—	421	416	—	—

「タイピングの指導を組織的・計画的に行っている」小学校は 61.2%であった。「タイピング指導の開始学年」は「３年生」が 50.5%で最も多かった。「タイピング指導に充てている時間」は「（特定の教科等ではなく）１人１台端末を使う際に適宜指導」が 48.6%で最も多かった。「タイピング指導の際に活用している教材」は「無償のソフト・アプリ（Web サイト含む）」が 54.2%で最も多かった。

「タイピングの指導」と得点との関係では、全校種とも、いずれの質問項目も相関係数の大きさが 0.2 を超えなかった。

③ 問３　情報活用能力育成に関する取組状況

学校質問調査の問３では、調査に参加した学校の校長に対して、「情報活用能力育成に関する取組状況」を尋ねた。以下では、各選択肢の回答割合と平均得点、選択肢と得点との相関係数の分析結果を示す（図表 3-2-4）。なお、問３は令和３年度調査から継続して出題した質問項目を含むため、比較可能な質問項目については令和３年度調査との比較のための図表を掲載した（図表 3-2-5）。

> あなたの学校では、今年度、「情報活用能力」の育成に関する取組を行っていますか。以下の（１）～（10）それぞれについて、学校の状況に最も近いものを１つ選んでください。

１. 令和６年度調査結果

図表 3-2-4 学校質問調査の問３「情報活用能力育成に関する取組状況」

（小学校：167 校、中学校：164 校、高等学校：158 校）

（回答割合）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点			
		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
小	（１）情報活用能力調査の質問調査等を参考に、児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。	15.6%	50.3%	29.3%	4.8%
	（２）情報活用能力を育成する取組を明確にして各教員に周知している。	25.1%	53.3%	20.4%	1.2%
	（３）情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程を編成し、それに基づき教育活動を行っている。	22.2%	47.3%	29.9%	0.6%
	（４）教員が情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。	15.0%	60.5%	24.0%	0.6%
	（５）情報活用能力育成のため、特定の教員だけではなく学校全体で教員が協働し取り組んでいる。	31.1%	51.5%	16.2%	1.2%
	（６）情報活用能力育成に関する各教科等での授業実践を共有している。	21.0%	60.5%	17.4%	1.2%
	（７）情報活用能力育成に関する教育課程の評価・改善を定期的（月、学期、年単位など）に実施している。	15.0%	37.1%	40.7%	7.2%
	（８）情報活用能力育成のために必要な教材や人材を準備し、効果的に活用している。	21.0%	58.1%	19.2%	1.8%
	（９）情報活用能力の育成方法に関する校内研修を実施し、教員の指導力向上に取り組んでいる。	33.5%	52.1%	12.6%	1.8%
	（10）情報活用能力の育成方法に関する学校外の研修（指導主事や外部有識者等による研修）に、教員が参加している。	35.3%	48.5%	13.8%	2.4%
中	（１）情報活用能力調査の質問調査等を参考に、児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。	11.0%	49.4%	34.8%	4.9%
	（２）情報活用能力を育成する取組を明確にして各教員に周知している。	14.0%	51.2%	29.9%	4.9%
	（３）情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程を編成し、それに基づき教育活動を行っている。	12.2%	43.9%	39.0%	4.9%

校種	内容	選択肢ごとの平均得点			
		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
中	（4）教員が情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。	9.8%	52.4%	33.5%	4.3%
	（5）情報活用能力育成のため、特定の教員だけではなく学校全体で教員が協働し取り組んでいる。	21.3%	51.8%	24.4%	2.4%
	（6）情報活用能力育成に関する各教科等での授業実践を共有している。	18.9%	55.5%	22.6%	3.0%
	（7）情報活用能力育成に関する教育課程の評価・改善を定期的（月、学期、年単位など）に実施している。	9.1%	31.1%	47.0%	12.8%
	（8）情報活用能力育成のために必要な教材や人材を準備し、効果的に活用している。	15.2%	50.0%	29.9%	4.9%
	（9）情報活用能力の育成方法に関する校内研修を実施し、教員の指導力向上に取り組んでいる。	22.6%	46.3%	23.2%	7.9%
	（10）情報活用能力の育成方法に関する学校外の研修（指導主事や外部有識者等による研修）に、教員が参加している。	23.2%	52.4%	20.7%	3.7%
高	（1）情報活用能力調査の質問調査等を参考に、児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。	8.9%	46.2%	30.4%	14.6%
	（2）情報活用能力を育成する取組を明確にして各教員に周知している。	15.8%	39.2%	34.2%	10.8%
	（3）情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程を編成し、それに基づき教育活動を行っている。	15.2%	44.9%	27.8%	12.0%
	（4）教員が情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。	12.0%	58.2%	24.7%	5.1%
	（5）情報活用能力育成のため、特定の教員だけではなく学校全体で教員が協働し取り組んでいる。	20.9%	44.9%	29.1%	5.1%
	（6）情報活用能力育成に関する各教科等での授業実践を共有している。	21.5%	47.5%	24.7%	6.3%
	（7）情報活用能力育成に関する教育課程の評価・改善を定期的（月、学期、年単位など）に実施している。	9.5%	26.6%	43.7%	20.3%
	（8）情報活用能力育成のために必要な教材や人材を準備し、効果的に活用している。	20.9%	39.9%	32.9%	6.3%
	（9）情報活用能力の育成方法に関する校内研修を実施し、教員の指導力向上に取り組んでいる。	25.3%	39.2%	23.4%	12.0%
	（10）情報活用能力の育成方法に関する学校外の研修（指導主事や外部有識者等による研修）に、教員が参加している。	25.3%	38.0%	25.9%	10.8%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
	あなたの学校では、今年度、「情報活用能力」の育成に関する取組を行っていますか。以下の（1）～（10）それぞれについて、学校の状況に最も近いものを 1 つ選んでください。	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	
小	（1）情報活用能力調査の質問調査等を参考に、児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。	423	422	419	425	0.01
	（2）情報活用能力を育成する取組を明確にして各教員に周知している。	422	419	426	431	-0.02
	（3）情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程を編成し、それに基づき教育活動を行っている。	423	419	424	415	-0.01
	（4）教員が情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。	420	422	419	434	0.00
	（5）情報活用能力育成のため、特定の教員だけではなく学校全体で教員が協働し取り組んでいる。	424	420	419	431	0.02
	（6）情報活用能力育成に関する各教科等での授業実践を共有している。	426	420	417	429	0.04
	（7）情報活用能力育成に関する教育課程の評価・改善を定期的（月、学期、年単位など）に実施している。	426	419	420	428	0.00
	（8）情報活用能力育成のために必要な教材や人材を準備し、効果的に活用している。	425	419	424	424	0.00
	（9）情報活用能力の育成方法に関する校内研修を実施し、教員の指導力向上に取り組んでいる。	422	421	418	425	0.01
	（10）情報活用能力の育成方法に関する学校外の研修（指導主事や外部有識者等による研修）に、教員が参加している。	422	420	421	436	-0.01
中	（1）情報活用能力調査の質問調査等を参考に、児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。	507	498	502	506	0.00
	（2）情報活用能力を育成する取組を明確にして各教員に周知している。	514	498	498	504	0.04
	（3）情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程を編成し、それに基づき教育活動を行っている。	501	504	497	498	0.03
	（4）教員が情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。	504	503	496	510	0.02
	（5）情報活用能力育成のため、特定の教員だけではなく学校全体で教員が協働し取り組んでいる。	505	500	496	517	0.02
	（6）情報活用能力育成に関する各教科等での授業実践を共有している。	495	503	498	509	-0.01
	（7）情報活用能力育成に関する教育課程の評価・改善を定期的（月、学期、年単位など）に実施している。	500	502	499	505	0.00
	（8）情報活用能力育成のために必要な教材や人材を準備し、効果的に活用している。	507	500	499	502	0.02

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
	あなたの学校では、今年度、「情報活用能力」の育成に関する取組を行っていますか。以下の（1）～（10）それぞれについて、学校の状況に最も近いものを 1 つ選んでください。	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	
中	（9）情報活用能力の育成方法に関する校内研修を実施し、教員の指導力向上に取り組んでいる。	500	498	505	506	-0.03
	（10）情報活用能力の育成方法に関する学校外の研修（指導主事や外部有識者等による研修）に、教員が参加している。	495	501	505	510	-0.05
高	（1）情報活用能力調査の質問調査等を参考に、児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。	544	552	558	581	-0.10
	（2）情報活用能力を育成する取組を明確にして各教員に周知している。	558	562	543	586	-0.02
	（3）情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程を編成し、それに基づき教育活動を行っている。	575	555	542	579	0.02
	（4）教員が情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。	569	555	552	579	0.01
	（5）情報活用能力育成のため、特定の教員だけではなく学校全体で教員が協働し取り組んでいる。	563	553	561	555	0.01
	（6）情報活用能力育成に関する各教科等での授業実践を共有している。	572	549	558	565	0.03
	（7）情報活用能力育成に関する教育課程の評価・改善を定期的（月、学期、年単位など）に実施している。	585	563	547	558	0.08
	（8）情報活用能力育成のために必要な教材や人材を準備し、効果的に活用している。	580	548	548	582	0.06
	（9）情報活用能力の育成方法に関する校内研修を実施し、教員の指導力向上に取り組んでいる。	558	555	554	569	-0.02
	（10）情報活用能力の育成方法に関する学校外の研修（指導主事や外部有識者等による研修）に、教員が参加している。	555	560	553	562	0.00

※選択肢の得点化……「あてはまる」 4 点、「ややあてはまる」 3 点、「あまりあてはまらない」 2 点、「あてはまらない」 1 点

小学校において、全ての項目で肯定的回答率が 50%を上回った。中学校及び高等学校において、「（7）情報活用能力育成に関する教育課程の評価・改善を定期的（月、学期、年単位など）に実施している。」を除いて、肯定的回答率が 50%を上回った。

「児童生徒の学校における情報活用能力育成に関する各種取組頻度」と得点との関係では、全校種とも、いずれの質問項目も相関係数の大きさが 0.2 を超えなかった。

2. 令和 3 年度調査結果との比較

図表 3-2-5 学校質問調査の問 3 「情報活用能力育成に関する取組状況」（令和 3 年度調査結果との比較）

（令和 6 年度調査　小学校：167 校、中学校：164 校、高等学校：158 校）

（令和 3 年度調査　小学校：161 校、中学校：162 校、高等学校：156 校）

（回答割合）

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点			
			あなたの学校では、今年度、「情報活用能力」の育成に関する取組を行っていますか。	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
小	（1）	R6	**情報活用能力調査の質問調査等を参考に、児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。**	**15.6%**	**50.3%**	**29.3%**	**4.8%**
		R3	児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。	12.4%	65.8%	20.5%	1.2%
	（2）	R6	**情報活用能力を育成する取組を明確にして各教員に周知している。**	**25.1%**	**53.3%**	**20.4%**	**1.2%**
		R3	情報活用能力育成に関する方針等を明確にしている。	35.4%	47.2%	16.1%	1.2%
	（3）	R6	**情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程を編成し、それに基づき教育活動を行っている。**	**22.2%**	**47.3%**	**29.9%**	**0.6%**
		R3	情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程が編成されている。	17.4%	49.7%	29.8%	3.1%
	（4）	R6	**教員が情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。**	**15.0%**	**60.5%**	**24.0%**	**0.6%**
		R3	教員は、情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。	13.0%	53.4%	32.3%	1.2%
	（5）	R6	**情報活用能力育成のため、特定の教員だけではなく学校全体で教員が協働し取り組んでいる。**	**31.1%**	**51.5%**	**16.2%**	**1.2%**
		R3	情報活用能力育成のための学校として協働して取り組む体制が作られている。	37.3%	50.9%	11.2%	0.6%
	（6）	R6	**情報活用能力育成に関する各教科等での授業実践を共有している。**	**21.0%**	**60.5%**	**17.4%**	**1.2%**
		R3	—	—	—	—	—
	（7）	R6	**情報活用能力育成に関する教育課程の評価・改善を定期的（月、学期、年単位など）に実施している。**	**15.0%**	**37.1%**	**40.7%**	**7.2%**
		R3	情報活用能力育成に関する教育課程を評価・改善している。	13.0%	50.3%	32.9%	3.7%
	（8）	R6	**情報活用能力育成のために必要な教材や人材を準備し、効果的に活用している。**	**21.0%**	**58.1%**	**19.2%**	**1.8%**
		R3	情報活用能力育成のために必要な人材・資源（教材など）を活用している。	37.9%	47.8%	13.0%	1.2%
	（9）	R6	**情報活用能力の育成方法に関する校内研修を実施し、教員の指導力向上に取り組んでいる。**	**33.5%**	**52.1%**	**12.6%**	**1.8%**
		R3	情報活用能力の周知・育成方法に関する校内研修を実施している。	50.9%	39.8%	9.3%	0.0%
	（10）	R6	**情報活用能力の育成方法に関する学校外の研修（指導主事や外部有識者等による研修）に、教員が参加している。**	**35.3%**	**48.5%**	**13.8%**	**2.4%**
		R3	情報活用能力の周知・育成方法に関する学校外の研修に（教員が）参加している。	34.2%	47.2%	17.4%	1.2%
中	（1）	R6	**情報活用能力調査の質問調査等を参考に、児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。**	**11.0%**	**49.4%**	**34.8%**	**4.9%**
		R3	児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。	13.0%	58.6%	25.9%	2.5%
	（2）	R6	**情報活用能力を育成する取組を明確にして各教員に周知している。**	**14.0%**	**51.2%**	**29.9%**	**4.9%**
		R3	情報活用能力育成に関する方針等を明確にしている。	26.5%	51.9%	21.0%	0.6%
	（3）	R6	**情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程を編成し、それに基づき教育活動を行っている。**	**12.2%**	**43.9%**	**39.0%**	**4.9%**
		R3	情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程が編成されている。	13.0%	50.6%	34.6%	1.9%

校種	項番	年度	内容 あなたの学校では、今年度、「情報活用能力」の育成に関する取組を行っていますか。	選択肢ごとの平均得点 あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
中	（4）	R6	**教員が情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。**	**9.8%**	**52.4%**	**33.5%**	**4.3%**
		R3	教員は、情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。	12.3%	51.2%	34.6%	1.9%
	（5）	R6	**情報活用能力育成のため、特定の教員だけではなく学校全体で教員が協働し取り組んでいる。**	**21.3%**	**51.8%**	**24.4%**	**2.4%**
		R3	情報活用能力育成のための学校として協働して取り組む体制が作られている。	24.7%	60.5%	14.2%	0.6%
	（6）	R6	**情報活用能力育成に関する各教科等での授業実践を共有している。**	**18.9%**	**55.5%**	**22.6%**	**3.0%**
		R3	—	—	—	—	—
	（7）	R6	**情報活用能力育成に関する教育課程の評価・改善を定期的（月、学期、年単位など）に実施している。**	**9.1%**	**31.1%**	**47.0%**	**12.8%**
		R3	情報活用能力育成に関する教育課程を評価・改善している。	12.3%	43.2%	41.4%	3.1%
	（8）	R6	**情報活用能力育成のために必要な教材や人材を準備し、効果的に活用している。**	**15.2%**	**50.0%**	**29.9%**	**4.9%**
		R3	情報活用能力育成のために必要な人材・資源（教材など）を活用している。	27.2%	48.1%	22.8%	1.9%
	（9）	R6	**情報活用能力の育成方法に関する校内研修を実施し、教員の指導力向上に取り組んでいる。**	**22.6%**	**46.3%**	**23.2%**	**7.9%**
		R3	情報活用能力の周知・育成方法に関する校内研修を実施している。	36.4%	48.1%	14.2%	1.2%
	（10）	R6	**情報活用能力の育成方法に関する学校外の研修（指導主事や外部有識者等による研修）に、教員が参加している。**	**23.2%**	**52.4%**	**20.7%**	**3.7%**
		R3	情報活用能力の周知・育成方法に関する学校外の研修に（教員が）参加している。	29.0%	40.7%	26.5%	3.7%
高	（1）	R6	**情報活用能力調査の質問調査等を参考に、児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。**	**8.9%**	**46.2%**	**30.4%**	**14.6%**
		R3	児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。	13.5%	55.1%	26.9%	4.5%
	（2）	R6	**情報活用能力を育成する取組を明確にして各教員に周知している。**	**15.8%**	**39.2%**	**34.2%**	**10.8%**
		R3	情報活用能力育成に関する方針等を明確にしている。	17.3%	42.9%	32.7%	7.1%
	（3）	R6	**情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程を編成し、それに基づき教育活動を行っている。**	**15.2%**	**44.9%**	**27.8%**	**12.0%**
		R3	情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程が編成されている。	10.9%	41.0%	39.7%	8.3%
	（4）	R6	**教員が情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。**	**12.0%**	**58.2%**	**24.7%**	**5.1%**
		R3	教員は、情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。	11.5%	45.5%	38.5%	4.5%
	（5）	R6	**情報活用能力育成のため、特定の教員だけではなく学校全体で教員が協働し取り組んでいる。**	**20.9%**	**44.9%**	**29.1%**	**5.1%**
		R3	情報活用能力育成のための学校として協働して取り組む体制が作られている。	22.4%	51.9%	21.8%	3.8%
	（6）	R6	**情報活用能力育成に関する各教科等での授業実践を共有している。**	**21.5%**	**47.5%**	**24.7%**	**6.3%**
		R3	—	—	—	—	—
	（7）	R6	**情報活用能力育成に関する教育課程の評価・改善を定期的（月、学期、年単位など）に実施している。**	**9.5%**	**26.6%**	**43.7%**	**20.3%**
		R3	情報活用能力育成に関する教育課程を評価・改善している。	10.9%	41.7%	37.8%	9.6%
	（8）	R6	**情報活用能力育成のために必要な教材や人材を準備し、効果的に活用している。**	**20.9%**	**39.9%**	**32.9%**	**6.3%**
		R3	情報活用能力育成のために必要な人材・資源（教材など）を活用している。	20.5%	50.0%	24.4%	5.1%

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点			
			あなたの学校では、今年度、「情報活用能力」の育成に関する取組を行っていますか。	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
高	（9）	R6	**情報活用能力の育成方法に関する校内研修を実施し、教員の指導力向上に取り組んでいる。**	**25.3%**	**39.2%**	**23.4%**	**12.0%**
		R3	情報活用能力の周知・育成方法に関する校内研修を実施している。	25.0%	48.7%	21.2%	5.1%
	（10）	R6	**情報活用能力の育成方法に関する学校外の研修（指導主事や外部有識者等による研修）に、教員が参加している。**	**25.3%**	**38.0%**	**25.9%**	**10.8%**
		R3	情報活用能力の周知・育成方法に関する学校外の研修に（教員が）参加している。	19.9%	42.9%	34.0%	3.2%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
				あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	
小	（1）	R6	**情報活用能力調査の質問調査等を参考に、児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。**	**423**	**422**	**419**	**425**	**0.01**
		R3	児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。	414	425	419	411	0.00
	（2）	R6	**情報活用能力を育成する取組を明確にして各教員に周知している。**	**422**	**419**	**426**	**431**	**-0.02**
		R3	情報活用能力育成に関する方針等を明確にしている。	424	422	421	396	0.03
	（3）	R6	**情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程を編成し、それに基づき教育活動を行っている。**	**423**	**419**	**424**	**415**	**-0.01**
		R3	情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程が編成されている。	420	426	418	413	0.03
	（4）	R6	**教員が情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。**	**420**	**422**	**419**	**434**	**0.00**
		R3	教員は、情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。	417	426	419	402	0.02
	（5）	R6	**情報活用能力育成のため、特定の教員だけではなく学校全体で教員が協働し取り組んでいる。**	**424**	**420**	**419**	**431**	**0.02**
		R3	情報活用能力育成のための学校として協働して取り組む体制が作られている。	422	423	422	390	0.01
	（6）	R6	**情報活用能力育成に関する各教科等での授業実践を共有している。**	**426**	**420**	**417**	**429**	**0.04**
		R3	—	—	—	—	—	—
	（7）	R6	**情報活用能力育成に関する教育課程の評価・改善を定期的（月、学期、年単位など）に実施している。**	**426**	**419**	**420**	**428**	**0.00**
		R3	情報活用能力育成に関する教育課程を評価・改善している。	422	425	420	406	0.04
	（8）	R6	**情報活用能力育成のために必要な教材や人材を準備し、効果的に活用している。**	**425**	**419**	**424**	**424**	**0.00**
		R3	情報活用能力育成のために必要な人材・資源（教材など）を活用している。	420	425	418	421	0.00
	（9）	R6	**情報活用能力の育成方法に関する校内研修を実施し、教員の指導力向上に取り組んでいる。**	**422**	**421**	**418**	**425**	**0.01**
		R3	情報活用能力の周知・育成方法に関する校内研修を実施している。	424	419	424	—	0.02
	（10）	R6	**情報活用能力の育成方法に関する学校外の研修（指導主事や外部有識者等による研修）に、教員が参加している。**	**422**	**420**	**421**	**436**	**-0.01**
		R3	情報活用能力の周知・育成方法に関する学校外の研修に（教員が）参加している。	422	424	418	418	0.01
中	（1）	R6	**情報活用能力調査の質問調査等を参考に、児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。**	**507**	**498**	**502**	**506**	**0.00**
		R3	児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。	510	512	508	502	0.02

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
				あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	
中	（2）	R6	**情報活用能力を育成する取組を明確にして各教員に周知している。**	**514**	**498**	**498**	**504**	**0.04**
		R3	情報活用能力育成に関する方針等を明確にしている。	513	513	501	506	0.05
	（3）	R6	**情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程を編成し、それに基づき教育活動を行っている。**	**501**	**504**	**497**	**498**	**0.03**
		R3	情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程が編成されている。	517	510	509	499	0.04
	（4）	R6	**教員が情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。**	**504**	**503**	**496**	**510**	**0.02**
		R3	教員は、情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。	508	513	508	499	0.02
	（5）	R6	**情報活用能力育成のため、特定の教員だけではなく学校全体で教員が協働し取り組んでいる。**	**505**	**500**	**496**	**517**	**0.02**
		R3	情報活用能力育成のための学校として協働して取り組む体制が作られている。	509	514	496	506	0.04
	（6）	R6	**情報活用能力育成に関する各教科等での授業実践を共有している。**	**495**	**503**	**498**	**509**	**-0.01**
		R3	—	—	—	—	—	—
	（7）	R6	**情報活用能力育成に関する教育課程の評価・改善を定期的（月、学期、年単位など）に実施している。**	**500**	**502**	**499**	**505**	**0.00**
		R3	情報活用能力育成に関する教育課程を評価・改善している。	513	513	506	516	0.03
	（8）	R6	**情報活用能力育成のために必要な教材や人材を準備し、効果的に活用している。**	**507**	**500**	**499**	**502**	**0.02**
		R3	情報活用能力育成のために必要な人材・資源（教材など）を活用している。	514	508	511	507	0.02
	（9）	R6	**情報活用能力の育成方法に関する校内研修を実施し、教員の指導力向上に取り組んでいる。**	**500**	**498**	**505**	**506**	**-0.03**
		R3	情報活用能力の周知・育成方法に関する校内研修を実施している。	513	510	510	490	0.03
	（10）	R6	**情報活用能力の育成方法に関する学校外の研修（指導主事や外部有識者等による研修）に、教員が参加している。**	**495**	**501**	**505**	**510**	**-0.05**
		R3	情報活用能力の周知・育成方法に関する学校外の研修に（教員が）参加している。	510	510	512	505	0.00
高	（1）	R6	**情報活用能力調査の質問調査等を参考に、児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。**	**544**	**552**	**558**	**581**	**-0.10**
		R3	児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。	572	566	542	569	0.09
	（2）	R6	**情報活用能力を育成する取組を明確にして各教員に周知している。**	**558**	**562**	**543**	**586**	**-0.02**
		R3	情報活用能力育成に関する方針等を明確にしている。	563	560	565	544	0.02
	（3）	R6	**情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程を編成し、それに基づき教育活動を行っている。**	**575**	**555**	**542**	**579**	**0.02**
		R3	情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程が編成されている。	562	562	564	540	0.04
	（4）	R6	**教員が情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。**	**569**	**555**	**552**	**579**	**0.01**
		R3	教員は、情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。	563	564	557	552	0.04
	（5）	R6	**情報活用能力育成のため、特定の教員だけではなく学校全体で教員が協働し取り組んでいる。**	**563**	**553**	**561**	**555**	**0.01**
		R3	情報活用能力育成のための学校として協働して取り組む体制が作られている。	569	556	568	545	0.02
	（6）	R6	**情報活用能力育成に関する各教科等での授業実践を共有している。**	**572**	**549**	**558**	**565**	**0.03**
		R3	—	—	—	—	—	—

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
				あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	
高	（7）	R6	**情報活用能力育成に関する教育課程の評価・改善を定期的（月、学期、年単位など）に実施している。**	**585**	**563**	**547**	**558**	**0.08**
		R3	情報活用能力育成に関する教育課程を評価・改善している。	567	561	558	564	0.01
	（8）	R6	**情報活用能力育成のために必要な教材や人材を準備し、効果的に活用している。**	**580**	**548**	**548**	**582**	**0.06**
		R3	情報活用能力育成のために必要な人材・資源（教材など）を活用している。	557	563	560	553	0.00
	（9）	R6	**情報活用能力の育成方法に関する校内研修を実施し、教員の指導力向上に取り組んでいる。**	**558**	**555**	**554**	**569**	**-0.02**
		R3	情報活用能力の周知・育成方法に関する校内研修を実施している。	559	559	568	557	-0.03
	（10）	R6	**情報活用能力の育成方法に関する学校外の研修（指導主事や外部有識者等による研修）に、教員が参加している。**	**555**	**560**	**553**	**562**	**0.00**
		R3	情報活用能力の周知・育成方法に関する学校外の研修に（教員が）参加している。	553	559	570	531	-0.05

※選択肢の得点化……「あてはまる」４点、「ややあてはまる」３点、「あまりあてはまらない」２点、「あてはまらない」１点

令和３年度調査から令和６年度調査で肯定的回答（「あてはまる」、「ややあてはまる」）の割合が最も増加したのは、小学校及び高等学校では「（４）教員が情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。」、中学校では「（10）情報活用能力の育成方法に関する学校外の研修（指導主事や外部有識者等による研修）に、教員が参加している。」であった。

否定的回答（「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」）の割合が最も増加したのは、小学校では「（１）情報活用能力調査の質問調査等を参考に、児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。」、中学校では「（９）情報活用能力の育成方法に関する校内研修を実施し、教員の指導力向上に取り組んでいる。」、高等学校では「（７）情報活用能力育成に関する教育課程の評価・改善を定期的（月、学期、年単位など）に実施している。」であった。

④問４　機器等を活用した指導状況

学校質問調査の問４では、調査に参加した学校の校長に対して、「機器等を活用した指導状況」を尋ねた。以下では、各選択肢の回答割合と平均得点、選択肢と得点との相関係数の分析結果を示す（図表 3-2-6）。なお、問４は令和３年度調査から継続して出題した質問項目を含むため、比較可能な質問項目については令和３年度調査との比較のための図表を掲載した（図表 3-2-7）。

あなたの学校では、今年度、以下のことをどれぐらいの教員が行っていますか。以下の（１）～（12）それぞれについて、学校の状況に最も近いものを１つ選んでください。

１. 令和６年度調査結果

図表 3-2-6 学校質問調査の問４「機器等を活用した指導状況」

（小学校：167 校、中学校：164 校、高等学校：158 校）

（回答割合）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点			
		ほとんどの教員が行っている	半数程度の教員が行っている	一部の教員が行っている	ほとんどの教員が行っていない
小	（１）児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	61.1%	31.1%	7.8%	0.0%
	（２）コンピュータなどを活用し、児童生徒が作品・レポート・ワークシートなどを記録・整理することができるよう指導する。	52.1%	33.5%	13.8%	0.6%
	（３）グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	47.9%	34.7%	17.4%	0.0%
	（４）学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。	71.9%	24.0%	4.2%	0.0%
	（５）児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	76.6%	22.8%	0.6%	0.0%
	（６）児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。	31.7%	48.5%	19.2%	0.6%
	（７）児童生徒が互いの考えを交換し共有して話合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	43.1%	38.3%	18.0%	0.6%
	（８）児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。	78.4%	18.6%	3.0%	0.0%
	（９）児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。	88.6%	9.0%	2.4%	0.0%
	（10）児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	83.2%	14.4%	2.4%	0.0%
	（11）児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	67.7%	28.7%	3.0%	0.6%

校種	内容	選択肢ごとの平均得点			
		ほとんどの教員が行っている	半数程度の教員が行っている	一部の教員が行っている	ほとんどの教員が行っていない
小	（12）インターネットや生成AIから得られた情報について、複数の情報源をもとに正しいのかを確かめるように指導する。	37.1%	35.3%	21.6%	6.0%
中	（1）児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	39.6%	45.7%	12.8%	1.8%
	（2）コンピュータなどを活用し、児童生徒が作品・レポート・ワークシートなどを記録・整理することができるよう指導する。	45.1%	39.6%	13.4%	1.8%
	（3）グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	36.6%	51.8%	9.8%	1.8%
	（4）学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。	47.6%	35.4%	14.0%	3.0%
	（5）児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	65.9%	25.6%	7.3%	1.2%
	（6）児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。	41.5%	40.9%	16.5%	1.2%
	（7）児童生徒が互いの考えを交換し共有して話合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	31.1%	53.0%	14.0%	1.8%
	（8）児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。	68.9%	17.7%	12.8%	0.6%
	（9）児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。	74.4%	14.6%	10.4%	0.6%
	（10）児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	61.0%	20.1%	18.3%	0.6%
	（11）児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	45.7%	37.2%	15.2%	1.8%
	（12）インターネットや生成AIから得られた情報について、複数の情報源をもとに正しいのかを確かめるように指導する。	31.7%	27.4%	31.7%	9.1%
高	（1）児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	26.6%	39.2%	32.9%	1.3%
	（2）コンピュータなどを活用し、児童生徒が作品・レポート・ワークシートなどを記録・整理することができるよう指導する。	36.1%	39.2%	24.1%	0.6%

校種	内容	選択肢ごとの平均得点			
		ほとんどの教員が行っている	半数程度の教員が行っている	一部の教員が行っている	ほとんどの教員が行っていない
高	（3）グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	29.7%	44.9%	23.4%	1.9%
	（4）学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。	34.8%	30.4%	32.9%	1.9%
	（5）児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	47.5%	31.6%	20.9%	0.0%
	（6）児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。	34.8%	32.9%	30.4%	1.9%
	（7）児童生徒が互いの考えを交換し共有して話合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	26.6%	34.8%	37.3%	1.3%
	（8）児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。	46.8%	26.6%	25.3%	1.3%
	（9）児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。	61.4%	16.5%	22.2%	0.0%
	（10）児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	36.7%	27.2%	35.4%	0.6%
	（11）児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	37.3%	28.5%	33.5%	0.6%
	（12）インターネットや生成 AI から得られた情報について、複数の情報源をもとに正しいのかを確かめるように指導する。	27.8%	20.3%	46.8%	5.1%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		ほとんどの教員が行っている	半数程度の教員が行っている	一部の教員が行っている	ほとんどの教員が行っていない	
小	（1）児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	424	418	405	—	0.08
	（2）コンピュータなどを活用し、児童生徒が作品・レポート・ワークシートなどを記録・整理することができるよう指導する。	426	418	410	408	0.09
	（3）グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	426	420	409	—	0.09

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		ほとんどの教員が行っている	半数程度の教員が行っている	一部の教員が行っている	ほとんどの教員が行っていない	
小	（4）学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。	421	421	420	—	0.00
	（5）児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	421	422	436	—	-0.01
	（6）児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。	428	420	414	406	0.07
	（7）児童生徒が互いの考えを交換し共有して話合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	427	418	412	402	0.09
	（8）児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。	420	425	421	—	-0.03
	（9）児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。	421	415	433	—	0.00
	（10）児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	422	414	424	—	0.04
	（11）児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	421	420	431	456	-0.02
	（12）インターネットや生成AIから得られた情報について、複数の情報源をもとに正しいのかを確かめるように指導する。	423	420	420	421	0.01
中	（1）児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	502	498	504	520	-0.01
	（2）コンピュータなどを活用し、児童生徒が作品・レポート・ワークシートなどを記録・整理することができるよう指導する。	504	497	499	520	0.01
	（3）グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	503	501	489	520	0.02
	（4）学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。	499	503	498	509	-0.01
	（5）児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	500	499	502	541	-0.03
	（6）児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。	504	498	495	541	0.02

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		ほとんどの教員が行っている	半数程度の教員が行っている	一部の教員が行っている	ほとんどの教員が行っていない	
中	（7）児童生徒が互いの考えを交換し共有して話合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	507	497	500	520	0.02
	（8）児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。	499	508	495	530	-0.01
	（9）児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。	500	503	502	530	-0.02
	（10）児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	499	497	512	488	-0.05
	（11）児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	498	501	506	520	-0.04
	（12）インターネットや生成AIから得られた情報について、複数の情報源をもとに正しいのかを確かめるように指導する。	508	495	500	495	0.05
高	（1）児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	577	551	551	459	0.13
	（2）コンピュータなどを活用し、児童生徒が作品・レポート・ワークシートなどを記録・整理することができるよう指導する。	574	547	550	492	0.12
	（3）グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	578	549	549	473	0.15
	（4）学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。	564	546	559	596	0.01
	（5）児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	558	553	564	—	-0.02
	（6）児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。	572	550	551	495	0.12
	（7）児童生徒が互いの考えを交換し共有して話合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	570	547	558	499	0.06
	（8）児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。	557	549	568	499	-0.02
	（9）児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。	553	557	569	—	-0.07

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		ほとんどの教員が行っている	半数程度の教員が行っている	一部の教員が行っている	ほとんどの教員が行っていない	
高	（10）児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	551	552	569	492	-0.07
	（11）児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	558	552	561	514	-0.01
	（12）インターネットや生成AIから得られた情報について、複数の情報源をもとに正しいのかを確かめるように指導する。	568	556	554	537	0.08

※選択肢の得点化……「ほとんどの教員が行っている」４点、「半数程度の教員が行っている」３点、「一部の教員が行っている」２点、「ほとんどの教員が行っていない」１点

小学校、中学校において、全ての項目で「ほとんどの教員が行っている」、「半数程度の教員が行っている」と回答した学校が 50%を上回った。高等学校において、「（12）インターネットや生成 AI から得られた情報について、複数の情報源をもとに正しいのかを確かめるように指導する。」を除いて、「ほとんどの教員が行っている」、「半数程度の教員が行っている」と回答した学校が 50%を上回った。

「機器等を活用した指導状況」と得点との関係では、全校種とも、いずれの質問項目も相関係数の大きさが 0.2 を超えなかった。

2. 令和 3 年度調査結果との比較

図表 3-2-7 学校質問調査の問 4 「機器等を活用した指導状況」（令和 3 年度調査結果との比較）

（令和 6 年度調査　小学校：167 校、中学校：164 校、高等学校：158 校）

（令和 3 年度調査　小学校：161 校、中学校：162 校、高等学校：156 校）

（回答割合）

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点			
			あなたの学校では、今年度、以下のことをどれぐらいの教員が行っていますか。	ほとんどの教員が行っている	半数程度の教員が行っている	一部の教員が行っている	ほとんどの教員が行っていない
小	（1）	R6	児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	61.1%	31.1%	7.8%	0.0%
		R3		41.6%	46.0%	12.4%	0.0%
	（2）	R6	コンピュータなどを活用し、児童生徒が作品・レポート・ワークシートなどを記録・整理することができるよう指導する。	52.1%	33.5%	13.8%	0.6%
		R3	—	—	—	—	—
	（3）	R6	グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	47.9%	34.7%	17.4%	0.0%
		R3		24.2%	52.8%	21.1%	1.9%
	（4）	R6	学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。	71.9%	24.0%	4.2%	0.0%
		R3		72.0%	23.6%	3.7%	0.6%
	（5）	R6	児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	76.6%	22.8%	0.6%	0.0%
		R3		66.5%	29.2%	4.3%	0.0%
	（6）	R6	児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。	31.7%	48.5%	19.2%	0.6%
		R3		24.2%	53.4%	21.1%	1.2%
	（7）	R6	児童生徒が互いの考えを交換し共有して話合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	43.1%	38.3%	18.0%	0.6%
		R3		29.2%	46.0%	23.0%	1.9%
	（8）	R6	児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。	78.4%	18.6%	3.0%	0.0%
		R3		73.3%	19.3%	6.2%	1.2%
	（9）	R6	児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。	88.6%	9.0%	2.4%	0.0%
		R3		80.7%	14.9%	4.3%	0.0%
	（10）	R6	児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	83.2%	14.4%	2.4%	0.0%
		R3		78.9%	18.6%	2.5%	0.0%
	（11）	R6	児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	67.7%	28.7%	3.0%	0.6%
		R3		70.2%	26.1%	3.7%	0.0%
	（12）	R6	インターネットや生成 AI から得られた情報について、複数の情報源をもとに正しいのかを確かめるように指導する。	37.1%	35.3%	21.6%	6.0%
		R3	—	—	—	—	—
中	（1）	R6	児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	39.6%	45.7%	12.8%	1.8%
		R3		19.1%	44.4%	35.8%	0.6%

校種	項番	年度	内容 あなたの学校では、今年度、以下のことをどれぐらいの教員が行っていますか。	選択肢ごとの平均得点 ほとんどの教員が行っている	半数程度の教員が行っている	一部の教員が行っている	ほとんどの教員が行っていない
中	（2）	R6	コンピュータなどを活用し、児童生徒が作品・レポート・ワークシートなどを記録・整理することができるよう指導する。	**45.1%**	**39.6%**	**13.4%**	**1.8%**
		R3	—	—	—	—	—
	（3）	R6	グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	**36.6%**	**51.8%**	**9.8%**	**1.8%**
		R3		16.0%	43.8%	39.5%	0.6%
	（4）	R6	学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。	**47.6%**	**35.4%**	**14.0%**	**3.0%**
		R3		40.7%	28.4%	30.2%	0.6%
	（5）	R6	児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	**65.9%**	**25.6%**	**7.3%**	**1.2%**
		R3		48.1%	36.4%	15.4%	0.0%
	（6）	R6	児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。	**41.5%**	**40.9%**	**16.5%**	**1.2%**
		R3		22.8%	43.8%	32.1%	1.2%
	（7）	R6	児童生徒が互いの考えを交換し共有して話合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	**31.1%**	**53.0%**	**14.0%**	**1.8%**
		R3		17.9%	37.7%	42.0%	2.5%
	（8）	R6	児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。	**68.9%**	**17.7%**	**12.8%**	**0.6%**
		R3		59.9%	22.8%	16.0%	1.2%
	（9）	R6	児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。	**74.4%**	**14.6%**	**10.4%**	**0.6%**
		R3		68.5%	21.6%	9.9%	0.0%
	（10）	R6	児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	**61.0%**	**20.1%**	**18.3%**	**0.6%**
		R3		64.2%	22.2%	13.0%	0.6%
	（11）	R6	児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	**45.7%**	**37.2%**	**15.2%**	**1.8%**
		R3		51.9%	37.0%	11.1%	0.0%
	（12）	R6	インターネットや生成 AI から得られた情報について、複数の情報源をもとに正しいのかを確かめるように指導する。	**31.7%**	**27.4%**	**31.7%**	**9.1%**
		R3	—	—	—	—	—
高	（1）	R6	児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	**26.6%**	**39.2%**	**32.9%**	**1.3%**
		R3		12.8%	30.1%	53.8%	3.2%
	（2）	R6	コンピュータなどを活用し、児童生徒が作品・レポート・ワークシートなどを記録・整理することができるよう指導する。	**36.1%**	**39.2%**	**24.1%**	**0.6%**
		R3	—	—	—	—	—
	（3）	R6	グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	**29.7%**	**44.9%**	**23.4%**	**1.9%**
		R3		16.7%	26.9%	52.6%	3.8%
	（4）	R6	学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。	**34.8%**	**30.4%**	**32.9%**	**1.9%**
		R3		22.4%	29.5%	46.2%	1.9%

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点			
			あなたの学校では、今年度、以下のことをどれぐらいの教員が行っていますか。	ほとんどの教員が行っている	半数程度の教員が行っている	一部の教員が行っている	ほとんどの教員が行っていない
高	（5）	R6	児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	**47.5%**	**31.6%**	**20.9%**	**0.0%**
		R3		26.9%	39.7%	31.4%	1.9%
	（6）	R6	児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。	**34.8%**	**32.9%**	**30.4%**	**1.9%**
		R3		22.4%	37.2%	35.9%	4.5%
	（7）	R6	児童生徒が互いの考えを交換し共有して話合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	**26.6%**	**34.8%**	**37.3%**	**1.3%**
		R3		14.7%	22.4%	57.1%	5.8%
	（8）	R6	児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。	**46.8%**	**26.6%**	**25.3%**	**1.3%**
		R3		43.6%	25.6%	28.8%	1.9%
	（9）	R6	児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。	**61.4%**	**16.5%**	**22.2%**	**0.0%**
		R3		50.6%	19.2%	29.5%	0.6%
	（10）	R6	児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	**36.7%**	**27.2%**	**35.4%**	**0.6%**
		R3		35.3%	24.4%	39.1%	1.3%
	（11）	R6	児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	**37.3%**	**28.5%**	**33.5%**	**0.6%**
		R3		25.6%	31.4%	39.7%	3.2%
	（12）	R6	インターネットや生成 AI から得られた情報について、複数の情報源をもとに正しいのかを確かめるように指導する。	**27.8%**	**20.3%**	**46.8%**	**5.1%**
		R3	—	—	—	—	—

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
				ほとんどの教員が行っている	半数程度の教員が行っている	一部の教員が行っている	ほとんどの教員が行っていない	
小	（1）	R6	児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	**424**	**418**	**405**	—	**0.08**
		R3		425	421	420	—	0.02
	（2）	R6	コンピュータなどを活用し、児童生徒が作品・レポート・ワークシートなどを記録・整理することができるよう指導する。	**426**	**418**	**410**	**408**	**0.09**
		R3	—	—	—	—	—	—
	（3）	R6	グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	**426**	**420**	**409**	—	**0.09**
		R3		423	422	422	419	0.01
	（4）	R6	学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。	**421**	**421**	**420**	—	**0.00**
		R3		423	421	407	444	0.02
	（5）	R6	児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	**421**	**422**	**436**	—	**-0.01**
		R3		421	426	422	—	-0.03

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
				ほとんどの教員が行っている	半数程度の教員が行っている	一部の教員が行っている	ほとんどの教員が行っていない	
小	（6）	R6	児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。	**428**	**420**	**414**	**406**	**0.07**
		R3		425	421	423	429	0.01
	（7）	R6	児童生徒が互いの考えを交換し共有して話合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	**427**	**418**	**412**	**402**	**0.09**
		R3		426	421	420	428	0.03
	（8）	R6	児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。	**420**	**425**	**421**	—	**-0.03**
		R3		423	420	419	443	0.00
	（9）	R6	児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。	**421**	**415**	**433**	—	**0.00**
		R3		423	418	427	—	0.01
	（10）	R6	児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	**422**	**414**	**424**	—	**0.04**
		R3		422	421	429	—	0.00
	（11）	R6	児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	**421**	**420**	**431**	**456**	**-0.02**
		R3		422	423	425	—	-0.01
	（12）	R6	インターネットや生成 AI から得られた情報について、複数の情報源をもとに正しいのかを確かめるように指導する。	**423**	**420**	**420**	**421**	**0.01**
		R3	—	—	—	—	—	—
中	（1）	R6	児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	**502**	**498**	**504**	**520**	**-0.01**
		R3		515	512	507	478	0.05
	（2）	R6	コンピュータなどを活用し、児童生徒が作品・レポート・ワークシートなどを記録・整理することができるよう指導する。	**504**	**497**	**499**	**520**	**0.01**
		R3	—	—	—	—	—	—
	（3）	R6	グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	**503**	**501**	**489**	**520**	**0.02**
		R3		516	511	508	478	0.04
	（4）	R6	学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。	**499**	**503**	**498**	**509**	**-0.01**
		R3		511	512	508	526	0.01
	（5）	R6	児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	**500**	**499**	**502**	**541**	**-0.03**
		R3		512	511	502	—	0.04
	（6）	R6	児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。	**504**	**498**	**495**	**541**	**0.02**
		R3		520	510	504	519	0.07
	（7）	R6	児童生徒が互いの考えを交換し共有して話合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	**507**	**497**	**500**	**520**	**0.02**
		R3		520	513	505	499	0.08
	（8）	R6	児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。	**499**	**508**	**495**	**530**	**-0.01**
		R3		511	510	508	506	0.02

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
				ほとんどの教員が行っている	半数程度の教員が行っている	一部の教員が行っている	ほとんどの教員が行っていない	
中	（9）	R6	児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。	**500**	**503**	**502**	**530**	**-0.02**
		R3		513	505	505	—	0.05
	（10）	R6	児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	**499**	**497**	**512**	**488**	**-0.05**
		R3		512	514	497	531	0.05
	（11）	R6	児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	**498**	**501**	**506**	**520**	**-0.04**
		R3		513	510	501	—	0.05
	（12）	R6	インターネットや生成 AI から得られた情報について、複数の情報源をもとに正しいのかを確かめるように指導する。	**508**	**495**	**500**	**495**	**0.05**
		R3	—	—	—	—	—	—
高	（1）	R6	児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	**577**	**551**	**551**	**459**	**0.13**
		R3		563	568	558	527	0.06
	（2）	R6	コンピュータなどを活用し、児童生徒が作品・レポート・ワークシートなどを記録・整理することができるよう指導する。	**574**	**547**	**550**	**492**	**0.12**
		R3	—	—	—	—	—	—
	（3）	R6	グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	**578**	**549**	**549**	**473**	**0.15**
		R3		559	569	558	542	0.04
	（4）	R6	学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。	**564**	**546**	**559**	**596**	**0.01**
		R3		563	561	561	511	0.03
	（5）	R6	児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	**558**	**553**	**564**	—	**-0.02**
		R3		560	567	556	521	0.04
	（6）	R6	児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。	**572**	**550**	**551**	**495**	**0.12**
		R3		566	563	559	526	0.07
	（7）	R6	児童生徒が互いの考えを交換し共有して話合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	**570**	**547**	**558**	**499**	**0.06**
		R3		563	568	559	552	0.04
	（8）	R6	児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。	**557**	**549**	**568**	**499**	**-0.02**
		R3		557	563	565	561	-0.04
	（9）	R6	児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。	**553**	**557**	**569**	—	**-0.07**
		R3		559	558	568	479	-0.03
	（10）	R6	児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	**551**	**552**	**569**	**492**	**-0.07**
		R3		559	570	559	499	0.02
	（11）	R6	児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	**558**	**552**	**561**	**514**	**-0.01**
		R3		572	553	562	526	0.07

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
				ほとんどの教員が行っている	半数程度の教員が行っている	一部の教員が行っている	ほとんどの教員が行っていない	
高	（12）	R6	**インターネットや生成 AI から得られた情報について、複数の情報源をもとに正しいのかを確かめるように指導する。**	**568**	**556**	**554**	**537**	**0.08**
		R3	—	—	—	—	—	—

※選択肢の得点化……「ほとんどの教員が行っている」４点、「半数程度の教員が行っている」３点、「一部の教員が行っている」２点、「ほとんどの教員が行っていない」１点

令和３年度調査から令和６年度調査で「ほとんどの教員が行っている」、「半数程度の教員が行っている」の割合が最も増加したのは、小学校及び中学校では「（７）児童生徒が互いの考えを交換し共有して話合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。」、高等学校では「（３）グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。」であった。

「一部の教員が行っている」、「ほとんどの教員が行っていない」の割合が最も増加したのは、中学校では「（11）児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。」であった。小学校及び高等学校においては、「一部の教員が行っている」、「ほとんどの教員が行っていない」の割合が増加した質問項目はみられなかった。

⑤ 問 5　端末の積極的・主体的な活用

学校質問調査の問 5 では、調査に参加した学校の校長に対して、「端末の積極的・主体的な活用」を尋ねた。以下では、各選択肢の回答割合と平均得点、選択肢と得点との相関係数の分析結果を示す（図表 3-2-8）。

> あなたの学校では、今年度、以下のことを学校全体で取り組んでいますか。以下の（1）～（9）それぞれについて、学校の状況に最も近いものを 1 つ選んでください。

1. 令和 6 年度調査結果

図表 3-2-8 学校質問調査の問 5「端末の積極的・主体的な活用」

（小学校：167 校、中学校：164 校、高等学校：158 校）

（回答割合）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点			
		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
小	（1）行事、委員会活動、教師からの連絡等、授業以外の場面で児童生徒はコンピュータを日常的に活用している。	35.9%	49.7%	13.2%	1.2%
	（2）授業の中でコンピュータをいつ、どのように使うのかについて、児童生徒が選択、判断している。	18.6%	53.3%	24.6%	3.6%
	（3）教員同士の情報共有のためにクラウド上のオンラインサービス等を活用している。	56.9%	26.9%	8.4%	7.8%
	（4）コンピュータの使用ルールは児童生徒と話し合って設定している。	22.8%	43.1%	26.3%	7.8%
	（5）コンピュータの使用ルールを定期的に見直す機会を設定している。	32.3%	51.5%	14.4%	1.8%
	（6）児童生徒同士がコンピュータを使って、授業中にメッセージやコメントを協働的な学びに活用している。	19.2%	46.7%	28.7%	5.4%
	（7）児童生徒は学校外の人からの連絡を見たり、学校の人に連絡したりするためにコンピュータを使っている。	6.6%	22.2%	32.9%	38.3%
	（8）児童生徒は学校の宿題をするためにコンピュータを使っている。	32.3%	47.3%	14.4%	6.0%
	（9）児童生徒は学校の宿題を提出するためにコンピュータを使っている。	25.1%	47.3%	18.6%	9.0%
中	（1）行事、委員会活動、教師からの連絡等、授業以外の場面で児童生徒はコンピュータを日常的に活用している。	53.7%	32.9%	12.8%	0.6%
	（2）授業の中でコンピュータをいつ、どのように使うのかについて、児童生徒が選択、判断している。	25.0%	43.9%	28.0%	3.0%
	（3）教員同士の情報共有のためにクラウド上のオンラインサービス等を活用している。	63.4%	23.2%	9.8%	3.7%
	（4）コンピュータの使用ルールは児童生徒と話し合って設定している。	20.7%	37.8%	27.4%	14.0%
	（5）コンピュータの使用ルールを定期的に見直す機会を設定している。	28.7%	41.5%	22.0%	7.9%

校種	内容	選択肢ごとの平均得点			
		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
中	（6）児童生徒同士がコンピュータを使って、授業中にメッセージやコメントを協働的な学びに活用している。	22.6%	44.5%	28.7%	4.3%
	（7）児童生徒は学校外の人からの連絡を見たり、学校の人に連絡したりするためにコンピュータを使っている。	15.9%	20.7%	29.9%	33.5%
	（8）児童生徒は学校の宿題をするためにコンピュータを使っている。	32.9%	39.0%	21.3%	6.7%
	（9）児童生徒は学校の宿題を提出するためにコンピュータを使っている。	31.1%	42.1%	19.5%	7.3%
高	（1）行事、委員会活動、教師からの連絡等、授業以外の場面で児童生徒はコンピュータを日常的に活用している。	67.1%	22.8%	8.9%	1.3%
	（2）授業の中でコンピュータをいつ、どのように使うのかについて、児童生徒が選択、判断している。	29.1%	38.0%	25.9%	7.0%
	（3）教員同士の情報共有のためにクラウド上のオンラインサービス等を活用している。	76.6%	16.5%	3.8%	3.2%
	（4）コンピュータの使用ルールは児童生徒と話し合って設定している。	13.9%	25.9%	41.1%	19.0%
	（5）コンピュータの使用ルールを定期的に見直す機会を設定している。	14.6%	41.8%	35.4%	8.2%
	（6）児童生徒同士がコンピュータを使って、授業中にメッセージやコメントを協働的な学びに活用している。	19.6%	34.2%	34.2%	12.0%
	（7）児童生徒は学校外の人からの連絡を見たり、学校の人に連絡したりするためにコンピュータを使っている。	29.1%	34.8%	20.9%	15.2%
	（8）児童生徒は学校の宿題をするためにコンピュータを使っている。	43.0%	46.2%	6.3%	4.4%
	（9）児童生徒は学校の宿題を提出するためにコンピュータを使っている。	43.0%	44.3%	8.2%	4.4%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	
小	（1）行事、委員会活動、教師からの連絡等、授業以外の場面で児童生徒はコンピュータを日常的に活用している。	428	417	419	419	0.06
	（2）授業の中でコンピュータをいつ、どのように使うのかについて、児童生徒が選択、判断している。	430	419	418	423	0.04
	（3）教員同士の情報共有のためにクラウド上のオンラインサービス等を活用している。	426	417	410	419	0.06

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	
小	（4）コンピュータの使用ルールは児童生徒と話し合って設定している。	423	421	418	426	0.01
	（5）コンピュータの使用ルールを定期的に見直す機会を設定している。	426	418	424	398	0.04
	（6）児童生徒同士がコンピュータを使って、授業中にメッセージやコメントを協働的な学びに活用している。	426	422	418	419	0.04
	（7）児童生徒は学校外の人からの連絡を見たり、学校の人に連絡したりするためにコンピュータを使っている。	435	426	416	420	0.05
	（8）児童生徒は学校の宿題をするためにコンピュータを使っている。	424	418	424	425	0.00
	（9）児童生徒は学校の宿題を提出するためにコンピュータを使っている。	424	421	418	418	0.03
中	（1）行事、委員会活動、教師からの連絡等、授業以外の場面で児童生徒はコンピュータを日常的に活用している。	508	496	477	551	0.11
	（2）授業の中でコンピュータをいつ、どのように使うのかについて、児童生徒が選択、判断している。	507	500	496	507	0.04
	（3）教員同士の情報共有のためにクラウド上のオンラインサービス等を活用している。	503	493	502	506	0.02
	（4）コンピュータの使用ルールは児童生徒と話し合って設定している。	502	500	506	491	0.02
	（5）コンピュータの使用ルールを定期的に見直す機会を設定している。	501	502	502	488	0.02
	（6）児童生徒同士がコンピュータを使って、授業中にメッセージやコメントを協働的な学びに活用している。	503	501	497	502	0.02
	（7）児童生徒は学校外の人からの連絡を見たり、学校の人に連絡したりするためにコンピュータを使っている。	521	495	495	500	0.07
	（8）児童生徒は学校の宿題をするためにコンピュータを使っている。	507	498	501	487	0.05
	（9）児童生徒は学校の宿題を提出するためにコンピュータを使っている。	506	499	497	493	0.05
高	（1）行事、委員会活動、教師からの連絡等、授業以外の場面で児童生徒はコンピュータを日常的に活用している。	570	532	523	461	0.24
	（2）授業の中でコンピュータをいつ、どのように使うのかについて、児童生徒が選択、判断している。	575	558	532	565	0.13
	（3）教員同士の情報共有のためにクラウド上のオンラインサービス等を活用している。	563	546	512	521	0.15

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	
高	（4）コンピュータの使用ルールは児童生徒と話し合って設定している。	557	564	558	547	0.04
	（5）コンピュータの使用ルールを定期的に見直す機会を設定している。	567	556	557	546	0.04
	（6）児童生徒同士がコンピュータを使って、授業中にメッセージやコメントを協働的な学びに活用している。	579	553	558	531	0.12
	（7）児童生徒は学校外の人からの連絡を見たり、学校の人に連絡したりするためにコンピュータを使っている。	575	556	546	540	0.13
	（8）児童生徒は学校の宿題をするためにコンピュータを使っている。	566	556	542	504	0.13
	（9）児童生徒は学校の宿題を提出するためにコンピュータを使っている。	568	551	554	502	0.13

※選択肢の得点化……「あてはまる」４点、「ややあてはまる」３点、「あまりあてはまらない」２点、「あてはまらない」１点

小学校、中学校において、「（7）児童生徒は学校外の人からの連絡を見たり、学校の人に連絡したりするためにコンピュータを使っている。」以外の全ての項目で肯定的回答率が 50%を上回った。高等学校において、「（4）コンピュータの使用ルールは児童生徒と話し合って設定している。」以外の全ての項目で肯定的回答率が 50%を上回った。

「機器の積極的・主体的な活用」と得点との関係では、高等学校において、「（1）行事、委員会活動、教師からの連絡等、授業以外の場面で児童生徒はコンピュータを日常的に活用している。」について、0.2 以上のごく弱い正の相関がみられた。

⑥ 問６　GIGA スクール構想の成果「個別最適な学びに関する効果」

学校質問調査の問６では、調査に参加した学校の校長に対して、「GIGA スクール構想の成果「個別最適な学びに関する効果」」を尋ねた。以下では、各選択肢の回答割合と平均得点、選択肢と得点との相関係数の分析結果を示す（図表 3-2-9）。

> あなたの学校では、ICT 活用の成果として「個別最適な学びに関する効果」に関する積極的な変化が感じられますか。以下の（１）～（４）それぞれについて、学校の状況に最も近いものを１つ選んでください。

１. 令和６年度調査結果

図表 3-2-9 学校質問調査の問６「GIGA スクール構想の成果「個別最適な学びに関する効果」」

（小学校：167 校、中学校：164 校、高等学校：158 校）

（回答割合）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				
		とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	実施していない・把握していない
小	（１）各自の学習速度・到達度等に応じた指導の個別化	13.2%	62.9%	21.6%	0.6%	1.8%
	（２）児童生徒の関心や課題に応じた学習教材や学習課題の提供	16.8%	73.7%	8.4%	0.6%	0.6%
	（３）一人一人の学習状況の詳細な把握	12.6%	61.7%	23.4%	0.6%	1.8%
	（４）児童生徒が自ら学習計画を立てて行う学習活動	6.0%	45.5%	38.9%	2.4%	7.2%
中	（１）各自の学習速度・到達度等に応じた指導の個別化	12.2%	58.5%	24.4%	0.6%	4.3%
	（２）児童生徒の関心や課題に応じた学習教材や学習課題の提供	14.6%	65.2%	17.7%	0.0%	2.4%
	（３）一人一人の学習状況の詳細な把握	10.4%	60.4%	25.6%	0.0%	3.7%
	（４）児童生徒が自ら学習計画を立てて行う学習活動	6.7%	45.7%	37.8%	1.2%	8.5%
高	（１）各自の学習速度・到達度等に応じた指導の個別化	7.0%	48.1%	38.0%	0.6%	6.3%
	（２）児童生徒の関心や課題に応じた学習教材や学習課題の提供	10.1%	57.6%	29.1%	0.0%	3.2%
	（３）一人一人の学習状況の詳細な把握	12.7%	48.1%	31.0%	1.9%	6.3%
	（４）児童生徒が自ら学習計画を立てて行う学習活動	4.4%	36.7%	44.3%	5.7%	8.9%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点					相関係数
		とても そう思う	そう思う	あまり 思わない	思わない	実施していない ・ 把握していない	
小	（1）各自の学習速度・到達度等に応じた指導の個別化	426	421	419	406	403	0.04
	（2）児童生徒の関心や課題に応じた学習教材や学習課題の提供	428	419	423	416	421	0.03
	（3）一人一人の学習状況の詳細な把握	432	421	417	434	409	0.06
	（4）児童生徒が自ら学習計画を立てて行う学習活動	436	424	416	427	415	0.06
中	（1）各自の学習速度・到達度等に応じた指導の個別化	500	501	500	524	495	0.01
	（2）児童生徒の関心や課題に応じた学習教材や学習課題の提供	501	501	502	—	492	0.00
	（3）一人一人の学習状況の詳細な把握	509	502	494	—	498	0.05
	（4）児童生徒が自ら学習計画を立てて行う学習活動	508	501	501	463	498	0.03
高	（1）各自の学習速度・到達度等に応じた指導の個別化	552	560	551	504	585	-0.03
	（2）児童生徒の関心や課題に応じた学習教材や学習課題の提供	567	557	548	—	606	0.01
	（3）一人一人の学習状況の詳細な把握	560	565	535	619	584	0.00
	（4）児童生徒が自ら学習計画を立てて行う学習活動	581	568	544	538	580	0.03

※選択肢の得点化……「とてもそう思う」５点、「そう思う」４点、「あまり思わない」３点、「思わない」２点、
「実施していない・把握していない」１点

小学校、中学校において、全ての項目で肯定的回答率が 50%を上回った。高等学校において、「（4）児童生徒が自ら学習計画を立てて行う学習活動」以外の全ての項目で肯定的回答率が 50%を上回った。

「GIGA スクール構想の成果「個別最適な学びに関する効果」」と得点との関係では、全校種とも、いずれの質問項目も相関係数の大きさが 0.2 を超えなかった。

⑦ 問 7　GIGA スクール構想の成果「効率化による指導の改善」

学校質問調査の問 7 では、調査に参加した学校の校長に対して、「GIGA スクール構想の成果「効率化による指導の改善」」を尋ねた。以下では、各選択肢の回答割合と平均得点、選択肢と得点との相関係数の分析結果を示す（図表 3-2-10）。

> あなたの学校では、ICT 活用の成果として「効率化による指導の改善」に関する積極的な変化が感じられますか。以下の（1）～（3）それぞれについて、学校の状況に最も近いものを 1 つ選んでください。

1. 令和 6 年度調査結果

図表 3-2-10 学校質問調査の問 7 「GIGA スクール構想の成果「効率化による指導の改善」」

（小学校：167 校、中学校：164 校、高等学校：158 校）

（回答割合）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				
		とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	実施していない・把握していない
小	（1）家庭学習状況の容易な把握	9.0%	46.1%	30.5%	3.6%	10.8%
	（2）長期休業中の宿題の効率化	17.4%	41.3%	20.4%	4.2%	16.8%
	（3）授業準備時間や負担の軽減	18.6%	60.5%	18.6%	1.8%	0.6%
中	（1）家庭学習状況の容易な把握	7.3%	39.6%	34.8%	2.4%	15.9%
	（2）長期休業中の宿題の効率化	14.0%	45.1%	27.4%	3.0%	10.4%
	（3）授業準備時間や負担の軽減	17.1%	54.3%	23.2%	3.7%	1.8%
高	（1）家庭学習状況の容易な把握	8.2%	44.3%	34.2%	3.2%	10.1%
	（2）長期休業中の宿題の効率化	12.7%	45.6%	31.6%	1.9%	8.2%
	（3）授業準備時間や負担の軽減	12.0%	56.3%	20.9%	8.9%	1.9%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点					相関係数
	あなたの学校では、ICT 活用の成果として「効率化による指導の改善」に関する積極的な変化が感じられますか。以下の（1）～（3）それぞれについて、学校の状況に最も近いものを 1 つ選んでください。	とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	実施していない・把握していない	
小	（1）家庭学習状況の容易な把握	428	425	413	419	425	0.03
	（2）長期休業中の宿題の効率化	424	422	418	406	425	0.01
	（3）授業準備時間や負担の軽減	428	420	419	412	396	0.05
中	（1）家庭学習状況の容易な把握	496	500	505	494	495	0.01

校種	内容	選択肢ごとの平均得点					相関係数
	あなたの学校では、ICT 活用の成果として「効率化による指導の改善」に関する積極的な変化が感じられますか。以下の（1）～（3）それぞれについて、学校の状況に最も近いものを 1 つ選んでください。	とても そう思う	そう思う	あまり 思わない	思わない	実施していない ・ 把握していない	
中	（2）長期休業中の宿題の効率化	500	497	507	489	503	-0.02
	（3）授業準備時間や負担の軽減	503	499	503	490	517	-0.01
高	（1）家庭学習状況の容易な把握	579	565	543	489	574	0.06
	（2）長期休業中の宿題の効率化	563	560	554	538	554	0.04
	（3）授業準備時間や負担の軽減	559	554	566	555	566	-0.02

※選択肢の得点化……「とてもそう思う」 5 点、「そう思う」 4 点、「あまり思わない」 3 点、
「思わない」 2 点、「実施していない・把握していない」 1 点

小学校、高等学校において、全ての項目で肯定的回答率が 50%を上回った。中学校において、「（1）家庭学習状況の容易な把握」以外の全ての項目で肯定的回答率が 50%を上回った。

「GIGA スクール構想の成果「効率化による指導の改善」」と得点との関係では、全校種とも、いずれの質問項目も相関係数の大きさが 0.2 を超えなかった。

⑧ 問８　GIGA スクール構想の成果「オンラインによる学習活動の充実」

学校質問調査の問８では、調査に参加した学校の校長に対して、「GIGA スクール構想の成果「オンラインによる学習活動の充実」」を尋ねた。以下では、各選択肢の回答割合と平均得点、選択肢と得点との相関係数の分析結果を示す（図表 3-2-11）。

> あなたの学校では、ICT 活用の成果として「オンラインによる学習活動の充実」に関する積極的な変化が感じられますか。以下の（１）～（３）それぞれについて、学校の状況に最も近いものを１つ選んでください。

１. 令和６年度調査結果

図表 3-2-11 学校質問調査の問８「GIGA スクール構想の成果「オンラインによる学習活動の充実」」

（小学校：167 校、中学校：164 校、高等学校：158 校）

（回答割合）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				
		とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	実施していない・把握していない
小	（１）外部の専門家を活用したオンライン学習活動	8.4%	39.5%	15.6%	5.4%	31.1%
	（２）地域人材を活用したオンライン学習活動	4.2%	23.4%	25.7%	4.8%	41.9%
	（３）遠隔地の学校等とのオンライン交流活動	10.8%	22.8%	18.0%	5.4%	43.1%
中	（１）外部の専門家を活用したオンライン学習活動	7.3%	26.2%	22.0%	3.0%	41.5%
	（２）地域人材を活用したオンライン学習活動	3.0%	16.5%	23.8%	3.7%	53.0%
	（３）遠隔地の学校等とのオンライン交流活動	7.9%	28.7%	14.0%	2.4%	47.0%
高	（１）外部の専門家を活用したオンライン学習活動	8.2%	34.2%	31.6%	3.2%	22.8%
	（２）地域人材を活用したオンライン学習活動	4.4%	24.7%	33.5%	3.8%	33.5%
	（３）遠隔地の学校等とのオンライン交流活動	7.6%	32.3%	22.2%	4.4%	33.5%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点					相関係数
		とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	実施していない・把握していない	
小	（１）外部の専門家を活用したオンライン学習活動	432	423	417	420	418	0.05
	（２）地域人材を活用したオンライン学習活動	440	427	418	415	418	0.06
	（３）遠隔地の学校等とのオンライン交流活動	433	425	417	412	419	0.06

校種	内容	選択肢ごとの平均得点					相関係数
		とても そう思う	そう思う	あまり 思わない	思わない	実施していない ・ 把握していない	
中	（1）外部の専門家を活用したオンライン学習活動	507	493	507	482	503	-0.02
	（2）地域人材を活用したオンライン学習活動	498	509	498	481	500	0.02
	（3）遠隔地の学校等とのオンライン交流活動	515	505	503	469	497	0.07
高	（1）外部の専門家を活用したオンライン学習活動	550	568	551	557	553	0.04
	（2）地域人材を活用したオンライン学習活動	542	565	555	540	558	0.01
	（3）遠隔地の学校等とのオンライン交流活動	582	558	554	566	552	0.05

※選択肢の得点化……「とてもそう思う」５点、「そう思う」４点、「あまり思わない」３点、「思わない」２点、
「実施していない・把握していない」１点

全校種において、全ての項目で肯定的回答率が 50%を下回った。

「GIGA スクール構想の成果「オンラインによる学習活動の充実」」と得点との関係では、全校種とも、いずれの質問項目も相関係数の大きさが 0.2 を超えなかった。

⑨ 問９　GIGA スクール構想の成果「学習意欲・学力への影響」

学校質問調査の問９では、調査に参加した学校の校長に対して、「GIGA スクール構想の成果「学習意欲・学力への影響」」を尋ねた。以下では、各選択肢の回答割合と平均得点、選択肢と得点との相関係数の分析結果を示す（図表 3-2-12）。

> あなたの学校では、ICT 活用の成果として「学習意欲・学力への影響」に関する積極的な変化が感じられますか。以下の（１）～（３）それぞれについて、学校の状況に最も近いものを１つ選んでください。

１. 令和６年度調査結果

図表 3-2-12 学校質問調査の問９「GIGA スクール構想の成果「学習意欲・学力への影響」」

（小学校：167 校、中学校：164 校、高等学校：158 校）

（回答割合）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				
		とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	実施していない・把握していない
小	（１）学習意欲の向上	29.9%	63.5%	6.6%	0.0%	0.0%
	（２）より多くの児童生徒の積極的な授業への参加	27.5%	67.1%	4.8%	0.6%	0.0%
	（３）基礎的・基本的な知識・技能の習得の促進	13.8%	67.1%	17.4%	1.8%	0.0%
中	（１）学習意欲の向上	14.0%	71.3%	11.6%	1.8%	1.2%
	（２）より多くの児童生徒の積極的な授業への参加	15.9%	72.0%	9.1%	1.2%	1.8%
	（３）基礎的・基本的な知識・技能の習得の促進	10.4%	62.2%	24.4%	0.6%	2.4%
高	（１）学習意欲の向上	5.7%	61.4%	28.5%	0.0%	4.4%
	（２）より多くの児童生徒の積極的な授業への参加	7.0%	67.1%	22.8%	0.0%	3.2%
	（３）基礎的・基本的な知識・技能の習得の促進	7.6%	58.2%	29.7%	0.6%	3.8%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点					相関係数
		とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	実施していない・把握していない	
小	（１）学習意欲の向上	423	421	418	—	—	0.02
	（２）より多くの児童生徒の積極的な授業への参加	424	420	411	426	—	0.04
	（３）基礎的・基本的な知識・技能の習得の促進	423	421	420	402	—	0.03
中	（１）学習意欲の向上	505	498	508	504	521	-0.02

校種	内容	選択肢ごとの平均得点					相関係数
		とても そう思う	そう思う	あまり 思わない	思わない	実施していない ・ 把握していない	
中	（2）より多くの児童生徒の積極的な授業への参加	504	499	498	556	515	-0.04
	（3）基礎的・基本的な知識・技能の習得の促進	507	498	501	590	514	-0.04
高	（1）学習意欲の向上	564	558	556	—	554	0.02
	（2）より多くの児童生徒の積極的な授業への参加	580	558	544	—	591	0.05
	（3）基礎的・基本的な知識・技能の習得の促進	569	557	555	530	567	0.01

※選択肢の得点化……「とてもそう思う」５点、「そう思う」４点、「あまり思わない」３点、「思わない」２点、
「実施していない・把握していない」１点

全校種において、全ての項目で肯定的回答率が 50%を上回った。

「GIGA スクール構想の成果「学習意欲・学力への影響」」と得点との関係では、全校種とも、いずれの質問項目も相関係数の大きさが 0.2 を超えなかった。

⑩ 問 10　GIGA スクール構想の成果「学びの保証に関する効果」

学校質問調査の問 10 では、調査に参加した学校の校長に対して、「GIGA スクール構想の成果「学びの保証に関する効果」」を尋ねた。以下では、各選択肢の回答割合と平均得点、選択肢と得点との相関係数の分析結果を示す（図表 3-2-13）。

> あなたの学校では、ICT 活用の成果として「学びの保証に関する効果」に関する積極的な変化が感じられますか。以下の（1）～（3）それぞれについて、学校の状況に最も近いものを 1 つ選んでください。

1. 令和 6 年度調査結果

図表 3-2-13 学校質問調査の問 10「GIGA スクール構想の成果「学びの保証に関する効果」」

（小学校：167 校、中学校：164 校、高等学校：158 校）

（回答割合）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				
		とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	実施していない・把握していない
小	（1）不登校児童生徒に対するオンライン指導	21.6%	49.1%	12.6%	2.4%	14.4%
	（2）特別な支援を要する児童生徒に対する指導	20.4%	65.3%	8.4%	1.2%	4.8%
	（3）特定分野の特異な才能のある児童生徒に対する指導	13.2%	35.3%	16.8%	1.2%	33.5%
中	（1）不登校児童生徒に対するオンライン指導	19.5%	50.6%	14.0%	1.8%	14.0%
	（2）特別な支援を要する児童生徒に対する指導	22.0%	56.7%	11.0%	1.8%	8.5%
	（3）特定分野の特異な才能のある児童生徒に対する指導	11.6%	30.5%	18.9%	4.3%	34.8%
高	（1）不登校児童生徒に対するオンライン指導	17.7%	39.2%	14.6%	1.3%	27.2%
	（2）特別な支援を要する児童生徒に対する指導	13.9%	35.4%	16.5%	1.3%	32.9%
	（3）特定分野の特異な才能のある児童生徒に対する指導	7.6%	27.2%	17.7%	1.9%	45.6%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点					相関係数
		とてもそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない	実施していない・把握していない	
小	（1）不登校児童生徒に対するオンライン指導	423	423	417	411	417	0.03
	（2）特別な支援を要する児童生徒に対する指導	425	421	415	428	423	0.02
	（3）特定分野の特異な才能のある児童生徒に対する指導	428	423	416	423	420	0.03
中	（1）不登校児童生徒に対するオンライン指導	506	498	500	490	507	-0.01

校種	内容	選択肢ごとの平均得点					相関係数
		とても そう思う	そう思う	あまり 思わない	思わない	実施していない ・ 把握していない	
中	（2）特別な支援を要する児童生徒に対する指導	502	497	516	477	509	-0.03
	（3）特定分野の特異な才能のある児童生徒に対する指導	504	500	507	477	499	0.02
高	（1）不登校児童生徒に対するオンライン指導	570	566	528	588	551	0.08
	（2）特別な支援を要する児童生徒に対する指導	576	564	537	545	554	0.07
	（3）特定分野の特異な才能のある児童生徒に対する指導	565	562	544	534	560	0.00

※選択肢の得点化……「とてもそう思う」５点、「そう思う」４点、「あまり思わない」３点、「思わない」２点、
「実施していない・把握していない」１点

全校種に共通して、「（1）不登校児童生徒に対するオンライン指導」の肯定的回答率が 50%を上回った。小学校及び中学校においては、「（2）特別な支援を要する児童生徒に対する指導」の肯定的回答率が 50%を上回った。

「GIGA スクール構想の成果「学びの保証に関する効果」」と得点との関係では、全校種とも、いずれの質問項目も相関係数の大きさが 0.2 を超えなかった。

⑪ 問 11　GIGA スクール構想による授業の効率的な展開

学校質問調査の問 11 では、調査に参加した学校の校長に対して、「GIGA スクール構想による授業の効率的な展開」を尋ねた。以下では、各選択肢の回答割合と平均得点、選択肢と得点との相関係数の分析結果を示す（図表 3-2-14）。なお、（1）は各選択肢について優劣の判断が困難な点から、相関係数の分析は行っていない。

> あなたの学校では、1 人 1 台端末やクラウド環境の活用が授業の効率的な展開のために役立っていますか。以下の（1）、（2）それぞれについて、学校の状況に最も近いものを 1 つ選んでください。

1. 令和 6 年度調査結果

図表 3-2-14 学校質問調査の問 11「GIGA スクール構想による授業の効率的な展開」

（小学校：167 校、中学校：164 校、高等学校：158 校）

（回答割合）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				
		資料の投影や画面の共有、学習動画の活用による板書や説明時間の短縮	プリント・小テスト等の配付・回収時間の短縮	小テストの即時採点等による児童生徒の現状把握に係る時間の短縮	児童生徒の意見の集約・共有に係る時間の短縮	その他（自由記述）
小	（1）あなたの学校で日常的に 1 人 1 台端末やクラウド環境を活用している学級では、授業の効率的な展開のために、以下のような ICT を活用した取組を行っていますか（複数選択可）。	36.4%	19.4%	10.0%	33.7%	0.4%
中		30.1%	22.7%	18.0%	28.6%	0.6%
高		29.4%	26.7%	19.3%	23.7%	1.0%

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				
		それ以上	15 分程度	10 分程度	5 分程度	5 分未満
小	（2）あなたの学校で日常的に 1 人 1 台端末やクラウド環境を活用している学級では、（1）のような取組により、従来に比べ、授業の展開が 1 単位時間（小：45 分、中、高：50 分）あたりどのくらい効率化できたと考えますか。	1.8%	6.1%	32.3%	52.4%	7.3%
中		3.1%	8.1%	40.0%	40.6%	8.1%
高		3.2%	5.7%	43.3%	42.0%	5.7%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点					相関係数
		資料の投影や画面の共有、学習動画の活用による板書や説明時間の短縮	プリント・小テスト等の配付・回収時間の短縮	小テストの即時採点等による児童生徒の現状把握に係る時間の短縮	児童生徒の意見の集約・共有に係る時間の短縮	その他（自由記述）	
小	（1）あなたの学校で日常的に 1 人 1 台端末やクラウド環境を活用している学級では、授業の効率的な展開のために、以下のような ICT を活用した取組を行っていますか（複数選択可）。	421	421	422	421	431	—
中		501	504	499	501	510	—
高		559	557	557	559	593	—

校種	内容	選択肢ごとの平均得点					相関係数
		それ以上	15 分程度	10 分程度	5 分程度	5 分未満	
小	（2）あなたの学校で日常的に 1 人 1 台端末やクラウド環境を活用している学級では、（1）のような取組により、従来に比べ、授業の展開が 1 単位時間（小：45 分、中、高：50 分）あたりどのくらい効率化できたと考えますか。	433	418	419	421	434	-0.02
中		487	487	502	504	503	-0.05
高		545	568	555	559	560	-0.02

※選択肢の得点化……「それ以上」 5 点、「15 分程度」 4 点、「10 分程度」 3 点、「5 分程度」 2 点、「5 分未満」 1 点

全校種に共通して、「（1）あなたの学校で日常的に 1 人 1 台端末やクラウド環境を活用している学級では、授業の効率的な展開のために、以下のような ICT を活用した取組を行っていますか（複数選択可）。」について「資料の投影や画面の共有、学習動画の活用による板書や説明時間の短縮」と回答した学校が最も多かった。全校種に共通して、「（2）あなたの学校で日常的に 1 人 1 台端末やクラウド環境を活用している学級では、（1）のような取組により、従来に比べ、授業の展開が 1 単位時間（小：45 分、中、高：50 分）あたりどのくらい効率化できたと考えますか。」について「5 分程度」以上と回答した割合は 91.9%以上であった。

「GIGA スクール構想による授業の効率的な展開」と得点との関係では、全校種とも、いずれの質問項目も相関係数の大きさが 0.2 を超えなかった。

⑫ 問 12　健康面に配慮した指導状況

学校質問調査の問 12 では、調査に参加した学校の校長に対して、「健康面に配慮した指導状況」を尋ねた。以下では、各選択肢の回答割合と平均得点、選択肢と得点との相関係数の分析結果を示す（図表 3-2-15）。なお、問 12 は令和 3 年度調査から継続して出題した質問項目を含むため、比較可能な質問項目については令和 3 年度調査との比較のための図表を掲載した（図表 3-2-16）。

> あなたの学校では、今年度、「児童生徒の健康面に配慮した」取組を行っていますか。以下の（1）～（4）それぞれについて、学校の状況に最も近いものを 1 つ選んでください。

1. 令和 6 年度調査結果

図表 3-2-15 学校質問調査の問 12「健康面に配慮した指導状況」

（令和 6 年度調査　小学校：167 校、中学校：164 校、高等学校：158 校）

（回答割合）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点			
		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
小	（1）情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すように児童生徒に指導している。	47.3%	41.9%	9.0%	1.8%
	（2）情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるように児童生徒に指導している。	29.9%	50.3%	16.8%	3.0%
	（3）夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控えるように児童生徒に指導している。	49.1%	38.9%	10.2%	1.8%
	（4）児童生徒が情報機器を使用するときの健康への配慮の仕方について保護者に説明している。	51.5%	40.1%	7.2%	1.2%
中	（1）情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すように児童生徒に指導している。	25.6%	37.8%	29.3%	7.3%
	（2）情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるように児童生徒に指導している。	17.1%	39.0%	36.0%	7.9%
	（3）夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控えるように児童生徒に指導している。	32.3%	45.7%	14.6%	7.3%
	（4）児童生徒が情報機器を使用するときの健康への配慮の仕方について保護者に説明している。	34.1%	50.0%	12.2%	3.7%
高	（1）情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すように児童生徒に指導している。	3.8%	27.8%	46.8%	21.5%
	（2）情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるように児童生徒に指導している。	2.5%	27.2%	46.8%	23.4%
	（3）夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控えるように児童生徒に指導している。	10.8%	35.4%	37.3%	16.5%
	（4）児童生徒が情報機器を使用するときの健康への配慮の仕方について保護者に説明している。	10.8%	34.2%	39.2%	15.8%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	
小	（1）情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すように児童生徒に指導している。	423	420	416	433	0.02
	（2）情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるように児童生徒に指導している。	426	417	423	431	0.01
	（3）夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控えるように児童生徒に指導している。	421	418	430	440	-0.04
	（4）児童生徒が情報機器を使用するときの健康への配慮の仕方について保護者に説明している。	421	419	432	430	-0.02
中	（1）情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すように児童生徒に指導している。	504	500	498	504	0.02
	（2）情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるように児童生徒に指導している。	504	502	495	512	0.01
	（3）夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控えるように児童生徒に指導している。	497	503	504	491	-0.01
	（4）児童生徒が情報機器を使用するときの健康への配慮の仕方について保護者に説明している。	500	502	498	503	0.00
高	（1）情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すように児童生徒に指導している。	581	557	552	564	0.01
	（2）情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるように児童生徒に指導している。	595	550	556	563	-0.01
	（3）夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控えるように児童生徒に指導している。	584	550	554	562	0.03
	（4）児童生徒が情報機器を使用するときの健康への配慮の仕方について保護者に説明している。	570	546	563	559	-0.02

※選択肢の得点化……「あてはまる」 4 点、「ややあてはまる」 3 点、「あまりあてはまらない」 2 点、「あてはまらない」 1 点

小学校及び中学校において、全ての項目で肯定的回答率が 50%を上回った。高等学校において、全ての項目で肯定的回答率が 50%を下回った。

「健康面に配慮した指導状況」と得点との関係では、全校種とも、いずれの質問項目も相関係数の大きさが 0.2 を超えなかった。

2. 令和 3 年度調査結果との比較

図表 3-2-16 学校質問調査の問 12「健康面に配慮した指導状況」

（令和 6 年度調査　小学校：167 校、中学校：164 校、高等学校：158 校）

（令和 3 年度調査　小学校：161 校、中学校：162 校、高等学校：156 校）

（回答割合）

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点			
			あなたの学校では、今年度、「児童生徒の健康面に配慮した」取組を行っていますか。	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
小	（1）	R6	情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すように児童生徒に指導している。	47.3%	41.9%	9.0%	1.8%
		R3		47.8%	37.9%	13.0%	1.2%
	（2）	R6	情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるように児童生徒に指導している。	29.9%	50.3%	16.8%	3.0%
		R3		39.8%	42.9%	16.1%	1.2%
	（3）	R6	夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控えるように児童生徒に指導している。	49.1%	38.9%	10.2%	1.8%
		R3		52.2%	37.9%	9.3%	0.6%
	（4）	R6	児童生徒が情報機器を使用するときの健康への配慮の仕方について保護者に説明している。	51.5%	40.1%	7.2%	1.2%
		R3		54.7%	37.9%	7.5%	0.0%
中	（1）	R6	情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すように児童生徒に指導している。	25.6%	37.8%	29.3%	7.3%
		R3		33.3%	42.0%	22.2%	2.5%
	（2）	R6	情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるように児童生徒に指導している。	17.1%	39.0%	36.0%	7.9%
		R3		27.8%	37.7%	30.2%	4.3%
	（3）	R6	夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控えるように児童生徒に指導している。	32.3%	45.7%	14.6%	7.3%
		R3		45.1%	34.6%	18.5%	1.9%
	（4）	R6	児童生徒が情報機器を使用するときの健康への配慮の仕方について保護者に説明している。	34.1%	50.0%	12.2%	3.7%
		R3		45.7%	37.7%	16.0%	0.6%
高	（1）	R6	情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すように児童生徒に指導している。	3.8%	27.8%	46.8%	21.5%
		R3		16.0%	32.1%	35.3%	16.7%
	（2）	R6	情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるように児童生徒に指導している。	2.5%	27.2%	46.8%	23.4%
		R3		11.5%	30.1%	40.4%	17.9%
	（3）	R6	夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控えるように児童生徒に指導している。	10.8%	35.4%	37.3%	16.5%
		R3		17.3%	34.0%	35.9%	12.8%
	（4）	R6	児童生徒が情報機器を使用するときの健康への配慮の仕方について保護者に説明している。	10.8%	34.2%	39.2%	15.8%
		R3		16.0%	28.8%	39.1%	16.0%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	項番	年度	内容	選択肢ごとの平均得点				相関係数
				あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	
小	（1）	R6	**情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すように児童生徒に指導している。**	**423**	**420**	**416**	**433**	**0.02**
		R3		420	426	418	422	-0.01
	（2）	R6	**情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるように児童生徒に指導している。**	**426**	**417**	**423**	**431**	**0.01**
		R3		422	424	419	409	0.02
	（3）	R6	**夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控えるように児童生徒に指導している。**	**421**	**418**	**430**	**440**	**-0.04**
		R3		421	424	425	412	-0.02
	（4）	R6	**児童生徒が情報機器を使用するときの健康への配慮の仕方について保護者に説明している。**	**421**	**419**	**432**	**430**	**-0.02**
		R3		423	423	410	—	0.04
中	（1）	R6	**情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すように児童生徒に指導している。**	**504**	**500**	**498**	**504**	**0.02**
		R3		511	507	515	517	-0.02
	（2）	R6	**情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるように児童生徒に指導している。**	**504**	**502**	**495**	**512**	**0.01**
		R3		513	509	506	537	-0.01
	（3）	R6	**夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控えるように児童生徒に指導している。**	**497**	**503**	**504**	**491**	**-0.01**
		R3		509	509	517	513	-0.03
	（4）	R6	**児童生徒が情報機器を使用するときの健康への配慮の仕方について保護者に説明している。**	**500**	**502**	**498**	**503**	**0.00**
		R3		512	509	508	534	0.01
高	（1）	R6	**情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すように児童生徒に指導している。**	**581**	**557**	**552**	**564**	**0.01**
		R3		553	550	568	574	-0.10
	（2）	R6	**情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるように児童生徒に指導している。**	**595**	**550**	**556**	**563**	**-0.01**
		R3		558	554	562	572	-0.06
	（3）	R6	**夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控えるように児童生徒に指導している。**	**584**	**550**	**554**	**562**	**0.03**
		R3		556	563	556	574	-0.03
	（4）	R6	**児童生徒が情報機器を使用するときの健康への配慮の仕方について保護者に説明している。**	**570**	**546**	**563**	**559**	**-0.02**
		R3		553	564	558	570	-0.04

※選択肢の得点化……「あてはまる」 4 点、「ややあてはまる」 3 点、「あまりあてはまらない」 2 点、「あてはまらない」 1 点

令和 3 年度調査から令和 6 年度調査で肯定的回答（「あてはまる」、「ややあてはまる」）の割合が最も増加したのは、小学校では「（1） 情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すように児童生徒に指導している。」、中学校及び高等学校では「（4） 児童生徒が情報機器を使用するときの健康への配慮の仕方について保護者に説明している。」であった。否定的回答（「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」）の割合が最も増加したのは、小学校では「（2） 情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるように児童生徒に指導している。」、中学校及び高等学校では「（1） 情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すように児童生徒に指導している。」であった。

⑬ 問 13　生成 AI の活用状況

学校質問調査の問 13 では、調査に参加した学校の校長に対して、「生成 AI の活用状況」を尋ねた。以下では、各選択肢の回答割合と平均得点、選択肢と得点との相関係数の分析結果を示す（図表 3-2-17）。

> あなたの学校では、教師が生成 AI を次の場面でどのように活用していますか。以下の（1）～（3）それぞれについて、学校の状況に最も近いものを 1 つ選んでください。

1. 令和 6 年度調査結果

図表 3-2-17 学校質問調査の問 13「生成 AI の活用状況」

（小学校：167 校、中学校：164 校、高等学校：158 校）

（回答割合）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点					
		活用を推奨しており、ほとんどの教師が活用している	活用を推奨しており、一部の教師が活用している	一部の教師が自発的に活用している	活用していない	把握していない	活用を認めていない・認められていない
小	（1）児童生徒の指導にかかわる業務	10.2%	10.2%	32.9%	33.5%	10.8%	2.4%
	（2）学校の運営にかかわる業務	10.2%	13.8%	27.5%	40.1%	7.8%	0.6%
	（3）学校外部への対応支援（保護者向けお知らせ文書のたたき台の作成や外部向けのあいさつ文のたたき台など）	5.4%	13.8%	34.1%	37.7%	8.4%	0.6%
中	（1）児童生徒の指導にかかわる業務	5.5%	11.6%	32.9%	32.3%	12.2%	5.5%
	（2）学校の運営にかかわる業務	4.9%	9.8%	39.0%	34.8%	7.9%	3.7%
	（3）学校外部への対応支援（保護者向けお知らせ文書のたたき台の作成や外部向けのあいさつ文のたたき台など）	3.7%	9.8%	33.5%	39.6%	9.8%	3.7%
高	（1）児童生徒の指導にかかわる業務	3.2%	19.0%	49.4%	11.4%	14.6%	2.5%
	（2）学校の運営にかかわる業務	4.4%	15.2%	39.2%	24.1%	15.2%	1.9%
	（3）学校外部への対応支援（保護者向けお知らせ文書のたたき台の作成や外部向けのあいさつ文のたたき台など）	3.8%	14.6%	43.7%	19.0%	17.1%	1.9%

（各選択肢における児童生徒の平均得点、及び選択肢と得点の相関）

校種	内容	選択肢ごとの平均得点						相関係数
		活用を推奨しており、ほとんどの教師が活用している	活用を推奨しており、一部の教師が活用している	一部の教師が自発的に活用している	活用していない	把握していない	活用を認めていない・認められていない	
小	（1）児童生徒の指導にかかわる業務	421	432	419	420	422	409	0.03
	（2）学校の運営にかかわる業務	418	434	418	421	416	405	0.03
	（3）学校外部への対応支援（保護者向けお知らせ文書のたたき台の作成や外部向けのあいさつ文のたたき台など）	418	431	420	421	416	405	0.03
中	（1）児童生徒の指導にかかわる業務	515	522	502	491	496	499	0.08
	（2）学校の運営にかかわる業務	514	526	501	491	501	501	0.08
	（3）学校外部への対応支援（保護者向けお知らせ文書のたたき台の作成や外部向けのあいさつ文のたたき台など）	512	524	502	492	504	501	0.06
高	（1）児童生徒の指導にかかわる業務	533	551	562	550	557	567	-0.02
	（2）学校の運営にかかわる業務	538	548	570	550	558	512	0.01
	（3）学校外部への対応支援（保護者向けお知らせ文書のたたき台の作成や外部向けのあいさつ文のたたき台など）	537	545	570	540	564	512	0.00

※選択肢の得点化……「活用を推奨しており、ほとんどの教師が活用している」６点、
「活用を推奨しており、一部の教師が活用している」５点、「一部の教師が自発的に活用している」４点、
「活用していない」３点、「把握していない」２点、「活用を認めていない・認められていない」１点

「生成 AI の活用状況」に関して、「（1）児童生徒の指導にかかわる業務」と「（2）学校の運営にかかわる業務」は、小学校では「活用していない」、中学校及び高等学校では「一部の教師が自発的に活用している」と回答した割合が最も多かった。「（3）学校外部への対応支援（保護者向けお知らせ文書のたたき台の作成や外部向けのあいさつ文のたたき台など）」は、小学校及び中学校では「活用していない」、高等学校では「一部の教師が自発的に活用している」と回答した割合が最も多かった。

「生成 AI の活用状況」と得点との関係では、全校種とも、いずれの質問項目も相関係数の大きさが 0.2 を超えなかった。

■ 3.2.2. 上位群・下位群の分析と肯定群・否定群の分析結果

①　問 1　機器整備・活用状況

問 1 について、上位群・下位群の分析では、令和 6 年度調査「ほぼ毎日（1 日の中で複数の授業で活用）／ほぼ毎日（1 日の中で 1 回程度の授業で活用）／週 3 回以上」を 4 点、「週 1 回以上」を 3 点、「月 1 回以上」を 2 点、「月 1 回未満」を 1 点、令和 3 年度調査「ほぼ毎日」を 4 点、「週 1 回以上」を 3 点、「月 1 回以上」を 2 点、「月 1 回未満」を 1 点とみなして分析を行った（図表 3-2-18）。また、問 1 は明確に肯定群・否定群の群分けを行うことができないため、上位群・下位群の分析結果のみを示す。

図表 3-2-18（上位群・下位群の分析）

校種	内容	R3			R6		
		上位群 平均点 / 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差	上位群 平均点 / 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差
小	あなたの学校では、学習者用コンピュータを授業でどの程度活用していますか。	3.65 / 3.66	—	—	3.96 / 3.96	—	—
中		3.63 / 3.55	2.12	0.13	3.96 / 3.95	1.12	0.07
高		3.17 / 3.12	—	—	3.92 / 3.87	—	—

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

●全校種に共通して、上位群と下位群の児童生徒が通う学校による「学習者用コンピュータの活用頻度」に差はみられなかった。【上位群・下位群】

②　問２　タイピングの指導

問２は小学校のみに尋ねた質問であるため、以下では小学校の結果のみを示す。（１）の上位群・下位群の分析では「行っている」を２点、「行っていない」を１点とみなして分析を行った（図表 3-2-19）。（２）は「１年生」を６点、「２年生」を５点、「３年生」を４点、「４年生」を３点、「５年生」を２点、「６年生」を１点とみなして分析を行った（図表 3-2-19）。（３）、（４）は各選択肢について優劣の判断が困難な点から、上位群・下位群の分析は行わなかった。（１）の肯定群・否定群の分析では「行っている」を肯定群、「行っていない」を否定群として分析を行った（図表 3-2-20）。（２）～（４）は明確に肯定群・否定群の群分けを行うことができないため、肯定群・否定群の分析は行わなかった。

図表 3-2-19（上位群・下位群の分析）

校種	内容	上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（１）タイピングの指導を組織的・計画的に行っている。	1.61 1.65	-1.21	-0.08
	（２）タイピング指導の開始学年 ※（１）で「行っている」と回答した場合のみ	4.85 4.69	1.90 †	0.16

※「***」0.1%水準で有意、「**」１%水準で有意、「*」５%水準で有意、「†」10%水準で有意。
※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

図表 3-2-20（肯定群・否定群の分析）

校種	内容	肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（１）タイピングの指導を組織的・計画的に行っている。	421 423	-0.89	-0.03

※「***」0.1%水準で有意、「**」１%水準で有意、「*」５%水準で有意、「†」10%水準で有意。
※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

- 小学校では、上位群と下位群の児童が通う学校による「（１）タイピングの指導を組織的・計画的に行っている。」及び「（２）タイピング指導の開始学年」に差はみられなかった。【上位群・下位群】
- 小学校では、「（１）タイピングの指導を組織的・計画的に行っている。」学校の児童の調査問題得点に差はみられなかった。【肯定群・否定群】

③　問３　情報活用能力育成に関する取組状況

問３について、上位群・下位群の分析では、「あてはまる」を４点、「ややあてはまる」を３点、「あまりあてはまらない」を２点、「あてはまらない」を１点とみなして分析を行った（図表 3-2-21）。肯定群・否定群の分析では「あてはまる」、「ややあてはまる」を肯定群、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」を否定群として分析を行った（図表 3-2-22）。

図表 3-2-21（上位群・下位群の分析）

校種	内容	R3			R6		
		上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差	上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差
小	（1）情報活用能力調査の質問調査等を参考に、児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。 （R3：児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。）	2.88 2.91	—	—	2.75 2.76	—	—
	（2）情報活用能力を育成する取組を明確にして各教員に周知している。 （R3：情報活用能力育成に関する方針等を明確にしている。）	3.21 3.11	—	—	2.99 3.05	—	—
	（3）情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程を編成し、それに基づき教育活動を行っている。 （R3：情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程が編成されている。）	2.88 2.79	—	—	2.89 2.91	—	—
	（4）教員が情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。 （R3：教員は、情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。）	2.82 2.77	—	—	2.90 2.90	—	—
	（5）情報活用能力育成のため、特定の教員だけではなく学校全体で教員が協働し取り組んでいる。 （R3：情報活用能力育成のための学校として協働して取り組む体制が作られている。）	3.27 3.25	—	—	3.16 3.12	—	—
	（6）情報活用能力育成に関する各教科等での授業実践を共有している。	— —	—	—	3.06 2.98	1.80 †	0.12

校種	内容	R3			R6		
		上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差	上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差
小	（7）情報活用能力育成に関する教育課程の評価･改善を定期的（月、学期、年単位など）に実施している。 （R3：情報活用能力育成に関する教育課程を評価・改善している。）	2.79 2.69	—	—	2.59 2.60	—	—
	（8）情報活用能力育成のために必要な教材や人材を準備し、効果的に活用している。 （R3：情報活用能力育成のために必要な人材･資源（教材など）を活用している。）	3.21 3.19	—	—	2.98 2.99	—	—
	（9）情報活用能力の育成方法に関する校内研修を実施し、教員の指導力向上に取り組んでいる。 （R3：情報活用能力の周知・育成方法に関する校内研修を実施している。）	3.44 3.40	—	—	3.16 3.14	—	—
	（10）情報活用能力の育成方法に関する学校外の研修（指導主事や外部有識者等による研修）に、教員が参加している。 （R3：情報活用能力の周知・育成方法に関する学校外の研修に（教員が）参加している。）	3.16 3.12	—	—	3.13 3.17	—	—
中	（1）情報活用能力調査の質問調査等を参考に、児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。 （R3：児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。）	2.83 2.79	—	—	2.63 2.64	—	—
	（2）情報活用能力を育成する取組を明確にして各教員に周知している。 （R3：情報活用能力育成に関する方針等を明確にしている。）	3.08 2.98	2.18	0.14	2.75 2.67	1.60	0.10
	（3）情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程を編成し、それに基づき教育活動を行っている。 （R3：情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程が編成されている。）	2.80 2.72	1.57	0.10	2.65 2.59	1.35	0.09

校種	内容	R3			R6		
		上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差	上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差
中	（4）教員が情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。 （R3：教員は、情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。）	2.77 2.73	—	—	2.69 2.63	—	—
	（5）情報活用能力育成のため、特定の教員だけではなく学校全体で教員が協働し取り組んでいる。 （R3：情報活用能力育成のための学校として協働して取り組む体制が作られている。）	3.15 3.08	1.63	0.10	2.95 2.88	1.37	0.09
	（6）情報活用能力育成に関する各教科等での授業実践を共有している。	— —	—	—	2.85 2.86	-0.35	-0.02
	（7）情報活用能力育成に関する教育課程の評価･改善を定期的（月、学期、年単位など）に実施している。 （R3：情報活用能力育成に関する教育課程を評価・改善している。）	2.66 2.59	—	—	2.31 2.33	—	—
	（8）情報活用能力育成のために必要な教材や人材を準備し、効果的に活用している。 （R3：情報活用能力育成のために必要な人材･資源（教材など）を活用している。）	3.01 2.98	—	—	2.78 2.72	—	—
	（9）情報活用能力の育成方法に関する校内研修を実施し、教員の指導力向上に取り組んでいる。 （R3：情報活用能力の周知・育成方法に関する校内研修を実施している。）	3.22 3.17	—	—	2.73 2.81	—	—
	（10）情報活用能力の育成方法に関する学校外の研修（指導主事や外部有識者等による研修）に、教員が参加している。 （R3：情報活用能力の周知・育成方法に関する学校外の研修に（教員が）参加している。）	2.92 2.94	-0.26	-0.02	2.83 2.96	-2.60*	-0.17

校種	内容	R3			R6		
		上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差	上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差
高	（1）情報活用能力調査の質問調査等を参考に、児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。 （R3：児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。）	2.87 2.64	—	—	2.37 2.63	—	—
	（2）情報活用能力を育成する取組を明確にして各教員に周知している。 （R3：情報活用能力育成に関する方針等を明確にしている。）	2.71 2.63	—	—	2.61 2.67	—	—
	（3）情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程を編成し、それに基づき教育活動を行っている。 （R3：情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程が編成されている。）	2.61 2.48	2.43 †	0.15	2.68 2.63	1.13	0.06
	（4）教員が情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。 （R3：教員は、情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。）	2.67 2.56	—	—	2.78 2.78	—	—
	（5）情報活用能力育成のため、特定の教員だけではなく学校全体で教員が協働し取り組んでいる。 （R3：情報活用能力育成のための学校として協働して取り組む体制が作られている。）	2.94 2.88	—	—	2.84 2.83	—	—
	（6）情報活用能力育成に関する各教科等での授業実践を共有している。	— —	—	—	2.91 2.82	1.71 †	0.11
	（7）情報活用能力育成に関する教育課程の評価･改善を定期的（月、学期、年単位など）に実施している。 （R3：情報活用能力育成に関する教育課程を評価・改善している。）	2.57 2.53	0.85	0.05	2.40 2.19	4.60***	0.24

校種	内容	R3			R6		
		上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差	上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差
高	（8）情報活用能力育成のために必要な教材や人材を準備し、効果的に活用している。 （R3：情報活用能力育成のために必要な人材・資源（教材など）を活用している。）	2.89 2.87	0.55	0.03	2.90 2.74	3.40**	0.18
	（9）情報活用能力の育成方法に関する校内研修を実施し、教員の指導力向上に取り組んでいる。 （R3：情報活用能力の周知・育成方法に関する校内研修を実施している。）	2.85 2.91	—	—	2.84 2.90	—	—
	（10）情報活用能力の育成方法に関する学校外の研修（指導主事や外部有識者等による研修）に、教員が参加している。 （R3：情報活用能力の周知・育成方法に関する学校外の研修に（教員が）参加している。）	2.70 2.84	—	—	2.83 2.83	—	—

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

図表 3-2-22（肯定群・否定群の分析）

校種	内容	R3			R6		
		肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差	肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（1）情報活用能力調査の質問調査等を参考に、児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。 （R3：児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。）	423 419	1.75	0.06	422 419	1.01	0.03
	（2）情報活用能力を育成する取組を明確にして各教員に周知している。 （R3：情報活用能力育成に関する方針等を明確にしている。）	423 419	—	—	420 426	—	—
	（3）情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程を編成し、それに基づき教育活動を行っている。 （R3：情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程が編成されている。）	425 418	—	—	420 424	—	—
	（4）教員が情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。 （R3：教員は、情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。）	424 419	2.41 †	0.08	422 419	0.92	0.03
	（5）情報活用能力育成のため、特定の教員だけではなく学校全体で教員が協働し取り組んでいる。 （R3：情報活用能力育成のための学校として協働して取り組む体制が作られている。）	423 420	—	—	421 420	—	—
	（6）情報活用能力育成に関する各教科等での授業実践を共有している。	— —	—	—	422 418	1.33	0.05
	（7）情報活用能力育成に関する教育課程の評価･改善を定期的（月、学期、年単位など）に実施している。 （R3：情報活用能力育成に関する教育課程を評価・改善している。）	425 419	—	—	421 421	—	—

校種	内容	R3			R6		
		肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差	肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（8）情報活用能力育成のために必要な教材や人材を準備し、効果的に活用している。 （R3：情報活用能力育成のために必要な人材･資源（教材など）を活用している。）	423 418	—	—	420 424	—	—
小	（9）情報活用能力の育成方法に関する校内研修を実施し、教員の指導力向上に取り組んでいる。 （R3：情報活用能力の周知・育成方法に関する校内研修を実施している。）	422 424	—	—	422 419	—	—
小	（10）情報活用能力の育成方法に関する学校外の研修（指導主事や外部有識者等による研修）に、教員が参加している。 （R3：情報活用能力の周知・育成方法に関する学校外の研修に（教員が）参加している。）	423 418	—	—	421 424	—	—
中	（1）情報活用能力調査の質問調査等を参考に、児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。 （R3：児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。）	512 508	—	—	500 502	—	—
中	（2）情報活用能力を育成する取組を明確にして各教員に周知している。 （R3：情報活用能力育成に関する方針等を明確にしている。）	513 501	4.28***	0.15	502 499	0.91	0.03
中	（3）情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程を編成し、それに基づき教育活動を行っている。 （R3：情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程が編成されている。）	512 508	1.50	0.04	504 497	2.62*	0.08
中	（4）教員が情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。 （R3：教員は、情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。）	512 508	1.83	0.05	503 497	2.08	0.06

校種	内容	R3			R6		
		肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差	肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
中	（5）情報活用能力育成のため、特定の教員だけではなく学校全体で教員が協働し取り組んでいる。 （R3：情報活用能力育成のための学校として協働して取り組む体制が作られている。）	513 497	4.80***	0.20	502 499	1.05	0.03
	（6）情報活用能力育成に関する各教科等での授業実践を共有している。	— —	—	—	501 499	0.75	0.02
	（7）情報活用能力育成に関する教育課程の評価･改善を定期的（月、学期、年単位など）に実施している。 （R3：情報活用能力育成に関する教育課程を評価・改善している。）	513 507	2.62*	0.08	501 500	0.47	0.01
	（8）情報活用能力育成のために必要な教材や人材を準備し、効果的に活用している。 （R3：情報活用能力育成のために必要な人材･資源（教材など）を活用している。）	510 510	—	—	501 500	—	—
	（9）情報活用能力の育成方法に関する校内研修を実施し、教員の指導力向上に取り組んでいる。 （R3：情報活用能力の周知・育成方法に関する校内研修を実施している。）	511 508	—	—	499 505	—	—
	（10）情報活用能力の育成方法に関する学校外の研修（指導主事や外部有識者等による研修）に、教員が参加している。 （R3：情報活用能力の周知・育成方法に関する学校外の研修に（教員が）参加している。）	510 512	-0.60	-0.02	499 505	-2.08	-0.07
高	（1）情報活用能力調査の質問調査等を参考に、児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。 （R3：児童生徒の情報活用能力の実態を把握している。）	567 546	—	—	551 565	—	—

校種	内容	R3			R6		
		肯定群 平均点 否定群 平均点	t 値	標準化 平均値差	肯定群 平均点 否定群 平均点	t 値	標準化 平均値差
高	（2）情報活用能力を育成する取組を明確にして各教員に周知している。 （R3：情報活用能力育成に関する方針等を明確にしている。）	561 561	—	—	561 553	—	—
	（3）情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程を編成し、それに基づき教育活動を行っている。 （R3：情報活用能力を教科等横断的・系統的な視点で育成する教育課程が編成されている。）	562 560	0.90	0.03	560 553	2.17	0.06
	（4）教員が情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。 （R3：教員は、情報活用能力の系統性（既習要素や、今後学ぶ要素との関連）を意識して授業を行っている。）	564 557	2.83*	0.08	558 557	0.32	0.01
	（5）情報活用能力育成のため、特定の教員だけではなく学校全体で教員が協働し取り組んでいる。 （R3：情報活用能力育成のための学校として協働して取り組む体制が作られている。）	560 565	-1.67	-0.06	556 560	-1.28	-0.04
	（6）情報活用能力育成に関する各教科等での授業実践を共有している。	— —	—	—	557 559	-0.86	-0.03
	（7）情報活用能力育成に関する教育課程の評価･改善を定期的（月、学期、年単位など）に実施している。 （R3：情報活用能力育成に関する教育課程を評価・改善している。）	562 559	1.15	0.03	569 550	6.29***	0.18
	（8）情報活用能力育成のために必要な教材や人材を準備し、効果的に活用している。 （R3：情報活用能力育成のために必要な人材･資源（教材など）を活用している。）	562 559	0.95	0.03	559 554	1.84	0.05

校種	内容	R3			R6		
		肯定群平均点 / 否定群平均点	t 値	標準化平均値差	肯定群平均点 / 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
高	（9）情報活用能力の育成方法に関する校内研修を実施し、教員の指導力向上に取り組んでいる。（R3：情報活用能力の周知・育成方法に関する校内研修を実施している。）	559 / 566	-2.41 †	-0.08	556 / 559	-0.96	-0.03
	（10）情報活用能力の育成方法に関する学校外の研修（指導主事や外部有識者等による研修）に、教員が参加している。（R3：情報活用能力の周知・育成方法に関する学校外の研修に（教員が）参加している。）	557 / 567	—	—	558 / 556	—	—

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

- 全校種に共通して、上位群と下位群の児童生徒が通う学校による「情報活用能力育成に関する取組状況」に、中程度以上の差はみられなかった。【上位群・下位群】
- 全校種に共通して、「情報活用能力育成に関する取組状況」について肯定群と否定群の学校の児童生徒の調査問題得点に、中程度以上の差はみられなかった。【肯定群・否定群】

④　問４　機器等を活用した指導状況

問４について、上位群・下位群の分析では、「ほとんどの教員が行っている」を４点、「半数程度の教員が行っている」を３点、「一部の教員が行っている」を２点、「ほとんどの教員が行っていない」を１点とみなして分析を行った（図表 3-2-23）。また、問４は明確に肯定群・否定群の群分けを行うことができないため、上位群・下位群の分析結果のみを示す。

図表 3-2-23（上位群・下位群の分析）

校種	内容	R3			R6		
		上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差	上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（1）児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	3.30 3.25	1.05	0.07	3.60 3.46	3.54**	0.23
	（2）コンピュータなどを活用し、児童生徒が作品・レポート・ワークシートなどを記録・整理することができるよう指導する。	— —	—	—	3.45 3.26	4.02***	0.27
	（3）グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	3.03 2.99	0.85	0.06	3.43 3.22	4.34***	0.28
	（4）学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。	3.69 3.67	—	—	3.70 3.69	—	—
	（5）児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	3.60 3.65	—	—	3.77 3.77	—	—
	（6）児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。	3.02 2.99	0.53	0.03	3.21 3.05	3.28**	0.21
	（7）児童生徒が互いの考えを交換し共有して話合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	3.08 3.00	1.53	0.10	3.35 3.15	4.04***	0.26

校種	内容	R3			R6		
		上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差	上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差
小	（8）児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。	3.68 3.67	—	—	3.74 3.75	—	—
	（9）児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。	3.80 3.77	—	—	3.87 3.87	—	—
	（10）児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	3.77 3.79	—	—	3.82 3.78	—	—
	（11）児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	3.66 3.70	—	—	3.64 3.65	—	—
	（12）インターネットや生成 AI から得られた情報について、複数の情報源をもとに正しいのかを確かめるように指導する。	— —	—	—	3.08 3.04	0.62	0.04
中	（1）児童生徒に互いの意見･考え方･作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	2.84 2.72	—	—	3.17 3.20	—	—
	（2）コンピュータなどを活用し、児童生徒が作品・レポート・ワークシートなどを記録・整理することができるよう指導する。	— —	—	—	3.28 3.22	1.03	0.07
	（3）グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	2.75 2.65	2.19	0.14	3.21 3.17	0.93	0.06

校種	内容	R3			R6		
		上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差	上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差
中	（4）学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。	3.11 3.10	—	—	3.15 3.19	—	—
	（5）児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	3.35 3.27	—	—	3.45 3.52	—	—
	（6）児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。	2.98 2.79	3.79***	0.24	3.17 3.11	1.16	0.07
	（7）児童生徒が互いの考えを交換し共有して話合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	2.79 2.60	3.81***	0.24	3.09 3.05	0.96	0.06
	（8）児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。	3.43 3.43	—	—	3.46 3.48	—	—
	（9）児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。	3.64 3.55	—	—	3.53 3.58	—	—
	（10）児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	3.52 3.43	—	—	3.30 3.42	—	—

校種	内容	R3			R6		
		上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差	上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差
中	（11）児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	3.45 3.37	—	—	3.14 3.24	—	—
中	（12）インターネットや生成 AI から得られた情報について、複数の情報源をもとに正しいのかを確かめるように指導する。	— —	—	—	2.88 2.73	2.38*	0.15
高	（1）児童生徒に互いの意見・考え方・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	2.60 2.45	3.12**	0.20	3.09 2.80	6.68***	0.36
高	（2）コンピュータなどを活用し、児童生徒が作品・レポート・ワークシートなどを記録・整理することができるよう指導する。	— —	—	—	3.24 2.96	5.97***	0.37
高	（3）グループで話し合って考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	2.59 2.49	1.85	0.12	3.19 2.83	8.58***	0.47
高	（4）学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能（文字入力やファイル操作など）を児童生徒が身に付けることができるように指導する。	2.75 2.67	—	—	3.00 2.99	—	—
高	（5）児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	2.94 2.84	—	—	3.27 3.28	—	—
高	（6）児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。	2.85 2.67	3.28**	0.21	3.15 2.87	6.13***	0.33

校種	内容	R3			R6		
		上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差	上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差
高	（7）児童生徒が互いの考えを交換し共有して話合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	2.53 2.42	2.06	0.13	2.96 2.81	3.32**	0.18
	（8）児童生徒が情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、相手のことを考え、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。	3.04 3.14	-1.63	-0.10	3.23 3.29	-1.26	-0.07
	（9）児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。	3.12 3.18	-1.14	-0.07	3.33 3.49	-3.55**	-0.19
	（10）児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	2.93 2.85	—	—	2.96 3.13	—	—
	（11）児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	2.84 2.64	3.67**	0.23	3.04 3.06	-0.48	-0.03
	（12）インターネットや生成 AI から得られた情報について、複数の情報源をもとに正しいのかを確かめるように指導する。	— —	—	—	2.87 2.62	4.34***	0.27

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「* 」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

●全校種に共通して、上位群と下位群の児童生徒が通う学校による「機器等を活用した指導状況」に、中程度以上の差はみられなかった。【上位群・下位群】

⑤　問 5　端末の積極的・主体的な活用

問 5 について、上位群・下位群の分析では、「あてはまる」を 4 点、「ややあてはまる」を 3 点、「あまりあてはまらない」を 2 点、「あてはまらない」を 1 点とみなして分析を行った（図表 3-2-24）。肯定群・否定群の分析では「あてはまる」、「ややあてはまる」を肯定群、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」を否定群として分析を行った（図表 3-2-25）。

図表 3-2-24（上位群・下位群の分析）

校種	内容	上位群 平均点 / 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差
小	（1）行事、委員会活動、教師からの連絡等、授業以外の場面で児童生徒はコンピュータを日常的に活用している。	3.25 / 3.13	2.38*	0.16
	（2）授業の中でコンピュータをいつ、どのように使うのかについて、児童生徒が選択、判断している。	2.92 / 2.81	2.03*	0.13
	（3）教員同士の情報共有のためにクラウド上のオンラインサービス等を活用している。	3.37 / 3.19	2.91**	0.19
	（4）コンピュータの使用ルールは児童生徒と話し合って設定している。	2.81 / 2.79	0.31	0.02
	（5）コンピュータの使用ルールを定期的に見直す機会を設定している。	3.20 / 3.12	1.78 †	0.12
	（6）児童生徒同士がコンピュータを使って、授業中にメッセージやコメントを協働的な学びに活用している。	2.81 / 2.75	1.10	0.07
	（7）児童生徒は学校外の人からの連絡を見たり、学校の人に連絡したりするためにコンピュータを使っている。	2.07 / 1.92	2.54*	0.17
	（8）児童生徒は学校の宿題をするためにコンピュータを使っている。	3.03 / 3.05	-0.30	-0.02
	（9）児童生徒は学校の宿題を提出するためにコンピュータを使っている。	2.90 / 2.84	1.03	0.07
中	（1）行事、委員会活動、教師からの連絡等、授業以外の場面で児童生徒はコンピュータを日常的に活用している。	3.50 / 3.27	4.82***	0.31
	（2）授業の中でコンピュータをいつ、どのように使うのかについて、児童生徒が選択、判断している。	2.93 / 2.85	1.50	0.10
	（3）教員同士の情報共有のためにクラウド上のオンラインサービス等を活用している。	3.49 / 3.47	0.45	0.03
	（4）コンピュータの使用ルールは児童生徒と話し合って設定している。	2.67 / 2.60	1.03	0.07

校種	内容	上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差
中	（5）コンピュータの使用ルールを定期的に見直す機会を設定している。	2.88 2.79	1.59	0.10
	（6）児童生徒同士がコンピュータを使って、授業中にメッセージやコメントを協働的な学びに活用している。	2.86 2.80	1.05	0.07
	（7）児童生徒は学校外の人からの連絡を見たり、学校の人に連絡したりするためにコンピュータを使っている。	2.34 2.12	3.15**	0.20
	（8）児童生徒は学校の宿題をするためにコンピュータを使っている。	3.06 2.94	2.12*	0.14
	（9）児童生徒は学校の宿題を提出するためにコンピュータを使っている。	3.07 2.95	2.14*	0.14
高	（1）行事、委員会活動、教師からの連絡等、授業以外の場面で児童生徒はコンピュータを日常的に活用している。	3.77 3.34	10.41***	0.65
	（2）授業の中でコンピュータをいつ、どのように使うのかについて、児童生徒が選択、判断している。	3.07 2.70	6.55***	0.41
	（3）教員同士の情報共有のためにクラウド上のオンラインサービス等を活用している。	3.81 3.58	5.77***	0.36
	（4）コンピュータの使用ルールは児童生徒と話し合って設定している。	2.44 2.32	2.02*	0.13
	（5）コンピュータの使用ルールを定期的に見直す機会を設定している。	2.67 2.57	2.04*	0.13
	（6）児童生徒同士がコンピュータを使って、授業中にメッセージやコメントを協働的な学びに活用している。	2.82 2.49	5.74***	0.36
	（7）児童生徒は学校外の人からの連絡を見たり、学校の人に連絡したりするためにコンピュータを使っている。	3.04 2.58	7.46***	0.47
	（8）児童生徒は学校の宿題をするためにコンピュータを使っている。	3.43 3.17	5.78***	0.36
	（9）児童生徒は学校の宿題を提出するためにコンピュータを使っている。	3.42 3.14	5.87***	0.37

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

図表 3-2-25（肯定群・否定群の分析）

校種	内容	肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（1）行事、委員会活動、教師からの連絡等、授業以外の場面で児童生徒はコンピュータを日常的に活用している。	422 419	0.77	0.03
	（2）授業の中でコンピュータをいつ、どのように使うのかについて、児童生徒が選択、判断している。	422 418	1.38	0.05
	（3）教員同士の情報共有のためにクラウド上のオンラインサービス等を活用している。	423 414	2.67**	0.11
	（4）コンピュータの使用ルールは児童生徒と話し合って設定している。	422 420	0.66	0.02
	（5）コンピュータの使用ルールを定期的に見直す機会を設定している。	421 421	-0.06	0.00
	（6）児童生徒同士がコンピュータを使って、授業中にメッセージやコメントを協働的な学びに活用している。	423 418	2.04*	0.06
	（7）児童生徒は学校外の人からの連絡を見たり、学校の人に連絡したりするためにコンピュータを使っている。	428 418	3.79***	0.13
	（8）児童生徒は学校の宿題をするためにコンピュータを使っている。	420 424	-1.45	-0.05
	（9）児童生徒は学校の宿題を提出するためにコンピュータを使っている。	422 418	1.41	0.05
中	（1）行事、委員会活動、教師からの連絡等、授業以外の場面で児童生徒はコンピュータを日常的に活用している。	504 481	5.81***	0.25
	（2）授業の中でコンピュータをいつ、どのように使うのかについて、児童生徒が選択、判断している。	503 497	2.04*	0.06
	（3）教員同士の情報共有のためにクラウド上のオンラインサービス等を活用している。	500 503	-0.74	-0.03
	（4）コンピュータの使用ルールは児童生徒と話し合って設定している。	501 500	0.20	0.01
	（5）コンピュータの使用ルールを定期的に見直す機会を設定している。	502 499	1.10	0.04

校種	内容	肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
中	（6）児童生徒同士がコンピュータを使って、授業中にメッセージやコメントを協働的な学びに活用している。	502 498	1.43	0.04
	（7）児童生徒は学校外の人からの連絡を見たり、学校の人に連絡したりするためにコンピュータを使っている。	507 497	3.41***	0.10
	（8）児童生徒は学校の宿題をするためにコンピュータを使っている。	502 498	1.46	0.05
	（9）児童生徒は学校の宿題を提出するためにコンピュータを使っている。	502 496	2.14*	0.07
高	（1）行事、委員会活動、教師からの連絡等、授業以外の場面で児童生徒はコンピュータを日常的に活用している。	561 519	7.97***	0.42
	（2）授業の中でコンピュータをいつ、どのように使うのかについて、児童生徒が選択、判断している。	566 539	8.56***	0.27
	（3）教員同士の情報共有のためにクラウド上のオンラインサービス等を活用している。	560 516	6.66***	0.44
	（4）コンピュータの使用ルールは児童生徒と話し合って設定している。	562 555	2.40*	0.07
	（5）コンピュータの使用ルールを定期的に見直す機会を設定している。	559 555	1.26	0.04
	（6）児童生徒同士がコンピュータを使って、授業中にメッセージやコメントを協働的な学びに活用している。	563 551	4.01***	0.11
	（7）児童生徒は学校外の人からの連絡を見たり、学校の人に連絡したりするためにコンピュータを使っている。	565 544	7.10***	0.21
	（8）児童生徒は学校の宿題をするためにコンピュータを使っている。	561 529	7.15***	0.31
	（9）児童生徒は学校の宿題を提出するためにコンピュータを使っている。	560 539	4.75***	0.20

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

- 高等学校では、上位群の生徒が通う学校の方が「（1）行事、委員会活動、教師からの連絡等、授業以外の場面で児童生徒はコンピュータを日常的に活用している。」と回答する傾向がみられた。【上位群・下位群】
- 全校種に共通して、「端末の積極的・主体的な活用」について肯定群と否定群の学校の児童生徒の調査問題得点に、中程度以上の差はみられなかった。【肯定群・否定群】

⑥　問６　GIGA スクール構想の成果「個別最適な学びに関する効果」

問６について、上位群・下位群の分析では、「とてもそう思う」を５点、「そう思う」を４点、「あまり思わない」を３点、「思わない」を２点、「実施していない・把握していない」を１点とみなして分析を行った（図表 3-2-26）。肯定群・否定群の分析では「とてもそう思う」、「そう思う」を肯定群、「あまり思わない」、「思わない」、「実施していない・把握していない」を否定群として分析を行った（図表 3-2-27）。

図表 3-2-26（上位群・下位群の分析）

校種	内容	上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（１）各自の学習速度・到達度等に応じた指導の個別化	3.89 3.80	1.86 †	0.12
	（２）児童生徒の関心や課題に応じた学習教材や学習課題の提供	4.09 4.04	1.34	0.09
	（３）一人一人の学習状況の詳細な把握	3.90 3.76	2.81**	0.19
	（４）児童生徒が自ら学習計画を立てて行う学習活動	3.49 3.34	2.65**	0.17
中	（１）各自の学習速度・到達度等に応じた指導の個別化	3.72 3.68	0.74	0.05
	（２）児童生徒の関心や課題に応じた学習教材や学習課題の提供	3.87 3.85	0.43	0.03
	（３）一人一人の学習状況の詳細な把握	3.78 3.65	2.33*	0.15
	（４）児童生徒が自ら学習計画を立てて行う学習活動	3.45 3.36	1.47	0.09
高	（１）各自の学習速度・到達度等に応じた指導の個別化	3.48 3.54	-1.04	-0.07
	（２）児童生徒の関心や課題に応じた学習教材や学習課題の提供	3.69 3.72	-0.66	-0.04
	（３）一人一人の学習状況の詳細な把握	3.58 3.58	0.06	0.00
	（４）児童生徒が自ら学習計画を立てて行う学習活動	3.26 3.15	1.67 †	0.10

※「***」0.1%水準で有意、「**」１%水準で有意、「*」５%水準で有意、「†」10%水準で有意。
※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

図表 3-2-27（肯定群・否定群の分析）

校種	内容	肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（1）各自の学習速度・到達度等に応じた指導の個別化	422 418	1.46	0.05
	（2）児童生徒の関心や課題に応じた学習教材や学習課題の提供	421 423	-0.40	-0.02
	（3）一人一人の学習状況の詳細な把握	423 417	2.11*	0.07
	（4）児童生徒が自ら学習計画を立てて行う学習活動	426 416	3.94***	0.12
中	（1）各自の学習速度・到達度等に応じた指導の個別化	501 500	0.49	0.02
	（2）児童生徒の関心や課題に応じた学習教材や学習課題の提供	501 501	-0.01	0.00
	（3）一人一人の学習状況の詳細な把握	503 495	2.91**	0.09
	（4）児童生徒が自ら学習計画を立てて行う学習活動	502 500	0.79	0.02
高	（1）各自の学習速度・到達度等に応じた指導の個別化	559 555	1.36	0.04
	（2）児童生徒の関心や課題に応じた学習教材や学習課題の提供	559 554	1.53	0.05
	（3）一人一人の学習状況の詳細な把握	564 547	5.65***	0.16
	（4）児童生徒が自ら学習計画を立てて行う学習活動	569 549	6.97***	0.20

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。
※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

- 全校種に共通して、上位群と下位群の児童生徒が通う学校による「GIGA スクール構想の成果「個別最適な学びに関する効果」」に差はみられなかった。【上位群・下位群】
- 全校種に共通して、「GIGA スクール構想の成果「個別最適な学びに関する効果」」について肯定群と否定群の学校の児童生徒の調査問題得点に差はみられなかった。【肯定群・否定群】

⑦　問 7　GIGA スクール構想の成果「効率化による指導の改善」

問 7 について、上位群・下位群の分析では、「とてもそう思う」を 5 点、「そう思う」を 4 点、「あまり思わない」を 3 点、「思わない」を 2 点、「実施していない・把握していない」を 1 点とみなして分析を行った（図表 3-2-28）。肯定群・否定群の分析では「とてもそう思う」、「そう思う」を肯定群、「あまり思わない」、「思わない」、「実施していない・把握していない」を否定群として分析を行った（図表 3-2-29）。

図表 3-2-28（上位群・下位群の分析）

校種	内容	上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（1）家庭学習状況の容易な把握	3.41 3.34	1.06	0.07
	（2）長期休業中の宿題の効率化	3.36 3.33	0.40	0.03
	（3）授業準備時間や負担の軽減	4.02 3.90	2.53*	0.17
中	（1）家庭学習状況の容易な把握	3.18 3.17	0.27	0.02
	（2）長期休業中の宿題の効率化	3.40 3.49	-1.24	-0.08
	（3）授業準備時間や負担の軽減	3.75 3.79	-0.90	-0.06
高	（1）家庭学習状況の容易な把握	3.45 3.24	3.28**	0.21
	（2）長期休業中の宿題の効率化	3.55 3.42	1.88†	0.12
	（3）授業準備時間や負担の軽減	3.70 3.75	-0.96	-0.06

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

図表 3-2-29（肯定群・否定群の分析）

校種	内容	肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（1）家庭学習状況の容易な把握	425 416	3.70***	0.11
	（2）長期休業中の宿題の効率化	422 419	1.35	0.04
	（3）授業準備時間や負担の軽減	422 418	1.29	0.05
中	（1）家庭学習状況の容易な把握	500 502	-0.74	-0.02
	（2）長期休業中の宿題の効率化	498 505	-2.69**	-0.08
	（3）授業準備時間や負担の軽減	500 502	-0.76	-0.02
高	（1）家庭学習状況の容易な把握	567 546	7.28***	0.21
	（2）長期休業中の宿題の効率化	561 553	2.65**	0.08
	（3）授業準備時間や負担の軽減	555 563	-2.88**	-0.09

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。
※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

- 全校種に共通して、上位群と下位群の児童生徒が通う学校による「GIGA スクール構想の成果「効率化による指導の改善」」に、中程度以上の差はみられなかった。【上位群・下位群】
- 全校種に共通して、「GIGA スクール構想の成果「効率化による指導の改善」」について肯定群と否定群の学校の児童生徒の調査問題得点に、中程度以上の差はみられなかった。【肯定群・否定群】

⑧　問８　GIGA スクール構想の成果「オンラインによる学習活動の充実」

問８について、上位群・下位群の分析では、「とてもそう思う」を５点、「そう思う」を４点、「あまり思わない」を３点、「思わない」を２点、「実施していない・把握していない」を１点とみなして分析を行った（図表 3-2-30）。肯定群・否定群の分析では「とてもそう思う」、「そう思う」を肯定群、「あまり思わない」、「思わない」、「実施していない・把握していない」を否定群として分析を行った（図表 3-2-31）。

図表 3-2-30（上位群・下位群の比較）

校種	内容	上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（１）外部の専門家を活用したオンライン学習活動	3.06 2.88	1.96*	0.13
	（２）地域人材を活用したオンライン学習活動	2.63 2.39	2.69**	0.18
	（３）遠隔地の学校等とのオンライン交流活動	2.63 2.38	2.63**	0.17
中	（１）外部の専門家を活用したオンライン学習活動	2.50 2.60	-1.04	-0.07
	（２）地域人材を活用したオンライン学習活動	2.16 2.11	0.57	0.04
	（３）遠隔地の学校等とのオンライン交流活動	2.67 2.35	3.35***	0.21
高	（１）外部の専門家を活用したオンライン学習活動	3.06 2.90	2.11*	0.13
	（２）地域人材を活用したオンライン学習活動	2.58 2.51	0.90	0.06
	（３）遠隔地の学校等とのオンライン交流活動	2.94 2.68	2.98**	0.19

※「***」0.1%水準で有意、「**」１%水準で有意、「*」５%水準で有意、「†」10%水準で有意。
※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

図表 3-2-31（肯定群・否定群の比較）

校種	内容	肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（1）外部の専門家を活用したオンライン学習活動	425 418	2.85**	0.09
	（2）地域人材を活用したオンライン学習活動	429 418	4.22***	0.14
	（3）遠隔地の学校等とのオンライン交流活動	428 418	4.13***	0.13
中	（1）外部の専門家を活用したオンライン学習活動	496 503	-2.37*	-0.07
	（2）地域人材を活用したオンライン学習活動	508 499	2.67**	0.10
	（3）遠隔地の学校等とのオンライン交流活動	507 497	3.64***	0.11
高	（1）外部の専門家を活用したオンライン学習活動	565 552	4.43***	0.13
	（2）地域人材を活用したオンライン学習活動	562 556	1.98*	0.06
	（3）遠隔地の学校等とのオンライン交流活動	563 554	3.03**	0.09

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。
※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

- 全校種に共通して、上位群と下位群の児童生徒が通う学校による「GIGA スクール構想の成果「オンラインによる学習活動の充実」」に、中程度以上の差はみられなかった。【上位群・下位群】
- 全校種に共通して、「GIGA スクール構想の成果「オンラインによる学習活動の充実」」について肯定群と否定群の学校の児童生徒の調査問題得点に差はみられなかった。【肯定群・否定群】

⑨　問９　GIGA スクール構想の成果「学習意欲・学力への影響」

問９について、上位群・下位群の分析では、「とてもそう思う」を５点、「そう思う」を４点、「あまり思わない」を３点、「思わない」を２点、「実施していない・把握していない」を１点とみなして分析を行った（図表 3-2-32）。肯定群・否定群の分析では「とてもそう思う」、「そう思う」を肯定群、「あまり思わない」、「思わない」、「実施していない・把握していない」を否定群として分析を行った（図表 3-2-33）。

図表 3-2-32（上位群・下位群の分析）

校種	内容	上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（１）学習意欲の向上	4.22 4.19	0.73	0.05
	（２）より多くの児童生徒の積極的な授業への参加	4.22 4.18	1.03	0.07
	（３）基礎的・基本的な知識・技能の習得の促進	3.94 3.90	1.00	0.07
中	（１）学習意欲の向上	3.86 3.90	-1.02	-0.06
	（２）より多くの児童生徒の積極的な授業への参加	3.90 3.98	-1.66 †	-0.11
	（３）基礎的・基本的な知識・技能の習得の促進	3.65 3.75	-2.14*	-0.14
高	（１）学習意欲の向上	3.65 3.60	1.03	0.06
	（２）より多くの児童生徒の積極的な授業への参加	3.80 3.73	1.51	0.09
	（３）基礎的・基本的な知識・技能の習得の促進	3.66 3.63	0.67	0.04

※「***」0.1%水準で有意、「**」１%水準で有意、「*」５%水準で有意、「†」10%水準で有意。
※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

図表 3-2-33（肯定群・否定群の比較）

校種	内容	肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（1）学習意欲の向上	421 418	0.76	0.05
	（2）より多くの児童生徒の積極的な授業への参加	422 413	1.76 †	0.11
	（3）基礎的・基本的な知識・技能の習得の促進	422 419	0.98	0.04
中	（1）学習意欲の向上	499 508	-2.41*	-0.10
	（2）より多くの児童生徒の積極的な授業への参加	500 508	-2.24*	-0.09
	（3）基礎的・基本的な知識・技能の習得の促進	499 505	-2.24*	-0.07
高	（1）学習意欲の向上	558 556	0.88	0.03
	（2）より多くの児童生徒の積極的な授業への参加	560 549	3.31***	0.11
	（3）基礎的・基本的な知識・技能の習得の促進	558 556	0.92	0.03

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

- 全校種に共通して、上位群と下位群の児童生徒が通う学校による「GIGA スクール構想の成果「学習意欲・学力への影響」」に差はみられなかった。【上位群・下位群】
- 全校種に共通して、「GIGA スクール構想の成果「学習意欲・学力への影響」」について肯定群と否定群の学校の児童生徒の調査問題得点に差はみられなかった。【肯定群・否定群】

⑩　問 10　GIGA スクール構想の成果「学びの保証に関する効果」

問 10 について、上位群・下位群の分析では、「とてもそう思う」を 5 点、「そう思う」を 4 点、「あまり思わない」を 3 点、「思わない」を 2 点、「実施していない・把握していない」を 1 点とみなして分析を行った（図表 3-2-34）。肯定群・否定群の分析では「とてもそう思う」、「そう思う」を肯定群、「あまり思わない」、「思わない」、「実施していない・把握していない」を否定群として分析を行った（図表 3-2-35）。

図表 3-2-34（上位群・下位群の比較）

校種	内容	上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（1）不登校児童生徒に対するオンライン指導	3.70 3.60	1.30	0.09
	（2）特別な支援を要する児童生徒に対する指導	3.92 3.92	0.05	0.00
	（3）特定分野の特異な才能のある児童生徒に対する指導	3.02 2.89	1.35	0.09
中	（1）不登校児童生徒に対するオンライン指導	3.58 3.60	-0.35	-0.02
	（2）特別な支援を要する児童生徒に対する指導	3.75 3.84	-1.31	-0.08
	（3）特定分野の特異な才能のある児童生徒に対する指導	2.83 2.78	0.53	0.03
高	（1）不登校児童生徒に対するオンライン指導	3.39 3.05	3.75***	0.23
	（2）特別な支援を要する児童生徒に対する指導	3.13 2.80	3.54***	0.22
	（3）特定分野の特異な才能のある児童生徒に対する指導	2.60 2.56	0.50	0.03

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

図表 3-2-35（肯定群・否定群の比較）

校種	内容	肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（1）不登校児童生徒に対するオンライン指導	423 417	2.40*	0.08
	（2）特別な支援を要する児童生徒に対する指導	422 418	0.94	0.04
	（3）特定分野の特異な才能のある児童生徒に対する指導	424 419	2.26*	0.07
中	（1）不登校児童生徒に対するオンライン指導	500 502	-0.90	-0.03
	（2）特別な支援を要する児童生徒に対する指導	498 510	-3.60***	-0.13
	（3）特定分野の特異な才能のある児童生徒に対する指導	501 501	0.11	0.00
高	（1）不登校児童生徒に対するオンライン指導	567 544	7.87***	0.23
	（2）特別な支援を要する児童生徒に対する指導	567 548	6.63***	0.19
	（3）特定分野の特異な才能のある児童生徒に対する指導	563 555	2.50*	0.08

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

- 全校種に共通して、上位群と下位群の児童生徒が通う学校による「GIGA スクール構想の成果「学びの保証に関する効果」」に、中程度以上の差はみられなかった。【上位群・下位群】
- 全校種に共通して、「GIGA スクール構想の成果「学びの保証に関する効果」」について肯定群と否定群の学校の児童生徒の調査問題得点に、中程度以上の差はみられなかった。【肯定群・否定群】

⑪　問 11　GIGA スクール構想による授業の効率的な展開

問 11 について、（2）の上位群･下位群の分析では、「それ以上」を 5 点、「15 分程度」を 4 点、「10 分程度」を 3 点、「5 分程度」を 2 点、「5 分未満」を 1 点とみなして分析を行った（図表 3-2-36）。（1）は各選択肢について優劣の判断が困難な点から、上位群・下位群の分析は行わなかった。また、問 11 は明確に肯定群・否定群の群分けを行うことができないため、上位群・下位群の分析結果のみを示す。

図表 3-2-36（上位群・下位群の比較）

校種	内容	上位群平均点 / 下位群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（2）あなたの学校で日常的に 1 人 1 台端末やクラウド環境を活用している学級では、（1）のような取組により、従来に比べ、授業の展開が 1 単位時間（小：45 分、中、高：50 分）あたりどのくらい効率化できたと考えますか。	2.39	-0.96	-0.06
		2.44		
		2.44		
中	（2）あなたの学校で日常的に 1 人 1 台端末やクラウド環境を活用している学級では、（1）のような取組により、従来に比べ、授業の展開が 1 単位時間（小：45 分、中、高：50 分）あたりどのくらい効率化できたと考えますか。	2.54	-1.98*	-0.13
		2.65		
		2.65		
高	（2）あなたの学校で日常的に 1 人 1 台端末やクラウド環境を活用している学級では、（1）のような取組により、従来に比べ、授業の展開が 1 単位時間（小：45 分、中、高：50 分）あたりどのくらい効率化できたと考えますか。	2.56	-0.45	-0.03
		2.59		
		2.59		

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

※（1）の質問内容は「あなたの学校で日常的に 1 人 1 台端末やクラウド環境を活用している学級では、授業の効率的な展開のために、以下のような ICT を活用した取組を行っていますか（複数選択可）。」である。

●全校種に共通して、上位群と下位群の児童生徒が通う学校による「GIGA スクール構想による授業の効率的な展開」に差はみられなかった。【上位群・下位群】

⑫　問 12　健康面に配慮した指導状況

問 12 について、上位群・下位群の分析では、「あてはまる」を 4 点、「ややあてはまる」を 3 点、「あまりあてはまらない」を 2 点、「あてはまらない」を 1 点とみなして分析を行った（図表 3-2-37）。肯定群・否定群の分析では「あてはまる」、「ややあてはまる」を肯定群、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」を否定群として分析を行った（図表 3-2-38）。

図表 3-2-37（上位群・下位群の比較）

校種	内容	R3			R6		
		上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差	上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差
小	（1）情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すように児童生徒に指導している。	3.30 3.33	—	—	3.36 3.32	—	—
	（2）情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるように児童生徒に指導している。	3.23 3.17	—	—	3.08 3.07	—	—
	（3）夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控えるように児童生徒に指導している。	3.39 3.42	-0.68	-0.04	3.30 3.40	-1.98	-0.13
	（4）児童生徒が情報機器を使用するときの健康への配慮の仕方について保護者に説明している。	3.51 3.45	—	—	3.39 3.42	—	—
中	（1）情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すように児童生徒に指導している。	3.01 3.08	—	—	2.80 2.76	—	—
	（2）情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるように児童生徒に指導している。	2.84 2.89	—	—	2.63 2.60	—	—
	（3）夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控えるように児童生徒に指導している。	3.16 3.26	—	—	2.92 2.94	—	—
	（4）児童生徒が情報機器を使用するときの健康への配慮の仕方について保護者に説明している。	3.29 3.27	—	—	3.06 3.07	—	—

校種	内容	R3			R6		
		上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差	上位群 平均点 下位群 平均点	t 値	標準化 平均値差
高	（1）情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すように児童生徒に指導している。	2.36 2.64	-4.79***	-0.30	2.14 2.14	0.14	0.01
	（2）情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるように児童生徒に指導している。	2.25 2.42	-3.03**	-0.19	2.09 2.12	-0.91	-0.05
	（3）夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控えるように児童生徒に指導している。	2.50 2.59	—	—	2.46 2.36	—	—
	（4）児童生徒が情報機器を使用するときの健康への配慮の仕方について保護者に説明している。	2.40 2.49	—	—	2.38 2.41	—	—

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

図表 3-2-38（肯定群・否定群の比較）

校種	内容	R3			R6		
		肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差	肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（1）情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すように児童生徒に指導している。	423 419	—	—	421 418	—	—
	（2）情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるように児童生徒に指導している。	423 418	—	—	420 424	—	—
	（3）夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控えるように児童生徒に指導している。	422 424	-0.42	-0.02	420 431	-3.25**	-0.15
	（4）児童生徒が情報機器を使用するときの健康への配慮の仕方について保護者に説明している。	423 410	—	—	420 432	—	—
中	（1）情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すように児童生徒に指導している。	509 516	—	—	502 499	—	—
	（2）情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるように児童生徒に指導している。	510 511	—	—	503 498	—	—
	（3）夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控えるように児童生徒に指導している。	509 516	—	—	501 500	—	—
	（4）児童生徒が情報機器を使用するときの健康への配慮の仕方について保護者に説明している。	511 509	—	—	501 499	—	—

校種	内容	R3			R6		
		肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差	肯定群平均点 否定群平均点	t 値	標準化平均値差
高	（1）情報機器を利用するときは、目と情報機器の画面との距離を 30cm 以上離すように児童生徒に指導している。	551 569	-7.22***	-0.21	560 556	1.33	0.04
	（2）情報機器を利用するときは、30 分に 1 回は 20 秒以上、目を休めるように児童生徒に指導している。	555 565	-3.83***	-0.11	555 559	-1.29	-0.04
	（3）夜、寝る 1 時間前からは情報機器の利用を控えるように児童生徒に指導している。	561 561	—	—	559 556	—	—
	（4）児童生徒が情報機器を使用するときの健康への配慮の仕方について保護者に説明している。	560 562	-0.56	-0.02	552 562	-3.42**	-0.10

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

- 全校種に共通して、上位群と下位群の児童生徒が通う学校による「健康面に配慮した指導状況」に、中程度以上の差はみられなかった。【上位群・下位群】
- 全校種に共通して、「健康面に配慮した指導状況」について肯定群と否定群の学校の児童生徒の調査問題得点に、中程度以上の差はみられなかった。【肯定群・否定群】

⑬　問 13　生成 AI の活用状況

問 13 について、上位群・下位群の分析では「活用を推奨しており、ほとんどの教師が活用している」を 5 点、「活用を推奨しており、一部の教師が活用している」を 4 点、「一部の教師が自発的に活用している」を 3 点、「活用していない」を 2 点、「把握していない」を 1 点とみなして分析を行った。また、問 13 は明確に肯定群・否定群の群分けを行うことができないため、上位群・下位群の分析結果のみを示す。

図表 3-2-39（上位群・下位群の比較）

校種	内容	上位群平均点 下位群平均点	t 値	標準化平均値差
小	（1）児童生徒の指導にかかわる業務	3.72 3.64	1.12	0.07
	（2）学校の運営にかかわる業務	3.81 3.70	1.57	0.10
	（3）学校外部への対応支援（保護者向けお知らせ文書のたたき台の作成や外部向けのあいさつ文のたたき台など）	3.74 3.65	1.34	0.09
中	（1）児童生徒の指導にかかわる業務	3.64 3.33	4.22***	0.27
	（2）学校の運営にかかわる業務	3.70 3.44	4.05***	0.26
	（3）学校外部への対応支援（保護者向けお知らせ文書のたたき台の作成や外部向けのあいさつ文のたたき台など）	3.57 3.36	3.36***	0.21
高	（1）児童生徒の指導にかかわる業務	3.74 3.84	-1.53	-0.10
	（2）学校の運営にかかわる業務	3.68 3.66	0.29	0.02
	（3）学校外部への対応支援（保護者向けお知らせ文書のたたき台の作成や外部向けのあいさつ文のたたき台など）	3.66 3.68	-0.35	-0.02

※「***」0.1%水準で有意、「**」 1 %水準で有意、「*」 5 %水準で有意、「†」10%水準で有意。

※標準化平均値差が 0.2 より大きい場合は暖色、-0.2 より小さい場合は寒色で表現した。

●全校種に共通して、上位群と下位群の児童生徒が通う学校による「生成 AI の活用状況」に、中程度以上の差はみられなかった。【上位群・下位群】

情報活用能力の育成に向けて

■学校での取組について

今回の令和６年度調査では、前回の令和３年度調査から３年の時を経て、我が国の児童生徒の情報活用能力の実態、及び学校におけるその指導状況等の変化が調査された。令和３年度調査から令和６年度調査にかけて、情報活用能力の重要性はより一層高まった。例えば、令和３年１月 26 日の中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」において情報活用能力に課題があることが指摘され、「情報化が加速度的に進む Society5.0 時代に向けて、情報活用能力など学習の基盤となる資質・能力を育む必要があること」が提言された。

学校間での取組の差に着目すると、調査の結果、令和３年度調査と比較して、令和６年度調査では「情報活用能力育成に関する各種取組」について学校間における取組実施頻度の差が緩和していた（学校間分散割合が 0.2 未満になっていた）取組数が増えていた（詳細は 3.1.3 項を参照）。加えて、キーボードによる文字入力スキルに着目すると、１分間あたりの文字入力数は各校種とも向上した（詳細は 2.4 節を参照）。

一方で、３年前よりも情報活用能力が各校種で身に付いたとは言い難く、令和３年度調査と令和６年度調査の間で、平均習熟度レベルに変化はみられなかった（詳細は 2.1 節を参照）。情報活用能力の育成過程に着目しても、例えば、「学校での情報活用能力育成に関する各種取組頻度」については令和３年度調査よりも増加傾向がみられたものの、大半の取組が「まったくか、ほとんどない」が回答の最頻値であった（詳細は 3.1.1 項を参照）。全国傾向でみると「学習の基盤となる資質・能力」として求められる情報活用能力の水準、及び育成の取組には未だ至っていないものと考えられる。引き続き、情報活用能力育成に向けた取組を、日常的、計画的、組織的に全ての学校で実施するとともに、2026 年 11月現在中央教育審議会で議論が進むように、「小中高等学校を通じた情報活用能力の抜本的向上を図る方策」を検討する必要があると考えられる。

また、生成 AI の技術革新をはじめ情報化が加速度的に進む中で、児童生徒には、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度等を身に付けさせることが求められる。

調査の結果、令和３年度調査と同様、全校種に共通して、問題解決の得点の上位群（10%）の児童生徒が、「情報活用能力における『主体的に学習に取り組む態度』及びファクトチェックの意識」や「コンピュータやインターネットに対する期待等」の質問項目に対して、肯定的に回答する割合が高かった（ただし、「ファクトチェックの意識」は令和６年度調査から追加された質問項目）。各校において、情報機器の利用や情報活用能力育成に関する取組の機会を増やすだけでなく、情報機器や情報を意識的に活用できるような取組を行い、児童生徒自身が情報活用能力の重要性や必要性を実感しながら活動することで、児童生徒の情報活用能力の育成につながると考えられる。

これらのことから、全ての学校において、各教科等の授業や日常の様々な場面で情報活用能力の育成を意識し、問題の発見・解決等のために、児童生徒が主体的に情報機器を用いて情報収集、整理・分析、発信する等の活動を行い、児童生徒自身が情報活用能力の重要性や必要性を実感しながら活動することが重要であると考えられる。

なお、各調査の結果に基づいて作成されたパンフレット『情報活用能力育成のためのアイデア集』では、情報活用能力育成のための授業づくりのアイデア例等を掲載している。当該資料を活用する等して指導力を一層高め、各校における児童生徒の情報活用能力の育成を引き続き推進していくことが重要であると考えられる。

■ 情報活用能力調査について

本調査は、問題解決の結果に基づいて児童生徒の情報活用能力を習熟度レベル別に分類し、小学校から高等学校までの児童生徒の情報活用能力を同一尺度で測定する調査である。

今後も、継続的に調査を実施し、児童生徒の情報活用能力の現状や学校の指導状況の実態を把握し、教員の指導力向上を図ることで、情報活用能力の更なる育成を進めていくことが重要と考えられる。

情報活用能力調査（令和６年度実施）調査結果

文部科学省 初等中等教育局 学校デジタル化プロジェクトチーム 情報教育振興室
〒 100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2
（TEL）03-5253-4111

発行：株式会社 内田洋行